

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		学部の学科の設置							
フリガナ 設置者		ガッコウホシノ タマガワケン 学校法人 玉川学園							
フリガナ 大学の名称		タマガワイカク 玉川大学 (Tamagawa University)							
大学本部の位置		東京都町田市玉川学園六丁目1番1号							
大学の目的		本大学は、教育基本法及び学校教育法の規定に基づき、更にキリストの教えに従い、玉川学園建学の理想にかんがみ、「全人教育」をもって教育精神とし、広い教養と深い専門の学術の理論及び応用を教授する。宗教、芸術教育を重んじ魂を醇化し、浄らかな情操を養成し、厳粛な道義心を涵養することをもって人格を陶冶し、併せて人類の幸福と世界の文化の進展に寄与するものとする。							
新設学部等の目的		デザインサイエンス学科では、解が一つに定まらない社会の課題に対し、機械工学分野を中心とした科学、技術を活用して、実現可能な解を見つけることができる「デザイン能力」を有する技術者の育成を目的とする。物理学や数学のような自然科学および人間中心の社会を実現する工学に関する学問と、様々な社会科学・人文科学の知識・技術を融合し、社会の一員として地球環境・人類にとって有益となる社会の仕組みや製品を科学的な視点によって生み出すことができる人材を育成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	工学部 [College of Engineering]	年	人	年次人	人	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	年 月 第 年次	東京都町田市 玉川学園六丁目1番1号	
	デザインサイエンス学科 [Department of Design Science]	4	60	-	240		令和5年4月 第1年次		
計			60		240				
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行、 名称の変更等)		工学部 エンジニアリングデザイン学科(廃止) (△60) ※ 令和5年4月学生募集停止							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数						卒業要件単位数	
	講義	演習	実験・実習	計					
	工学部デザインサイエンス学科	183 科目	77 科目	49 科目	309 科目	124 単位			

学 部 等 の 名 称		専任教員等						兼 任 教員等		
		教授	准教授	講師	助教	計	助手			
新 設 分	工学部 デザインサイエンス学科	人	人	人	人	人	人	人		
		5 (5)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	2 (2)	124 (84)		
	計	5 (5)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	2 (2)	－ (－)		
教 員 組 織 の 概 要	文学部 国語教育学科	6 (7)	0 (1)	1 (2)	0 (0)	7 (10)	0 (0)	113 (114)		
		英語教育学科		7 (8)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (12)	0 (0)	114 (115)
	農学部 生産農学科	9 (11)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	17 (19)	3 (3)	117 (119)		
		環境農学科		4 (4)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	2 (2)	112 (114)
	先端食農学科		5 (7)	2 (0)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	1 (1)	110 (110)	
	工学部 情報通信学科	4 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	8 (9)	1 (1)	113 (117)		
		ソフトウェアサイエンス学科		6 (6)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	1 (1)	114 (114)
	マネジメントサイエンス学科		4 (5)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (9)	0 (0)	116 (119)	
	経営学部 国際経営学科	8 (9)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	14 (15)	0 (0)	128 (130)		
		教育学部 教育学科 教育学科(通信教育課程)	25 (28)	9 (9)	2 (2)	0 (0)	36 (39)	0 (0)	198 (221)	
	乳幼児発達学科		7 (8)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	9 (10)	0 (0)	122 (132)	
	既 設 分	芸術学部 音楽学科	5 (6)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	10 (11)	1 (1)	186 (186)	
			アート・デザイン学科		8 (9)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	12 (13)	2 (2)
		演劇・舞踊学科		4 (4)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	1 (1)	129 (129)
		リハビリアーツ学部リハビリアーツ学科		11 (13)	7 (7)	1 (3)	0 (0)	19 (23)	0 (0)	123 (130)
		観光学部 観光学科	8 (8)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	109 (109)	
			教育博物館		2 (3)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	4 (5)	0 (0)
		学術研究所		4 (4)	1 (1)	1 (2)	2 (3)	8 (10)	0 (0)	1 (1)
		脳科学研究所		5 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	9 (10)	0 (0)	0 (0)
		量子情報科学研究所		5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
		教師教育リサーチセンター		0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	32 (36)
		ELFセンター		1 (1)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	32 (36)
		TAPセンター		0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		計		138 (158)	70 (69)	28 (32)	2 (3)	238 (262)	12 (12)	－ (－)
		合 計		143 (163)	72 (71)	29 (33)	2 (3)	246 (270)	14 (14)	－ (－)

教員以外の職員の概要	職 種			専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員			236 (226)	280 (280)	516 (506)				
	技 術 職 員			15 (15)	1 (1)	16 (16)				
	図 書 館 専 門 職 員			8 (10)	3 (3)	11 (13)				
	そ の 他 の 職 員			4 (4)	0 (0)	4 (4)				
	計			263 (255)	284 (284)	547 (539)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	<共有する他の学校の名称・収容定員・校地面積基準> 玉川学園高等部 795人 13,020㎡ 玉川学園中学部 705人 12,390㎡ 玉川学園小学部 840人 10,980㎡ 玉川学園幼稚園部 140人 1,000㎡				
	校 舎 敷 地	0.00 ㎡	345,867.43 ㎡	0.00 ㎡	345,867.43 ㎡					
	運 動 場 用 地	0.00 ㎡	58,264.56 ㎡	0.00 ㎡	58,264.56 ㎡					
	小 計	0.00 ㎡	404,131.99 ㎡	0.00 ㎡	404,131.99 ㎡					
	そ の 他	0.00 ㎡	204,923.58 ㎡	0.00 ㎡	204,923.58 ㎡					
	合 計	0.00 ㎡	609,055.57 ㎡	0.00 ㎡	609,055.57 ㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
		106,538.02 ㎡ (106,538.02 ㎡)	0.00 ㎡ (0.00 ㎡)	0.00 ㎡ (0.00 ㎡)	106,538.02 ㎡ (106,538.02 ㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	76 室	50 室	202 室	0 室 (補助職員 0 人)	0 室 (補助職員 0 人)	全学生にノートPCの所有・持参を義務付けているため、専用の教室は設置していない				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		工学部デザインサイエンス学科			8 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕冊	学術雑誌 〔うち外国書〕種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部・学科単位での特定不能のため、大学全体の数の数		
	デザインサイエンス学科	1,024,000〔311,000〕 (994,500〔306,200〕)	18,230〔11,540〕 (18,200〔11,520〕)	9,300〔9,235〕 (9,260〔9,195〕)	32,400 (32,150)	5,930 (5,930)	12 (12)			
	計	1,024,000〔311,000〕 (994,500〔306,200〕)	18,230〔11,540〕 (18,200〔11,520〕)	9,300〔9,235〕 (9,260〔9,195〕)	32,400 (32,150)	5,930 (5,930)	12 (12)			
図 書 館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		9,022.42 ㎡		1,040 席		1,301,220 冊				
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		4,226.96 ㎡		屋内プール 弓道場 洋弓場 ゴルフ場	東京都町田市 玉川学園 六丁目 1 番 1 号	昭和47年8月 昭和41年9月 昭和59年3月 昭和38年4月	2,766.30 ㎡ 1,314.00 ㎡ 2,053.00 ㎡ 4,862.00 ㎡			
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	共同研究費、図書、設備購入費は工学部全体の予算を記載。図書は他に大学として毎年度 22,000千円を計画
		教員 1 人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	一 千円	一 千円	
		共 同 研 究 費 等		2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	一 千円	一 千円	
		図 書 購 入 費	1,417千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	一 千円	一 千円	
	学生 1 人当り納付金	設 備 購 入 費	5,490千円	6,000千円	6,000千円	6,000千円	6,000千円	一 千円	一 千円	
		第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次			
		1,928 千円	1,688 千円	1,698 千円	1,708 千円	一 千円	一 千円			
		学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入 等						

	大 学 の 名 称	玉 川 大 学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
既 設 大 学 等 の 状 況	文学部	年	人	年次 人	人		1.08			
	国語教育学科	4	60	-	240	学士（文学）	1.09	平成29年度		
	英語教育学科	4	80	-	320	学士（文学）	1.07	平成27年度		
	農学部						0.87			
	生産農学科	4	155	-	640	学士（農学）	0.86	平成29年度		※令和3年度入学 定員減(生産農学 科)(△10人)
	環境農学科	4	70	-	280	学士（農学）	0.67	平成29年度		
	先端食農学科	4	70	-	280	学士（農学）	1.08	平成29年度		
	工学部						1.07			
	情報通信工学科	4	60	-	240	学士（工学）	1.07	平成29年度		
	ソフトウェアサイエンス学科	4	60	-	240	学士（工学）	1.31	平成20年度		
	マネジメントサイエンス学科	4	60	-	240	学士（工学）	1.17	平成16年度		
	エンジニアリングデザイン学科	4	60	-	240	学士（工学）	0.73	平成27年度		
	経営学部						1.10			
	国際経営学科	4	130	-	520	学士（経営学）	1.10	平成13年度		
	教育学部						1.10			
	教育学科	4	220	-	920	学士（教育学）	1.10	平成14年度	東京都町田市 玉川学園 六丁目1番1号	※令和3年度入学 定員減(教育学科) (△20人)
	乳幼児発達学科	4	75	-	300	学士（教育学）	1.12	平成15年度		
	芸術学部						1.02			
	音楽学科	4	80	-	160	学士（芸術学）	0.52	令和3年度		※令和3年度より学 生募集停止(ハフォー ミング・アーツ学科) ※令和3年度より学 生募集停止(メデイ ア・デザイン学科) ※令和3年度より学 生募集停止(芸術 教育学科)
	アート・デザイン学科	4	100	-	200	学士（芸術学）	1.22	令和3年度		
	演劇・舞踊学科	4	90	-	180	学士（芸術学）	1.21	令和3年度		
	ハフォーミング・アーツ学科	4	-	-	-	学士（芸術学）	-	平成14年度		
	メデイア・デザイン学科	4	-	-	-	学士（芸術学）	-	平成26年度		
	芸術教育学科	4	-	-	-	学士（芸術学）	-	平成26年度		
	リハラルアーツ学部						1.13			
	リハラルアーツ学科	4	160	-	640	学士（リハラルアーツ）	1.13	平成19年度		
	観光学部						0.97			
	観光学科	4	120	-	420	学士（観光学）	0.97	平成25年度		※令和3年度入学 定員増(観光学科) (30人)
	通信教育部						0.02			
	教育学部教育学科	4	1,500	-	6,000	学士（教育学）	0.02	平成14年度		

既設大学等の状況	大学院									
	文学研究科									
	人間学専攻	2	5	-	10	修士（文学）	0.10	平成22年度		
	（修士課程）									
	英語教育専攻	2	7	-	14	修士（文学）	0.57	平成22年度		
	（修士課程）									
	農学研究科									
	資源生物学専攻	2	12	-	24	修士（農学）	1.16	昭和52年度		
	（修士課程）									
	資源生物学専攻	3	4	-	12	博士（農学）	0.58	昭和54年度		
	（博士課程後期）									
	工学研究科									
	機械工学専攻	2	16	-	32	修士（工学）	0.06	昭和42年度		
	（修士課程）									
	電子情報工学専攻	2	16	-	32	修士（工学）	0.62	昭和42年度		
	（修士課程）									
	システム科学専攻	3	3	-	9	博士（工学）	0.22	平成19年度		
	（博士課程後期）									
	マネジメント研究科								東京都町田市 玉川学園 六丁目1番1号	
	マネジメント専攻	2	7	-	14	修士（マネジメント）	0.71	平成17年度		
	（修士課程）									
	教育学研究科									
	教育学専攻	2	10	-	20	修士（教育学）	1.70	平成18年度		
	（修士課程）									
	教職専攻	2	20	-	40	教職修士（専門職）	0.77	平成20年度		
	（専門職学位課程）									
	脳科学研究科									
	心の科学専攻	2	5	-	10	修士（工学） 修士（学術）	0.10	平成26年度		
	（修士課程）									
	脳科学専攻	3	3	-	9	博士（工学） 博士（学術）	0.33	平成26年度		
	（博士課程後期）									

附属施設の概要	学術研究所	
	① 目的	文系、理系の諸領域にわたる専門的・学際的な研究活動を展開し、広く学術・文化の発展に貢献することを目的としている。現在、K-16一貫教育研究センター、ミツバチ科学研究センター、生物機能開発研究センター、歯学応用研究センター、人文科学研究センター、高等教育開発センター、ICT教育研究センターの7つの研究センターで構成されている。
	② 所在地	東京都町田市玉川学園六丁目1番1号
	③ 設置年月	昭和54年11月
	④ 規模等	研究センター棟 建物3018.55㎡（脳科学研究所・量子情報科学研究所と共用） Future Sci Tech Lab 建物1646.45㎡（量子情報科学研究所と共用）
	脳科学研究所	
	① 目的	「こころ」のはたらきの基盤となる判断や意思決定と行動、喜怒哀楽の感情や情動、そして知能発達やコミュニケーションについて研究し、その成果を広く世界に発信することを目的としている。脳システム研究センター、脳・心・社会融合研究センター、先端知能・ロボット研究センター（AIBot研究センター）の3つのセンターで構成されている。
	② 所在地	東京都町田市玉川学園六丁目1番1号
	③ 設置年月	平成19年4月
	④ 規模等	研究センター棟 建物3018.55㎡（学術研究所・量子情報科学研究所と共用） Human Brain Science Hall 建物1721.17㎡
	量子情報科学研究所	
	① 目的	量子情報・量子通信の基礎理論の研究を実施し、さらなる量子力学の原理の発見を目指し、その原理を産業界に役立てることを目的としている。特に、新量子暗号として脚光を浴びている光通信量子信号Y-00の実用化研究を実施している。量子情報数理論研究センターと超高速量子通信研究センターの2つのセンターで構成されている。
	② 所在地	東京都町田市玉川学園六丁目1番1号
	③ 設置年月	平成23年3月
	④ 規模等	研究センター棟 建物3018.55㎡（学術研究所・脳科学研究所と共用） Future Sci Tech Lab 建物1646.45㎡（学術研究所と共用）

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人玉川学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
玉川大学				玉川大学				
文学部				文学部				
国語教育学科	60	-	240	国語教育学科	60	-	240	
英語教育学科	80	-	320	英語教育学科	80	-	320	
農学部				農学部				
生産農学科	155	-	620	生産農学科	155	-	620	
環境農学科	70	-	280	環境農学科	70	-	280	
先端食農学科	70	-	280	先端食農学科	70	-	280	
工学部				工学部				
情報通信工学科	60	-	240	情報通信工学科	60	-	240	
ソフトウェアサイエンス学科	60	-	240	ソフトウェアサイエンス学科	60	-	240	
マネジメントサイエンス学科	60	-	240	マネジメントサイエンス学科	60	-	240	
エンジニアリングデザイン学科	60	-	240		0	-	0	令和5年4月学生募集停止
				デザインサイエンス学科	60	-	240	学科の設置(届出)
経営学部				経営学部				
国際経営学科	130	-	520	国際経営学科	130	-	520	
教育学部				教育学部				
教育学科	220	-	880	教育学科	220	-	880	
乳幼児発達学科	75	-	300	乳幼児発達学科	75	-	300	
芸術学部				芸術学部				
音楽学科	80	-	320	音楽学科	80	-	320	
アート・デザイン学科	100	-	400	アート・デザイン学科	100	-	400	
演劇・舞踊学科	90	-	360	演劇・舞踊学科	90	-	360	
リベラルアーツ学部				リベラルアーツ学部				
リベラルアーツ学科	160	-	640	リベラルアーツ学科	160	-	640	
観光学部				観光学部				
観光学科	120	-	480	観光学科	120	-	480	
教育学部				教育学部				
教育学科(通信教育課程)	1,500	-	6,000	教育学科(通信教育課程)	1,500	-	6,000	
芸術専攻科				芸術専攻科				
芸術専攻	10	-	10	芸術専攻	10	-	10	
計	3,160	-	12,610	計	3,160	-	12,610	

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
玉川大学大学院				玉川大学大学院				
文学研究科				文学研究科				
人間学専攻(M)	5	-	10	人間学専攻(M)	5	-	10	
英語教育専攻(M)	7	-	14	英語教育専攻(M)	7	-	14	
農学研究科				農学研究科				
資源生物学専攻(M)	12	-	24	資源生物学専攻(M)	12	-	24	
資源生物学専攻(D)	4	-	12	資源生物学専攻(D)	4	-	12	
工学研究科				工学研究科				
機械工学専攻(M)	16	-	32	機械工学専攻(M)	16	-	32	
電子情報工学専攻(M)	16	-	32	電子情報工学専攻(M)	16	-	32	
システム科学専攻(D)	3	-	9	システム科学専攻(D)	3	-	9	
マネジメント研究科				マネジメント研究科				
マネジメント専攻(M)	7	-	14	マネジメント専攻(M)	7	-	14	
教育学研究科				教育学研究科				
教育学専攻(M)	10	-	20	教育学専攻(M)	10	-	20	
教職専攻(P)	20	-	40	教職専攻(P)	20	-	40	
脳科学研究科				脳科学研究科				
心の科学専攻(M)	5	-	10	心の科学専攻(M)	5	-	10	
脳科学専攻(D)	3	-	9	脳科学専攻(D)	3	-	9	
計	108	-	226	計	108	-	226	
玉川学園高等部	265	-	795	玉川学園高等部	265	-	795	
玉川学園中学部	235	-	705	玉川学園中学部	235	-	705	
玉川学園小学部	140	-	840	玉川学園小学部	140	-	840	
玉川学園幼稚部	教育年限2年 10	-	140	玉川学園幼稚部	教育年限2年 10	-	140	
	教育年限3年 40	-			教育年限3年 40	-		

教育課程等の概要

（工学部デザインサイエンス学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
ユニバーシティ・スタンダード科目群（全学共通科目）	玉川教育・FYE科目群	一年次セミナー 101	1前	2			○			1	1			
		一年次セミナー 102	1後	2			○			1	1			
		玉川の教育	1後	0.3			○			1	1			※演習
		健康教育	1前	1				○						※講義
		音楽Ⅰ	1前	0.7				○						兼 1
		音楽Ⅱ	1後	1				○						兼 1
		全人教育論	2前・後	2		○								兼 1
		ピアリーダー	2前・後	2			○							兼 1
		二年次セミナー 201	2前	2			○							兼 1
		二年次セミナー 202	2後	2			○							兼 1
		三年次セミナー 301	3前	2			○							兼 1
		三年次セミナー 302	3後	2			○							兼 1
		小計（ 12 科目）	—	7	12	0	—		0	1	1	0	0	兼 6 —
	人文科学科目群	文化人類学	1・2・3・4前・後	2		○								兼 1
		民俗学入門	1・2・3・4後	2		○								兼 1
		美術史	1・2・3・4前・後	2		○								兼 1
		ことばと文化	1・2・3・4前・後	2		○								兼 1
		比較文化論	1・2・3・4前・後	2		○								兼 1
		英語学	1・2・3・4前・後	2		○								兼 1
		歴史（世界）	1・2・3・4前・後	2		○								兼 1
		歴史（日本）	1・2・3・4前・後	2		○								兼 1
		日本文学	1・2・3・4前・後	2		○								兼 1
		日本学入門	1・2・3・4前	2		○								兼 1
		日本語学	1・2・3・4前・後	2		○								兼 1
		音楽史	1・2・3・4前・後	2		○								兼 1
		哲学	1・2・3・4前・後	2		○								兼 1
		倫理学	1・2・3・4後	2		○								兼 1
		ロジック	1・2・3・4前・後	2		○								兼 1
		宗教学	1・2・3・4前・後	2		○								兼 1
		世界の宗教と文化	1・2・3・4後	2		○								兼 1
		演劇史	1・2・3・4前・後	2		○								兼 1
		人文科学アカデミックスキルズ'（ライティング）	1・2・3・4前・後	1			○							兼 1
		人文科学アカデミックスキルズ'（リーディング）	1・2・3・4前・後	1			○							兼 1
		外国文学	1・2・3・4前・後	2		○								兼 1
		科学史	2・3・4後	2		○								兼 1
		キリスト教学	2・3・4前	2		○								兼 1
		名著講読（人文科学）	2・3・4前・後	1			○							兼 1
		Modern Japanese History	3・4前	2		○								兼 1
		Japanese Pop Culture	3・4後	2		○								兼 1
		Japanology	3・4前	2		○								兼 1
		East Asian History	4前	2		○								兼 1
		Issues in Japanese Studies A	4前	2		○								兼 1
		Issues in Japanese Studies B	4後	2		○								兼 1
		小計（ 30 科目）	—	0	57	0	—		0	0	0	0	0	兼 26 —

教育課程等の概要

(工学部デザインサイエンス学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
ユニバーシティ・スタンダード科目群 (全学共通科目)	社会学科目群													
	会計学	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	経営学	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	マーケティング	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	コミュニケーション論	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	経済学 (国際経済を含む。)	1・2・3・4前		2		○								兼 1
	ボランティア概論	1・2・3・4後		2		○								兼 1
	市民社会と法	1・2・3・4後		2		○								兼 1
	政治学 (国際政治を含む。)	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	ポリティカル・サイエンス	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	心理学	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	社会学	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	観光学入門	1・2・3・4前		2		○								兼 1
	Academic Communication	2・3・4前		2		○								兼 1
	国際関係論	2・3・4前・後		2		○								兼 1
	科学技術社会論	2・3・4後		2		○								兼 1
	名著講読 (社会科学)	2・3・4前・後		1			○							兼 1
	現代社会の教育課題	3・4前・後		2		○								兼 1
	小計 (17 科目)	—	0	33	0	—			0	0	0	0	0	兼 16 —
	自然科学科目群													
	生物学入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	化学入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	環境科学	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	情報科学入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	データ処理	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1
	ネットワーク入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	マルチメディア表現	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1
	STEM入門 (科学と社会)	1・2・3・4後		2		○								兼 1
	解析学入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	数学入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	代数学入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	物理学入門	1・2・3・4前・後		2		○			1					兼 1
	科学入門	1・2・3・4前・後		2		○			2	1				兼 1 オムニバス※実験
	統計学入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	自然科学アカデミックスキルズ (ライティング)	1・2・3・4前・後		1			○							兼 1
	自然科学アカデミックスキルズ (リーディング)	1・2・3・4前・後		1			○							兼 1
	人工知能と社会	2・3・4後		2		○								兼 1
	実践の物理学	2・3・4前		2		○								兼 1
	宇宙科学	2・3・4前・後		2		○								兼 1
	エネルギー科学	2・3・4前		2		○				1				
	地球科学	2・3・4前・後		2		○								兼 1
	名著講読 (自然科学)	2・3・4前・後		1			○							兼 1
	小計 (22 科目)	—	0	41	0	—			2	1	0	0	0	兼 15 —

教育課程等の概要

(工学部デザインサイエンス学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
ユニバーシテイ・スタンダード科目群（全学共通科目）	マクロ脳科学	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	ミクロ脳科学	1後・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	マスメディアと社会	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	インターンシップ [※] A	1・2・3・4前・後		2				○						兼 1
	インターンシップ [※] B	1・2・3・4前・後		2				○						兼 1
	インターンシップ [※] C	1・2・3・4前・後		1				○						兼 1
	インターンシップ [※] D	1・2・3・4前・後		1				○						兼 1
	環境教育ワークショップ [※] I	1・2・3・4後		2			○							兼 1
	SAE(海外留学・研修)プログラム A	1・2・3・4前・後		1				○						兼 1
	SAE(海外留学・研修)プログラム B	1・2・3・4前・後		1				○						兼 1
	SAE(海外留学・研修)プログラム C	1・2・3・4前・後		2				○						兼 1
	SAE(海外留学・研修)プログラム D	1・2・3・4前・後		2				○						兼 1
	SAE(海外留学・研修)プログラム E	1・2・3・4前・後		3				○						兼 1
	SAE(海外留学・研修)プログラム F	1・2・3・4前・後		3				○						兼 1
	SAE(海外留学・研修)プログラム G	1・2・3・4前・後		4				○						兼 1
	SAE(海外留学・研修)プログラム H	1・2・3・4前・後		4				○						兼 1
	SAE(海外留学・研修)プログラム I	1・2・3・4前・後		5				○						兼 1
	SAE(海外留学・研修)プログラム J	1・2・3・4前・後		5				○						兼 1
	海外留学入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	国際研究 A	1後・2・3・4前・後		2				○						兼 1
	国際研究 B	1後・2・3・4前・後		2				○						兼 1
	国際研究 C	1後・2・3・4前・後		2				○						兼 1
	国際研究 D	1後・2・3・4前・後		3				○						兼 1
	国際研究 E	1後・2・3・4前・後		4				○						兼 1
	国際研究 F	1後・2・3・4前・後		5				○						兼 1
	情報倫理と社会	1・2・3・4前		2		○								兼 1
	TAPファシリテーション I	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1
	TAPファシリテーション II	1・2・3・4後		2			○							兼 1
	地域創生プロジェクト A	1・2・3・4前・後		1			○							兼 1
	地域創生プロジェクト B	1・2・3・4前・後		1			○							兼 1
	地域創生プロジェクト C	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1
	地域創生プロジェクト D	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1
	地域創生プロジェクト E	1・2・3・4前・後		3			○							兼 1
	地域創生プロジェクト F	1・2・3・4前・後		3			○							兼 1
	フィールドワーク A	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1
	フィールドワーク B	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1
	フィールドワーク C	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1
	健康スポーツ理論	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	生涯スポーツ演習	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1
	ユース・プログラム	2・3・4前・後		2				○						兼 1
	野外教育	2・3・4後		2		○								兼 1
	環境教育ワークショップ [※] II	2・3・4前		2			○							兼 1
	スポーツ史	2・3・4後		2		○								兼 1
	Presentation Skills in English	2・3・4後		2		○								兼 1
	複合領域研究 201～299	2・3・4前・後		2		○								兼 1
	数理・データサイエンス・AIリテラシー	2・3・4前・後		2		○								兼 1
	現代文化論	2・3・4前		2		○								兼 1
	キャリア・マネジメント	3・4前・後		2		○								兼 1
	病理学	3・4後		2		○								兼 1
	Japan Studies Overseas A	3・4後		2				○						兼 1
	Japan Studies Overseas B	3・4後		2				○						兼 1
	Japan Studies Overseas C	3・4後		2				○						兼 1
	小計（ 52 科目）	—	0	118	0	—			0	0	0	0	0	兼 20

教育課程等の概要

(工学部デザインサイエンス学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
ユニバーシティ・スタンダード科目群（全学共通科目）	ELF Introduction (A)	1・2・3・4前・後		2			○							兼 2
	ELF Introduction (B)	1後・2・3・4前・後		2			○							兼 2
	ELF Introduction (C)	1・2・3・4前・後		2			○							兼 2
	BELF 初級	1後・2・3・4前・後		2			○							兼 2
	ELF Communication for Teachers	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1
	ELF Foundation (A)	1・2・3・4前・後		2			○							兼 2
	ELF Foundation (B)	1後・2・3・4前・後		2			○							兼 2
	ELF Foundation (C)	1・2・3・4前・後		2			○							兼 2
	BELF 初中級	1後・2・3・4前・後		2			○							兼 2
	ELF & Global Communication (A)	1・2・3・4前		2			○							兼 1
	ELF & Global Communication (B)	1・2・3・4後		2			○							兼 1
	ELF Academic Literacy 中級	1・2・3・4前		2			○							兼 1
	BELF 中級	1後・2・3・4前・後		2			○							兼 1
	ELF & Global Leadership (A)	1・2・3・4前		2			○							兼 1
	ELF & Global Leadership (B)	1・2・3・4後		2			○							兼 1
	ELF Academic Literacy 上級	1・2・3・4前		2			○							兼 1
	BELF 上級	1・2・3・4後		2			○							兼 1
	フランス語 101	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1
	フランス語 102	1・2・3・4後		2			○							兼 1
	ドイツ語 101	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1
	ドイツ語 102	1・2・3・4後		2			○							兼 1
	日本語表現 101	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1
	日本語表現 102	1・2・3・4後		2			○							兼 1
	中国語 101	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1
	中国語 102	1・2・3・4後		2			○							兼 1
	小計（ 25 科目）	—	0	50	0		—		0	0	0	0	0	兼 10

教育課程等の概要

(工学部デザインサイエンス学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
ユニバーシティ・スタンダード科目群（全学共通科目）	生涯学習概論	1・2前		2		○								兼 1
	生涯学習と生涯教育	1・2後		2		○								兼 1
	情報メディアの活用	1・2前・後		2		○								兼 1
	学校経営と学校図書館	1・2前		2		○								兼 1
	学校図書館メディアの構成	1・2前		2		○								兼 1
	児童サービス論	1・2後		2		○								兼 1
	情報サービス論	1・2後		2		○								兼 1
	図書・図書館史	1・2前		1		○								兼 1
	図書館概論	1・2前		2		○								兼 1
	図書館サービス概論	1・2後		2		○								兼 1
	図書館施設論	1・2後		1		○								兼 1
	図書館情報技術論	1・2後		2		○								兼 1
	図書館情報資源概論	1・2後		2		○								兼 1
	図書館情報資源特論	1・2前		1		○								兼 1
	図書館制度・経営論	1・2前		2		○								兼 1
	社会教育課題研究	2・3前		2		○								兼 1
	社会教育経営論 A	2・3後		2		○								兼 1
	社会教育経営論 B	2・3前		2		○								兼 1
	社会教育実習	2・3後		2				○						兼 1
	生涯学習支援論 A	2・3後		2		○								兼 1
	生涯学習支援論 B	2・3前		2		○								兼 1
	社会体育論	2・3前		2		○								兼 1
	情報資源組織演習 A	2・3後		1			○							兼 1
	情報資源組織演習 B	2・3後		1			○							兼 1
	情報資源組織演習 C	2・3後		2			○							兼 1
	情報資源組織論	2・3前		2		○								兼 1
	読書と豊かな人間性	2・3後		2		○								兼 1
	博物館概論	2・3前		2		○								兼 1
	博物館教育論	2・3後		2		○								兼 1
	博物館経営論	2・3後		2		○								兼 1
	博物館情報・メディア論	2・3後		2		○								兼 1
	博物館資料保存論	2・3前		2		○								兼 1
	博物館資料論	2・3後		2		○								兼 1
	博物館展示論	2・3前		2		○								兼 1
	学習指導と学校図書館	3・4前		2		○								兼 1
	情報サービス演習 A	3・4前		1			○							兼 1
	情報サービス演習 B	3・4前		1			○							兼 1
	情報サービス演習 C	3・4前		2			○							兼 1
	博物館実習	3・4前・後		3				○						兼 1
	小計（ 39 科目）	—	0	72	0	—			0	0	0	0	0	兼 14

教育課程等の概要

(工学部デザインサイエンス学科)

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
100番台科目		デザインサイエンス入門(デザイン史を含む)	1前	2			○			5	2	1			兼 1	オムニバス・共同(一部)
		デザインサイエンス演習(デッサンを含む)	1後	2				○				1			兼 2	オムニバス・密講義
		数学演習	1後		2			○							兼 1	
		代数学I	1後・2前	2			○								兼 1	※演習
		解析学I	1後・2前	2			○								兼 1	※演習
		物理学I	1後・2前		2		○				1					※演習
		プログラミングI	1後・2前		2		○				1	1				※演習
		デザインサイエンスプログラミング	1後		2		○					1				※演習
		小計(8 科目)	—	8	8	0	—			5	2	1	0	0	兼 6	—
専門科目群	200番台科目	微分方程式I	2前		2		○								兼 1	※演習
		確率統計学I	2前		2		○								兼 1	
		解析学II	2前・後		2		○								兼 1	※演習
		物理学IIA	2前・後		2		○			1						※演習
		物理学IIB	2前・後		2		○				1					
		プログラミングII	2・3前		2		○			1						※演習
		デジタルシズンシップ*	2前	2			○								兼 1	
		デジタルファブリケーション入門	2前	2				○			1	1				共同
		デザインサイエンス実験	2前・後	1					○	2		1				共同
		スケッチとドローティング*	2前・後	1						1						
		色彩デザイン学	2前		2		○								兼 1	
		管理技法	2前		2		○			1						
		機構デザイン	2前		2		○			1						
		数学科指導法I	2前		2		○								兼 1	※演習
		工業科指導法I	2前		2		○								兼 1	※演習
		技術科指導法I	2前		2		○								兼 1	※演習
		確率統計学II	2後		2		○								兼 1	
		幾何学I	2後		2		○								兼 1	
	デジタルファブリケーション	2後		2			○				1	1			共同	
	メカニクス(材料)	2後	2			○			1							
	人間工学	2後		2		○			1							
	原価計算	2後		2		○			1							
	電気回路基礎	2後		2		○				1					※実験	
	化学と環境	2後		2		○			1							
	数学科指導法II	2後		2		○								兼 1	※演習	
	工業科指導法II	2後		2		○								兼 1	※演習	
	技術科指導法II	2後		2		○								兼 1	※演習	
	小計(27 科目)	—	8	44	0	—			5	2	1	0	0	兼 9	—	

教育課程等の概要

(工学部デザインサイエンス学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目群	データサイエンスI	3前		2		○								兼 1 ※演習
	20世紀の物理学	3前		2		○				1				
	代数学II	3前		2		○								兼 1
	知的財産権の基礎	3前		2		○			1					※演習
	メカニクス(機械)	3前		2		○			1					
	メカニクス(流体)	3前		2		○								兼 1
	栽培	3前		2			○							兼 1 ※講義
	工学倫理	3前		1		○			1					※演習
	ユニバーサルデザイン	3前		2		○			1					※演習
	起業プランニング	3前		2		○			1					
	金属加工実習	3前		2				○	1		1			共同
	ドラフティング応用	3前		1				○	1					
	バイオメディクス	3前		2		○			1					
	自然科学実験	3前		1				○	2	1				オムニバス
	ソフトエネルギー	3前		2		○				1				
	数学科指導法III	3前		2		○								兼 1 ※演習
	職業指導(工業)I	3前		2		○								兼 1
	技術科指導法III	3前		2		○								兼 1 ※演習
	デジタルファブリケーション演習	3後		2			○			1	1			共同
	デザインサイエンスセミナーI	3後	2				○		5	2	1			※講義
	メカニクス(材料)演習	3後		1			○		1					
	デザイン思考	3後		2			○							兼 1
	木材加工	3後		2			○							兼 1 ※講義
	海外研修	3後		2				○		1				集中
	インターシップI	3前・後		1				○	5	2	1			集中
	インターシップII	3前・後		1				○	5	2	1			集中
	インターシップIII	3前・後		1				○	5	2	1			集中
	インターシップIV	3前・後		1				○	5	2	1			集中
	プロダクトデザイン	3後		2		○			2					オムニバス ※演習
	デザインと経営	3後		2		○			1					
	管理会計	3後		2		○			1					
	メカトロニクス	3後		2		○			1					
	メカトロニクス演習	3後		2			○		1					
	モデリングとシミュレーション	3後		2		○								兼 1
	マテリアルプロセッシング	3後		2		○			1					
	都市環境デザイン	3後		2		○								兼 1 ※演習
	電気回路演習	3後		1			○			1				
	デジタル生産加工	3後		2		○								兼 1
	数学科指導法IV	3後		2		○								兼 1 ※演習
	職業指導(工業)II	3後		2		○								兼 1 ※演習
	技術科指導法IV	3後		2		○								兼 1 ※演習
	小計(41 科目)	—	2	71	0	—			5	2	1	0	0	兼 11
400 番台 科目	幾何学II	4前		2		○								兼 1
	デザインサイエンスセミナーII	4前	2				○		5	2	1			※講義
	卒業プロジェクトI	4前	2					○	5	2	1			
	卒業プロジェクトII	4後	2					○	5	2	1			
	小計(4 科目)	—	6	2	0	—			5	2	1	0	0	兼 1

教育課程等の概要

(工学部デザインサイエンス学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教職 関 連 科 目 群	教育原理	1前・後		2		○								兼 1		
	教育哲学	1・2・3後		2		○								兼 1		
	教職概論	1前・後		2		○								兼 1		
	教育の制度と経営	1・2前・後		2		○								兼 1		
	教育社会学	1・2・3後		2		○								兼 1		
	学習・発達論	1・2前・後		2		○								兼 1		
	教育心理学	1・2・3後		2		○								兼 1		
	発達心理学	1・2・3後		2		○								兼 1		
	特別支援教育	2・3前・後		1		○								兼 1		
	教育課程編成論	3前・後		2		○								兼 1		
	道德教育の理論と方法	3前・後		2		○								兼 1		
	総合的な学習の時間の理論と方法	1・2前・後		1		○								兼 1		
	特別活動の理論と方法	2・3前・後		1		○								兼 1		
	教育方法・技術論	1・2前・後		1		○								兼 1		
	ICT活用の理論と実践	1・2前・後		1		○								兼 1		
	生徒・進路指導の理論と方法	3前・後		2		○								兼 1		
	教育相談の理論と方法	3前		2		○								兼 1		
	教育実習(中・高)	3後～4前		5				○	1						集中	
	教育実習(高等学校)	3後～4前		3				○	1						集中	
	教育実習(副)	4前～後		3				○						兼 1		
	教職実践演習	4後		2				○	1							
	異文化理解と教育	2・3・4前・後		2			○							兼 1		
	生命と性の教育	2・3・4後		2			○							兼 1		
	精神保健	2・3・4前		2			○							兼 1		
	教職演習 A	3後・4前		1				○						兼 1	※講義	
	教職演習 B	4後		1				○						兼 1	※講義	
	教育インターンシップ A	1・2・3・4前・後		2				○	1							
	教育インターンシップ B	1・2・3・4前・後		2				○						兼 1		
	教育インターンシップ C	1・2・3・4前・後		1				○						兼 1		
	教育インターンシップ D	1・2・3・4前・後		1				○						兼 1		
	日本国憲法	1前・後		2			○							兼 1		
	体育	1・2後		1				○						兼 1	集中	
小計(32 科目)		—	0	59	0	—			1	0	0	0	0	兼 20	—	
合計(309 科目)		—	31	567	0	—			5	2	1	0	0	兼 124	—	
学位又は称号		学士(工学)		学位又は学科の分野				工学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
①修業年限を満たすこと ②全科目の修得単位の合計が124単位以上であること ③卒業時における累積GPAが2.00以上であること ④ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、玉川教育・FYE科目群から必修科目をすべて含み 7 単位以上を修得していること ⑤ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、人文科学科目群・社会科学科目群・自然科学科目群・学際科目群から各2単位以上、言語表現科目群のうち、必修選択科目(ELF)から4単位以上を修得し、合計18単位以上を修得していること ⑥デザインサイエンス学科科目のうち、必修科目24単位を含み、62単位以上を修得していること (履修科目の登録の上限:16単位(1学期))						1学年の学期区分				2 学期						
						1学期の授業期間				15 週						
						1時限の授業時間				50 分						

※本学では1時限の授業時間を50分とし、時間割上の時限を第1時限から第10時限まで設定している。

授 業 科 目 の 概 要			
（工学部 デザインサイエンス学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	玉川教育・FYE科目群 一年次セミナー 101	秋学期に開講される『一年次セミナー 102』と併せて、新しく大学に入学した者を対象に、大学生活を成功させるための戦略と戦術を提供する。この科目を通して学生は玉川大学における教育への積極的適応と同化をはかり、学修に対するモチベーションを向上させることが求められる。なお、授業では、「なぜ大学で学ぶのか」、「時間管理の技術」、「ノートをとる」、「試験を受ける」、「効果的な学修方法」、「学問とは何か」、「文章作成の方法」、「大学の支援資源の活用方法」等を集中的に学ぶ。	
U S 科 目 群	玉川教育・FYE科目群 一年次セミナー 102	春学期に開講された『一年次セミナー 101』と併せて、新しく大学に入学した者を対象に、大学生活を成功させるための戦略と戦術を提供する。この科目を通して学生は玉川大学における大学教育への積極的適応と同化をはかり、学修に対するモチベーションを向上させることが求められる。なお、授業では、「社会生活とメディア」、「社会貢献について考える」、「コミュニケーションのあり方」、「情報の活用と倫理」、「個人情報の保護と関わり方」、「セルフマネジメント」、「ライフデザインとキャリアデザイン」、「個人情報、データ倫理、AI社会原則」等を集中的に学ぶ。	
U S 科 目 群	玉川教育・FYE科目群 玉川の教育	大学一年生が玉川大学の教育についての理解を深めるために用意されている。具体的には、「全人教育入門」と題された講座のなかで玉川大学の教育理念である全人教育と玉川大学の歴史を学ぶ。また、「礼拝」と「宗教講義」を通して宗教および宗教を学ぶ意義についてキリスト教の立場から考察する。加えて、この科目では、各学部が独自に計画、設定した「労作」を実施することで、玉川教育の実践的側面を体験してもらう。	講義3時間 演習2時間
U S 科 目 群	玉川教育・FYE科目群 健康教育	体育の目的は、健全なる身体の育成とそれに必要な知識を得ることである。一方、教養、文化さらに娯楽志向から、体育・スポーツは生活の一部としても不可欠であり、生涯を通じて関わりを持つものである。本科目では、身体構造、ヒトの特異性、健康観、精神衛生、スポーツの功罪などについて理解を深める。実技では、これらの理論に基づいた運動・スポーツを実践する。	実技24時間 講義7時間
U S 科 目 群	玉川教育・FYE科目群 音楽Ⅰ	全人教育の理念に基づいて、音楽を理解し、広く親しみ愛好し、生活の中に取り組むことを目的とする。以下に示す内容を通して、音楽する喜び、音楽に参加する喜びを獲得する。歌曲やカノン等、混声合唱曲、讃美歌を合唱する。 愛吟集に掲載されている歌曲・国内外の合唱曲・讃美歌等がきちんと歌えるようになること。加えて、混声合唱に向けてパート練習を重ねることにより、混声合唱の響きの中で自分のパートをしっかりと歌えるようになること。そして、歌唱を通して合唱への理解も深まり、さらに音楽全般への理解を深めることを目標とする。	
U S 科 目 群	玉川教育・FYE科目群 音楽Ⅱ	『音楽Ⅰ』の科目概要に示した内容を基礎として、音楽性、芸術性のある、より崇高な音楽を求めようとする心と技を養う。ベートーヴェン作曲の第九交響曲終楽章の合唱を管弦楽とともにステージで行う。 ベートーヴェン作曲の交響曲第九番「合唱付き」第4楽章の担当パート（ドイツ語歌詞）を、伴奏に合わせて暗譜で歌えるようになること。また、「第九」の作品についての理解が深まり、合唱の歌い方など説明ができるようになることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	玉川教育・FYE科目群	全人教育論	本学の掲げる「全人教育」とは、真(学問)、善(道徳)、美(芸術)、聖(宗教)、健(身体)、富(生活)の六つの文化価値の調和的形成を目指すものである。本科目においては、たえず全人とは何か、という問いかけを根底に置き、小原國芳の提唱した「全人教育」とは具体的にどのような教育思想にもとづくものであったのかを明らかにしていく。それとともに全人教育論のもつ現代的意義について考察する。	
	玉川教育・FYE科目群	ピアリーダー	ピアリーダーとは学生による学生の支援を指す。海外の大学においては、ピアリーダーの取り組みが、支援を受ける学生と支援する学生の双方に、多大の教育的効果を上げていることが報告されている。ここで展開される科目では、履修学生に対してピアリーダーは、既に修得済みの知識(あるいは経験)をベースに、「如何にして支援するのか」を考え、計画を立て支援し、改善することを通して実践的な知識を修得することを目指す。	
	玉川教育・FYE科目群	二年次セミナー 201	昨今、社会に出ることを拒否する若者が問題視されている。これは、学生から社会人への転換が円滑にできない若者が、社会的にさまざまな影響を及ぼすようになったためと考えられる。また、就職しても行動・思考などが「大人」とは思えない社会人がいることも確かである。本科目では、社会人とは何か、社会人になるためにはどのような知識とマナーが必要であるか、それらを身に付けるためにどのようなノウハウが必要であるのか、また、その奥に存在する「社会人」としてのあるべき姿と理念はどのようなものなのかを検討する。	
	玉川教育・FYE科目群	二年次セミナー 202	高等教育への進学率が50%を越え、もはや大学卒は普通のこととなりつつある。そのため、大学、大学生の意義やその役割について、社会全体、また教育制度全体の中で再検討が求められている。大学卒がエリートを意味し、生涯の生活が保障される時代はすでに遠い昔のこととなり、社会の大学への期待度が低下するにつれて社会と大学生の関わりも変化した。そのような時代にあって、大学は何をするべきなのか、大学生はどうあるべきなのか。本科目では、大学生活を有意義なものにするために大学生がもつべき価値観、認識などを考察する。	
	玉川教育・FYE科目群	三年次セミナー 301	大学生活の後半期にある学生がやがて社会に出るにあたり、支援する科目として『三年次セミナー 301』『三年次セミナー 302』は用意されている。『三年次セミナー 301』は、学生がこれまで学んできたユニバーシティ・スタンダード科目と所属学部の専門科目で得た知見をもとに、人類を豊かにしてきた古典と向かい合う科目である。古典は、時代を超えて人間の生にかかわってきた書物であり、多くの先人が、古典から生き続けていくための知と力を獲得してきた。この科目を通して、古典との向かい合い方を学ぶことで、生涯学び続ける意義を体得する。	
	玉川教育・FYE科目群	三年次セミナー 302	大学生活の後半期にある学生がやがて社会に出るにあたり、支援する科目として『三年次セミナー 301』『三年次セミナー 302』は用意されている。『三年次セミナー 302』では、まもなく社会に出る学生を対象に、社会を形成するうえで欠かすことのできない「市民としての権利と義務」について学ぶ。具体的には、日本における政治と選挙制度の仕組み、税金制度の仕組み、年金制度の仕組み、各種保険制度の仕組み、地域社会で生きていくことの意味と生きていくうえでの役割等について、メソッド・スタディおよびケース・スタディの形式で学んでいく。	
U S 科 目 群	人文科学科目群	文化人類学	文化人類学は、世界の様々な民族の持つ文化や社会について比較研究する学問である。ここでは文化の進化と伝播、人間の生活と歴史、宗教と儀礼、言語、家族、婚姻などのテーマを扱い、世界の民族が持つ文化と生活の関連性を考察する。受講者は、この授業を通して、民族の価値観の多様性と個別文化の意義を知り、日本文化の位置づけや自己のアイデンティティの確立に対して一定の手がかりを得ることが期待される。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	民俗学入門	人間の日常生活文化の成り立ちや伝統的な思考方法のあり方を、古くから民間で伝承されてきた様々な有形、無形の資料の採取と検証を通して明らかにし、私たちの「今、ここ」で営まれる生き方を問い直すのが民俗学である。本科目では、我が国の様々な生活の基層文化に触れつつ、柳田邦男、折口信夫、宮本常一、谷川健一といった日本民俗学の成立に関わった主要人物の業績を通して、こうした民俗学の学問としての視点と方法を学ぶことを目的とする。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	美術史	過去美術作品を「研究」の対象とする、それはいったいどのようなことか。いったいどのようにすれば、その作品を研究、または理解したことになるのか。そもそも美術史を学ぶとはいかなることか。この科目では、西洋・日本・東洋の美術史を学ぶ上での重要なキーワードを学びつつ、いくつかの具体的な作品について考察し、それについての理解を深めると同時に、たとえば「様式」や「図像学」など、作品を分析するそのしかたについても触れる。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	ことばと文化	「ことば」のない文化はないし、文化のない「ことば」も人造言語以外はない。従って、ことばは文化と一体のものである。ことばを使う人間は、それぞれのことばを通して文化や社会を構築していく。ここでは、ことばを介した相互理解の問題、ことばにかかわるさまざまな事象（イメージ、認知、解説、など）、ことばの担い手としての個人差、などについて、言語が成立した文化的背景を理解しながら、時代とともに変化することばの多面性および創造性を考察する。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	比較文化論	「外国語を知ることによって、初めて母国語の何たるかを知る」と言われるが、それは文化についても同じことである。他国の文化を知ることにより、日本の文化を知ることが出来る。本科目では、世界の文化を比較することによって、文化の何たるかを考えていく。ヨーロッパを始めとする世界の様々な文化の中から、風景、都市、庭園、映像などの文化を取り上げ、それぞれの文化相を通して見えてくるものを日本の文化と比較し、文化を解釈することを試みる。文化の解釈の仕方を学ぶことにより、文化の意義を考察することを学ぶ。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	英語学	英語の歴史的発達(社会文化的側面と言語発達)、言語的諸相および分析方法について学びながら、英語の一般的特徴とはたらきについて記述することができる基礎的な知識の習得と分析能力の養成を目的とする。本科目では、英語を分析するために発達した主要研究分野(英語史研究、音声・音韻、文法、意味、語法、辞書学、会話分析、文学と文体論、談話分析、語用論、コンピュータによる言語分析など)を取り上げ、英語の言語的特徴を体系的に理解し、客観的に分析するための知識の習得をはかる。また、英語学の知識と分析アプローチを理解し、応用しながら、英語の生きた姿をとらえるための基礎的な言語分析能力の養成をはかる。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	歴史(世界)	歴史は過去と現在の対話だと言われる。私達は現代社会をよりよく理解するために、過去の歴史に学ぶのである。本科目では、他国の歴史を政治・経済・社会・文化・芸術など多方面から捉え、各時代の流れや特色を考えながら、歴史の面白さを味わい、歴史を見る眼を養うことを目標とする。さまざまな歴史的重要な事項についての基礎知識を得て、それらを現代の社会と結び付けて考える力を養う。また、現在の国際社会を作り出した歴史の諸相を知り、世界、また日本にとっての近現代の価値観を客観的に捉え、今後の日本についての考え方の基礎を作る。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	歴史(日本)	国際化が進展し異文化交流が盛んな時代だからこそ、広い視野に立って日本の歴史を確認し、自らの発信情報の礎を築かねばならない。過去を知ることが、現在を把握し未来を見定める方途でもある。本科目では、日本の歴史について世界との関係をふまえ、その歴史的諸側面を、文字・絵画・遺物・口碑伝承・民間信仰などの史料から読み取っていく。同時に、歴史的思考とはどのようなものかを習得し、歴史学は解釈学であることを理解することを目標とする。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	日本文学	日本文学を学ぶということは、自分とは切り離された過去を学ぶことではなく、過去に書かれた文学作品を一つの手段として現代、さらには現代に生きる自らを考えるということに他ならない。文学に接するとき、文学の向こう側には私たちが何者かを教えてくれる他者が存在する。その他者と対話する技術を学ぶことが、日本文学を学ぶ目的である。本科目では、小説、詩歌、神話などさまざまな作品を取り上げ、読み手の想像力を重視した自由な読み方で内容を理解し、作品が書かれた時代背景の中で考察していく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	日本学入門	日本学(Japanology)とはそもそも諸外国において日本を対象とする研究に対して命名されたものであるが、本科目では、過去から現在に至るまで日本という国に生きた人々が、所与の時代の現実の中でどのような問題に直面し、それらを解決せんとしてどのように生きたのかを、諸学問の領域を横断しながら、あるいは領域という枠組みに硬直せずに検討する。と同時に、日本の歴史・文化・思想を脱伝統の文脈からも読み直し、異文化との交流や摩擦なども視野に入れ理解していくための基礎的な研究方法や思考方法について学ぶ。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	日本語学	日本語を世界にある言語の一つとして客観的に認識し、音声、文法、語彙、意味、待遇表現といったさまざまな分野について、その特徴や体系をとらえていく。また、日常生活において無意識に使用している日本語に関する基礎的知識を身に付けるとともに、言語を客観的に分析する方法について学び、日本語の構造や法則について自ら分析できるようになることも目的とする。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	音楽史	音楽史とは何か、音楽の歴史を学ぶことの意義は何かといった問題意識を持ちつつ、音楽を学ぶ上で知らねばならない重要なキーワードを取り上げ解説する。その際、洋の東西を問わない音楽の歴史を念頭におくよう努める。すなわち、西洋音楽史に限らず日本音楽史、それ以外の民族の音楽史を含め、更に、いわゆるクラシックの音楽史にとらわれることなくポピュラー音楽の歴史も見据えた観点から、広い意味での音楽の歴史に関わる講義を行う。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	哲学	哲学とは、自分の生きる世界(自然・社会・歴史等)や、世界の中で起こる様々な出来事、あるいはそうした世界に身を置いて生きる自分自身の姿(意識・思考・感覚・行動等)を反省的につかまえ、自分自身の未来形成に役立てていく学問である。ここで取り上げることは特別なことではなく、普段は当たり前になっているが、どんな人にも関わる重要な問である。そうした諸問題を日常から取り上げて考える。哲学の基本的問題について考察し、哲学的思考方法を身に付けること、さらに、自分で考えるようにできることを本科目の目標とする。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	倫理学	人間は、必ずある一定の歴史的・社会的環境の中に産み落とされ、その環境が醸し出すモードを身にまといながら生き、感じ、考え、行動する存在である。しかし、自分たちのモードは、決して完全なものでも絶対のものでもない。なぜなら、自分たちと異なる環境に育った人間もまた、多数存在するからである。このことについて考究し、また、なぜ倫理学を学ぶかの意味についても言及する。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	ロジック	昨今、討論や論文、またそもそも一般的思考において、学生の論理・推論力の低下が目立つ。しかしながら、実際に日々行なう行動は思考の結果であり、そうした思考は「論理」に基づいて行なわれている。本科目では、「論理」が持つ特長や力を伝統的思想の中で検討しながら、論理的思考に注目し、実践的に鍛えることにより、言語や思考といったさまざまな論理的側面に対し、正確な分析と効果的な対処の仕方を学ぶことを目標とし、簡単な記号化を通して、ロジカルな推理ができるようにする。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	宗教学	人類の歴史と共に長い歴史を持つ宗教を理解することを通して、人間存在の特質に対する深い認識を獲得することができる。宗教学は、宗教現象を客観的に研究し、宗教一般の本質や構造を問題とする。そのためには、宗教といわれるものについての知識が当然必要とされる。それゆえ、ここでは、諸宗教の歴史的・思想的特質についても考察する。「宗教とは何か」を考えることを通して「人間とは何か」という難問を探究すると同時に、グローバルな時代に必要な宗教についての知識を学ぶ。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	世界の宗教と文化	現代のグローバル化した世界では、異なる宗教的背景を持つ他者と出会い、関わり、共に生きる力が必要とされる。本科目では、世界三大宗教であるキリスト教、イスラム教、仏教をはじめ、世界の諸々の宗教を、歴史や思想の観点からだけでなく、現代世界の宗教に関わる諸問題や議論も視野に入れて考察する。この科目では200番台以上で展開される宗教学関連科目で必要とされる、世界の宗教文化の基本的な事実と一定の知識を獲得することができる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	演劇史	演劇や舞踊という舞台芸術を学ぶ上で、この芸術の先輩達によって築かれ、後世に残された智恵に触れること、つまり演劇史の知識は、演劇や舞踊というライブな芸術の素晴らしさを改めて認識する上でも、また、これから新しい舞台芸術を創造していくに際して、その過程における無駄な試行錯誤を避けるためにも、非常に大切である。この授業では、蓄積された膨大な演劇史の豊かな智恵の海を効率よく渡るために必要な、最も基礎的な演劇史の理解を助けるキーワードについて学ぶことを目的としている。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	人文科学アカデミックスキルス [*] (ライティング)	人文科学領域に属する学問(文学、哲学、歴史学、芸術学、他)におけるレポート執筆および発表原稿執筆の基本的な訓練を行う。大学で求められるレポートや発表は自分の自由な思いを綴った作文や感想文ではない。学生に期待されるのは、学問的客観性と普遍性が保たれたうえで、書き手の独自性が論理的に展開されている文章を書くことである。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	人文科学アカデミックスキルス [*] (リーディング)	人文科学領域に属する学問(文学、哲学、歴史学、芸術学、他)の基本的な文献を読む訓練を行う。文献に書かれている内容をたんに理解するだけでなく、著者や編者の意図をくみとるためにはどのような読み方(読み方の技術)が必要になるかを学ぶ。リーディングにおいては、テキストの枠組みと方向性を示唆する先行オーガナイザーの設定が重要な役割を果たす。この科目では、そうしたことに十分に着目して授業を展開する。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	外国文学	人が一生に経験できることは限られているが、文学を通して想像力を広げること、経験をより豊かにすることができる。今日の国際社会においては、異文化を理解することが重要である。「ことば」は、人の生活と思考に深く根ざし、文化の枠組みの中で育まれたものだが、「ことば」が創り出した文学は、世界を、日本を、さらには私たち自身を知る手掛かりを提供してくれる。本科目では、文学の技法にも関心を持ちながら、さまざまな作品の時代と文化的背景を探ることで異文化理解を図り、「人間とは何か」という普遍的な課題を探究する。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	科学史	人類の歴史における科学の誕生は、技術の誕生に遅れること約2000年と言われるが、これは何を意味するのだろうか。科学が、それに加え、科学技術とも呼ばれるようになったのは何故なのだろうか。本科目では諸分野における科学と技術の比較考察から始め、その成立・発展経緯と、その後の融合と分離の在り方および将来に向かっの科学と科学技術のイメージについてまでを歴史、特に、社会史と文化史とのかかわりを通して、広い視点から考察する。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	キリスト教	玉川大学は「キリストの教えに従う」ことを教育精神として掲げている。この教えに基づいて成立したキリスト教は世界宗教の一つであり、2000年近くにわたり、世界の多くの地域・分野に影響を及ぼしている。本科目では、キリスト教に関する基礎的知識を修得し、その理解を深めることを目的とする。また、聖書に語られた、世界観、人間観、歴史観、さらには、歴史の中で展開されたキリスト教の様々な思想や文化的な営みを考察し、各自の生き方や自分が生きている社会のあり方について、より深く考察できるようにすることを目的とする。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	名著講読(人文科学)	人文科学(文学、哲学、歴史学、芸術学、他)における古典や名著といわれるいくつかの文献の講読を通して、読解、解釈、内容把握、要約、議論を行っていく。こうした取り組みを通じて、過去の人類の叡知を学び、現代における意義を考え直し、またその限界も含めて検討していく。これにより、履修者自身の視野の拡大、思考力の醸成を図ることを目的とする。また当該学問領域において基礎的な知見や技術を習得することも目的とする。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	Modern Japanese History	近世から近現代にかけての日本史を概観するとともに、歴史学的方法論を用いて近世以来の日本の諸分野を考察して再構成することで、現代日本の諸事象を把握することができる。特に近世江戸時代の社会制度および構造と文化思想が近代明治期以降の西洋化の中でどのように西洋文化や思想を受容しつつ現代にいたるかの過程を確認することで近代および現代日本の特性と意義を明らかにする。授業は英語で行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	Japanese Pop Culture	日本のアニメ、マンガ、ポップスをはじめとするポップカルチャーは、近年海外においても注目され、今後その注目度は益々高くなることが予想される。この授業ではそれらを取り上げて、社会的、歴史的、芸術的、様々な角度から分析・評価していく方法論について、具体的にいくつかの材料を取り上げながら学んで身に付けていくことを目的とする。授業は英語で行う。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	Japanology	『日本学入門』の内容を引き継ぎながら、海外における日本学 (Japanology) の過去から現在に至るまでの状況を視野に入れて、学際的に探究していく。海外から日本を眺める客観的な視野が、日本人であることにより逆に見失われがちな点をどのように相対化しうる可能性をはらんでいるのか、という点に留意しながら、現代における日本学の必要性について認識することを目的とする。授業は英語で行う。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	East Asian History	東アジア地域の様々な歴史を理解するのが目的である。時代区分に基づいての考察や、政治、経済、宗教、思想、文化、芸術など諸分野のうち特定のジャンルを中心に論述する。ただし、全ての時代区分、地域、ジャンルにわたって1セメスターで完結することはできないので、時代を特定し、地域の諸特徴を考慮しつつ、幾つかのジャンルに分けることによって、科目の目的を実現する。授業は英語で行う。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	Issues in Japanese Studies A	日本学で扱われる諸学問の領域の中から対象を絞り込み、その領域に関して深く探求していく。その一方で、探求の結果として得られた成果を、学際的な視点から改めて再評価し、相対化していくことを常に心がけて、日本学の研究方法を明確に意識化できるレベルで身に付けることを目的とする。授業は英語で行う。 『Issues in Japanese Studies B』とはプログラム、開講時期が異なる。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	Issues in Japanese Studies B	本科目では日本学で扱われる諸学問の領域の中から対象を絞り込み、その領域に関して深く探求していく。その一方で、探求の結果として得られた成果を、学際的な視点から改めて再評価し、相対化していくことを常に心がけて、日本学の研究方法を明確に意識化できるレベルで身に付けることを目的とする。授業は英語で行う。 『Issues in Japanese Studies A』とはプログラム、開講時期が異なる。	
U S 科 目 群	社 会 科 学 科 目 群	会計学	会計学入門として複式簿記の基本原則を学習する。会計とは、取引を複式簿記の原理により測定し、財務諸表に集約することにより利用者に伝達する、計算制度である。そこで会計学を学ぶためにはまずこの複式簿記の原理を理解することから始めなければならない。この科目では、複式簿記の基本原則を、簿記一巡の手続き、決算整理、財務諸表の作成等を通じて習得する。	
U S 科 目 群	社 会 科 学 科 目 群	経営学	経営学は社会科学の分野に分類される学問である。まだ100年程度の歴史しかない新しい科学分野であるが、常に経済活動とともに発展を遂げてきた。目的は企業をはじめとする組織的活動から生まれる問題の解決である。問題解決のために基礎学問分野(経済学、法学、数学、物理学、情報工学等)の研究成果を利用し、時代に応じて多くの経営上の問題について多様な解決方法を生み出すことで発展してきた。そのため経営学は基礎学問ではなく、それを利用する応用の学問と言われる。つまり経営学は唯一の方法や理論があるのではなく、科学としての側面を持つ一方で、特定の優れた個人の技能という面を強く持つ学問と言える。授業は、新聞・雑誌の経営関係の記事や企業のホームページなどを積極的に活用しながら、今日の企業の具体的な事例を取り上げ、経営学の思考方法や基礎的な用語を理解する。	
U S 科 目 群	社 会 科 学 科 目 群	マーケティング	マーケティングは顧客および社会全体にとって価値のある商品やサービスを創造、コミュニケート、提供し続けるための活動の全てを表す概念であり、その目的は市場創造である。顧客心理や市場環境・競争のリサーチ・分析から始まり、マーケティング戦略の策定と実行、ブランディングや顧客との関係性の構築にいたるマーケティングの体系、理論と思考(顧客志向)について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	社会科学科目群	コミュニケーション論	コミュニケーションは、人間が社会の中で生きていく上で不可欠なものである。異なる文化を背景にもつ人々が行なうコミュニケーションの問題点についてさまざまな角度から探り、より効果的なコミュニケーションについて理解を深める。生活のあらゆる場面がコミュニケーションの場であることを踏まえ、日常的な話題を提示して理解へと結び付けることで、物事を考える力を養っていく。コミュニケーション理論の理解と日常生活への応用を目標とする。	
U S 科 目 群	社会科学科目群	経済学 (国際経済を含む。)	日常よく使われる経済学の基本的な諸概念を解説し、経済についての基本的な知識を養うことを目標としている。それと同時に、現代経済学の主要な議論・論争と、“福祉破綻”や“環境破壊”など現実の経済問題とのつながりを探ることで、問題の本当の在り方を見つけ出していく。その他、なぜ経済学を学ぶかの意味といったプロフェSSIONAL性にも言及する。	
U S 科 目 群	社会科学科目群	ボランティア概論	ボランティア活動の理念・歴史から始め、ボランティア活動の実際、またボランティア活動を支える機能や役割について考察し、現代社会におけるボランティアの意義と課題についての洞察を深める。ボランティアの理念や意義について、歴史や事例等を踏まえて、自らの考えを述べられること、ボランティア活動を支える制度や行政の役割について、その歴史や課題も踏まえた説明ができること、ボランティア活動を支えるコーディネーションや協働の在り方について、実践的に語るができること、異なる価値観の人とも対話をし、省察的に協働することができることを目標とする。	
U S 科 目 群	社会科学科目群	市民社会と法	市民社会とは、自由と平等を重視し市民の基本的人権の保障を目指す社会であるが、そこにおいて私達市民と法は密接な関わりがあると云えよう。本科目では、私達市民が法とどのように関わり、また法からどのような影響を与えられているのか、市民的な教養として基本知識を得、理解を深めることを目的とする。具体的には、契約法、不法行為法、親族・相続法、刑法、民事・刑事訴訟法など、私達が身近に関わる法規範を中心に学ぶ。	
U S 科 目 群	社会科学科目群	政治学 (国際政治を含む。)	政治についての学問である政治学は、理論、哲学、歴史、思想史、制度論、課程論、政策論、行政学など他分野にわたる。その中から、いくつかの分野を選び、政治を解明する。その際、政治に関する近年の理論・哲学を紹介・分析し、身近なところにも認められる政治を通してまず政治に対する目を養う。そして、政治家、政党、選挙、国会、官僚等に焦点を当てながら、日本の国内政治の仕組みを、さらに国際政治の現実や特徴、安全保障や国際政治経済の考え方を考察・分析し、現在の政治の基本的あり方を学修する。	
U S 科 目 群	社会科学科目群	ポリティカル・サイエンス	「ポリティカル・サイエンス」では、地方・国内・国際の3つのレベルにおける政治理論と政治実践について社会科学分野の諸学問(経済学、社会心理学、メディア・マスコミ学など)とのかかわりを中心に学ぶ。しかし、政治を科学(サイエンス)するということは、社会科学分野にとどまらない。政治を学ぶうえで、人文科学分野および自然科学分野の知見がどのように活かされ得るかについても知見を得る必要がある。そのために、当該科目では、政治理論における哲学的側面と政治実践における言語の問題などについて扱うと同時に、政治をデザインするうえで欠かすことができない政治データ分析についても、基礎的な統計学や数学をベースにコンピュータを活用して行う。	
U S 科 目 群	社会科学科目群	心理学	心理学は人間の心の働きや行動の法則性を科学的に解明しようとする学問である。この科目では、認知、感情、欲求、思考、学習、パーソナリティ、発達、社会的行動等の基礎領域の学習を通して、心理学ではどのような方法を用いて研究が行われ、どのような研究成果が得られているのかを、私たちの日常生活や身近な現象と関連づけながら学び、心理学的視点を養うことを目的とする。	
U S 科 目 群	社会科学科目群	社会学	社会学の研究領域には、家族、農村、都市、産業、社会病理などがある。これらのうちから、社会病理をとりあげて、講義を進めていく。周知のとおり、現代の社会は社会問題に満ちている。今こそ社会学者が手腕を振るい社会学の実用的価値を世に問えるのかもしれない。近代社会の発展を遂げてきた社会学を現代社会の諸問題の解決と接点を模索しながら、社会学という学問を学び、かつ教える立場での社会学的視点の理解について学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	社会科学科目群	観光学入門	2000年以降の日本では、観光立国にむけて様々な取り組みがなされており、21世紀のリーディング産業としても注目されている。本科目では、初学者を対象として、「観光」の現状や最新動向、ならびに社会現象のひとつとして分析していくうえでの多様な視点を提示する。科目では、観光とtourismの概念を検討したうえで、観光需要の動向を国内、インバウンド、アウトバウンドの3つにわけて分析する。さらに、観光による経済効果と社会文化効果、観光のネガティブな影響、観光政策と行政の役割、旅行業や交通業、宿泊業など観光に関連する諸産業の現状と特質、観光まちづくり、観光による地域活性化のあり方について、概要を学習する。	
U S 科 目 群	社会科学科目群	Academic Communication	本科目の主な目的は、効果的な学術的意見交換や意思疎通を図るために必要となる英語のコミュニケーションスキルを涵養することである。スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4技能の習熟を通して、批判的思考力(クリティカルシンキング)を培い、言語意識を発達させることに焦点を当てる。到達目標として、幅広い分野を網羅する学術的な会話に参画したり、専門的かつ確信を持って口頭、書面でそれらの概念を表現する方法を修得する。授業は英語で行う。	
U S 科 目 群	社会科学科目群	国際関係論	21世紀をむかえた現在、宗教対立や民族対立から始まる幾多のテロ活動や戦争、自然災害や人間の倫理的対応の欠如によってもたらされる環境破壊、世界規模といわれる金融危機等、人類は地球規模での諸問題に直面し、国際関係・協力が必須のものになっている。本科目では、悠久の宇宙・人類史の流れの中での現在という立場から、具体的な国際情勢を取り上げながら、新しい学問といわれる国際関係論の歴史と理論と学問的課題を考究する。	
U S 科 目 群	社会科学科目群	科学技術社会論	科学技術と社会は決して分離しているわけではないことは論を待たない。科学技術は、現代の我々が直面している様々な問題に対処しようと努力してきたし、社会に及ぼす影響は非常に大きい。しかし科学技術が深く大きくなるにしたがって社会における利便性と共にリスクが表面化し、我々はそれらのトレードオフに直面している。だからこそ科学技術を専門家のみに任せるのではなく、市民が主体となって科学技術をコントロールしていく必要がある。この授業では、科学技術に関する事件を例示しながら、科学技術を自らの問題として議論し、市民が科学技術にコミットする方法について考察することを目的とする。	
U S 科 目 群	社会科学科目群	名著講読(社会科学)	社会科学領域に属する学問(政治学、経済学、経営学、社会学、教育学、観光学他)の古典や名著といわれる文献の講読を通して、文献の読解力、概略的な内容の把握、概略的理解、解釈的な意味の認識等についての能力を養成する。名著に触れることによって、視野の拡大、自己の思考力の活用力、主題設定に対する重要性の理解を図っていく。該当領域において広く有用であると認められる知見・技術・考え方を開拓するものとなるように、知識の蓄積を増やすことを目的とする。	
U S 科 目 群	社会科学科目群	現代社会の教育課題	各教育段階における多様性を認め合う仲間作りを中心とした学級経営や保護者対応の課題、IT化に伴う情報リテラシー教育(AIの正しい理解と活用課題を含む)、ICT利活用の授業実践、など、現代の日本が抱える教育課題を理解しつつ、次世代を担う人材を育成する教育のあるべき姿について考察する。	
U S 科 目 群	自然科学科目群	生物学入門	地球上に生命が誕生したのは30億年以上前といわれている。不思議なことに、生命体＝生物はそれぞれの種により、同じ形や動きをしていたり、物質やエネルギーの代謝系をもっている。生物には恒常性と調節機能があるのも特徴といえる。生物は、時間の流れの中で環境に適応するように変化＝進化し、人間はそのメカニズムを解明し医学や農業などに利用している。本科目は、生命誕生からの流れの中で、生物がどのように進化してきたのか、それに地球環境がどのように影響したのかを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	自然 科学 科 目 群	化学入門	自然界にはいろいろな物質が存在している。海、空気、地殻も物質でできており、生物も物質から成り立っている。そもそも物質とはなんだろうか。そして、なぜ物質がこのような複雑な環境や生命活動を担えるのだろうか。このような問いに答える学問が化学である。物質の示す様々な性質を原子、分子といったレベルで理解し、さらに物質間の相互作用によって起きる化学反応を理解することにより上記の答えが少しずつ解明されてきている。本科目では化学の歴史と基本的概念を学んだあと、自然界あるいは日常身近に起きる様々な現象を化学的に理解できるようにすることを目標とする。	
U S 科 目 群	自然 科学 科 目 群	環境科学	我々の生活は膨大なエネルギー消費によって快適なものとなっているが、それは地球環境に負荷を負わせることに他ならない。地球規模での環境悪化の問題は常に論じられているが、我々はどこまでその本質を理解しているだろうか。環境問題の本質に迫るには、人間の活動と環境への影響の両面を考える必要がある。本科目では、学際的な学問である「環境科学」をさまざまな角度から検討し、地球環境をひとつのシステムとして理解する。未来の地球に向けて我々がどのような行動をとるべきか、個々人の見解を形成することを目標とする。	
U S 科 目 群	自然 科学 科 目 群	情報科学入門	現代社会においては、コンピュータは不可欠な存在となり、さまざまな場面で必要とされている。しかしながら、その原理・構造を知った上で活用できている人は稀である。そこで本科目では、コンピュータの原理や構造について、情報の表現方法やハードウェア、ソフトウェアの観点から詳しく学ぶ。また、コンピュータの動作とプログラムの動き、あるいは処理対象となるデータやファイルの管理など、情報処理の基礎となる考え方を学ぶ。さらに応用として、情報システムの原理やサービスについてもコンピュータとネットワークの観点から取り上げる。	
U S 科 目 群	自然 科学 科 目 群	データ処理	コンピュータを用いて論文やレポートを作成したりプレゼンテーションを行う時に、必要となるデータや情報の表現方法と処理方法の基本について学ぶ。また、情報処理の基本となるデータや処理手順のモデル化や各種チャートによる表現について学び、これらの図表を他の人たちとの共同作業時の意思疎通のための手段・媒介として活用する方法について学ぶ。さらに、このことにより、コンピュータ上のデータを生かし、社会の発展へとつなげていく意義を学ぶ。	
U S 科 目 群	自然 科学 科 目 群	ネットワーク入門	現代は、コンピュータを通して情報を発信することもまた情報を収集することも容易になっている。では、情報とは何か、そしてそれはどのように利用されるのか、本科目では、情報の持つ特異な性質、便利な利用方法や正しい扱い方について考える。授業では情報のデジタル表現と通信の原理、またこれらを活用した情報システムとネットワークについて学ぶ。また、インターネットの仕組みや正しい使用方法、その応用についても詳しく学ぶ。	
U S 科 目 群	自然 科学 科 目 群	マルチメディア表現	自己の考えをわかりやすく伝え、他者に理解を求めることは、社会で生きる上において、不可欠なことである。そのためにはさまざまな方法、手段が用いられるが、コンピュータもその手段の一つである。現代のコンピュータは、文章だけではなく、マルチメディアを用いた表現を可能にしている。本科目は、コンピュータを用いた、写真、イラスト、動画などの初歩的な表現技術を学ぶ。	
U S 科 目 群	自然 科学 科 目 群	STEM入門 (科学と社会)	普段は意識することはないが、現代の生活は様々な科学(STEM)の成果で成り立っている。STEMとは何かを様々な視点から理解を深め、STEMが重要視される歴史と背景を概観し、Science, Technology, Engineering, Mathematicsの各分野における先端的研究を取り上げ、現代社会の関わりと課題、未来の展開について主体的に調査・探究し考察する。	
U S 科 目 群	自然 科学 科 目 群	解析学入門	一変数関数に関する、より高度な微分法の応用と積分法について理解し、その計算力を身に付けることを目標として講義する。まず、テイラー、マクローリンの定理を理解し、級数の形で初等関数がどのような関係にあるかを学ぶ。次に、定積分の数学的定義を通して現実の面積・体積が数学のなかでどのように表現され計算されるかを学習する。また、微分の逆演算としての原始関数(不定積分)が定積分とどのように関係するかを理解しながら、その計算方法を多くの問題を解きながら身に付ける。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	自然科学科目群	数学入門	数学は論理的思考の基礎となるものである。その基礎的知識と問題解決能力は、文系・理系を問わず、大学での学習において不可欠な知識・能力といえよう。本科目では、数学の基本的な問題を解くことによって、問題や課題の解決能力と数学的思考能力を養う。その結果、数学における基本的な概念の理解を深め、数学に対して興味・関心をもち、数学的活動を通して創造性を培い、数学的な見方・考え方を獲得して、積極的に活用できるようにする。数学の楽しさ、面白さ、有用性を理解することを目指す。	
U S 科 目 群	自然科学科目群	代数学入門	代数学は数学の基礎として重要な科目である。本科目では、連立一次方程式を中心に取り上げ、数ベクトルと行列の定義、行列の基本計算、正則行列と逆行列の定義、連立方程式の行列表現、行列の基本変形と基本行列、連立方程式の解法、逆行列の求め方、ベクトル空間の定義と線形写像、ベクトルの独立性、基底、時限と階数といった内容から、ベクトル、行列の基本的取り扱いを習得し、線形構造の基本を理解することを目指す。	
U S 科 目 群	自然科学科目群	物理学入門	物理学のなかでも身近な事例(力学・電気)について講義する。社会人になったときに、科学的な内容の話を積極的に参加できる程度の基礎知識を身に付けられるようにし、簡単な計算ができるようにする。合理的な考え方、新しいものの開発や発想は物理的なものの見方が不可欠であるので、順序よくものごとを見て考え方を組み立てることを学ぶ。さらに原子の世界について簡単に学び、エネルギー問題について考察する。最終的には、運動の法則や力学的エネルギーを中心とするニュートン力学、初歩の電磁気学、そして原子の世界などの理解を目指す。	
U S 科 目 群	自然科学科目群	科学入門	普段は意識することはないが、現代の生活は様々な科学の成果で成り立っている。この授業では我々自身の生活のなかの科学を基礎的な実験で学ぶ。基礎的な科学実験によって科学に対して興味や関心を持つことができるようになったり、生活と科学の関連性について意見を述べるができるようになったりすることを目的とする。さらに科学の様々な現象の原理の簡単な説明をすることができるようになることを目指す。 (オムニバス方式／全15回) (1 川森重弘／2回) 比熱、沸点上昇と凝固点降下について (3 黒田潔／5回) 概要説明、有効数字と測定値、単振り子、糸電話、科学とはについて (7 水野貴敏／5回) 数の取扱、統計現象A、統計現象B、太陽電池、大気圧 (52 市川直子／3回) 花の構造と機能、昆虫の形態と機能、鳥の心臓の解剖	オムニバス方式 講義15時間 実験15時間
U S 科 目 群	自然科学科目群	統計学入門	現代の情報化社会において、あふれている情報をいかに効率よく、正確に獲得するかは重要な課題となっている。人は個人によって情報の種類、情報の高さが異なる。したがって、個人個人が必要な情報を取得し、分析し、判断していかなければならない。統計学は、一人一人の知的活動が求められる高度知識社会に必要な分析力・判断力の基となるものといえる。本科目では、情報やデータを分析・判断し活用するための統計処理の基礎を身に付けることを目標とする。	
U S 科 目 群	自然科学科目群	自然科学アカデミックスキルズ (ライティング)	自然科学領域に属する学問(生物学、化学、物理学、数学、他)におけるレポート執筆および発表原稿執筆の基本的な訓練を行う。大学で求められるレポートや発表は自分の自由な思いを綴った作文や感想文ではない。学生に期待されるのは、学問的客観性と普遍性が保たれたうえで、書き手の独自性が論理的に展開されている文章を書くことである。	
U S 科 目 群	自然科学科目群	自然科学アカデミックスキルズ (リーディング)	自然科学領域に属する学問(生物学、化学、物理学、数学、他)の基本的な文献を読む訓練を行う。文献に書かれている内容を理解するだけでなく、著者や編者の意図をくみとるためにどのような読み方(読み方の技術)が必要になるかを学ぶ。リーディングにおいては、テキストの枠組みと方向性を示唆する先行オーガナイザーの設定が重要な役割を果たす。この科目では、そうしたことに十分に着目して授業を展開する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	自然科学科目群	人工知能と社会	人工知能の歴史を学ぶと共に様々な分野に応用されている応用例を元に人工知能の基本的な手法や、様々なトピックスを理解することで、現代社会で利用されている人工知能の実態を学習し、現代社会や私たちの生活に与える影響について学ぶ。人工知能が人間に与えるかもしれない将来の影響について、自分自身で説明でき、他人とディスカッションできること、また、人工知能も含め、人間にとって技術がどんな意味をもつか、歴史的観点から説明できることを目標とする。	
U S 科 目 群	自然科学科目群	実践の物理学	物理法則には、簡単な式で表わすことができ実際の現象とよく一致するものや、多くの補正を加えなければ一致しないものがある。物理法則とよく一致する現象について、講義および自らが行う簡単な実習により、物理法則と測定結果を比較検討し、その原理を説明できるようになることを目的とする。テーマは、力学、電気、熱、光波、音波など広い範囲の物理学について学ぶことが出来るように選んである。これらを修得することにより、様々な物理現象の原理の簡単な説明および簡単な機器操作の実行をすることができる。	
U S 科 目 群	自然科学科目群	宇宙科学	近年、望遠鏡等の観測装置やロケット等の宇宙機技術の進歩によって、宇宙についての認識が大きく変化してきている。本科目では、現在までに得られた最新の宇宙像に基づいて、宇宙の誕生から現在までの進化や、現時点で把握されている宇宙の構造や様々な天体について理解することを目的とする。また、宇宙を解明するための技術の基本についても理解する。同時に、人類がこれまでどのように宇宙に接してきたのかについても学び、人類と宇宙との様々な関わりについて考えを深める。	
U S 科 目 群	自然科学科目群	エネルギー科学	我々はエネルギーを使用することによって、現代の様々な利便性を享受していることは明らかである。エネルギーは、機械エネルギー、熱エネルギー、電気エネルギー、原子力エネルギー、等様々な形態をとり、それぞれ変換可能である。しかしながら、我々が使用できる形態のエネルギーを得るには多くのコストとリスクを伴う。さりとて低コスト小リスクでは現代の文明を維持することは困難である。この授業では、エネルギーの種類や生成法などの基礎知識を簡単に学び、そのコストとリスクをメリットと比較考量し、これからのエネルギー問題に対処する自分自身の考えをまとめられるようにすることが目標である。	
U S 科 目 群	自然科学科目群	地球科学	1960年代から70年代にかけて誕生し成長したプレートテクトニクスの枠組みによって、人類の地球観は大きく変貌した。ほぼ同時期から発展した宇宙技術によって宇宙から地球を観測したり他の惑星を直接観測したりすることも可能となった。その後も新たな知見をもたらしながら、地球科学は発展を続けている。本科目ではプレートテクトニクスをもとにして、固体地球の大規模な変動や地震・火山などの地学現象を体系的に理解することを一つの目標とする。また、地球以外の惑星にも視点を広げ、地球と惑星を関連させながら理解を深めることも目指す。	
U S 科 目 群	自然科学科目群	名著講読 (自然科学)	自然科学領域に属する学問(生物学、化学、物理学、数学、他)の古典や名著といわれる文献の講読を通して、文献の読解力、概略的な内容の把握、概略の理解、解釈的な意味の認識等についての能力を養成する。名著に触れることによって、視野の拡大、自己の思考力の活用力、主題設定に対する重要性の理解を図っていく。該当領域において広く有用であると認められる知見・技術・考え方を開拓するものとなるように、知識の蓄積を増やすことを目的とする。	
U S 科 目 群	学際科目群	マクロ脳科学	『マクロ脳科学』では人間の心のはたらきを司る脳の基礎的なはたらきとその成果の展開についてマクロレベルで理解する。まず、脳と神経系の成り立ち、出来上がる仕組み(発生・発達)、脳神経回路での信号と伝達、および脳について、マクロレベルで概説する。我々の知覚、思考、行動はすべて脳の電氣的活動によって制御されていることを学び、神経科学上の成果が人間理解や社会生活に大きな影響を及ぼし始めていることを理解することを目標とする。	
U S 科 目 群	学際科目群	ミクロ脳科学	『ミクロ脳科学』では人間の心のはたらきを司る脳と神経の基礎的なはたらきの詳細についてミクロレベルで理解することを目的とする。まず、脳と神経系の成り立ち、出来上がる仕組み(発生・発達)、脳神経回路での信号と伝達を概説する。その上で、知覚、情動、記憶、動機づけ、意思決定、運動、および行動制御のミクロレベルでの脳内メカニズムについて言及する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	マスメディアと社会	人が現代社会で生きるために、切っても切り離せない情報とは何かということ学ぶ。情報といっても、それだけで成り立っているわけではない。多種多様な情報があり、新聞や雑誌、インターネットやメールなどの電子情報のメディアがある。場合に応じて、さまざまな現れ方、使われ方をされている。しかも、その情報によって、人の生き方や政治、経済、生活が変わってしまうほどの価値がある。公的にも私的にも情報はさまざまな役割を担っている。教科書をそのまま学習するのではなく、教科書で得たものを身に付け、たうえて、個人が一メディアとして機能しうる表現力を身に付けることを目指す。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	インターンシップ ^o A	在学中に一定期間、企業・自治体・団体等で、自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う教育プログラム。この就業体験を通して、①実社会の中で視野を広め、社会的問題意識を高める、②大学での学習を実践の中で見つめ直し、目的意識と学習意欲を喚起する、③職業観を養い、将来の進路選択やキャリアデザインを考える、④社会人として求められる資質や態度を体得する、等の機会を得ることができる。 『インターンシップ B』とは実習先が異なる。『インターンシップ C』『インターンシップ D』とは、実習先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	インターンシップ ^o B	在学中に一定期間、企業・自治体・団体等で、自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う教育プログラム。この就業体験を通して、①実社会の中で視野を広め、社会的問題意識を高める、②大学での学習を実践の中で見つめ直し、目的意識と学習意欲を喚起する、③職業観を養い、将来の進路選択やキャリアデザインを考える、④社会人として求められる資質や態度を体得する、等の機会を得ることができる。 『インターンシップ A』とは実習先が異なる。『インターンシップ C』『インターンシップ D』とは、実習先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	インターンシップ ^o C	在学中に一定期間、企業・自治体・団体等で、自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う教育プログラム。この就業体験を通して、①実社会の中で視野を広め、社会的問題意識を高める、②大学での学習を実践の中で見つめ直し、目的意識と学習意欲を喚起する、③職業観を養い、将来の進路選択やキャリアデザインを考える、④社会人として求められる資質や態度を体得する、等の機会を得ることができる。 『インターンシップ D』とは実習先が異なる。『インターンシップ A』『インターンシップ B』とは、実習先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	インターンシップ ^o D	在学中に一定期間、企業・自治体・団体等で、自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う教育プログラム。この就業体験を通して、①実社会の中で視野を広め、社会的問題意識を高める、②大学での学習を実践の中で見つめ直し、目的意識と学習意欲を喚起する、③職業観を養い、将来の進路選択やキャリアデザインを考える、④社会人として求められる資質や態度を体得する、等の機会を得ることができる。 『インターンシップ C』とは実習先が異なる。『インターンシップ A』『インターンシップ B』とは、実習先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	環境教育ワークショップ ^o I	環境への関心や理解を深めるため、環境教育を推進することができる態度・知識を身に付けることを目的としている。授業では、環境教育概説・体験学習の理論・プログラムデザイン・プレゼンテーションスキルなどの基礎を学び、「子ども環境講座プログラム」の模擬授業に応用できる力を養う。また、玉川大学環境エデュケーター資格を取得するために必要な条件である、学生環境保全委員会活動に参画し、活動する上で必要な基礎的スキルを身に付ける。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	SAE(海外留学・研修)プログラム A	海外大学主催、協力によるプログラムの事前学修(留学の準備・計画、安全危機管理など)および事後学修(留学経験の振り返りと共有、今後の目標設定など)を本学で行い、同プログラムによる学修成果を高める。海外大学主催、協力によるオンラインプログラムや、Collaborative Online International Learning (COIL)などの手法を使う国際共修を通して、外国語の運用能力、海外事情や専門分野の知識理解、異文化理解の向上とともに、各自のキャリアデザインを視野に入れた学びを深めていく。 『SAE(海外留学・研修)プログラム B』とは留学・研修先が異なる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	SAE(海外留学・研修)プログラム B	海外大学主催、協力によるプログラムの事前学修(留学の準備・計画、安全危機管理など)および事後学修(留学経験の振り返りと共有、今後の目標設定など)を本学で行い、同プログラムによる学修成果を高める。海外大学主催、協力によるオンラインプログラムや、Collaborative Online International Learning (COIL)などの手法を使う国際共修を通して、外国語の運用能力、海外事情や専門分野の知識理解、異文化理解の向上とともに、各自のキャリアデザインを視野に入れた学びを深めていく。 『SAE(海外留学・研修)プログラム A』とは留学・研修先が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	SAE(海外留学・研修)プログラム C	海外大学主催、協力によるプログラム(対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型を含む)において、外国語の運用能力、海外事情や専門分野の知識理解、異文化理解、課題解決力の向上とともに、各自のキャリアデザインを視野にいれた学びを深めていく。 『SAE(海外留学・研修)プログラム D』とは留学・研修先が異なる。『SAE(海外留学・研修)プログラム E』『SAE(海外留学・研修)プログラム F』『SAE(海外留学・研修)プログラム G』『SAE(海外留学・研修)プログラム H』『SAE(海外留学・研修)プログラム I』『SAE(海外留学・研修)プログラム J』とは、留学・研修先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	SAE(海外留学・研修)プログラム D	海外大学主催、協力によるプログラム(対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型を含む)において、外国語の運用能力、海外事情や専門分野の知識理解、異文化理解、課題解決力の向上とともに、各自のキャリアデザインを視野にいれた学びを深めていく。 『SAE(海外留学・研修)プログラム C』とは留学・研修先が異なる。『SAE(海外留学・研修)プログラム E』『SAE(海外留学・研修)プログラム F』『SAE(海外留学・研修)プログラム G』『SAE(海外留学・研修)プログラム H』『SAE(海外留学・研修)プログラム I』『SAE(海外留学・研修)プログラム J』とは、留学・研修先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	SAE(海外留学・研修)プログラム E	海外大学主催、協力によるプログラム(対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型を含む)において、外国語の運用能力、海外事情や専門分野の知識理解、異文化理解、課題解決力の向上とともに、各自のキャリアデザインを視野にいれた学びを深めていく。 『SAE(海外留学・研修)プログラム F』とは留学・研修先が異なる。『SAE(海外留学・研修)プログラム C』『SAE(海外留学・研修)プログラム D』『SAE(海外留学・研修)プログラム G』『SAE(海外留学・研修)プログラム H』『SAE(海外留学・研修)プログラム I』『SAE(海外留学・研修)プログラム J』とは、留学・研修先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	SAE(海外留学・研修)プログラム F	海外大学主催、協力によるプログラム(対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型を含む)において、外国語の運用能力、海外事情や専門分野の知識理解、異文化理解、課題解決力の向上とともに、各自のキャリアデザインを視野にいれた学びを深めていく。 『SAE(海外留学・研修)プログラム E』とは留学・研修先が異なる。『SAE(海外留学・研修)プログラム C』『SAE(海外留学・研修)プログラム D』『SAE(海外留学・研修)プログラム G』『SAE(海外留学・研修)プログラム H』『SAE(海外留学・研修)プログラム I』『SAE(海外留学・研修)プログラム J』とは、留学・研修先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	SAE(海外留学・研修)プログラム G	海外大学主催、協力によるプログラム(対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型を含む)において、外国語の運用能力、海外事情や専門分野の知識理解、異文化理解、課題解決力の向上とともに、各自のキャリアデザインを視野にいれた学びを深めていく。 『SAE(海外留学・研修)プログラム H』とは留学・研修先が異なる。『SAE(海外留学・研修)プログラム C』『SAE(海外留学・研修)プログラム D』『SAE(海外留学・研修)プログラム E』『SAE(海外留学・研修)プログラム F』『SAE(海外留学・研修)プログラム I』『SAE(海外留学・研修)プログラム J』とは、留学・研修先、期間、時間が異なる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	SAE(海外留学・研修)プログラム H	海外大学主催、協力によるプログラム(対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型を含む)において、外国語の運用能力、海外事情や専門分野の知識理解、異文化理解、課題解決力の向上とともに、各自のキャリアデザインを視野にいった学びを深めていく。 『SAE(海外留学・研修)プログラム G』とは留学・研修先が異なる。『SAE(海外留学・研修)プログラム C』『SAE(海外留学・研修)プログラム D』『SAE(海外留学・研修)プログラム E』『SAE(海外留学・研修)プログラム F』『SAE(海外留学・研修)プログラム I』『SAE(海外留学・研修)プログラム J』とは、留学・研修先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	SAE(海外留学・研修)プログラム I	海外大学主催、協力によるプログラム(対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型を含む)において、外国語の運用能力、海外事情や専門分野の知識理解、異文化理解、課題解決力の向上とともに、各自のキャリアデザインを視野にいった学びを深めていく。 『SAE(海外留学・研修)プログラム J』とは留学・研修先が異なる。『SAE(海外留学・研修)プログラム C』『SAE(海外留学・研修)プログラム D』『SAE(海外留学・研修)プログラム E』『SAE(海外留学・研修)プログラム F』『SAE(海外留学・研修)プログラム G』『SAE(海外留学・研修)プログラム H』とは、留学・研修先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	SAE(海外留学・研修)プログラム J	海外大学主催、協力によるプログラム(対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型を含む)において、外国語の運用能力、海外事情や専門分野の知識理解、異文化理解、課題解決力の向上とともに、各自のキャリアデザインを視野にいった学びを深めていく。 『SAE(海外留学・研修)プログラム I』とは留学・研修先が異なる。『SAE(海外留学・研修)プログラム C』『SAE(海外留学・研修)プログラム D』『SAE(海外留学・研修)プログラム E』『SAE(海外留学・研修)プログラム F』『SAE(海外留学・研修)プログラム G』『SAE(海外留学・研修)プログラム H』とは、留学・研修先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	海外留学入門	海外留学のシステム・意味・学修成果から留学計画・準備の進め方で包括的かつ体系的に学ぶものである。具体的には、日本と留学先国(主に欧米・オセアニアなど)の国際教育交流に関する政策・制度、そして海外留学プログラムの種類や特徴を比較し、海外留学の意義、学修方法や成果、キャリアに与えるメリット等について学ぶ。更に、ディスカッションをしながら、各自の「なりたい自分」に向けた具体的な留学計画や今すべきことを明らかにしていく。 グローバル人材・市民像、及びそれらに必要な資質・能力の修得に向け、海外留学の重要性を認識し、留学に対する具体的な計画・準備を進めることができる。また、海外留学の意義、学修経験・成果、キャリアにおける留学のメリットを確認し、自身にとっての留学意義や目的を見出し、それらを日本語もしくは英語で発表できることを目標とする。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	国際研究 A	海外実地視察を通して問題意識を高めるとともに、海外事情についての認識を深めることを目的とする。『国際研究A～F』では、訪問の対象となる地域の歴史的文化遺産と同時に、最新の社会・文化を視察することで、各地域のこれまで果たしてきた役割と21世紀における可能性、および日本との今後の関係のあり方を考察する。帰国後、事前指導において設定した調査研究課題に関する調査分析について報告する。 『国際研究 B』『国際研究 C』とは訪問先が異なる。『国際研究 D』『国際研究 E』『国際研究 F』とは訪問先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	国際研究 B	海外実地視察を通して問題意識を高めるとともに、海外事情についての認識を深めることを目的とする。『国際研究A～F』では、訪問の対象となる地域の歴史的文化遺産と同時に、最新の社会・文化を視察することで、各地域のこれまで果たしてきた役割と21世紀における可能性、および日本との今後の関係のあり方を考察する。帰国後、事前指導において設定した調査研究課題に関する調査分析について報告する。 『国際研究 A』『国際研究 C』とは訪問先が異なる。『国際研究 D』『国際研究 E』『国際研究 F』とは訪問先、期間、時間が異なる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	国際研究 C	海外実地視察を通して問題意識を高めるとともに、海外事情についての認識を深めることを目的とする。『国際研究A～F』では、訪問の対象となる地域の歴史的文化遺産と同時に、最新の社会・文化を視察することで、各地域のこれまで果たしてきた役割と21世紀における可能性、および日本との今後の関係のあり方を考察する。帰国後、事前指導において設定した調査研究課題に関する調査分析について報告する。 『国際研究 A』『国際研究 B』とは訪問先が異なる。『国際研究 D』『国際研究 E』『国際研究 F』とは訪問先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	国際研究 D	海外実地視察を通して問題意識を高めるとともに、海外事情についての認識を深めることを目的とする。『国際研究A～F』では、訪問の対象となる地域の歴史的文化遺産と同時に、最新の社会・文化を視察することで、各地域のこれまで果たしてきた役割と21世紀における可能性、および日本との今後の関係のあり方を考察する。帰国後、事前指導において設定した調査研究課題に関する調査分析について報告する。 『国際研究 A』『国際研究 B』『国際研究 C』『国際研究 E』『国際研究 F』とは、訪問先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	国際研究 E	海外実地視察を通して問題意識を高めるとともに、海外事情についての認識を深めることを目的とする。『国際研究A～F』では、訪問の対象となる地域の歴史的文化遺産と同時に、最新の社会・文化を視察することで、各地域のこれまで果たしてきた役割と21世紀における可能性、および日本との今後の関係のあり方を考察する。帰国後、事前指導において設定した調査研究課題に関する調査分析について報告する。 『国際研究 A』『国際研究 B』『国際研究 C』『国際研究 D』『国際研究 F』とは、訪問先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	国際研究 F	海外実地視察を通して問題意識を高めるとともに、海外事情についての認識を深めることを目的とする。『国際研究A～F』では、訪問の対象となる地域の歴史的文化遺産と同時に、最新の社会・文化を視察することで、各地域のこれまで果たしてきた役割と21世紀における可能性、および日本との今後の関係のあり方を考察する。帰国後、事前指導において設定した調査研究課題に関する調査分析について報告する。 『国際研究 A』『国際研究 B』『国際研究 C』『国際研究 D』『国際研究 E』とは、訪問先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	情報倫理と社会	情報化とグローバル化が加速する現代社会における技術者の倫理について、さまざまな事例を参照しながら学び考察する。デジタル社会の一員としてのふさわしさを考え、コンピュータとネットワークの急速な進歩とともに課題となっている知的所有権に関わる問題、不正アクセス、セキュリティなどの問題に特に重点を置く。また、それ以外にも企業倫理、内部告発、PL法と品質管理、工場所有権、グローバル活動に伴う倫理、喫緊の要事である環境倫理、新たな技術に伴う課題を抱える生命倫理についても講義する。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	TAPファシリテーション I	学校教育、企業、地域等の様々な場面において、TAP (Tamagawa Adventure Program) を活用し、ファシリテートできるようになるための、具体的なスキルを習得することを目的とする。授業では、学内に常設されているチャレンジコースも使用しながら、まずはTAPを実際に体験していく。その中で、グループ内におけるリーダーシップのあり方について学んだり、グループの発達を実際に体験したりすると共に、TAPをファシリテートしていく上で必要となる、基礎的なスキルを習得する。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	TAPファシリテーション II	学校教育、企業、地域等の様々な場面において、TAP (Tamagawa Adventure Program) を活用し、ファシリテートできるようになるための、知識の習得を目的とする。授業では、これまでに実際に体験してきたTAPの体験をベースとして、TAPの歴史的背景や基礎理論、またファシリテーターとして求められる基礎知識を学んでいく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	地域創生プロジェクト A	本学では隣接する地域との連携を深め、大学や地域の自治体・団体が持つ資源をより有効に活用するために、行政と締結した協定に基づきさまざまな取り組みを実施している。それぞれの地域では特色を生かした村おこし、魅力あふれる町づくりのために、工夫を凝らしたイベントを開催している。そういった実践的活動に参加することにより、地域の活動を理解し、最終的に成果発表を行う。 『地域創生プロジェクトB』とは訪問先が異なる。『地域創生プロジェクトC』『地域創生プロジェクトD』『地域創生プロジェクトE』『地域創生プロジェクトF』とは訪問先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	地域創生プロジェクト B	本学では隣接する地域との連携を深め、大学や地域の自治体・団体が持つ資源をより有効に活用するために、行政と締結した協定に基づきさまざまな取り組みを実施している。それぞれの地域では特色を生かした村おこし、魅力あふれる町づくりのために、工夫を凝らしたイベントを開催している。そういった実践的活動に参加することにより、地域の活動を理解し、最終的に成果発表を行う。 『地域創生プロジェクトA』とは訪問先が異なる。『地域創生プロジェクトC』『地域創生プロジェクトD』『地域創生プロジェクトE』『地域創生プロジェクトF』とは訪問先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	地域創生プロジェクト C	本学では隣接する地域との連携を深め、大学や地域の自治体・団体が持つ資源をより有効に活用するために、行政と締結した協定に基づきさまざまな取り組みを実施している。それぞれの地域では特色を生かした村おこし、魅力あふれる町づくりのために、工夫を凝らしたイベントを開催している。そういった実践的活動に参加することにより、地域の活動を理解し、最終的に成果発表を行う。 『地域創生プロジェクトD』とは訪問先が異なる。『地域創生プロジェクトA』『地域創生プロジェクトB』『地域創生プロジェクトE』『地域創生プロジェクトF』とは訪問先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	地域創生プロジェクト D	本学では隣接する地域との連携を深め、大学や地域の自治体・団体が持つ資源をより有効に活用するために、行政と締結した協定に基づきさまざまな取り組みを実施している。それぞれの地域では特色を生かした村おこし、魅力あふれる町づくりのために、工夫を凝らしたイベントを開催している。そういった実践的活動に参加することにより、地域の活動を理解し、最終的に成果発表を行う。 『地域創生プロジェクトC』とは訪問先が異なる。『地域創生プロジェクトA』『地域創生プロジェクトB』『地域創生プロジェクトE』『地域創生プロジェクトF』とは訪問先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	地域創生プロジェクト E	本学では隣接する地域との連携を深め、大学や地域の自治体・団体が持つ資源をより有効に活用するために、行政と締結した協定に基づきさまざまな取り組みを実施している。それぞれの地域では特色を生かした村おこし、魅力あふれる町づくりのために、工夫を凝らしたイベントを開催している。そういった実践的活動に参加することにより、地域の活動を理解し、最終的に成果発表を行う。 『地域創生プロジェクトF』とは訪問先が異なる。『地域創生プロジェクトA』『地域創生プロジェクトB』『地域創生プロジェクトC』『地域創生プロジェクトD』とは訪問先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	地域創生プロジェクト F	本学では隣接する地域との連携を深め、大学や地域の自治体・団体が持つ資源をより有効に活用するために、行政と締結した協定に基づきさまざまな取り組みを実施している。それぞれの地域では特色を生かした村おこし、魅力あふれる町づくりのために、工夫を凝らしたイベントを開催している。そういった実践的活動に参加することにより、地域の活動を理解し、最終的に成果発表を行う。 『地域創生プロジェクトE』とは訪問先が異なる。『地域創生プロジェクトA』『地域創生プロジェクトB』『地域創生プロジェクトC』『地域創生プロジェクトD』とは訪問先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	フィールドワーク A	国内におけるさまざまな規模のコミュニティ(小集団、群衆、社会等)に入り込み、協働や交流をして観察および分析を行うことで、動的性質や構造の理解を深めることを目的とする。学生が対象コミュニティに飛び込み、そのコミュニティの構成メンバーと連携し、さまざまな実践的活動を行う点特徴とする。具体的には、指導教員のもと学生が自身の学修課題ないし計画を設定し、それらに沿った観察、分析、意見交換、そして計画の再構成などを繰り返しながら、最終的に成果発表を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	フィールドワーク B	国内におけるさまざまな規模のコミュニティ(市町村、都市、地方、自治体等)に入り込み、協働や交流をして観察および分析を行うことで、動的性質や構造の理解を深めることを目的とする。学生が対象コミュニティに飛び込み、そのコミュニティの構成メンバーと連携し、さまざまな実践的活動を行う点を特徴とする。具体的には、指導教員のもと学生が自身の学修課題ないし計画を設定し、それらに沿った観察、分析、意見交換、そして計画の再構成などを繰り返しながら、最終的に成果発表を行う。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	フィールドワーク C	国内におけるさまざまな規模のコミュニティ(劇場、協会、企業、学校等)に入り込み、協働や交流をして観察および分析を行うことで、動的性質や構造の理解を深めることを目的とする。学生が対象コミュニティに飛び込み、そのコミュニティの構成メンバーと連携し、さまざまな実践的活動を行う点を特徴とする。具体的には、指導教員のもと学生が自身の学修課題ないし計画を設定し、それらに沿った観察、分析、意見交換、そして計画の再構成などを繰り返しながら、最終的に成果発表を行う。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	健康スポーツ理論	WHO (World Health Organization) によると、健康とは「肉体的・精神的及び社会的に最良の状態をいい、万人の享有する基本的人権のひとつ」である。しかし、現代の生活は、「健康」といえるものになっているだろうか。一方、スポーツは健康のためには欠かせないものではあるが、一部のスポーツへの取り組みは健康を脅かすものとなっていないだろうか。本科目では、健康に対する理解を深めると同時に、健康とスポーツの関わり、スポーツの功罪などについて考察する。健康を尊重し、その維持、増進に積極的に取り組む姿勢を養うことを目指す。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	生涯スポーツ演習	体を動かすということは、人間にとって最も根源的な欲求である。生活の中で適度にスポーツを取り入れることは、心身両面の健康体を築くためには不可欠である。本科目では、多様なプログラムを用意し、それぞれの種目を通して、健康に対する基礎的知識、また、生涯にわたりスポーツを楽しむ生活習慣を身に付けることを目標とする。さらに、種目のルール、マナーを学ぶことによって、社会性の育成、健全な競技精神、安全管理についての習慣・態度を育成する。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	コオプ・プログラム	高等教育における創造的人材育成の一環として、企業・大学の産学連携により行われる、インターンシップなどのプログラム。学生は、在学中に自らの専攻、将来のキャリア形成に関連した業種、職種の企業内でインターンシップ(就業体験)をすることで、大学で学ぶ理論の知識と仕事の現場での実践による学び(智)を結び付けること、および学生自身の将来のキャリアビジョンをより明確化することを目的とする。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	野外教育	総合的な野外活動としてキャンプを捉え、その基礎的な理論(特性・歴史・計画・運営・マネジメント・危機管理・評価など)を通し、野外での教育活動(自然体験・冒険活動・環境保護活動)を理解し、自然と人が共生していく必要性について学ぶ。また、体験学習法であるTAP (Tamagawa Adventure Program) の基礎的な考え方を通し、他者との関わり方やコミュニケーションのとり方などについて理解し、対人的に安全な環境作りの手法や人と自然を尊重する心について学ぶ。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	環境教育ワークショップ II	環境への関心や理解を深めるため、環境教育を推進することができる実践力を身に付けることを目的としている。授業では、ファシリテーションスキル・コミュニケーションスキルの基礎知識を学び、「子ども環境講座プログラム」の模擬授業を通し実践力を養う。また、玉川大学環境エデュケーター資格を取得するために必要な条件である学生環境保全委員会活動に参画し、活動する上で必要な基礎的スキルを身に付ける。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	スポーツ史	スポーツは人類の文化である。その原初の形は戦い、狩猟、踊り、祈りなど生活の中から生まれてきた。しかし現代では一国の政治・経済とも関わる存在となってきた。我が国においても1961年に制定された「スポーツ振興法」では、国民の明るく豊かな心身の健全な発達を図る目的と個人個人の権利を保障する内容であった。2011年に制定された「スポーツ基本法」では、スポーツ立国の実現を目指し、国家戦略として推進するとまでスポーツの価値が変化している。本科目では、スポーツの発生から、古代オリンピック、近代スポーツ、さらには、ニュースポーツ、アダプテッドスポーツなどの歴史を探る中でスポーツの文化を学習する。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	Presentation Skills in English	英語による研究発表を首尾よく計画し実行するのに不可欠な英語コミュニケーション、プレゼンテーションスキルや研究手法、コンピュータスキルを育成する。個人で、グループで、また正式、また略式(公式、準公式)的にプレゼンテーションを行う方法を学ぶ。聴衆からの質問への対応の仕方等発表の過程のあらゆる段階で丁寧に(詳細に、細かく)指導する。本質的に根本にある目標は、学生が英語で効果的な発表を行うのに必要な自信を養うことにある。授業は英語で行う。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	複合領域研究 201～299	知識基盤社会の本格的な到来をむかえ、高度化、グローバル化、複雑化する現代社会において、多角的な視点で物事を捉え、新たな未来を構築できる人材が求められている。そのため、学問においても、既存の学問領域の枠組みでは捉えきれない事象について、様々な学問の知見を援用しながら学ぶことが必要になってきている。この科目では、現代社会での諸問題を取り上げ、多様な観点から考察する。特に、その時々々の社会的な課題の中から複数のテーマを設定し、人文科学、社会科学、自然科学といった個々の枠組みではなく、それらを複合した領域の視点から、その諸課題に対する総合的な検討に取り組んでいく。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	数理・データサイエンス・AIリテラシー	第三次人工知能ブームと言われる現在、我々を取り巻く社会で起きている変化を知り、過去から現代を経て、将来の社会がどのように変化していくかを考える。また、様々な分野で大量のデータがどのように処理され、そこから得られた知見がどのように活用されているかの最新の動向を学ぶ。 日本の置かれている社会・経済的課題の現状について大まかに振り返り、我が国がおかれている状況において生産性向上が今後の課題であることを理解する。他方、Society5.0などで述べられているように、世界的に、社会・経済構造が大変革をしようとする中で、全産業がAIへの取り組みを図ることが不可避となっており、経団連のAI活用戦略を取りまとめる状況となっていることを理解する。人工知能は特定の分野においては人の知能を遥かに超える性能を発揮することができる。しかし本当に人工知能を信じ切ってもよいのだろうか。人工知能が原因で起きた事故や人工知能を騙す(誤認識させる)研究を例に、人工知能を扱ううえでどのようなことを考慮するべきか履修者の間で議論する。データ解析ソフトウェアの使用方法的基礎を身に付け、基本的なデータの処理・整理方法、および、その応用に関する方法論を学ぶ。データ解析ソフトウェアを使うことで、大量のデータが容易に扱えることを知り、3次元以上の高次のデータ間の関係を可視化する手法を学ぶ。現実には得られたデータを使い、データから様々な知識が抽出できることを知るとともに、データマニングの基礎的な演習を体験する。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	現代文化論	世界が身近になり、「文明の衝突」に象徴されるように多様な価値間の摩擦が顕著になっている。こうした衝突は21世紀においては一層激化されることが懸念されている。私たちを取り巻く現代の文明の位置関係や構造と融和について学ぶ。現代社会における文化の諸相についてふれながら、文化研究と社会学の基礎的な概念および研究視点について修得し、自らが関係する文化のあり方、さらに自己が関係する文化のあり方を理解し、自らその意味を問うことを目標とする。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	キャリア・マネジメント	21世紀初頭は、終身雇用制度、年功序列による賃金制度といった日本の従来の人的資源管理は崩壊の一途をたどり、雇用情勢は変化している。ビジネスパーソンは、高いエンployアビリティ(雇用される能力、雇用可能性、転職能力、自分の市場価値)を身に付けることにより、このような雇用不安を払拭し、キャリアを確立することができるといえる。そこで、社会の現状を把握し、雇用形態の多様化や自立的キャリア形成等の観点から、これからのキャリアマネジメントを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	病理学	形態学的に、「病気の原因」、「仕組み」、それに「経過」を学ぶ。顕微鏡や電子顕微鏡を用いて、肉体的あるいは精神的な病(やまい)の基礎をなす“構造上の変化(組織学的変化)”が明らかにされた疾患について理解を深める。それは、今後とも病気知らずで過ごしていくことに役立つばかりではなく、より一層健康を増進させていくことにも結びつく。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	Japan Studies Overseas A	海外での様々な体験は、日本における「標準」が絶対的なものではないことを、いやが上でも日本に暮らす我々に意識化させる。本科目では受講者各自が問題意識を持って調査対象と目的を設定し、それを実現する具体的な方法を決定して実際に海外で調査を行い、研究報告書としてまとめ上げていく過程を通じて、様々な文化や社会の価値観を相対化していく視野を身に付けることを目的とする。授業は英語で行う。 『Japan Studies Overseas B』『Japan Studies Overseas C』とはプログラムが異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	Japan Studies Overseas B	海外での様々な体験は、日本における「標準」が絶対的なものではないことを、いやが上でも日本に暮らす我々に意識化させる。本科目では受講者各自が問題意識を持って調査対象と目的を設定し、それを実現する具体的な方法を決定して実際に海外で調査を行い、研究報告書としてまとめ上げていく過程を通じて、様々な文化や社会の価値観を相対化していく視野を身に付けることを目的とする。授業は英語で行う。 『Japan Studies Overseas A』『Japan Studies Overseas C』とはプログラムが異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	Japan Studies Overseas C	海外での様々な体験は、日本における「標準」が絶対的なものではないことを、いやが上でも日本に暮らす我々に意識化させる。本科目では受講者各自が問題意識を持って調査対象と目的を設定し、それを実現する具体的な方法を決定して実際に海外で調査を行い、研究報告書としてまとめ上げていく過程を通じて、様々な文化や社会の価値観を相対化していく視野を身に付けることを目的とする。授業は英語で行う。 『Japan Studies Overseas A』『Japan Studies Overseas B』とはプログラムが異なる。	
U S 科 目 群	言 語 表 現 科 目 群	ELF Introduction (A)	4Cs(コミュニケーション、批判的思考力、協同、創造性)をキーワードに、日常生活に関連した学際的問題を通して英語を学ぶ。共通シラバス・共通教科書(序盤部分のトピックを使用)。受講生が積極的に英語を発信する手助けとして、ELFセンターで作成予定のアクティビティ教科書1(eTextbook)を補助教材として使用。プロセス・ライティングを含む。能動的学修及び日常生活で有用な4技能を横断した理解力・表現力を形成的に評価。扱うトピックは(A)(B)(C)それぞれで異なる。	
U S 科 目 群	言 語 表 現 科 目 群	ELF Introduction (B)	4Cs(コミュニケーション、批判的思考力、協同、創造性)をキーワードに、日常生活に関連した学際的問題を通して英語を学ぶ。共通シラバス・共通教科書(中盤部分のトピックを使用)。受講生が積極的に英語を発信する手助けとして、ELFセンターで作成予定のアクティビティ教科書1(eTextbook)を補助教材として使用。プロセス・ライティングを含む。能動的学修及び日常生活で有用な4技能を横断した理解力・表現力を形成的に評価。扱うトピックは(A)(B)(C)それぞれで異なる。	
U S 科 目 群	言 語 表 現 科 目 群	ELF Introduction (C)	4Cs(コミュニケーション、批判的思考力、協同、創造性)をキーワードに、日常生活に関連した学際的問題を通して英語を学ぶ。共通シラバス・共通教科書(終盤部分のトピックを使用)。受講生が積極的に英語を発信する手助けとして、ELFセンターで作成予定のアクティビティ教科書1(eTextbook)を補助教材として使用。プロセス・ライティングを含む。能動的学修及び日常生活で有用な4技能を横断した理解力・表現力を形成的に評価。扱うトピックは(A)(B)(C)それぞれで異なる。	
U S 科 目 群	言 語 表 現 科 目 群	BELF 初級	インターンシップやキャリアに役立つ英語コミュニケーション力、プレゼンテーション力の基礎を養成。共通シラバス・共通教科書。各担当教員が必要に応じて補助教材を作成。様々なビジネス文書に関するライティングを含む。一部TOEIC®(LR)テスト対策を含む。能動的学修、インターンシップ・ビジネスシーンで有用な4技能を横断した理解力・表現力、TOEIC®IPテストスコアに基づいて評価。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	言語表現科目群	ELF Communication for Teachers	様々な英語学修法・教授法を体験しつつ英語力を向上。共通シラバス・共通教科書。受講生が積極的に英語を発信する手助けとして、ELFセンターで作成予定のアクティビティ教科書1(eTextbook)を補助教材として使用。プロセス・ライティングを含む。能動的学修及び学校・教育で有用な4技能を横断した理解力・表現力を形成的に評価。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	ELF Foundation (A)	4Cs(コミュニケーション、批判的思考力、協同、創造性)をキーワードに、多岐に渡る学際的問題を通して英語を学ぶ。共通シラバス・共通教科書(序盤部分のトピックを使用)。受講生が積極的に英語を発信する手助けとして、ELFセンターで作成予定のアクティビティ教科書2(eTextbook)を補助教材として使用。プロセス・ライティングを含む。能動的学修及び様々な問題解決に有用な4技能を横断した理解力・表現力を形成的に評価。扱うトピックは(A)(B)(C)それぞれで異なる。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	ELF Foundation (B)	4Cs(コミュニケーション、批判的思考力、協同、創造性)をキーワードに、多岐に渡る学際的問題を通して英語を学ぶ。共通シラバス・共通教科書(中盤部分のトピックを使用)。受講生が積極的に英語を発信する手助けとして、ELFセンターで作成予定のアクティビティ教科書2(eTextbook)を補助教材として使用。プロセス・ライティングを含む。能動的学修及び様々な問題解決に有用な4技能を横断した理解力・表現力を形成的に評価。扱うトピックは(A)(B)(C)それぞれで異なる。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	ELF Foundation (C)	4Cs(コミュニケーション、批判的思考力、協同、創造性)をキーワードに、多岐に渡る学際的問題を通して英語を学ぶ。共通シラバス・共通教科書(終盤部分のトピックを使用)。受講生が積極的に英語を発信する手助けとして、ELFセンターで作成予定のアクティビティ教科書2(eTextbook)を補助教材として使用。プロセス・ライティングを含む。能動的学修及び様々な問題解決に有用な4技能を横断した理解力・表現力を形成的に評価。扱うトピックは(A)(B)(C)それぞれで異なる。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	BELF 初中級	インターンシップやキャリアに役立つ英語コミュニケーション力、プレゼンテーション力の基礎を固める。共通シラバス・共通教科書。各担当教員が必要に応じて補助教材を作成。様々なビジネス文書に関するライティングを含む。一部TOEIC®(LR)テスト対策を含む。能動的学修、インターンシップ・ビジネスシーンで有用な4技能を横断した理解力・表現力、TOEIC® IP テストスコアに基づいて評価。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	ELF & Global Communication (A)	地球規模の話題に関するプロジェクト型学修を通して英語を学ぶ。特に表現の豊かさ、発話の流暢さに加えて、批判的思考力を養う。共通シラバス・共通教科書(前半部分のトピックを使用)。受講生が積極的に英語を発信する手助けとして、ELFセンターで作成予定のアクティビティ教科書3(eText-book)を補助教材として使用。プロセス・ライティングを含む。留学準備レベルの表現力、実践的コミュニケーション力を形成的に評価。扱うトピックは(A) (B)それぞれで異なる。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	ELF & Global Communication (B)	地球規模の話題に関するプロジェクト型学修を通して英語を学ぶ。特に表現の豊かさ、発話の流暢さに加えて、批判的思考力を養う。共通シラバス・共通教科書(後半部分のトピックを使用)。受講生が積極的に英語を発信する手助けとして、ELFセンターで作成予定のアクティビティ教科書3(eText-book)を補助教材として使用。プロセス・ライティングを含む。留学準備レベルの表現力、実践的コミュニケーション力を形成的に評価。扱うトピックは(A) (B)それぞれで異なる。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	ELF Academic Literacy 中級	学術的エッセイのプロセス・ライティングと受講生の専門性に関連したプレゼンテーションを重視。共通シラバス。共通教科書として、ELFセンターで作成予定のアクティビティ教科書3(eTextbook)をプレゼンテーション、ディベート、ディスカッションのトピックに使用。各担当教員が必要に応じて補助教材を作成。留学準備レベルの学術的言語運用力、実践的コミュニケーション力を形成的に評価。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	言語表現科目群	BELF 中級	インターンシップやキャリアに役立つ英語コミュニケーション力、プレゼンテーション力を養成する。共通シラバス・共通教科書。各担当教員が必要に応じて補助教材を作成。様々なビジネス文書に関するライティングを含む。一部TOEIC®(LR)テスト対策を含む。能動的学修、インターンシップ・ビジネスシーンで有用な4技能を横断した理解力・表現力、TOEIC®IPテストスコアに基づいて評価。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	ELF & Global Leadership (A)	高度な英語運用力の養成にとどまらず、英語コミュニケーションを通じて自己と社会を啓発できる批判的思考力を養う。各担当教員がシラバス・教科書を提示。学士力完成レベルの表現力、実践的コミュニケーション力を形成的に評価。シラバスや教科書は(A)(B)それぞれで異なる。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	ELF & Global Leadership (B)	高度な英語運用力の養成にとどまらず、英語コミュニケーションを通じて自己と社会を啓発できる批判的思考力を養う。各担当教員がシラバス・教科書を提示。学士力完成レベルの表現力、実践的コミュニケーション力を形成的に評価。シラバスや教科書は(A)(B)それぞれで異なる。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	ELF Academic Literacy 上級	長編の学術的エッセイのプロセス・ライティングと受講生の専門性を反映したプレゼンテーションを重視。担当教員がシラバス・教科書を提示。学士力完成レベルの学術的言語運用力、実践的コミュニケーション力を形成的に評価。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	BELF 上級	インターンシップやキャリアに役立つ高度なコミュニケーション力、プレゼンテーション力を養成する。共通シラバス・共通教科書。各担当教員が必要に応じて補助教材を作成。様々なビジネス文書に関するライティングを含む。一部TOEIC®(LR)テスト対策を含む。能動的学修、インターンシップ・ビジネスシーンで有用な4技能を横断した理解力・表現力、TOEIC®IPテストスコアに基づいて評価。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	フランス語 101	「話す」「聞く」「書く」「読む」の4つの運用能力の初級レベルの習得を目指す。言葉はまず音としてある。このことから、本科目では、仏語の初歩のうち発音や綴りから始める。そして、基本的な語彙や表現を用いて自分の言いたい事や必要な事を相手に伝えられるようになるための練習を行い、コミュニケーションのためのフランス語の力を身に付けることを目標とする。また、フランスと日本の文化の違いを学び、両国の異文化理解を深めることも目標とする。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	フランス語 102	『フランス語 101』の履修者を対象とした授業。どこの国の言語にも、言葉の使い方に一定の決まりがある。いくら語彙が豊富で単語を並べても、その単語を正しい順序やつながりで表現しなければ意味のある文にはならない。本科目では、言葉を使う上での基本的な枠付けを段階的に修得し、コミュニケーションのためのフランス語の力を身に付ける。また、フランスと日本の文化の違いを学び、両国の異文化理解を深めることも目標としている。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	ドイツ語 101	ドイツ語初学習者を対象とした授業。母音、子音の発音からはじめてドイツ語の基礎を学ぶ。挨拶、自己紹介などの平易なコミュニケーションを通してドイツ語の特徴を理解し、読解・聴解などの練習を含めた総合的な表現能力を養うことを目標とする。ドイツ語を使って発信するために必要な能力の養成に重点を置く。文法・作文などの練習を通して基本文型を修得する。さらに、ドイツ語圏、ヨーロッパ圏の文化に触れることで、異文化理解を進める。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	ドイツ語 102	『ドイツ語 101』の履修者を対象とした授業。『ドイツ語 101』で修得した文法（動詞の人称変化、名詞の格など）の知識を確かなものにしなが、初級文法で必要とされる事項（数詞、序数詞、分離動詞など）を学ぶ。発音、音読を中心におくが、文法についても基本文型も充実させながら、日常生活の中で最低限必要とされる事柄を表現できることを目標とする。また、辞書の活用方法にも習熟する。さらに、ドイツ語圏、ヨーロッパ圏の文化に触れることで、異文化理解を進める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	言語表現科目群	日本語表現 101	日本語による表現力を身に付けることを目標とする。句読点の使い方や文章の構成法を学ぶことから始まり、最終的には読み手を想定して論理的で説得力のある文章が書けるようになることを目指す。はじめに、表現をするために必要なモノ・コトを理解する。その上で、調査方法、考察のしかた、引用上の注意、他者の批評などを学ぶ。さらに、これらをプレゼンテーションする際の方法についても学習する。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	日本語表現 102	『日本語表現 101』を発展させた授業である。日本語による表現力を身に付けることを目標とし、現代の社会で想定されるさまざまな場面、手紙、レポート、討論などの擬似体験を通して日本語の運用技術をみがく。具体的にはブレーン・ストーミング、データの整理、下書き、推敲、といった文章作法のプロセス、手紙、レポート作成上の留意点などについて学ぶ。今後さまざまな場面で要求されるであろうテーマに対して自己表現を行いながら、表現の幅を広げ、質の向上を目指す。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	中国語 101	実用的な日常言語の基礎を習得することを目標とする。本科目は入門クラスで、発音(声調、単母音、複合母音、子音、鼻音を伴う母音など)の練習から始め、最も基本となる語彙、文法(“是”構文、疑問文、代名詞、助詞、動詞述語文、反復疑問文、形容詞述語文、選択疑問文、比較文など)、簡単な日常会話などをビデオ教材を使って、日常生活の表現の中で学んでいく。また、言語の背景となる中国の社会的文化的背景についても紹介していく。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	中国語 102	『中国語 101』に引き続き、基礎中国語の運用能力の向上を目指す。日常的なコミュニケーションに必要な基本的表現(数をたずねる、年齢・月日・時刻の言い方、進行の表し方、電話のかけ方など)および基礎文法(結果補語、可能表現、可能補語、常用副詞、使役動詞など)を学習する。また、リスニングや繰り返しの発音練習により、中国語の正しい発音を習得する。『中国語101』と同様にビデオ教材を使用する。簡単な翻訳までを目標とする。	
U S 科 目 群	資格関連科目群	生涯学習概論	現代社会での個人または集団、社会の向上のために、生涯を通じて人間的、社会的、職業的な発達をはかることは今日的な重要課題である。こうした生涯教育という関心は歴史的に新しいけれども、その理念は近代公教育以前から見られる。この理念に遡りその原型から今日の生涯学習の支援状況を分析していく。また、今日の成人・高齢者の発達や学習要求を明らかにする。この分析に従い、最近の新しい動向、「学習ボランティア」や「学社融合」やマルチメディアなどに言及する。	
U S 科 目 群	資格関連科目群	生涯学習と生涯教育	一人ひとりの生涯にわたる学習を出発点に位置づけ、組織や社会の持続可能な発展を展望する「学習社会」を志向する意義や課題について学ぶ。具体的には、個人の学びと組織や社会の発展、おとなの学習者理解と学習支援の方法、学びあうコミュニティの意義や社会とつながる学びの在り方、学習社会の課題と展望について、考察をする。	
U S 科 目 群	資格関連科目群	情報メディアの活用	高度情報社会での学校教育における、各種の情報メディア活用の意義、重要性を論じる。そのうえで、情報メディアの種類と特性、視聴覚メディアの活用について具体的に取り上げる。また、学校教育へのコンピュータの活用については、インターネットによる情報発信、学習支援ソフトウェア等について取り上げ、その活用事例を紹介し、その意義、コンピュータ活用がもたらす新たな学習観について論じる。最後に、学校図書館メディアと著作権の問題を解説する。	
U S 科 目 群	資格関連科目群	学校経営と学校図書館	学校図書館の理念と教育的意義について、生涯学習社会、情報社会における学校教育を支援する学校図書館の在り方を中心に取り上げる。また、学校図書館の経営については、組織、予算の面から論じるとともに、学校図書館メディアの選択・管理の方法、学校図書館と地域社会との連携協力的重要性について解説する。その他、図書館司書のプロフェッショナル性についても言及する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	資格 関連 科目 群	学校図書館メディアの構成	学校図書館サービスの資源となる情報源について、その種類と特性を教育課程との関連から取り上げる。また、利用者の情報資料への要求に対して、的確な情報資料が検索できるための、メディア組織化の技法について解説する。さらに、多様な学習環境に応じた学校図書館メディアの構成、学習情報センターとしての学校図書館の在り方について論じる。その他図書館司書のプロフェッショナル性についても言及する。	
U S 科 目 群	資格 関連 科目 群	児童サービス論	児童サービスの意義、児童資料の特色と選択、児童コレクションの形成と管理について解説する。次いで、ストーリーテリング、読み聞かせ、ブックトークなど、児童サービスの方法・技術を取り上げる。また、児童サービスの運営について解説し、学校、学校図書館との連携、幼稚園、保育園、児童館、子ども文庫との連携協力の諸問題を取り上げる。	
U S 科 目 群	資格 関連 科目 群	情報サービス論	図書館における情報サービスの意義を明らかにし、利用者の情報ニーズの把握から情報(源)の入手に至るレファレンスプロセスを概観する。次いで、レファレンスサービス、レフェラルサービス、カレントアウェアネスサービス、情報検索サービス、発信型情報サービス、図書館利用教育等のサービス方法について学ぶ。参考図書・データベース等の各種の情報源についても基礎知識を得る。	
U S 科 目 群	資格 関連 科目 群	図書・図書館史	人間の知的活動の所産である図書館の記録メディアの変遷、発展過程について解説し、人間のコミュニケーションと記録メディアとの関係について明らかにする。また、社会制度としての図書館の歴史について取り上げ、現代の図書館を成立させている歴史的基盤を解明する。古代から近世にいたる各時代において登場したメディアと図書館の特徴について、近・現代社会のメディアと図書館の特徴と対比させながら、説明できるようになることを目標とする。	
U S 科 目 群	資格 関連 科目 群	図書館概論	現代社会における図書館の意義について、特に、生涯学習社会における図書館の役割、情報社会における図書館の位置付けと機能を中心に解説する。さらに、公共図書館の機能、図書館法、図書館の自由について解説し、公共図書館の制度や課題を論じる。また、大学図書館、学校図書館、国立図書館について、それぞれの機能と関連する図書館法律を取り上げる。図書館司書の取得を目指す学生の履修を想定した科目である。	
U S 科 目 群	資格 関連 科目 群	図書館サービス概論	利用者に提供される図書館サービスについて、閲覧、資料提供、情報提供、集会・文化活動に大別し、その意義、内容、機能を解説する。次いで、利用対象別のサービスとして、児童サービス、高齢者サービス、障害者サービス、さらには多文化サービスを取り上げその内容と特質を解説する。また、図書館サービスとボランティアの関係についても取り上げる。その他図書館司書のプロフェッショナル性についても言及する。	
U S 科 目 群	資格 関連 科目 群	図書館施設論	図書館活動・サービスが展開される場としての図書館施設について、地域計画、建築計画、その構成要素等を解説する。具体的には、公共図書館に限らず、学習に特化した新しい図書館デザインモデルである「ラーニング・コモンズ」が提唱されている大学図書館や、先進的な学校図書館の事例を取り上げ、図書館における学びの空間デザインに焦点化して展開する。	
U S 科 目 群	資格 関連 科目 群	図書館情報技術論	情報技術が進展し、資料のデジタル化など印刷から電子的な情報形態への移行が増加するにつれて、図書館の機能やサービスも変化してきている。本科目では、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説する。	
U S 科 目 群	資格 関連 科目 群	図書館情報資源概論	図書館が提供する情報資源(印刷資料・非印刷資料・電子資料・ネットワーク情報資源)について、その類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存など、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を学ぶ。また、生産される莫大な情報資源のなかから図書館資料として選択、収集し、コレクションを形成していく過程について取り上げる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	図書館情報資源特論	図書館が提供する情報資料である印刷資料・非印刷資料、電子資料、ネットワーク情報資源について、その類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存や図書館情報資源の組織化の理論と技術など各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書館情報資源に関する領域の課題を選択し、授業を行う。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	図書館制度・経営論	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。図書館制度を支える法制度について体系的に説明できること、また、図書館経営の基礎知識を理解し説明できることを目標とする。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	社会教育課題研究	社会教育が果たしてきた役割をふまえたうえで、今日の社会教育や社会教育関係職員の役割や課題について考察する。生涯学習の中での社会教育の意義と課題を考察しながら、関係法規、社会教育行政の組織と運営・職員や指導者の在り方や社会教育計画と実施方法・施設について論ずる。さらに青少年教育、成人教育、高齢者教育、女性教育をとりあげ、企業内教育やマス・コミと生涯学習の関係、ボランティアの役割についてもふれながら課題研究を行う。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	社会教育経営論 A	「多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識及び技能の習得を図る」を基にしながら社会教育経営論の概要を学修する。また、社会教育全般を網羅しつつ、「地域」、「コミュニティ」を多面的に捉えながら「課題解決」、「連携・協働」していくために必要な情報を習得し、その方法などについて考察する。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	社会教育経営論 B	農村型社会から都市型社会への変貌のもとで、また市民や企業によるボランティアな活動が進展する中で、社会教育や社会教育行政はどのように変わるべきか、地域のガバナンスはいかにあるべきかについて多角的に考えるとともに、地域での社会教育実践や学習者支援に際して求められる基礎的な知識等を身につける。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	社会教育実習	社会教育主事等、社会教育関係の職員を目指す者、あるいは社会教育に関心がある者を対象とし、社会教育の現場での実践的な能力(学習課題の把握、企画力、組織化、コーディネートなど)を養成することを目的とする。講義・実習を折りまぜながら実施していく。更に本実習を通して、いかなる職業についても必要なチームワークや、自らの言動によって個人・組織・社会のイノベーションを図れるようなリーダーシップ力を培う。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	生涯学習支援論 A	学習者の多様な特性を尊重し生かした学習支援に関する知識及び技能の習得を目的としている。具体的には、現代社会における生涯学習支援の考え方、教育理論(ペダゴジー・アンドラゴジー・ジェロゴジーなど)を踏まえた効果的な学習支援、参加型学習プログラムや支援者の在り方について、理論と実践を往還しながら学ぶ。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	生涯学習支援論 B	学習者の多様性を尊重し、主体的な参加を促す学習支援に関する知識や技能の実践的な力量を培う。具体的には、現代社会の状況や学習プログラムに基づき、主体性を育む参加型学習のプログラムやその支援の在り方について考察するとともに、演習で学び合うプロセスを通して、ファシリテーション能力について実践的に学ぶ。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	社会体育論	余暇開発が言われるようになって久しい。長寿社会の到来とともに、人生を設計し、いかに豊かに送るかといった人生観が登場した。真に、現代は、クオリティー・オブ・ライフが問われる時代である。人々は、物質的な豊かさだけでなく、各自の健康や体力の維持増進について意識し始めるようになった。本科目では、生涯体育、生涯スポーツの考えを基本に、社会体育のあり方やその活動の現状などについて学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	資格 関連 科目 群	情報資源組織演習 A	現在の図書館は印刷資料から多種多様なメディアへとサービスの対象を 拡げている。したがって、それぞれのメディアの特性に合わせた組織化が 求められている。本科目では、情報資源の組織化のうち、目録法の演習を 行う。多様な情報源に関して、目録規則を適用して書誌データを作成する 技法について、演習を通して習得し、情報資源組織業務について実践的 な能力を養成する。	
U S 科 目 群	資格 関連 科目 群	情報資源組織演習 B	現在の図書館は印刷資料から多種多様なメディアへとサービスの対象を 拡げている。したがって、それぞれのメディアの特性に合わせた組織化が 求められている。本科目では、情報資源の組織化のうち分類法と件名目録 法の演習を行う。多様な情報源に関する主題分析、分類作業、統制語彙の 適用等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成 する。	
U S 科 目 群	資格 関連 科目 群	情報資源組織演習 C	『情報資源組織演習 A』および『情報資源組織演習 B』で学んだ多様な情 報源に関する目録規則を適用して書誌データを作成する技法、主題分 析、分類作業、統制語彙の適用等の深化を図る。図書をはじめとする多様 な情報源に対して、実践的な組織化のうち分類法と件名目録法の演習を 行う。	
U S 科 目 群	資格 関連 科目 群	情報資源組織論	現在の図書館は、印刷資料から多種多様なメディアへとサービスの対象を 拡げている。したがって、それぞれのメディアの特性に合わせた組織化が 求められている。本科目では、印刷資料・非印刷資料・電子資料とネット ワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術につい て、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの 活用法等を解説する。	
U S 科 目 群	資格 関連 科目 群	読書と豊かな人間性	読書の今日的な意義、心の教育に果たす読書の役割について論じる。さ らに、発達段階に応じた読書の指導・計画について、読書能力や読書興 味との関連から解説する。次いで、児童生徒向けの読書資料について、そ の種類と活用の実際を取り上げ、さらに読書の種々の指導方法の特性を 論じ、指導方法の評価、改善について解説する。その他図書館司書のプロ フェッショナル性についても言及する。	
U S 科 目 群	資格 関連 科目 群	博物館概論	博物館の始まりから現代の課題までの歴史を通観する。博物館学の入門と して、博物館の起源と各国での展開について基礎知識を得る。特に、博物 館の概念が輸入された近代日本における特性を海外との比較のもと理解 することを目指す。日本における博物館の概念と制度の基礎的知識を踏ま え、これからの博物館の可能性について事例とディスカッションを通して学 ぶ。	
U S 科 目 群	資格 関連 科目 群	博物館教育論	博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を 習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。博物館教育に関 する法規資料を確認したり、歴史や現在のあり方について取り上げたりす る。また、博物館教育やアートプログラムに携わっているプロから実施の要 点や工夫を直に聞く機会を設ける。博物館における教育活動の基盤となる 理論や実践に関する知識と方法を説明でき、博物館教育の現状を捉え、 今後の博物館教育についての考えを述べることを目標とする。	
U S 科 目 群	資格 関連 科目 群	博物館経営論	博物館経営の問題を理解し、その適切な管理・運営を考え、博物館経営 の基礎的な能力を身に付ける。博物館の形態面と活動面における管理・運 営を理解し、博物館経営(ミュージアムマネジメント)の基本的要素やシ ステムの内容を適切に説明できることを目標とする。同時に、現代の博物 館の問題点や課題をもとに、これからの博物館のあり方を考察できること を目標とする。	
U S 科 目 群	資格 関連 科目 群	博物館情報・メディア論	博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について 理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。 社会メディアとしての博物館の社会的役割を理解する。それ自体がメディ アでありまた多くのメディアを利用する博物館が生成し、保有する情報資源 をどのように社会の文化資本として生かしていくか、理論や実践例などから 学習し、理解を深める。博物館にはたらく人材または博物館の利用者とし てのリテラシーを身に付ける。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	博物館資料保存論	博物館資料は社会の文化財であることを理解し、その劣化を防ぐ適切な保存法を、具体的に知る。資料保存に関連する各種用語を正確に理解し、その意味を説明できること、博物館資料を保存する責任を自覚し、その意義・目的について説明できることを目標とする。また、博物館資料の各劣化要因とそれらの結果及び各要因間の相互関係、博物館資料を良好な状態で保存するための諸条件を科学的に説明でき、必要な対策をとることができることを目標とする。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	博物館資料論	博物館の役割や責任を理解し、博物館資料の概念と、その収集・保管・活用の知識と技術を身に付ける。博物館資料の収集、整理、保存管理や提供に関する基礎的知識ならびに博物館資料を提供する方法と注意点を説明することが出来ることを、また、資料を用いた研究の意義と実例を解説することが出来ることを目標とする。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	博物館展示論	博物館・美術館における展示の意味と役割を、歴史・理論・実践例等をふまえて概説する。また展示に不可欠な「もの」や「こと」を解説する技術を、具体例の分析と方法の教授、そして講義内での実践を通じて学修してもらう。以上を通じて博物館・美術館での展示に必要な知識と技術を修得することを目指す。 具体的には、博物館・美術館における展示の意義を理解し、歴史・理論・実践例をふまえて説明すること、展示解説の基礎力として、物事を的確に観察・調査し、文章で端的に説明することができるようになることを目標とする。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	学習指導と学校図書館	教育課程と学校図書館について、教育課程の基本方針・編成の側面から取り上げ、教育課程の展開に寄与する学校図書館の在り方を論じる。また、情報活用能力の育成においては、学校図書館メディアの活用能力が不可欠であることを示したうえで、メディア活用の事例を取り上げる。さらに、学習過程における学校図書館メディア活用の重要性、学習指導における学校図書館メディアの検索・活用、情報サービスの利用について解説する。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	情報サービス演習 A	利用者の情報要求の把握から回答の提供にいたるプロセス、および各種情報源の特性について解説する。その上で、各種のレファレンス質問について、実際に図書館において情報源を探索し、回答の入手、提供に至るプロセスについて学習する。なお『情報サービス演習 A』では主として冊子体の情報源を中心としつつ、必要に応じて電子媒体も使用する。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	情報サービス演習 B	データベース、論理演算子、トランケーション、シソーラス、検索戦略、再現率と精度など、情報検索に必要な理論と技法を学ぶ。その上で、CD-ROM、商用オンラインデータベース、検索エンジンといった各種の情報検索システムを用いて、検索戦略の構築、検索作業の実践について演習を行い、実践的な検索能力を身に付ける。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	情報サービス演習 C	『情報サービス演習 A』および『情報サービス演習 B』で学んだ利用者の情報要求の把握から回答の提供にいたるプロセス、および各種情報源の特性や、データベース、論理演算子、トランケーション、シソーラス、検索戦略、再現率と精度など、情報検索に必要な理論と技法の深化を図る。各種の情報要求に対して、デジタルの情報資源だけではなく伝統的な紙ベースの情報資源も含めて、適切な情報資源を使用し、求められている情報を探索して提供する知識と技法を学ぶ。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	博物館実習	博物館と美術館の学芸員の業務遂行に必要な基礎知識と実践力を培うために、小人数編成のグループに別れてさまざまな博物館業務の実習を行う。学芸員業務を体得し、その基礎的活動ができるようになること、また、展覧会の企画書の作成を通して、企画力、チームワーク、プレゼンテーション力を向上することを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	100番台科目	デザインサイエンス入門 (デザイン史を含む)	学科での学修に円滑に入っていくために必要な基礎的な能力・スキルを習得する。数学(代数学や解析学など)や物理(力学など)の工学基礎分野に加え、デザインの歴史について学ぶことで、プロダクトとデザインの関係を理解する。更に、各担当教員の研究テーマに触れながら、様々な社会課題に対する工学的なアプローチを学ぶ。メーカーズフロアでは3Dプリンタなどの最新ツールの操作方法を学ぶ。 [オムニバス方式／全15回] (2 木村仁／1回) ロボットデザイン分野について (4 三林洋介／1回) プロダクトデザイン分野について (6 斉藤純／1回) 環境デザイン分野について (8 平社和也／2回) 工学基礎(数学・物理)について (1 川森重弘・2 木村仁・3 黒田潔・4 三林洋介・5 山田義照・6 斉藤純・7 水野貴敏・8 平社和也／8回)(共同) 各研究室における研究内容の説明を受け、メーカーズフロア体験を通して学科の研究活動について理解する。 (103 草本海郎／2回) デザイン史について	オムニバス方式 共同(一部)
	100番台科目	デザインサイエンス演習 (デッサンを含む)	『デザインサイエンス入門(デザイン史を含む)』で修得した物理や数学などの工学の基礎分野について演習問題を行い、能力の定着を図る。また発想やイメージ、アイデアをスケッチや図面で表現できるようになるためのデッサン技法、3D CAD(ソフト:Inventor)の基本的な操作技術を学ぶ。これらの知識・技能を活用し、簡易な設計を行う。 [オムニバス方式／全15回] (8 平社和也／5回) 3D CADの基本的な操作を修得させる。 (46 宮田成紀／5回) 工学に必要な基礎的な物理(物理を学修するために必要な数学を含む)の問題演習を行う。 (118 長尾幸治／5回) 「デッサン」について講義と演習を行う。	オムニバス方式 演習20時間 講義10時間
	100番台科目	数学演習	必須となる数学概念と数学演算の基礎を修得する。最初に1次関数とそのグラフとの関係を復習する。続いて、三角関数を学ぶ上で必要となる三角比、一般角と弧度法を復習した後、三角関数とそのグラフに関する重要事項を学ぶ。さらに、加法定理、三角関数の合成等について学ぶ。続いて指数関数、対数関数、命題と論理についてそれらの基本的性質を学ぶ。	
	100番台科目	代数学I	行列を主なテーマとした代数学入門に続く科目で、線形代数学の基本的な理論とその応用が扱われる。行列式とその応用、行列の対角化の問題と関連して固有値問題が主テーマであり、行列式の定義と性質、余因数展開、行列式の計算、正則の条件と逆行列の公式やクラメル公式の公式なども学習する。また、行列式の計算、固有値と固有ベクトルの求め方、対角化可能性の判定など演習も多く交えて学習する。	講義20時間 演習10時間
	100番台科目	解析学I	一変数関数に関する、より高度な微分法の応用と積分法について理解し、その計算力を身に付けることを目標として講義する。まず、テイラー、マクローリンの定理を学び級数の形で初等関数がどのような関係にあるかを学ぶ。次に、定積分の数学的定義を通して現実の面積・体積が数学のなかでどのように表現され計算されるかを学ぶ。また、微分の逆演算としての原始関数(不定積分)が定積分とどのように関係するかを理解しながら、その計算方法を多くの演習問題を解きながら身に付ける。	講義20時間 演習10時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	100番台科目	物理学I	物理学の初歩として、物理学全般の基礎となる質点の力学を学ぶ。初めに物理量の表し方、有効数字の概念を理解した上で、質点の力学の理解に不可欠なベクトルや微分積分などの数学の知識との関連を理解する。その後、微分を用いた運動の表し方、力と運動の関係を表す運動の三法則、運動方程式を用いた物体の運動に関する各物理量を求める方法、物体の運動に関する仕事とエネルギーなどについて学修する。本科目を通じて、物体の運動という物理現象に関する知識を身に付け、物体の運動を科学的に理解し、説明できるようになることを目的とする。	講義20時間 演習10時間
	100番台科目	プログラミングI	コンピュータを動かすソフトウェアは、何らかのプログラム言語で作成されている。プログラミングの技術習得し作成したソフトウェアでコンピュータを自分のしたいことをさせる道具として使用することが出来るようになる。そこで、本科目では、現在、最も多く使用されているプログラミング言語のひとつ(C・C#・VB等)を取り上げ、コンピュータとその言語でのプログラミングの概念や基本(基本入出力や変数、基本制御構造)を学習する。毎回の授業では学習した事項を確実に習得するために実際に初歩的なプログラムを作成する。	講義20時間 演習10時間
	100番台科目	デザインサイエンスプログラミング	コンピュータをはじめ、身のまわりの電子機器類はプログラムによって動作している。プログラミングの技術習得することで、これらを制御して動かすことだけでなく、データ分析やシミュレーションなどを行うこともできるようになる。本科目では、プログラムに必要な基本事項である、変数・繰り返しや分岐等の制御構造・関数の使い方などを学習する。毎回の授業では、知識や機能の解説に加え、実際にプログラムを作成することを通してプログラミングの技術を習得する。	講義15時間 演習15時間
	200番台科目	微分方程式I	社会科学・自然科学において、現象を定量的に記述するためのモデル化は微分方程式を用いておこなわれることが多い。その微分方程式を解き、解を調べることでより複雑な現象を数学的に理解することの手助けとすることができる。ここでは、まず基本的な現象がどのようにして微分方程式で表現されるかを学び、そのような微分方程式が今までの解析学の知識を用いてどのように解けるかを知る。この授業で扱う微分方程式は、いわゆる求積法で解けるものを中心とする。具体的には、変数分離形、同次形、完全微分形等の1階微分方程式と2階の定数係数線形微分方程式に焦点をあわせ、演習を交えながら学習する。	講義20時間 演習10時間
	200番台科目	確率統計学I	複雑化した高度情報社会に突入した現在は、様々な情報が錯綜し便利で有益な情報と同時に、社会を混乱させるような情報も氾濫している時代である。このような時代では、データを整理、分析し得られた数値をどのように解釈し、どう判断を下すのか、いわゆる「統計的鑑識眼」が必要になる。その獲得を目標とし、本科目では確率統計学に関する基本的な知識である確率変数の分布関数、確率密度関数、および、基本分布と言われる二項分布、ポアソン分布、正規分布などについて重点的に学習する。	
専門科目群	200番台科目	解析学II	『解析学I』の受講後、多変数関数の微分法と積分法の理論を学び、今後の理工系での勉学で必要となるより高度な計算力も身に付けることを目標とする。一変数関数と多変数関数の数学的取り扱いの違いは、初学者には非常に大きなものに見える。そこで、比較的容易な2変数関数の微分法と積分法を学習し、その知見が3変数関数、さらには一般のn変数関数にも通用することを知ることにより、多変数関数の理論・計算方法を身に付ける。具体的には、偏微分、全微分、多変数関数の極値、2重積分、3重積分、冪級数とその収束等について演習を交えながら学習する。	講義20時間 演習10時間
	200番台科目	物理学IIA	既に力学の初歩を学修していることを前提として、工学部でのものづくりを基本とした専門課程において必要な、熱力学分野、波動分野、電磁気学分野の基礎に内容を絞り、演習を交えて学修する。到達目標は、熱力学分野に関しては気体分子運動論、熱エネルギーと仕事の関係、および比熱に関して説明することができるようになること、波動分野に関しては、波の表式化ができ、干渉現象、および回折・屈折現象に関して説明することができるようになること、電磁気学分野に関しては、電場と電位、およびオームの法則などの直流回路で成り立つ法則に関して説明できるようになることである。	講義20時間 演習10時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	200番台科目	物理学IIB	本科目では『物理学I』の受講後、電磁気学の入門として静電気と静磁気を中心に学ぶ。本科目を受講するには、『物理学I』で学んだ"力"や"位置エネルギー"などに関する知識を有することが前提となる。まず、電場、磁場についての法則であるクーロンの法則、ビオ・サヴァールの法則を学修した上で、電場、磁場を通し、"場"の考え方を身に付ける。さらに、微分積分およびベクトルの知識を駆使して、電磁気学の基本法則であるマクスウェル方程式について理解する。最終的に、実際の電氣的・磁氣的現象を電磁気学の諸法則に基づいて説明できるようになることを目的とする。	
	200番台科目	プログラミングII	『プログラミングI』で修得したプログラミング言語(C,C#,VB等)の基礎知識・技法を踏まえ、コンピュータとその言語でのプログラミングの応用を学習する。本科目では単にソースコードを入力するだけでなく、コンパイル(ビルド)、実行、デバッグの方法についても学習し、実務で必要とされる技能の習得を目的とする。毎回の授業の後半では学習した事項を確実に習得するために高度なプログラムを作成・実行し、コンピュータを自分のしたいことをさせる道具として柔軟に使いこなせるようになることを目標とする。	講義20時間 演習10時間
専門科目群	200番台科目	デジタルシチズンシップ	近年のインターネット普及に伴い、我々の生活はオフラインからオンラインにおける時間の割合が急速に増加し、そこで暮らすにはデジタル市民として生きていく力としてデジタルシチズンシップ(能力・権利・責任など)を身に付けることが必要不可欠になってきた。本科目は、善良なデジタル市民になるためのデジタルリテラシーを学び、その根幹となる倫理観と責任感を身に付ける。	
専門科目群	200番台科目	デジタルファブリケーション入門	デジタルデータを用いて製品を作製する、ものづくり技術の必要性は年々高まっている。本科目ではまず製品に用いられる基本的な構造や加工方法について学ぶ。また、CADを用いた3次元モデルのデータ作成法を学び、作成したデータから3Dプリンターなどのデジタル機器を用いて造形させることで、これからのものづくり技術の基礎を習得する。	共同
専門科目群	200番台科目	デザインサイエンス実験	本学科の基盤となるものづくりに必要不可欠な機械工学などの基礎的な実験に取り組むことで、卒業研究に向けて実験の基本的な手法や実験レポートの書き方を確実に身に付ける。実験およびレポート作成を通し、実験結果を考察するための調査力や創造力、不明な点を積極的に質問する姿勢、また、受講者同士で教え合う・学び合う姿勢を身に付ける。卒業研究を行うための問題解決能力を養うことが最大の目的である。	共同
専門科目群	200番台科目	スケッチとドラフティング	図面を描く手段としてCADによる手法が確立されているが、立体図形形状の認識、紙と鉛筆によりいつでもどこでもアイデアをすぐに具体化できる能力は以前にもまして求められている。本科目はまず、種々の立体図形の描写の手法を身に付ける。後半はJIS製図法の理解とともに生産に必要な図面の描き方を学ぶ。種々の立体図形形状を描写できるようにすること、JIS製図法の理解とともに生産に必要な図面の描き方を修得することを目標とする。	
専門科目群	200番台科目	色彩デザイン学	色彩とは何か、どうして色は見えるのか、さらに色が及ぼす生理的及び心理的影響について、体験を交えながら解説する。特に色彩設計の考え方と、それを遂行するために欠かすことのできないカラーユニバーサルデザインや、様々な知覚現象、色彩の好悪、エビデンスに基づく色彩設計法などを重点的に学修する。以上を通して、ものづくりに欠かせない色彩の構造・現象・影響等を学び、最終的にはデザインに必要な色彩の基礎知識・応用知識を習得することを目的とする。	
専門科目群	200番台科目	管理技法	日本の製造業における強みの一つに、現場レベルでの管理能力および改善能力の高さにより製品やサービスの向上が図られていることが挙げられる。本科目では、伝統的な生産管理、品質管理および作業管理などの「管理技法」の役割・概念を学ぶとともに今日の製造管理技術の知見を得ることをもって、製造工程、製造現場、さらには製造サービスにおける現場において物事をどのように管理・運営するかを理解することが目的である。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	200番台科目	機構デザイン	機械やロボットは、単純な直動、回転の運動を変換、あるいは伝達し、組み合わせ、複雑な動きを実現している。機構(メカニズム)は、このような単純な運動を望みの複雑な運動に変換するしくみである。本科目では、主要な機構とその解析方法などについて学ぶ。歯車やラックなど各種動力伝達機構の動作原理や、機構の自由度と言った数理的な原理を踏まえて、総合的に機構の動作と特徴を説明できること、機構の解析ができることを到達目標とする。	
専門科目群	200番台科目	数学科指導法I	学習指導要領では「生きる力」を育成するために、子供たちに基礎的・基本的な知識・技能の習得やそれを活用して課題を解決するために思考力・判断力・表現力等を身に付けさせたい能力として示している。そこで中学校・高等学校の学習指導要領の概要や教科の目標・内容等の理解を図り、数学の教員として数学的活動の楽しさやよさの実感、数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度を育成したりするための学習指導を目指し、講義と模擬授業での実践を行う。	講義20時間 演習10時間
専門科目群	200番台科目	工業科指導法I	学習指導要領を中心として工業科教育の現状と小史、工業科教育の目標と教育課程の編成、科目構成、指導法を学び、工業科の指導法に関する基礎的理解を深める。また、教材研究、学習指導案作成の基礎を学び、得られた知識・技能に基づき模擬授業を展開する。これらを通して、中等教育を担う教員に求められる資質や職業能力を身に付ける。	講義20時間 演習10時間
専門科目群	200番台科目	技術科指導法I	技術科における教育課程、指導内容・方法等について法令、学習指導要領、各種報告書、教育研究を通して理解すると共に教材作成、開発、学習指導案の作成、模擬授業の実践、事例研究を通して技術教育指導の基礎を習得する。特にA材料と加工、B生物育成、Cエネルギーの変換、D情報、に関する技術分野の指導目標と内容の取り扱い、評価法については詳細に基礎的事項を修得する。	講義20時間 演習10時間
専門科目群	200番台科目	確率統計学II	『確率統計学I』に引き続き、更に高度な「統計的鑑識眼」を獲得することを目指す。まず、母集団から無作為に抽出された標本値を用いて、ひとつの母集団におけるデータの平均値、比率、分散、あるいは、二つの母集団における母平均差、比率差などのいわゆる母数の推定方法を学ぶ。『確率統計学I』で重点的に学んだ二項分布、ポアソン分布、正規分布についてさらに深める。	
専門科目群	200番台科目	幾何学I	幾何学の様々な話題について学ぶ。高次元の幾何学においては図を描くことが不可能であるため計算に頼ることとなり、そのための道具立てが必要であるが、低次元の幾何学では直観的な図で説明できる場合が多い。ここではそのような低次元の幾何学について学び、その多様性について説明できるようになることを目標とする。	
専門科目群	200番台科目	デジタルファブリケーション	デジタルデータを用いて製品を作製するこれからのものづくり技術の必要性は年々高まっている。本科目では、『デジタルファブリケーション入門』に引き続き、作成した3Dデータから3Dプリンターなどのデジタル機器を用いて造形させることで、これからのモノづくり技術の基礎と応用を習得させることが目的である。	共同
専門科目群	200番台科目	メカニクス(材料)	機械構造物を設計するためには、部材に生じる応力やひずみを計算することが必要となる。この授業では、曲げを受けるはりに生じる応力とたわみ、長軸の座屈、棒のねじり、曲げとねじりの組み合わせ応力について学ぶ。ものづくりをする上で、必須な科目であり、機械工学の基礎的な科目になる。(1)応力とひずみ、それらの関係について確実に理解すること、(2)はりの曲げモーメント線図、せん断力線図を描けるようにすること、(3)はりに生じる曲げ応力を計算できるようにすること、(4)はりのたわみを計算できるようにすること、をこの授業の到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	200番台科目	人間工学	人間の諸特性とその限界を知って、人間と人間をとり囲むさまざまなものや環境との整合性を図る人間工学の基礎について学ぶ。講義前半は、ヒューマンファクタを技術応用する際に必要な基礎知識や技法―人間工学の考えについて学ぶ。講義後半は理解をさらに深めるために、人間工学の応用基礎としてのヒューマンインタフェースやシステムの信頼性と安全性に係わる人間工学およびISO人間中心設計規格など最新動向について学ぶ。	
	200番台科目	原価計算	原価とは従来、製造活動にかかったコストを指していた。しかし、コストは製造活動以外のマーケティング、管理、企画、R&D、物流などあらゆる活動で発生し、近年その割合が益々大きくなっている。また、リストラ、IT化、M&Aなどもコスト管理と密接な関係がある。では、発生するコストをどのように把握すればよいのか、それをどのように管理したらよいのか、このような課題を扱うのが原価計算の領域である。本科目ではコストの計算方法、それをいかに管理し、経営に役立てていくのかについて例題やケースを通して学ぶ。	
専門科目群	200番台科目	電気回路基礎	高機能化が進む各種システムを構成する機械や機器には電気回路が組み込まれるようになり、これらを理解・設計できるようになるためには電気回路の基礎知識が必要となる。本授業では直流回路の基礎に重点を置き、さらに回路素子の性質、交流回路の基礎、製品に使用されるセンサー回路や駆動回路など回路例の基礎について学ぶ。また、実験を通してオームの法則やキルヒホッフの法則を理解する。到達目標は(1)電気回路と基礎電流量が理解できること、(2)回路要素の基本的性質が理解できること、(3)直流回路についてオームの法則やキルヒホッフの法則が使いこなせること、(4)直並列回路の計算ができること、(5)回路方程式をたて、それを解けることとする。	講義26時間 実験4時間
専門科目群	200番台科目	化学と環境	化学は、我々人類が生活する上で必要不可欠な分野であり、「環境」とも切っては切り離せないものである。本科目は、工学を学ぶ上で必要な理論化学、無機化学および有機化学などの基礎を学び、その後、環境における化学の役割についての知識を身に付けることで化学の重要性を学ぶ。さらに、化学的な視点で「環境問題」について議論できるようになるための資質を身に付けることを目標とする。	
専門科目群	200番台科目	数学科指導法Ⅱ	教職課程のため開講した『数学科指導法Ⅰ』に続く教科である。学習指導要領では「生きる力」を育成するために、子供たちに基礎的・基本的な知識・技能の習得やそれを活用して課題を解決するために思考力・判断力・表現力等を身に付けさせたい能力として示している。そこで中学校・高等学校の学習指導要領の概要や教科の目標・内容等の理解を図り、数学の教員としての数学的活動の楽しさやよさの実感、数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度を育成したりするための学習指導を目指し、講義と模擬授業での実践を行う。	講義15時間 演習15時間
専門科目群	200番台科目	工業科指導法Ⅱ	学習指導要領に示されている教科「工業」の目標と教育課程の編成、目標と科目構成について学ぶ。また、シラバス(年間指導計画)及び学習指導案の意義を理解したうえで、それらを作成し、模擬授業を行う。また、教育実習と授業技術、教員免許状取得の要件、教員採用選考試験の概要、教員としての心構えを学ぶ他、工業高校におけるキャリア教育(進路指導)について理解し、特色ある学校づくりと今後の工業技術教育について学ぶ。	講義20時間 演習10時間
専門科目群	200番台科目	技術科指導法Ⅱ	『技術科指導法Ⅰ』に引き続き、技術科における教育課程、指導内容・方法等について、法令、学習指導要領、各種報告書、教育研究を通して理解するとともに、教材作成、開発、学習指導案の作成、模擬授業の実践、事例研究を通して技術教育指導の全般を習得する。特にA材料と加工、B生物育成、Cエネルギーの変換、D情報に関する技術分野の指導目標と内容の取り扱い、評価法については『技術科指導法Ⅰ』に基づき応用事項を修得する。	講義20時間 演習10時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	300番台科目	データサイエンスI	コンピュータは人間とは異なる方式で情報処理を行うため、一見すると人間的な機能でも内部では異なるアルゴリズムによる処理を行っている。そのようなアルゴリズムの理解は、データサイエンスにおける処理手法の理解に重要であり、本科目では幅広い情報処理アルゴリズムの理解を目指す。具体的には、経路探索、動的計画法、ゲーム理論、などコンピュータの計算パワーを活かしたアルゴリズムの解説とその深い理解のための演習を行ない、データ処理の直観的な理解を実現する。	講義20時間 演習10時間
	300番台科目	20世紀の物理学	現代の科学技術は20世紀の物理学を礎として発展してきた。本科目では、主に20世紀に確立・発展した物理学について学ぶ。まずは、20世紀初頭にかけて確立した通信技術の根幹をなす電信方程式について理解する。つづいて、20世紀の物理学の3本の柱である量子力学、統計力学、相対性理論についてその成立過程から学修する。その上で、様々な科学技術の原理となる諸分野の物理学の理論を身に付ける。最終的に、現在は当たり前のように利用されている科学技術の原理について、物理学の理論に基づいてその概略を説明できるようになることを目的とする。	
	300番台科目	代数学II	代数学のさまざまな話題についての講義を行う。3次・4次方程式の解の公式、ベルヌーイ数、ガンマ関数、開平法、 π やeの無理数性や近似値など、予備知識の不要な話題を選ぶ。方程式に解の存在することを示すのは具体的に解を見つければよいが、解の存在しないこと(または見つかった解以外に存在しないこと)を示すのは大変な場合が多い。例としてフェルマーの大定理の最も簡単な部分を学ぶ。中学・高校で学ぶ内容以外にも代数学にはいろいろな分野があることを、またそれらの発展があることを知り、かつ理解することを目標とする。	
	300番台科目	知的財産権の基礎	工学系技術者は、技術の発達を支え、技術の改革を牽引するために、自分の技術的思想や工業デザインなどを法に則って的確に主張できるようになると共に、他者の権利も尊重することができるような高い倫理観を持つことが重要である。本科目では、知的財産権としての著作権・特許権・意匠権・商標権に焦点を当て、それらの基礎・成り立ち・制度などの概要を、各法規の目的と概要に基づいて学ぶと共に、これらの知的財産権の社会の中での役割を考察する。また、産業財産権である特許権・意匠権・商標権に関しては、それぞれの検索方法を学ぶと共に、そこから得られる情報を解析・加工することで新たな知見を得られるように実践し、管理・運営の知識を身に付ける。適宜グループ討議や反転授業のようなアクティブ・ラーニングを取り入れ、能動的な学修を実践する。	講義20時間 演習10時間
	300番台科目	メカニクス(機械)	機械やロボットは、単純な直動、回転の運動を変換し、伝達し、組み合わせ、複雑な動きを実現している。機械力学は、機械の運動における力学を扱う工学の分野である。本科目では、機械の静力学、質点・剛体の力学、機械の動力学などについて学ぶ。 本科目では、専門的知識を有した技術者の視点から、機械の静力学、質点・剛体の力学、機械の動力学の基本を説明できること、基本的な力学的な計算ができることを到達目標とする。	
	300番台科目	メカニクス(流体)	流体とは液体(水など)と気体(空気など)の総称であり、物体や機器内外の流れおよびそれによって生ずる力、運動等を研究するのが流体力学である。本科目ではその基礎として、流体の物理的性質、及び流れの基礎式について学び、管内流れの具体的な計算を通して工学的に役に立つ知識の習得を目指す。到達目標は次の通り。1)流体の物理的性質を知ること、2)流体の静力学を学ぶことで、身の回りの流体が関連する物理現象を理論的に説明すること、3)流体力学を応用した輸送機器や流体機械の原理を説明することができるようになる。4)流体の運動を扱う基礎として、連続の法則、ベルヌーイの定理、運動量の法則を応用して、管内の気体や液体の流れの状態を定量的に求めることができるようになる。	
専門科目群	300番台科目	栽培	草花および野菜などの園芸作物の栽培について作物の生育や栽培に適する生育条件、環境条件について理解し、作物栽培の基本的な知識、技術について学ぶと共に、栽培を通じた生活や社会との関わりについて学修する。また、地域農産物については栽培方法、加工方法を演習を通して理解を深め、栽培した収穫物や加工品を評価する。なお、本科目は中学校技術・家庭の教育・指導を行う上で必要となる技術科の主に栽培に関する知識を学習指導要領に基づいて習得する。	演習20時間 講義10時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	300番台科目	工学倫理	情報化とグローバル化が加速する現代社会における工学技術者の倫理について、さまざまな事例を参照しながら学び考察する。コンピュータとネットワークの急速な進歩とともに課題となっている知的財産権に関わる諸問題、研究・開発・生産に関わる各種の不正問題、新たな技術に伴う課題を抱える生命倫理、情報セキュリティ関連の倫理なども学ぶ。本科目では、ディスカッションを通じた意見の相互交換を行い、自分とは異なる意見に触れる機会をもち、工学技術者として不可欠な倫理観と責任感を養う。	講義10時間 演習5時間
	300番台科目	ユニバーサルデザイン	誰もが製品、サービス、環境や情報を公平に使い、その便益を享受できるようにすることが趨勢になってきている。この科目では、多様なニーズを持つユーザーに、公平に満足を提供できるように製品、サービス、環境や情報をデザインすることを目的としたユニバーサルデザイン(UD)の基礎から応用について学ぶ。具体的には、UDの考え方、UD開発のプロセス、UDの推進方法、要求事項抽出方法、UDコンセプトの構築法、およびデザイン評価法を学ぶ。後半はUDの実践例を学ぶことにより、UDの実践力を練磨する。	講義20時間 演習10時間
	300番台科目	起業プランニング	デザインが優れた商品であっても、それが市場を通して消費者に提供されなければデザインの価値は実現しない。自ら会社を起こすことも、その1つの手段である。本科目では、経営戦略・マーケティング・資金調達などの起業に必要な基礎的知識を理解する。そのうえで、自ら商品を企画・設計・製作し、それを誰に、どのように販売し、資金をどのように調達するのかを計画するなど、起業プロセスを疑似体験することによって理解を深める。	
	300番台科目	金属加工実習	生産技術者には設計に関する知識および機械加工に関する技術が求められる。本科目では金属加工における基本的知識(材料の特性、設計及び製造方法等)、機械製図法及び工作機械の加工技術を学ぶ。3Dプリンターや3Dプロッターなどのデジタル機械の原型である工作機械として旋盤およびフライス盤の基礎的な加工技術の実習と製品仕上げに欠かせない手仕上げの実習を行う。基礎的な旋盤、フライス盤などの機械加工を実体験し、その重要性と加工技術(寸法精度、はめ合い等)を習得することを目指す。	共同
	300番台科目	ドローイング応用	新しい機械が必要な場合は様々な既存の部品を使うか、あるいは新規に作成し、必要な働きを実現する機構を構成する。新しい機械の形を作ることを「設計」、それを図面で表すことを「製図」と呼ぶ。本科目では、機械部品を使った形状決定、計算方法など機械設計の基礎を学び、要求される性能を満たす機構案をグループで検討しながら、計算書、概念設計図、部品図を作成、完成させる。また、図面作成についてはJIS企画に基づいた各種製図法について学習する。	
	300番台科目	バイオメテックス	生体は優れた機能や形状を持っており、これらを模倣し、工学・医療分野に応用する研究が盛んに行われている。例えば、ハスの葉の撥水効果、サメ肌の流体抵抗の低減効果、ヤモリの指の粘着力などが材料開発などで実用化されている。今後は猫のようなしなやかな動作を実現する機械も現れる可能性がある。バイオメテックスとは、直訳すると生体模倣という意味であり、先端技術を利用して自然界の生体の機能に学び、応用することを試みる分野である。本科目では、生体の機能や形状及びこれらがどのように工学・医療分野に利用されているのかについて事例を中心に学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	300番台科目	自然科学実験	技術とは単なる自然科学の応用だけではなく、新たな知見をもとに、さまざまな状況と条件を考慮することで開発研究され、実機への生産がなされ、社会実装されていくものである。本科目では、技術者が修得しておくべき実験に対する事実の客観的な捉え方と基本的な実験技術を、工学の基礎となる自然科学の実験を通して学修する。既知の自然法則および現象を対象とし、自然科学の基盤となる物理学や化学、数学の知識を応用しつつ、実験の段取りを立て、機器の使用法に慣れる。測定に際してはその精度について考慮し、さらに簡単な測定技術全般と種々のデータ処理技術を学修する。最終的には、これらのプロセスを繰り返し学ぶことにより、技術者に必要な実験スキルを自然科学的見地から身に付けると同時に、報告書の作成方法も修得することが目的である。実験授業であるので、グループ討議や反転授業などを通して必然的に学生が能動的に学修できる。 〔オムニバス方式／全15回〕 (1 川森重弘／5回) 化学の中で、金属や水の比熱・沸点上昇・ボルタの電池・電気分解、を担当する。 (3 黒田潔／7回) 主担当としてガイダンス・まとめを実施すると共に、物理学の中で、有効数字・力学分野で単振子と斜面上の運動による重力加速度の測定・電気分野でラジオの製作による電気回路やアンテナ動作、を担当する。 (7 水野貴敏／3回) 物理学の中で、グラフの書き方・光学分野で屈折の法則と屈折率測定、を担当する。	オムニバス方式
	300番台科目	ソフトエネルギー	地球温暖化が進行しており、その対策として世界平均気温の上昇を工業化前を基準に2℃あるいは1.5℃に抑える目標が掲げられている。地球温暖化の原因である温室効果ガスの削減が求められ脱炭素社会に向けて世界が大きく変わろうとしている。それを実現するには省エネルギー化や再生可能エネルギー技術の導入が必要となる。本授業では持続可能な社会を実現するためのエネルギーシフトについて、環境問題や再生可能エネルギーの利用技術・変換技術を中心に学ぶ。	
	300番台科目	数学科指導法III	『数学科指導法I』および『数学科指導法II』に引き続き、中学校・高等学校の学習指導要領を中心として数学教育学の研究成果を基にしながら中等教育における数学の内容と指導法を学ぶ。具体的には数学教育史、代数、解析、確率・統計分野などである。また、得られた知識・技能を基に、実際の授業を想定した演習を行い、指導技術を段階的に身に付けていくことを目標とする。	講義20時間 演習10時間
	300番台科目	職業指導(工業)I	中学生や高校生(生徒)にとって進路選択は身近で避けて通れない課題である。生徒がそれまでの教育(学習)・経験・興味・適性をふり返り、自分自身の内面に向き合うことで、将来の方向性を確かめる力を養うための支援が、教員には求められる。本科目は、生徒一人ひとりの「キャリア開発と職業上の自己実現」のために必要となる、キャリア教育の原理を学び、国内外の教育的・社会的課題についての理解を通じ、具体的な指導方法および指導技術を修得する基礎とする。	
	300番台科目	技術科指導法III	『技術科指導法I』『技術科指導法II』に引き続き、技術科における教育課程、指導内容・方法等について、法令、学習指導要領、各種報告書、教育研究を通して理解するとともに、教材作成、開発、学習指導案の作成、模擬授業の実践、事例研究を通して技術教育指導の全般を習得する。特にA材料と加工、B生物育成、Cエネルギーの変換、D情報に関する技術分野の指導目標と内容の取り扱い、評価法については『技術科指導法I』『技術科指導法II』より発展的事項を修得する。	講義20時間 演習10時間
専門科目群	300番台科目	デジタルファブリケーション演習	ものづくり分野では従来からの大量生産型の生産方法に加え、少量生産やプロトタイプ分野の生産方法としてデジタルファブリケーションの導入が進んでいる。製品の設計検討に必要なプロトタイピングにかかる時間がデジタルファブリケーションの普及により大幅に短縮され、製品づくりのスピード感が高まっている。 この科目は『デジタルファブリケーション入門』『デジタルファブリケーション』の応用科目に位置付ける。CADや3Dプリンターを用いたプロトタイピング技術をもとに、課題にそってグループでプロトタイプを設計・作製してプロダクトを提案するPBL(Project Based Learning)を行う。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	300番台科目	デザインサイエンスセミナーI	卒業研究の前段階の科目として位置付ける。本科目の目的は、配属された研究室において、専門分野に対する知識を深め、課題解決に必要な手法などを習得することである。そのため、内外の専門書や文献による調査研究を行う。さらに、学外施設見学などの実地調査を行うことで卒業研究に関する課題の検討を行う。 内外の専門書や文献による調査研究及び学外施設見学などの実地調査を通して、関心・興味のある分野を見つけ、探求していく素地を養いながら、卒業研究に関する課題の検討を行う。 〔担当教員の専門分野〕 (1 川森重弘) 粉末冶金 固体物性 など (2 木村仁) バイオメカニクス ロボティクス など (3 黒田潔) 知的財産権教育 超伝導 など (4 三林洋介) 視覚情報処理 人間工学 など (5 山田義照) 会計学 管理会計 など (6 斉藤純) ハイブリッドソーラーカー 金属空気電池 など (7 水野貴敏) プラズマ 科学教育 など (8 平社和也) ヒューマンインターフェイス・インタラクション デザイン学 など	演習15時間 講義15時間
	300番台科目	メカニクス(材料)演習	『メカニクス(材料)』で得た知識を確認し、問題を解く手法を確実に身に付けるための科目である。機械構造物を設計するためには、部材に生じる応力やひずみを計算することが必要となる。将来、メーカーなどに就職しものづくりに携わる仕事につくためには、材料力学の基礎的な知識と計算方法を確実に身に付けておかなければならない。本科目では、材料力学に関する問題を多数解くことで、材料力学の基礎力を完全に定着させることを目標とする。	
	300番台科目	デザイン思考	デザイン思考を用いることで、製品の開発のみならず社会システムに至るまで、適正なコンセプトの設定、問題解決の提案、新しい価値の創造が可能となる。 本科目では、デザイン思考の考え方や手法の基礎を学び、グループワークの演習でその手法を身に付け、製品開発や問題に対しての解決方法を提案できるようになることを目的とする。グループワークでのプレスト、個々人のテーマ設定から、具体的アウトプット、プレゼンテーションまでの一連の流れを通して、製品開発、問題解決の提案だけでなく、新たな価値を創造するエンジニアとしての総合的資質を高める。	
	300番台科目	木材加工	木材加工における基本技術の習得およびその技能の前提となる知識の習得を目指して①木工機械や手工具の仕組みの理解とその安全な使用方法、②切る、削る、接合するといった基本的木材加工技術(技能)の習得、③作品の構想、設計・製図、部品加工、組み立て、調整、完成までの合理的作業手順を理解する。さらに演習として設計、製図3種類の仕口、10ピース以上、サイズの制限、材料調達、相互評価を行う。なお、本科目は中学校技術・家庭の木材加工分野の教育・指導を行う上で必要となる内容を学習指導要領に基づいて習得する。	演習15時間 講義15時間
	300番台科目	海外研修	学内で事前に学んだ後、海外の提携先企業においてインターンシップを行う。国内での授業およびインターンシップで学んだ知識・技能が、海外進出企業でどのように展開されているかを体験的に学ぶ。授業で製造ラインなどの手法を学んだ上で生産工場での体験を通じてその違いや改善点を取り上げる。博物館や機械遺産を実際に見て廻り、文化の相違を体験することで、多様な考え方を知り、卒業後の進路を検討するための材料とする。	
	300番台科目	インターンシップI	主として夏休みに1週間のインターンシップを行う。企業の生産現場を知ることにより、大学での学問が実際にどのように関わってくるのか理解するとともに、就職へのモチベーションを向上させることを目的としている。また、仕事における、責任感、協調性、コミュニケーション力の重要性を体得する。実習先企業における指導の下に、生産現場の作業や設計・実験の補助を行い、生産現場の実際を体験する。実習は原則として夏期休暇中に学外の企業で行う。実習後に実習内容を報告書にまとめて提出する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	300番台科目	インターンシップⅡ	2週間インターンシップを行う場合、『インターンシップⅠ』に続いて履修する科目である。これまで学んできた知識・技能が実務でどのように活用されているかを体験的に学ぶ。したがって、企業現場(生産工場、研究施設、店舗または事務所など)において実態調査に基づく問題抽出・改善、管理資料の作成などを行う。第一線の技術者らの指導を受けることにより、仕事に対する心構えや生きた技術を学ぶ。そして、この体験で自分の適性に気づき、将来のキャリアに必要なスキルやノウハウ、人脈を得て、3年次後半と4年次での学習と就職の方向性を決める有力な判断材料とする。	
	300番台科目	インターンシップⅢ	3週間インターンシップを行う場合、『インターンシップⅠ』および『インターンシップⅡ』に続いて履修する科目である。企業へは大学夏期休暇期間中に社員と同様に出勤する。これまで学んできた知識が、実務でどのように活用されているかを体験的に学ぶ。したがって、企業現場(生産工場、研究施設、店舗または事務所など)において実態調査からの問題抽出・改善、管理資料の作成などを行う。第一線の技術者らの指導を受けることにより、仕事に対する心構えや生きた技術を学ぶ。そして、この体験で自分の適性に気づき、将来のキャリアに必要なスキルやノウハウ、人脈を得て、3年次後半と4年次での学習と就職の方向性を決める有力な判断材料とする。	
	300番台科目	インターンシップⅣ	4週間インターンシップを行う場合、『インターンシップⅠ』、『インターンシップⅡ』および『インターンシップⅢ』に続いて履修する科目である。企業へは大学夏期あるいは冬期休暇期間中に社員と同様に出勤する。これまで学んできた知識が、実務でどのように活用されているかを体験的に学ぶ。したがって、企業現場(生産工場、研究施設、店舗または事務所など)において実態調査からの問題抽出・改善、管理資料の作成などを行う。第一線の技術者らの指導を受けることにより、仕事に対する心構えや生きた技術を学ぶ。そして、この体験で自分の適性に気づき、将来のキャリアに必要なスキルやノウハウ、人脈を得て、3年次後半と4年次での学習と就職の方向性を決める有力な判断材料とする。	
	300番台科目	プロダクトデザイン	製品の企画から設計、試作・評価までの製品開発プロセスにおける問題解決において知識・情報・工学技術を適用するプロダクトデザインの基礎を学ぶ。本科目では、身近な製品開発のテーマに基づき、ユーザ要求の把握、企画立案、コンセプト、デザイン案の検討、CADによる製品設計、デジタルツールによる試作、試作品評価までの一連のプロセスを学修し演習する。これらの実践演習により、製品開発プロセス理解と工学的課題解決の有用性を学ぶ。更にはプロダクトには必須となる知的財産権としての意匠権に焦点を当て、基礎・成り立ちなどそれらの制度の概要を議論すると共に、知的財産権の社会の中での役割と法的な側面を学修する。 〔オムニバス方式／全15回〕 (3 黒田潔／3回) 知的財産権としての意匠権の概要と社会での役割について (4 三林洋介／12回) 製品開発における、ユーザ要求の把握、企画立案、デザイン案の検討、CADによる製品設計、デジタルツールによる試作、試作品評価について	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間
専門科目群	300番台科目	デザインと経営	現代の企業経営ではビジネスにデザインの視点や思考を取り入れ、イノベーションを生み出し、ブランド力を高めることによって企業の優位性を向上しようとしている。そのためには、デザインを単なる意匠設計のプロセスとして捉えるのではなく、マーケティングやテクノロジーとも統合したプロセスとして捉えられなければならない。本科目では、ビジネスとデザインの関係を多様な事例を通して理解し、デザイン人材として必要な基礎的な知識や基本的技法を習得する。	
専門科目群	300番台科目	管理会計	企業経営に役立つ会計情報の作成と利用の方法について学ぶ。管理会計が提供する会計情報は経営者など企業内部の管理者によって、利益計画や予算を作成(利益管理)したり、企業が持続的な成長を遂げるために事業に関する投資の妥当性を判断(経営意思決定)したり、企業を維持していくために原価を引き下げて利益を確保(原価管理)したりするために利用される。本科目では、これらの学習を通じて、管理会計がなぜ必要なのか、管理会計システムはどのように設計されるべきかについて、理論を踏まえて自らの意見を形成し、他者に説明することができることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	300番台科目	メカトロニクス	機械やロボットは、単純な直動、回転の運動を基本として、これらを組み合わせ、センサ情報に用いたマイコン指令により、望みの動作を実現している。メカトロニクスは、機構学、センサ工学、電気・電子工学をベースとして、制御工学、情報工学までを含む、総合的な学問である。本科目では、主要な機構とその解析方法、センサ、アクチュエータの種類と原理、マイコン、さらに、ロボット機構やロボット運動制御などについて学ぶ。	
	300番台科目	メカトロニクス演習	メカトロニクスは、機構学、センサ工学、電気・電子工学をベースとして、制御工学、情報工学までを含む、総合的な学問である。本演習では、『メカトロニクス』で習得した主要な機構とその解析方法、センサ、アクチュエータの種類と原理、マイコン、さらに、ロボット機構やロボット運動制御などの知識を用いて、マイコンなどを使用したシステム開発、ものづくりを行い評価する。回路作成、プログラミング、動作確認の他、各種センサ信号の測定やフーリエ変換を利用した周波数特性解析などの試行経験を通して、知識と技術の定着を図ることを目的とする。	
専門科目群	300番台科目	モデリングとシミュレーション	梁の曲げや板の引張など基本的な工学問題をパーソナルコンピュータによる数値解析により解決する方法を学ぶ。数値解析における支配方程式を理解したうえで、従来の解析手法で解が得られる問題を数値解析で行った結果と比較してその計算能力を確認する。後半は3DCADによるモデリングの造形と数値解析の原理と簡単な計算ならびに計算結果の表示ツールによる、シミュレーションの見える化を学ぶ。	
専門科目群	300番台科目	マテリアルプロセッシング	ものづくり技術者として必要不可欠な材料自体についての知識、特に材料の中で最も多く用いられる金属材料の基礎知識を習得し、それを踏まえて鉄鋼材料をはじめとする種々の金属材料の基本的な性質を理解する。さらに、選択した金属材料を実際に製品にするために必要な加工技術である「切削加工」、「塑性加工」、「鋳造加工」および「溶接」などについての基本的な知識についても学ぶ。特に、『金属加工実習』で用いた工作機械についての知識をさらに深める。	
専門科目群	300番台科目	都市環境デザイン	都市環境をデザインするためには、その前提となる都市生活の変化を観察しなくてはならない。その上で自然環境との調和はもとより、コミュニティ環境や福祉環境の要素をも備えた新しい都市のあり方を創造していく必要がある。本科目では、まちづくりのプレーヤーである生活者、企業、自治体それぞれの持つ視点や課題を把握し、次代の環境デザインの方向性と今後期待される技術やアイデアの方向性について学び、自ら新しい都市環境デザインのあり方を創造し、具体的にプランニングする力を身に付けることを目指す。	講義20時間 演習10時間
専門科目群	300番台科目	電気回路演習	日常で使用する製品には電子回路やマイコンが組み込まれてさまざまな機能が付与され高機能化が進む。『電気回路基礎』で学んだ電気回路についての基礎理論をより深く理解するために、基本的な回路を設計してその動作を確認する。トランジスタやオペアンプなどの能動素子やセンサー類の入出力特性の測定してその使用方法や動作を学ぶ。課題ではグループに分けて基本的な回路とマイコンを組み合わせ、テーマに沿った簡単な制御システムを構築する。	
専門科目群	300番台科目	デジタル生産加工	20世紀において主流であった大量生産に向く旋盤やフライス盤、あるいはボール盤といった工作機械にコンピュータを装着したNC加工機械、これらの工作機械を1台の複合作業機械としたマシニングセンターについて学ぶ。後半は、近年注目を浴びているデスクトップマシンについて学ぶ。レーザーカッター、3Dプリンターなど、パーソナルファブ리케이션に使用される加工機の説明とその加工内容について講義する。具体的な工業製品をリストアップし、その加工法を学ぶ。	
専門科目群	300番台科目	数学科指導法IV	『数学科指導法I』『数学科指導法II』『数学科指導法III』に引き続き、中学校・高等学校学習指導要領及び数学教育学の研究成果を基にしながら中等教育における数学の内容及指導法について学ぶ。具体的には論理と証明、幾何、ICTなどを中心に、数学的活動、教材研究を通して学ぶ。学習指導案の作成方法及び授業設計の方法を修得し、かつICT機器を活用した授業を展開できるようになることを目標とする。	講義20時間 演習10時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	3 0 0 番 台 科 目	職業指導(工業)II	学習指導要領は「進路指導が生徒の人格形成に多大に寄与する」ことを指摘している。進路指導は「人生設計」や「人間としての生き方」を吟味し援助する指導であり、その中で望ましい職業観・勤労観の形成と職業選択能力の育成の指導・支援は不可欠である。『職業指導(工業)I』を受けて、中学・高等学校における具体的なキャリア形成支援と職業指導にかかわる進路指導の方策を実践的に考える。生徒の発達段階はまちまちであるため、生徒一人ひとりの個性・能力・適正に応じた望ましい指導方法を検討できるようにするため、実践資料の参照、体験活動や模擬授業、討論等を通じて職業指導力を身に付ける。	講義20時間 演習10時間
	3 0 0 番 台 科 目	技術科指導法IV	『技術科指導法I』『技術科指導法II』『技術科指導法III』に引き続き、技術科における教育課程、指導内容・方法等について、法令、学習指導要領、各種報告書、教育研究を通して理解するとともに、教材作成、開発、学習指導案の作成、模擬授業の実践、事例研究を通して技術教育指導の全般を習得する。特にA材料と加工、B生物育成、Cエネルギーの変換、D情報に関する技術分野の指導目標と内容の取り扱い、評価法については実践演習を取り入れながら修得する。	講義20時間 演習10時間
専門 科目 群	4 0 0 番 台 科 目	幾何学II	端のない連結な曲面は完全に分類されている。これは1800年代の数学における著しい成果である。本科目ではこの分類定理の証明について学ぶ。数学的には曲面とは「二次元多様体」と呼ばれるもので、三次元多様体の分類は未解決である。その分類の道具の一つであるホモロジー群を曲面において学ぶ。	
専門 科目 群	4 0 0 番 台 科 目	デザインサイエンスセミナーII	『デザインサイエンスセミナーI』の発展科目である。卒業研究の発表に向け、引き続き専門分野に関する文献による調査研究や分析、生産現場見学等における調査及び研究を行う。これまでに学修した工学分野の基礎知識および専門分野の知識、問題解決に必要な手法などを活用し、自ら研究を進める力を身に付ける。 〔担当教員の専門分野〕 (1 川森重弘) 粉末冶金 固体物性 など (2 木村仁) バイオメカニクス ロボティクス など (3 黒田潔) 知的財産権教育 超伝導 など (4 三林洋介) 視覚情報処理 人間工学 など (5 山田義照) 会計学 管理会計 など (6 斉藤純) ハイブリッドソーラーカー 金属空気電池 など (7 水野貴敏) プラズマ 科学教育 など (8 平社和也) ヒューマンインターフェイス・インタラクション デザイン学 など	演習15時間 講義15時間
専門 科目 群	4 0 0 番 台 科 目	卒業プロジェクトI	各研究室において、専門分野に応じたテーマで研究やプロジェクトなどを行う。学生各自のテーマおよび研究の計画は、各研究室において、指導を担当する当学科教員と相談して決定する。研究の主旨・成果を他者に正確に伝える力を身に付けるため研究室の定期的な発表を行う。それらの発表内容と、当該セメスター終了時の当学科主催卒業研究発表会における研究発表の内容等に関して当学科全教員が評価し、当該学生の可否が判断される。 〔担当教員の専門分野〕 (1 川森重弘) 粉末冶金 固体物性 など (2 木村仁) バイオメカニクス ロボティクス など (3 黒田潔) 知的財産権教育 超伝導 など (4 三林洋介) 視覚情報処理 人間工学 など (5 山田義照) 会計学 管理会計 など (6 斉藤純) ハイブリッドソーラーカー 金属空気電池 など (7 水野貴敏) プラズマ 科学教育 など (8 平社和也) ヒューマンインターフェイス・インタラクション デザイン学 など	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目群	400番台科目	卒業プロジェクトⅡ	前半の『卒業プロジェクトⅠ』の続きである。各研究室において、専門分野に応じたテーマで研究やプロジェクトなどを行う。学生各自のテーマおよび研究の計画は、各研究室において、指導を担当する当学科教員と相談して決定する。研究の主旨・成果を他者に正確に伝える力を身に付けるため研究室内の定期的な発表を行う。それらの発表内容と、当該セメスター終了時の当学科主催卒業研究発表会における研究発表の内容等に関して当学科全教員が評価し、当該学生の可否が判断される。 〔担当教員の専門分野〕 (1 川森重弘) 粉末冶金 固体物性 など (2 木村仁) バイオメカニクス ロボティクス など (3 黒田潔) 知的財産権教育 超伝導 など (4 三林洋介) 視覚情報処理 人間工学 など (5 山田義照) 会計学 管理会計 など (6 斉藤純) ハイブリッドソーラーカー 金属空気電池 など (7 水野貴敏) プラズマ 科学教育 など (8 平社和也) ヒューマンインターフェイス・インタラクション デザイン学 など		
		教職関連科目群	教育原理	教育は現代社会が考慮すべき最重要課題である。教育問題を単に学校教育の問題としてではなく、教育の原理にたちかえって次のような問題を検討することが大切である。本科目では、教育という関心から見て整合的な人間観・子ども観とはなにか、教育問題を解いていく望ましい原理とはなにか、学校教育にはどのようなメカニズムが働いているか、カリキュラムの構成と教育方法にはどのようなモデルがあるか、など教育に関する総合的理解を導くことを目的とする。	
		教職関連科目群	教育哲学	教育について哲学的に探究する分野の入門講座である。哲学の学問的特徴から説き起こし、「教育とは何か」という問題への取り組みを中心に、教育の前提となる人間観、教育観、教育の目的や意義、さらに教育に関わる諸問題や諸課題について、根本的な、徹底的な、全体的・総合的な探究を行うための基礎を提供する。	
		教職関連科目群	教職概論	教師の有り様が問題とされている。プロフェッショナルとしていかに優れた教授者であるか、人としていかに良き先達であるか。古代ギリシア以来の優れた教師像に範を求めながらも、新たな世紀に求められる教師とは何であるか、いかに生きるか、いかなる資質を有するかに目を向ける。教育専門職としての教師の今日的、将来的有り様を検討し、これから教育者を志す若者たちのキャリア意識の確認と高揚を図る。	
		教職関連科目群	教育の制度と経営	現代の教育は、学校教育制度の中に位置付けられ、教育行政という枠組みの中で展開されている。本科目では、学校制度と社会との関係を、主に、(1)学校教育拡大の要因、(2)学校教育の社会機能、(3)学校制度、(4)学校教育の性格、(5)社会変化と学校教育の関係、(6)学校制度の問題、の諸点から取り上げる。教職を目指す受講生が、学校制度とどのような関わりをもち、それがどのような意味をもちうるのかを考えることを重視する。	
教職関連科目群		教育社会学	教育に関する諸問題を社会科学的に考察する分野の入門講座である。我々の実生活の隅々にまで顕在的・潜在的に浸透している教育現象を理解するためには、人間の文化・社会の全般に渡って複雑に入り組んでいる様々な要因を、多角的な展望の元で把握して行く必要がある。本科目では、巨視的・微視的な立場の双方から学校教育と全体社会との相互関係を多角的に概観し、学校教育システムとその機能、社会階層と教育等の問題について焦点的に考察して行く。		
教職関連科目群		学習・発達論	教育専門職にとって、子どもたちの心身の発達状況と学習との関連を知ることが極めて重要である。本科目では、幼児期および児童期の発達と学習について、就学前教育および学校教育との関連を中心に考察する。幼児期に始まる幼稚園・保育園での集団生活の中での仲間関係とそれを土台とする発達、さらに、就学に伴う学校教育経験は学級集団・教師・生徒関係などを通して児童の発達にどのような影響を与えるのかを検討する。学校のもつ社会・文化的環境としての意味についても考える。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職関連科目群	教育心理学	教育心理学は、教育に関連する諸事情について心理学的に研究し、教育の効果を高めるのに役立つような心理学的理論、知見、技術を提供しようとする学問である。心理学的に研究するということは、教育を科学的に理解することであり、本科目では子どもを生活の基盤、学習の過程、学校環境から総合的に認識し、教育実践の場に役立てることを目的とする。	
教職関連科目群	発達心理学	変化の激しい現代社会では人間の成長もまたそれらの影響を受けることとなる。発達心理学は人の誕生から死に至る行動の発生と変化を研究するが、本科目では乳児期、幼児期、児童期を中心に、認知発達、言語発達、自己の発達について考える。これらの行動の諸側面について、その発達的变化をたどりながら、人間の発達の各段階の特質をみると共に、どのような要因が影響するのかを検討し、人間の生涯を通じた成長の過程へのより良い理解を図る。	
教職関連科目群	特別支援教育	特別支援教育とは一人ひとりのニーズに応じた特別な支援であり、学校を中心としながら空間的にも時間的にも、医療、福祉、労働といった関係分野が協力し合って進めるものである。授業では、まず障害とは何か、自立とは何かという基本的な概念から入る。ついで、障害児を支え教育してきたこれまでの歴史と近年の国際的流れを学ぶ。そして、それぞれの障害について正確な知識と教育課程、教育方法の実際を事例を交え習得する。障害は異なっても底には共通の教育の原理がある。近年の発達障害をめぐる知見や課題、また障害児を抱えた家族の問題にも触れ教育や福祉に携わるものに必要な知識を提供しともに考える授業とする。	
教職関連科目群	教育課程編成論	崇高な教育理念も、具体的な内容を伴ってはじめてその実現への途につくことができる。ことに教育目的・目標の実現を組織的・体系的に企図すべく設置されている学校教育においては、効果的な教育課程(カリキュラム)の編成こそがその成否を左右していると言っても過言ではない。本科目においては、教育課程の意義とその編成原理、過去の理論研究や実践の結果生まれた諸類型それぞれの功罪、教育課程行政の仕組みから各教科等における単元構成に至る教育課程編成の実際等について理解を深めることを目的とする。理論的な知識の習得はもとより、可能なかぎり事例の紹介を通して、学校教育における実践者としてのセンスを養っていく。	
教職関連科目群	道德教育の理論と方法	学校は生徒の豊かな人格を形成することを目指す全人教育の場である。なかでも道德教育は、学校教育の基盤をなすもので、全教育活動を通して培っていくものである。変化の激しい社会において道德教育の必要性はさまざまな場で強調されてもいる。学校教育における道德教育のあり方を学校教育全体と道德の時間の両面から考察していく。	
教職関連科目群	総合的な学習の時間の理論と方法	教員を目指している履修生が「教師として」総合的な学習をデザイン・実施・評価していくために必要な基礎的な知識や授業方法、授業技術を獲得していくことを目的とする。自分自身の問題意識を持って、具体的なテーマに取り組むことからはじめ、最終的には、計画→準備→実行→評価という教師の日々の実践を丁寧に取り組み、授業力を身に付ける。	
教職関連科目群	特別活動の理論と方法	共生を尊ぶ現在の社会においては、人々が相互依存をしながら協力して生活していることを理解し、そうした社会の一員として身に付けるべき資質について獲得することが望まれている。特別活動は、望ましい集団活動を特質とするものであり、各学校において児童の実態に応じた弾力的な指導が求められている。そこで、特別活動の目標や各内容の特質、指導のポイントなどを把握する。具体的には、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事等についてそれぞれの特質と内容、指導計画や指導について追求する。	
教職関連科目群	教育方法・技術論	学校生活の大部分を占める授業は児童・生徒にとって大きな意味と役割を有している。そこで本講義は、学校教育における学習指導の展開について、特にわかる授業に焦点化し、理論と実践の両面から考察していく。さらに新学習指導要領の趣旨を生かした指導と評価の一体化を目指す授業について理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職関連科目群	ICT活用の理論と実践	急速な社会変化に伴い未来予測が難しくなる中、持続可能な教育機能維持に対するICT活用が要請される。そこで、本講義は、従来の教育技術論を踏襲した上で、最新のICT活用事例を広く参照しながら教育実践につながるICTの理論(機能要件理解)、実装(システム環境構築)、実践(教育デザイン)を行う。それらを通して、実践的にICT活用を行うための教育技術の醸成を目指す。同時に、ICT活用に伴う適切な個人情報の取り扱い、保護に関する社会人・教育者として倫理観を養うものとする。	
教職関連科目群	生徒・進路指導の理論と方法	生徒をいかに理解するか。また、生徒や親の相談事にいかに対応するか。高校からの中退者が増え、集団での学校生活に不適応を起こす生徒が増加しつつある。本科目では、中学・高校の事例検討を通して、中学・高等学校期にある青少年の心身の発達に関する理論を踏まえて生徒指導、進路指導を学ぶことを目的とする。	
教職関連科目群	教育相談の理論と方法	生徒や親の相談事にいかに対応するか。高校からの中退者が増え、集団での学校生活に不適応を起こす生徒が増加しつつある。本科目では、中学・高校の事例検討を通して、教育相談における教員の役割と職務内容、他の専門職との連携、保護者との接し方、コミュニティーネットワークの活用について、中学・高等学校期にある青少年の心身の発達に関する理論を踏まえて学ぶことを目的とする。	
教職関連科目群	教育実習(中・高)	実際の学校において教育活動を参観し、また主体的に学習指導、生徒指導にたずさわる過程で、教職課程にて習得した教育学の理論を実践の場で応用し、中学校及び高等学校教員としての力量の基礎を育成する。同時に、自らの教職適性を再確認させ、教員としての使命感をはぐくむものとする。教育実習事前指導においては、本学が目指す教師像を前提とした上で、実習における到達目標を明確にするとともに、実習の一連の流れや心構え、学習指導案の作成、実習日誌の記録等、必要な基本事項を確認する。また事後指導では、事前に設定した目標に対する達成度を目指す教師像に照らし合わせて自己評価し、その反省から今後身に付けるべき力量を明確にさせる。	
教職関連科目群	教育実習(高等学校)	実際の学校において教育活動を参観し、また主体的に学習指導、生徒指導にたずさわる過程で、教職課程にて習得した教育学の理論を実践の場で応用し、高等学校教員としての力量の基礎を育成する。同時に、自らの教職適性を再確認させ、教員としての使命感をはぐくむものとする。教育実習事前指導においては、本学が目指す教師像を前提とした上で、実習における到達目標を明確にするとともに、実習の一連の流れや心構え、学習指導案の作成、実習日誌の記録等、必要な基本事項を確認する。また事後指導では、事前に設定した目標に対する達成度を目指す教師像に照らし合わせて自己評価し、その反省から今後身に付けるべき力量を明確にさせる。	
教職関連科目群	教育実習(副)	実際の教育活動にたずさわって、教員になる前の実践経験を得る。また、大学の教職課程において学修した知識・技術を具体的に検証する機会を得る。内容は、学習指導・生徒指導・学級経営・学級事務・進路指導(キャリア教育)等である。方法は講話受講・観察・参加・実習等である。これらの実践経験を通して、幼児・児童・生徒・教員の職務・学校環境・教育指導等を実際的に理解する。教育実習事前指導においては、本学が目指す教師像を前提とした上で、実習における到達目標を明確にする。また、実習の一連の流れや心構え、学習指導案の作成、実習日誌の記録等、必要な基本事項を確認する。教育実習の事後指導では、事前に設定した目標に対する達成度を目指す教師像に照らし合わせて自己評価する。そこから今後身に付けるべき知識・技術を明確にする。	
教職関連科目群	教職実践演習	教育に係わる今日の課題に対して的確に対応できる教師となるための第一歩を着実に踏み出すため、自らが取り組むべき課題を明らかにするとともに、これまでの学習生活を通して獲得された資質能力を、より実践的な観点において深化・統合あるいは補完することによって、その改善を図る。これにより、「子どもに慕われ、親たちに敬われ、同僚に愛され、校長に信ぜられよ」という「玉川教師訓」に示された教師像の実現を目指す。	

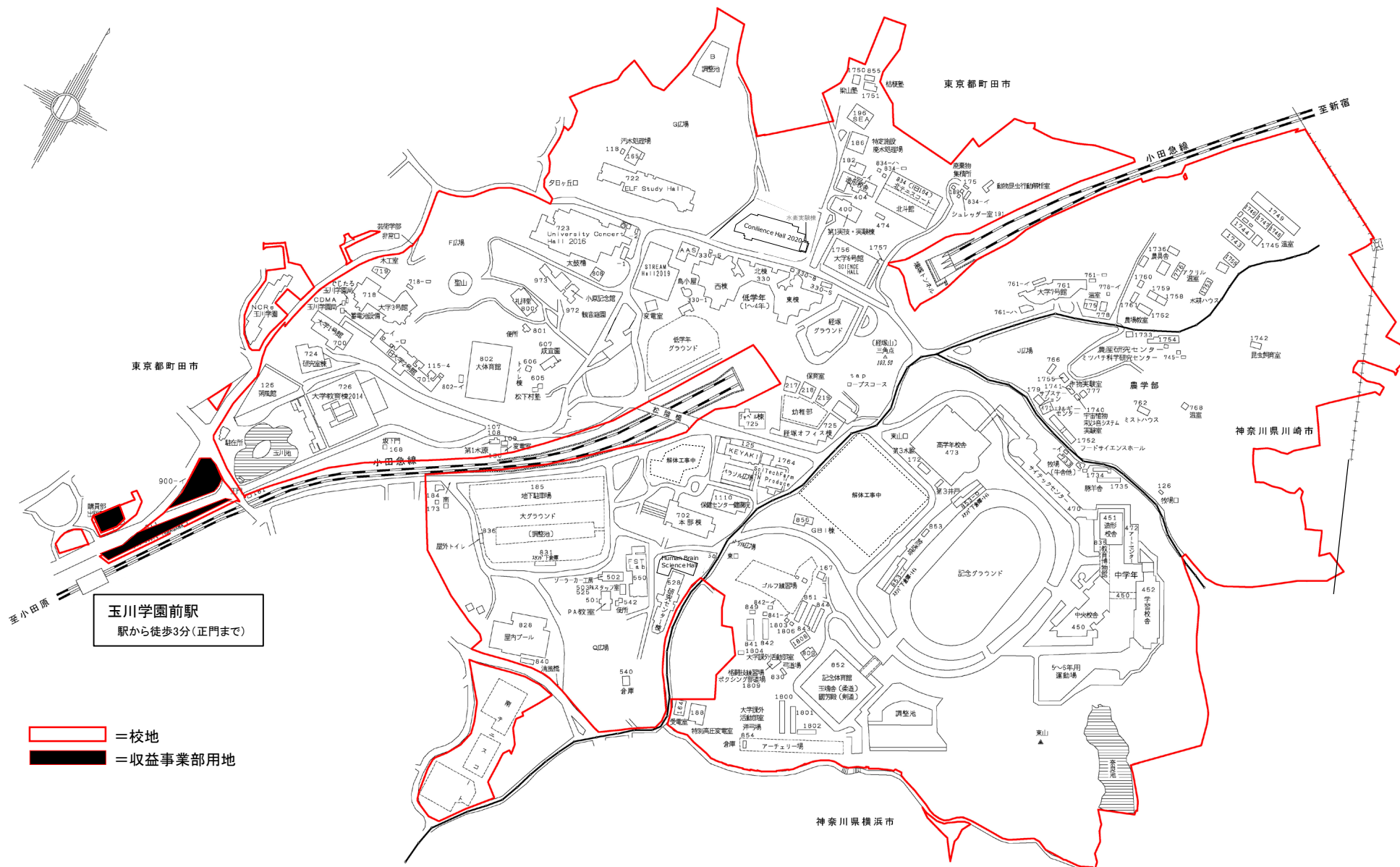
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職関連科目群	異文化理解と教育	「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の誓を築かねばならない」とは、ユネスコ憲章(1945年)の一節である。異文化理解とはいったい何であろうか。諸外国のことを知ることであろうか、また、自らの文化等を真に理解することが異文化理解に通じるのであろうか。本科目では、留学問題、帰国子女問題、海外援助等の課題を扱い、異文化理解とは何か、そして、我々一人一人に異文化理解とは何を意味するのかを探っていくことを目的とする。	
教職関連科目群	生命と性の教育	人間の生と性の問題は、若者たちの価値観の変化、高齢化社会の到来といった時代を迎えて、様々な問題に直面している。特に、大人や子どもを含めて、現代人の「生命と性」に関する考えが大きく変わりつつあり、また多くの性情報があふれている。本科目では、特に「生命と性」に関する様々な問題(第二性徴、妊娠・出産、人工妊娠中絶、エイズなど)を扱いながら、性教育のあり方について、日本や外国の現状をふまえ、考察する。	
教職関連科目群	精神保健	社会の変化に対応して、心身の健康を保持増進するために、個人の適切な生活行動が重要と言われる。本科目では、現代社会と家庭・学校・地域社会の変化と子どもの生活に触れながら、子どもの心の健康、親や教師の心の健康に関する問題、保持増進のための課題などについて概説する。また、野外活動、ゲームなどの体験教育プログラムを利用して、子どもたちの人間関係作りの支援、リーダーシップの育成、自尊感情を高めるといった諸プログラムについても理解することを目的とする。	
教職関連科目群	教職演習A	教職における具体的な指導技術は、現場において子どもたちを目の当たりにした実践の中でこそ磨かれてゆくものであるが、大学における教員養成課程において学んでおくべき基本的な実践的指導を行う。具体的には、中高等学校における板書技術・ノート指導・発問・書写・机間指導といった技能訓練や、模擬授業である。また、教育実習後に自らの技能・資質について振り返りを行う際の足掛かりとする。	演習8時間 講義7時間
教職関連科目群	教職演習B	教職における具体的な指導技術は、現場において子どもたちを目の当たりにした実践の中でこそ磨かれてゆくものであるが、大学における教員養成課程において学んでおくべき基本的な実践的指導を行う。具体的には、小中高等学校における板書技術・ノート指導・発問・書写・机間指導といった技能訓練や、模擬授業、また各自が教育実習後に自らの技能・資質について振り返りを行う機会を提供する。	演習8時間 講義7時間
教職関連科目群	教育インターンシップA	教育の現場に入り教育の実際を経験することにより児童・生徒との関わりを通じて教職への動機づけを明確にする。また、教育に係わる今日的課題に対して的確に対応するための第一歩を着実に踏み出すため、自らが取り組むべき課題を明らかにし、実践的な観点において深化・統合あるいは補完することによって、その改善を図る。『教育インターンシップB』とは実習先が異なる。『教育インターンシップC』『教育インターンシップD』とは、実習先、期間、時間が異なる。	
教職関連科目群	教育インターンシップB	教育の現場に入り教育の実際を経験することにより児童・生徒との関わりを通じて教職への動機づけを明確にする。また、教育に係わる今日的課題に対して的確に対応するための第一歩を着実に踏み出すため、自らが取り組むべき課題を明らかにし、実践的な観点において深化・統合あるいは補完することによって、その改善を図る。『教育インターンシップA』とは実習先が異なる。『教育インターンシップC』『教育インターンシップD』とは、実習先、期間、時間が異なる。	
教職関連科目群	教育インターンシップC	教育の現場に入り教育の実際を経験することにより児童・生徒との関わりを通じて教職への動機づけを明確にする。また、教育に係わる今日的課題に対して的確に対応するための第一歩を着実に踏み出すため、自らが取り組むべき課題を明らかにし、実践的な観点において深化・統合あるいは補完することによって、その改善を図る。『教育インターンシップD』とは実習先が異なる。『教育インターンシップA』『教育インターンシップB』とは、実習先、期間、時間が異なる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職関連科目群	教育インターンシップD	教育の現場に入り教育の実際を経験することにより児童・生徒との関わりを通じて教職への動機づけを明確にする。また、教育に係わる今日的課題に対して的確に対応するための第一歩を着実に踏み出すため、自らが取り組むべき課題を明らかにし、実践的な観点において深化・統合あるいは補完することによって、その改善を図る。『教育インターンシップC』とは実習先が異なる。『教育インターンシップA』『教育インターンシップB』とは、実習先、期間、時間が異なる。	
教職関連科目群	日本国憲法	我が国の教育職はもちろん、社会サービスに深く関わる専門職にとって日本国憲法の理解は不可欠である。国民生活は、憲法を頂点とする法体系の下で営まれている。本授業においては、日本国憲法の制定史・基本原理を概観した上で、特に平和主義並びに基本的人権に関する諸問題について、実社会における具体的な事件・判例等をも交え、わかりやすく解説する。	
教職関連科目群	体育	秋 Semester 開始時の特別教育期間中に授業を開始し、K-12(幼・小・中・高)と合同で行う体育祭にマスゲーム発表するまでの教職希望学生必修の集中授業である。男女ともにデンマーク体操を基本とした徒手体操の基本を習得し、グループ練習を経て、全員での体操発表を行い、マスゲームの基本と応用力及び指導力を養うことを最終的な目的とする。	

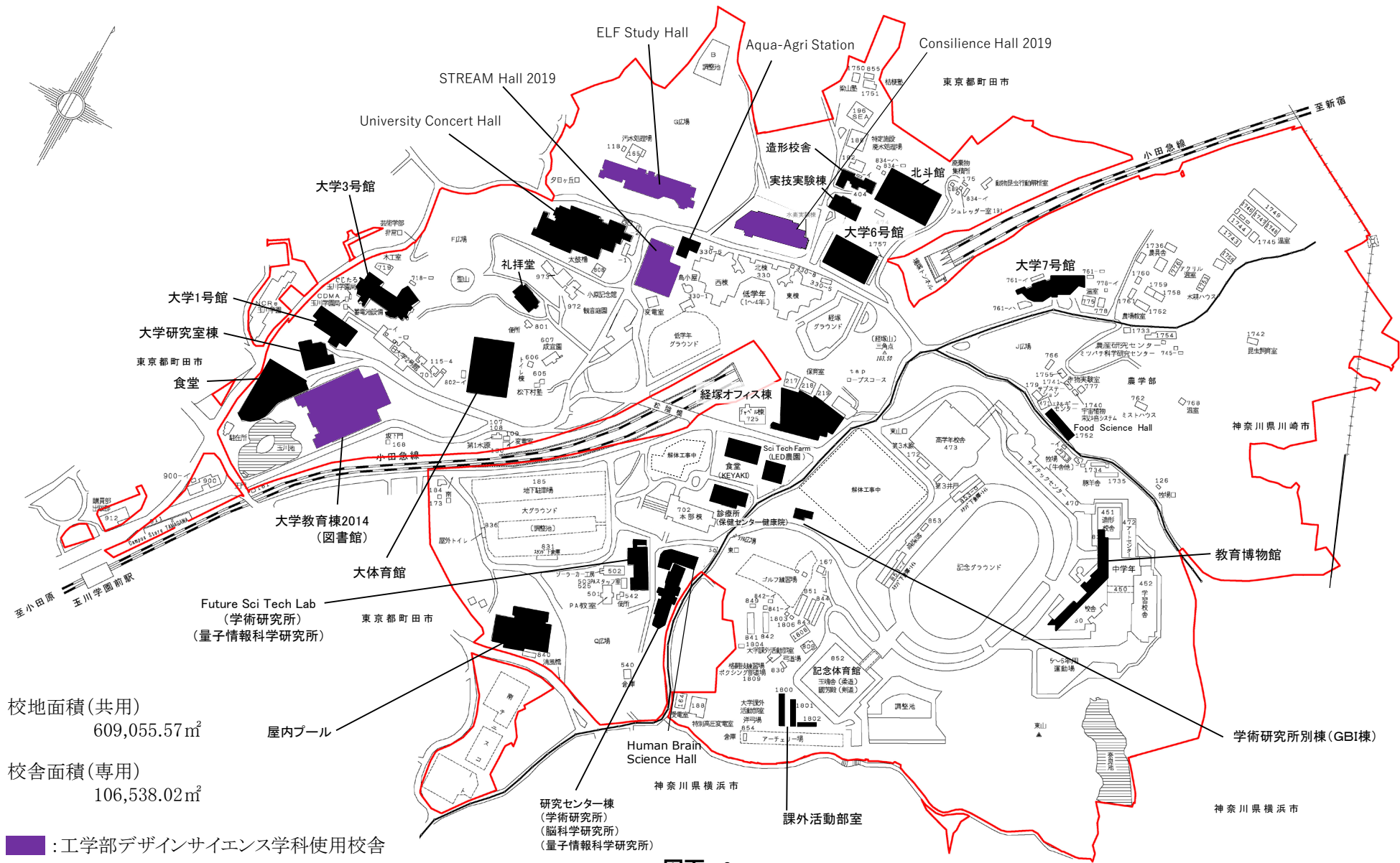
都道府県内における学校法人玉川学園の位置



学校法人玉川学園の近隣の環境



玉川大学の校舎・運動場配置図



第 1 章 目的及び使命

（目的及び使命）

- 第 1 条 本大学は、教育基本法及び学校教育法の規定に基づき、更にキリストの教えに従い、玉川学園建学の理想にかんがみ、「全人教育」をもって教育精神とし、広い教養と深い専門の学術の理論及び応用を教授する。宗教、芸術教育を重んじ魂を醇化し、浄らかな情操を養成し、厳粛な道義心を涵養することをもって人格を陶冶し、併せて人類の幸福と世界の文化の進展に寄与するものとする。
- 2 本大学の各学部についての人材養成等教育研究に係る目的は、別表第 1 に定める。

（自己点検及び評価）

- 第 2 条 本大学は、その教育研究水準の維持向上を図り、前条の目的及び使命を達成するため、本大学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。
- 2 前項の自己点検及び評価に関する細目は別にこれを定める。
- 3 本大学の授業及び研究指導の内容・方法の改善を図るため、組織的な研修・研究を実施する目的で、玉川大学 F D 委員会規程を別に定める。

第 2 章 学部・学科

（学部）

- 第 3 条 本大学に文学部、農学部、工学部、経営学部、教育学部、芸術学部、リベラルアーツ学部、観光学部を置く。

（学科等）

- 第 4 条 文学部に国語教育学科及び英語教育学科、農学部を生産農学科、環境農学科及び先端食農学科、工学部に情報通信工学科、ソフトウェアサイエンス学科、マネジメントサイエンス学科及びデザインサイエンス学科、経営学部国際経営学科、教育学部に教育学科及び乳幼児発達学科、芸術学部音楽学科、アート・デザイン学科及び演劇・舞踊学科、リベラルアーツ学部のリベラルアーツ学科、観光学部に観光学科を置く。
- 2 教育学部教育学科に通信教育課程を置く。
- 3 通信教育課程に関しては、別に定める玉川大学教育学部教育学科通信教育課程規程による。

第 3 章 大学院

（大学院）

- 第 5 条 本大学に大学院を置く。
- 2 大学院に関しては、別に定める玉川大学大学院学則による。

第 4 章 学年、学期及び休業日

（学年及び学期）

- 第 6 条 学年は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。
- 2 学期は学年を 2 期に分け、それぞれの学期を 1 セメスターとする。期間については、教授会及び玉川大学部長会（以下「大学部長会」という。）の議を経て学長がこれを定める。
- 3 教育上の必要があるときは、夏季休業及び春季休業の期間に特別学期を設けることができる。

（休業日）

- 第 7 条 本大学の休業日は、次のとおりとする。
- （1） 国民の祝日に関する法律に規定する休日
 - （2） 日曜日
 - （3） 夏季休業日
 - （4） 冬季休業日
 - （5） 春季休業日
- 2 前項第 3 号から第 5 号の休業日の期間は、別に定める。
- 3 第 1 項各号に規定する以外の休業日については、教授会及び大学部長会の議を経て学長がこれを定める。

第 5 章 学部学科別定員

（定員）

- 第 8 条 本大学の定員は、次のとおりとする。

学部・学科	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
文学部	140人		560人
国語教育学科	60人		240人
英語教育学科	80人		320人
農学部	295人		1,180人
生産農学科	155人		620人
環境農学科	70人		280人
先端食農学科	70人		280人
工学部	240人		960人
情報通信工学科	60人		240人
ソフトウェアサイエンス学科	60人		240人
マネジメントサイエンス学科	60人		240人
デザインサイエンス学科	60人		240人
経営学部	130人		520人
国際経営学科	130人		520人
教育学部	295人		1,180人
教育学科	220人		880人
乳幼児発達学科	75人		300人
芸術学部	270人		1,080人
音楽学科	80人		320人
アート・デザイン学科	100人		400人
演劇・舞踊学科	90人		360人
リベラルアーツ学部	160人		640人
リベラルアーツ学科	160人		640人
観光学部	120人		480人
観光学科	120人		480人
小計	1,650人		6,600人
教育学部			
教育学科通信教育課程	1,500人		6,000人
合計	3,150人		12,600人

第6章 修業年限及び教育課程

(修業年限)

第9条 本大学の修業年限は、4年とする。なお、在学年数は、8年を超えることはできない。

2 編入学生の修業年限は、3年次編入にあつては2年、2年次編入にあつては3年とし、在学年数はそれぞれ4年、6年を超えることはできない。

(授業科目)

第10条 授業科目は、ユニバーシティ・スタンダード科目（玉川教育・FYE科目群、人文科学科目群、社会科学科目群、自然科学科目群、学際科目群、言語表現科目群、教職関連科目群、資格関連科目群）、学部学科関連科目に区分し、必修科目及び選択科目に分ける。授業科目名及び単位数は、別表第2—①のとおりとする。

(授業科目及び単位数)

第11条 各学部の修業年限の間に履修しなければならない授業科目及び単位数については、次のとおりとする。なお、細部については学生要覧による。

- (1) ユニバーシティ・スタンダード科目（玉川教育・FYE科目群）より7単位
- (2) ユニバーシティ・スタンダード科目（人文科学科目群、社会科学科目群、自然科学科目群、学際科目群、言語表現科目群、教職関連科目群、資格関連科目群）については、各学部学科の履修規定による。
- (3) 学部学科関連科目については、各学部学科の履修規定による。

2 教育上特に必要と認めたときは、本大学大学院及び専攻科の授業科目を履修させることができる。

- 3 教育職員免許状の授与を受けようとする学生は、教育職員免許法に基づき、同法第4条に定める免許状の種類に応じて、教育職員免許法施行規則に規定するそれぞれの科目及び単位数を修得しなければならない。
- 4 本大学で取得できる教育職員免許状の種類及び教科は、別表第3—①のとおりとする。
- 5 児童福祉法による保育士の資格を得ようとする学生は児童福祉法施行規則に規定する教科目及び単位数を修得しなければならない。
- 6 学校図書館法に基づく司書教諭、図書館法に基づく司書、社会教育法に基づく社会教育主事又は博物館法に基づく学芸員の資格を得ようとする者はそれぞれの法令に規定する科目及び単位数を修得しなければならない。
- 7 食品衛生法に基づく食品衛生管理者、同法施行令に基づく食品衛生監視員の資格を得ようとする者はそれぞれの法令に規定する科目及び単位数を修得しなければならない。

(授業の方法等)

第12条 授業は講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

- 2 前項の授業は、文部科学大臣の定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 3 第1項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

(学修時間及び単位)

第13条 各授業科目の単位数は、各学部教授会において定めるものとする。

- 2 各授業科目の単位数を定めるに当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。
 - (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
 - (2) 演習については、15時間又は30時間の授業をもって1単位とする。
 - (3) 実験、実習及び実技については、30時間又は45時間の授業をもって1単位とする。
- 3 前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

(警告制度)

第14条 学生の学修の質の維持及び向上を図るために、警告制度を定める。

- 2 前項の細部については学生要覧による。

(進級条件及び進度チェック)

第15条 教育上必要と認めた場合は、各学部学科において進級条件及び進度チェックを定めることができる。

- 2 前項については学生要覧による。

第7章 単位の授与、卒業の要件及び学士

(単位の認定)

第16条 授業科目の単位の認定は、試験による。

- 2 試験の種類は次のとおりとし、その種類に応じて行う。
 - (1) 平常試験は、必要に応じ適宜行う。
 - (2) 定期試験は、学期末の定期試験期間内に行う。
 - (3) 追試験は、やむを得ない理由により定期試験を受けることのできなかった者のためにのみ追試験期間内に行う。
 - (4) 単位認定試験は成績評価保留（インコンプリート）の者のためにのみ所定の期間内に行う。
- 3 試験の方法は、筆記、口述、レポート又は実技によるものとする。
- 4 試験の成績の評点は、S（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、F（59～0点）の5種とし、S、A、B、Cを合格、Fを不合格とする。また、授業科目によってはP（60点以上）を合格、F（59点以下）を不合格とすることができる。
- 5 定期試験及び単位認定試験は、別に定める本大学試験規程によって実施する。

(単位の授与)

第17条 前条の試験に合格した学生には、第13条所定の授業科目の単位を与える。

(他大学における授業科目の履修及び修得単位の認定)

第18条 本大学が教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学とあらかじめ協議の上、当該大学又は短期大学の授業科目を履修させることができる。

2 前項により履修した授業科目の単位は、60単位を超えない範囲で本大学において履修修得した単位として認定することができる。

(短期大学等における修得単位の認定)

第19条 本大学が教育上有益であると認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修について、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることの出来る単位数は、前条第2項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(既修得単位の認定)

第20条 学生が本大学入学前に大学又は短期大学において修得した単位(既修得単位)について本大学が教育上有益と認めるときは、本大学において履修修得した単位として認定することができる。ただし、この認定に関連して修業年限の短縮は行わない。

2 前項による単位の認定は、第18条、第29条第4項による単位認定と合わせて60単位を超えない範囲で行うものとする。

3 前2項に定める単位の認定に関し必要な事項は、別に定める。

(卒業の要件及び学士)

第21条 卒業の要件は、4年以上在学し、第11条第1項各号に定める単位を含め、124単位以上を累積GPA2.00以上の成績で修得することとする。

2 第1項に定める以外の卒業の要件については、学生要覧による。

3 卒業の決定は、第1項及び前項の要件を満たした学生に対し、教授会の議を経て学長がこれを行う。

4 前項により卒業が決定した者には、玉川大学学位規程に基づき、卒業した学部に応じ学士の学位を授与し「学位記」を交付する。

第8章 入学、転学部・転学科、編入学、転入学、留学、休学、復学、退学、除籍及び再入学

(入学の時期)

第22条 入学の時期は、学期の初めとする。

(入学の資格)

第23条 本大学に入学の資格を有する者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。)

(3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者

(6) 文部科学大臣の指定した者

(7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(大学入学資格検定規程により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者を含む。)

(入学の志願)

第24条 本大学に入学を志願する者は、入学志願書、出身高等学校又は中等教育学校の調査書、その他、入学試験実施要項で指定する関係書類に、別表第4—①に定める入学検定料を添えて提出しなければならない。ただし、出身高等学校又は中等教育学校の調査書については、該当する入学資格により、入学試験実施要項で指定する他の証明書等の提出をもって代えることができる。

(入学のための誓約書)

第25条 入学を許可された者は、本大学所定の様式に従って、保証人と連署の誓約書を提出しなければならない。

(保証人)

第26条 保証人は、親権者又は学生の3親等以内の成年者で、独立の生計を営む者又はこれにかわるべき者とする。

2 保証人は次の各号の全てにおいて、学生の責任を負うものとする。

(1) 各在籍学年の未納の学費等納付金の納付及び本学に損害を与えた場合の賠償金の納付(極度額については別に定める。)

- (2) 学生の身分異動の同意
- (3) 学生の緊急時の連絡対応
- (4) その他、学生の生活と教育に関すること
(転学部・転学科)

第27条 本大学の学生が他の学部・学科へ転学部・転学科を志望するときは、転学部・転学科希望願を提出して許可を受けるものとし、欠員のある場合に限り、選考の上、これを許可することがある。

(編入学)

第28条 他の大学等に在学した者で、次の各号の一に該当する者が本大学に編入学（転入学）を希望するときは、選考の上入学を許可することがある。

- (1) 大学を卒業した者（編入学）
- (2) 短期大学を卒業した者（編入学）
- (3) 高等専門学校を卒業した者（編入学）
- (4) 他の大学に在学している者（転入学）

2 本大学に編入学を志願する者は、編入学志願書、卒業（修了）証明書又は卒業（修了）見込証明書、成績証明書、その他編入学試験実施要項で指定する関係書類、転入学を志願する者は、転入学志願書、在学証明書、成績証明書、その他転入学試験実施要項で指定する関係書類に、別表第4—①に定める入学検定料を添えて提出しなければならない。

3 編入学（転入学）前の既修得単位の認定、編入（転入）学年及び入学後の履修科目については、各学部教授会において決定する。

4 編入（転入）学生の授業料等は別表第4—①（ただし、入学金を除く）にかかわらず、編入（転入）学科の編入（転入）学年と同学年の入学時の授業料等を適用する。ただし、玉川学園女子短期大学及び本大学からの編入生は入学金を徴収しない。

5 本大学から他の大学等へ編入学又は転入学を志望する学生は、退学願を提出して許可を受けるものとする。

(留学)

第29条 本大学が教育上有益と認めたときは、学生が外国の大学へ留学することを認めることがある。

- 2 前項による留学期間は、原則として1年以内とする。
- 3 留学期間は、在学年数に算入する。
- 4 留学によって修得した単位は、教授会の議を経て、第18条第2項に準じ認定することができる。
- 5 留学期間中の授業料等については、別表第4—①に定める。
- 6 留学に関する事項は別に定める。

(休学)

第30条 疾病その他の理由によって2か月以上修学のできない学生は、保証人連署の上願い出で、許可を得た上で休学することができる。

- 2 休学期間は、当該年度限りとする。ただし、疾病等やむを得ないと認められる場合には、願い出により翌年度に延長を許可することができる。
- 3 休学期間は、卒業に所要の在学年数には算入しない。ただし、休学期間は、通算して4年を超えることはできない。
- 4 休学期間中の在籍料については、玉川大学休学に関する在籍料取扱要領による。

(復学)

第31条 休学の理由がやんだときは、その旨を復学願に記し、保証人連署の上願い出で、許可を得て復学することができる。

(退学)

第32条 疾病その他の理由によって退学しようとする者は、保証人連署の上願い出で、許可を得た上で退学することができる。

(除籍)

第33条 次の各号の一に該当する者は、除籍する。

- (1) 第9条に規定する在学年数を経て、なお所定の課程を修了できない者
- (2) 学費の納付を怠り、督促を受けても、なお納付しない者
- (3) 第30条第3項に規定する休学期間の満了日に達しても、なお就学できない者
- (4) 休学期間の延長又は復学の手続きを怠った者

(5) 死亡又は行方不明者

(再入学)

第34条 本大学を途中で退学した者(依願退学者)又は除籍者(学費未納による除籍者)が再入学を願い出たときは、欠員のある場合に限り、選考の上、入学を許可することがある。

2 再入学に関する事項は玉川大学再入学に関する規程による。

(他の学校における在学の禁止)

第35条 本大学の学生は、同時に学校教育法による他の学校に在学することはできない。

(入学等の決定)

第36条 入学、転学部・転学科、編入学、転入学、留学、休学、復学、除籍及び再入学の許可並びに承認は教授会の議を経て、学長がこれを決定する。

第9章 賞罰

(表彰)

第37条 本大学学生で、品行方正、学術優秀な者、また学生の模範となるべき行いをした者は、教授会の議を経て、これを賞することができる。

2 前項に定める学生表彰に関する事項は、玉川大学学生表彰規程による。

(懲戒)

第38条 本大学学則に違背し、又は学生の本分に反する行為のあった者は、別に定める玉川大学学生処分規程によって懲戒する。懲戒は、譴責、停学及び退学とする。

2 停学は、確定期限を付す有期の停学及び確定期限を付さない無期の停学とする。

3 停学の期間が1か月以上にわたるときは、その期間は、第9条の期間に算入し、第21条の卒業の要件として在学すべき期間に算入しない。

(退学処分)

第39条 次の各号の一に該当する学生は、教授会の議を経て、これを退学に処することができる。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当の理由がなくて出席が常でない者

(4) 本大学の秩序を乱し、その他学生の本分に反したと認められる者

第10章 授業料、入学金、奨学金その他

(授業料等)

第40条 本大学の授業料・教育研究諸料・施設設備金及び入学金(以下「授業料等」という。)、入学検定料は、別表第4—①のとおりとする。

2 既に納入した授業料等は、原則としてこれを返還しない。

3 所定の期日までに、正当な理由がなく、授業料等を納入しない学生は除籍することができる。

(奨学金)

第41条 本大学学生で成績優秀な者、成績優秀かつ経済的に修学が困難な者があるときは、選考の上、奨学金を給付することがある。

2 奨学金に関する事項は、玉川大学奨学金規程による。

第11章 教職員組織

(教職員)

第42条 本大学に次の教職員を置く。

学長、教授、准教授、講師、助手及び事務職員。

2 前項のほか、次の教職員を置くことができる。

副学長、学部長、助教、技術職員及びその他の教職員。

第12章 大学部長会及び教授会

(大学部長会)

第43条 本大学に、大学部長会を置く。

2 大学部長会は、学長がこれを招集開会して、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

(1) 教育、研究及びこれに関連する人事に関する基本方針等、その運営における全学的な事項

(2) 教授会の審議に関する基本的共通的な事項

- (3) 各種委員会に関する事項
- (4) 学位の授与に関する事項
- (5) 本大学学則、その他関係規程等の制定・改廃及び運用に関する事項
- (6) 学長の諮問に関する事項
- (7) 教育研究活動等点検調査委員会の自己点検・評価結果に基づく改善に関する事項
- (8) その他本大学の運営に属する必要と認められる重要な事項

3 大学部長会の運営については、別に定める玉川大学部長会運営規程による。

(教授会)

第44条 各学部それぞれ教授会を置く。

- 2 教授会は、その学部の専任教授をもって組織する。
- 3 教授会は審議事項について必要があるとき、准教授、講師、助教及びその他必要な教職員を出席させることができる。
- 4 教授会は、定例に学部長がこれを招集する。ただし、学長が必要と認めたときは、これを招集することができる。
- 5 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。
 - (1) 学生の入学、卒業
 - (2) 学位の授与
 - (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 6 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下「学長等」という）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
- 7 教授会の運営については、玉川大学教授会等運営規程による。

(全学教授会)

第45条 学長が必要と認めたときは、又は教授会から特に要求があったときは、学長は全学教授会を招集することができる。

- 2 全学教授会は全学の専任教授をもって組織する。
- 3 全学教授会は審議事項について必要があるとき、准教授、講師、助教及びその他必要な教職員を出席させることができる。
- 4 全学教授会は、学長が特に必要と認めた本大学の重要事項を審議する。

(各種委員会等)

第46条 学長が必要と認めたとき、各種委員会等を組織し、それぞれの専門分野について審議研究することができる。
なお、細部については、玉川大学教授会等運営規程による。

第13章 専攻科

(専攻科)

第47条 本大学に次の専攻科及び専攻を置く。

芸術専攻科 芸術専攻

- 2 専攻科は玉川大学の建学の精神に則り、学部・学科の教育の基礎の上に、精深な専門の理論及び応用の研究指導を行い、専門的技能者を養成し、もって文化の進展に寄与することを目的とする。

(専攻科の定員)

第48条 専攻科の定員は次のとおりとする。

芸術専攻科 芸術専攻 10人

(専攻科の修業年限)

第49条 専攻科の修業年限は、1年とする。ただし、在学年数は2年を超えることはできない。

(専攻科の授業科目等)

第50条 専攻科の授業科目及び履修方法は、別表第2—②のとおりとする。

- 2 教育職員免許状の授与を受けようとする者は、その免許状の種類・教科に応じて、教育職員免許法に定められた単位を修得しなければならない。
- 3 専攻科で修得できる教育職員免許状の種類及び教科は、別表第3—②のとおりとする。

(専攻科の修了の要件)

第51条 専攻科修了の要件は、本専攻科に1年以上在学し、前項第50条の規定に基づいて授業科目を履修し、30単位以上を修得しなければならない。

2 前項の要件を満たした者には、修了証書を授与する。

(専攻科の入学資格等)

第52条 本専攻科に入学できる者は、次の各号の一に該当し、かつ、所定の入学試験に合格した者とする。

(1) 大学を卒業した者

(2) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者で、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(3) 文部科学大臣の指定した者

(4) 本大学において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

2 入学を許可された者は、所定の期日までに入学手続を完了しなければならない。

3 入学の時期は、毎年4月とする。

(専攻科の授業料等)

第53条 本専攻科の授業料、教育研究諸料、施設設備金及び入学金、入学検定料は、別表第4―②のとおりとする。

(専攻科教授会)

第54条 専攻科の学事を運営するために、専攻科教授会を置く。

2 専攻科教授会は、次の教員をもって組織する。

(1) 専攻科主任

(2) 当該学部長

(3) 専攻科担当教授及び准教授

3 専攻科教授会は審議事項について必要があるとき、准教授、講師、助教及びその他必要な教職員を出席させることができる。

4 専攻科教授会は、第44条第5項の教授会の審議事項について、専攻科に係る事項について審議する。

(大学学則の準用)

第55条 専攻科に関して本章に定める以外のことについては、本大学学則の各条項による。

第14章 教育学術情報図書館、教育博物館、研究所等に関する事項

(教育学術情報図書館)

第56条 本大学に玉川大学教育学術情報図書館を置く。

2 本大学の教職員及び学生は、別に定める教育学術情報図書館規程に従って図書を閲覧することができる。

(教育博物館)

第57条 本大学に教育博物館を置く。

2 教育博物館に関する規程は、別にこれを定める。

(学術研究所)

第58条 本大学に学術研究所を置く。

2 学術研究所に関する規程は、別にこれを定める。

(脳科学研究所)

第59条 本大学に脳科学研究所を置く。

2 脳科学研究所に関する規程は、別にこれを定める。

(量子情報科学研究所)

第60条 本大学に量子情報科学研究所を置く。

2 量子情報科学研究所に関する規程は、別にこれを定める。

(教師教育リサーチセンター)

第61条 本大学に教師教育リサーチセンターを置く。

2 教師教育リサーチセンターに関する規程は、別にこれを定める。

(国際教育センター)

第62条 本大学に国際教育センターを置く。

2 国際教育センターに関する規程は、別にこれを定める。

(ELFセンター)

第63条 本大学にELFセンターを置く。

2 ELFセンターに関する規程は、別にこれを定める。

(TAPセンター)

第64条 本大学にTAPセンターを置く。

2 TAPセンターに関する規程は、別にこれを定める。

(農場及び工場等)

第65条 本大学に試験場、農場・演習林及び工場を置く。

2 農場及び工場に関する規程は、別にこれを定める。

(全人教育研究センター及び健康教育研究センター)

第66条 本大学教育学部に全人教育研究センター及び健康教育研究センターを置く。

2 全人教育研究センター及び健康教育研究センターに関する規程は、別にこれを定める。

第15章 委託生、科目等履修生、聴講生、研究生及び外国人学生に関する事項

(委託生)

第67条 政府又は他の機関から委託された者は、定員にさしかえがなければ、受講を許可することがある。

(科目等履修生及び聴講生)

第68条 本大学で開講する授業科目のうち、一又は複数の授業科目の履修を希望する者があるときは、教授会の議を経て、科目等履修生又は聴講生として履修を許可することができる。

2 科目等履修生として履修した授業科目の単位の授与については、第16条を準用する。ただし、第23条に掲げる資格を有する者に限る。

3 科目等履修生及び聴講生の事項については、玉川大学科目等履修生及び聴講生に関する取扱要領による。

(研究生)

第69条 本大学で特定の課題について研究をすすめよう并希望する者があるときは、教授会の議を経て、研究生として在籍を許可することができる。ただし、玉川大学大学院学則第22条に掲げる資格を有する者に限る。

2 研究生の事項については、玉川大学研究生に関する取扱要領による。

(委託生に関する事項の適用除外)

第70条 委託生、科目等履修生、聴講生及び研究生には、第21条を適用しない。

(委託生等の納付金)

第71条 委託生、科目等履修生、聴講生及び研究生は、科目等履修料、聴講料又は在籍料を納付しなければならない。

2 科目等履修料及び聴講料は、1単位につき講義・演習科目33,000円、実験科目35,000円とする。

3 在籍料及び選考料については、別に定める。

(外国人学生)

第72条 外国人で本大学に入学を希望する者があるときは、在日本外国公館の証明書がある者に限り、外国人学生として特別に入学を許可することがある。

(委託生等に関する事項の大学学則の準用)

第73条 委託生、科目等履修生、聴講生、研究生及び外国人学生に関しては、本大学学則を準用する。

第16章 公開講座

(公開講座)

第74条 本大学は、時期によって公開講座を開くことができる。

2 公開講座に関する規程は、別にこれを定める。

第17章 免許法認定講習、免許法認定通信教育

(免許法認定講習、免許法認定通信教育)

第75条 本大学は、免許法認定講習、免許法認定通信教育を開くことができる。

2 免許法認定講習、免許法認定通信教育に関する規程は、別にこれを定める。

第18章 保健センター 健康院

(保健センター 健康院)

第76条 本大学に保健センター 健康院を置く。

2 保健センター 健康院に関する規程は、別に定める。

附 則

この学則は、昭和24年4月1日から施行する。

附 則(昭和27年4月1日)

この学則は、昭和27年4月1日から施行する。

附 則(昭和29年4月1日)

この学則は、昭和29年4月1日から施行する。

附 則(昭和30年4月1日)

この学則は、昭和30年4月1日から施行する。

附 則（昭和31年4月1日）

この学則は、昭和31年4月1日から施行する。

附 則（昭和33年4月1日）

この学則は、昭和33年4月1日から施行する。

附 則（昭和35年4月1日）

この学則は、昭和35年4月1日から施行する。

附 則（昭和37年4月1日）

この学則は、昭和37年4月1日から施行する。

附 則（昭和39年4月1日）

この学則は、昭和39年4月1日から施行する。

附 則（昭和42年4月1日）

この学則は、昭和42年4月1日から施行する。

附 則（昭和43年4月1日）

この学則は、昭和43年4月1日から施行する。

附 則（昭和45年4月1日）

この学則は、昭和45年4月1日から施行する。

附 則（昭和46年4月1日）

この学則は、昭和46年4月1日から施行する。

附 則（昭和47年4月1日）

この学則は、昭和47年4月1日から施行する。

附 則（昭和48年4月1日）

この学則は、昭和48年4月1日から施行する。

附 則（昭和49年4月1日）

この学則は、昭和49年4月1日から施行する。

附 則（昭和50年4月1日）

この学則は、昭和50年4月1日から施行する。

附 則（昭和51年4月1日）

この学則は、昭和51年4月1日から施行する。

ただし、第9条の規定にかかわらず、昭和51年度から昭和53年度までの間、文学部教育学科、英米文学科、外国語学科、芸術学科と農学部農学科、農芸化学科の総定員は次のとおりとする。

学部・学科	総定員		
	昭和51年度	昭和52年度	昭和53年度
文学部	1,800人	2,000人	2,200人
教育学科	450人	500人	550人
英米文学科	450人	500人	550人
外国語学科	450人	500人	550人
芸術学科	450人	500人	550人
農学部	400人	480人	560人
農学科	200人	240人	280人
農芸化学科	200人	240人	280人
計	2,200人	2,480人	2,760人

附 則（昭和52年4月1日）

この学則は、昭和52年4月1日から施行する。

附 則（昭和53年4月1日）

この学則は、昭和53年4月1日から施行する。

附 則（昭和54年4月1日）

この学則は、昭和54年4月1日から施行する。

附 則（昭和55年4月1日）

この学則は、昭和55年4月1日から施行する。

附 則（昭和56年4月1日）

この学則は、昭和56年4月1日から施行する。

附 則（昭和57年4月1日）

この学則は、昭和57年4月1日から施行する。

附 則（昭和58年4月1日）

この学則は、昭和58年4月1日から施行する。

附 則（昭和59年4月1日）

この学則は、昭和59年4月1日から施行する。

附 則（昭和60年4月1日）

この学則は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則（昭和61年4月1日）

この学則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（昭和62年4月1日）

この学則は、昭和62年4月1日から施行する。

附 則（昭和63年4月1日）

この学則は、昭和63年4月1日から施行する。

ただし、第9条の規定にかかわらず昭和63年度から昭和65年度までの間、工学部情報通信工学科の総定員は次のとおりとする。

	昭和63年度	昭和64年度	昭和65年度
総定員	230人	260人	290人

附 則（平成元年4月1日）

この学則は、平成元年4月1日から施行する。

附 則（平成2年4月1日）

この学則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則（平成3年4月1日）

この学則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則（平成3年7月1日）

この学則は、平成3年7月1日から施行する。

附 則（平成4年4月1日）

この学則は、平成4年4月1日から施行する。

ただし、第9条の規定にかかわらず平成4年度から平成11年度までの間の入学定員は次のとおりとする。

学部・学科	入学定員	学部・学科	入学定員	学部・学科	入学定員
文学部	840人	農学部	220人	工学部	400人
教育学科	210人	農学科	110人	機械工学科	100人
英米文学科	210人	農芸化学科	110人	電子工学科	100人
外国語学科	210人			情報通信工学科	100人
芸術学科	210人			経営工学科	100人

附 則（平成5年4月1日）

この学則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則（平成6年4月1日）

この学則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成7年4月1日）

この学則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則（平成8年4月1日）

この学則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則（平成9年4月1日）

この学則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則（平成10年4月1日）

この学則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則（平成11年4月1日）

この学則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則（平成12年4月1日）

この学則は、平成12年4月1日から施行する。

ただし、第9条の規定にかかわらず平成12年度から平成16年度までの間の入学定員は次のとおりとする。

学部・学科	入学定員				
	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
文学部	840人	800人	770人	770人	750人
教育学科	210人	200人	190人	190人	180人
英米文学科	210人	210人	210人	210人	210人
外国語学科	210人	200人	190人	190人	180人
芸術学科	210人	190人	180人	180人	180人
農学部	220人	220人	210人	210人	200人
農学科	110人	110人	105人	105人	100人
農芸化学科	110人	110人	105人	105人	100人
工学部	360人	360人	360人	320人	320人
機械工学科	90人	90人	90人	80人	80人
電子工学科	90人	90人	90人	80人	80人
情報通信工学科	90人	90人	90人	80人	80人
経営工学科	90人	90人	90人	80人	80人
計	1,420人	1,380人	1,340人	1,300人	1,270人

附 則（平成13年4月1日）

1 この学則は、平成13年4月1日から施行する。

2 （農学部の農学科ならびに農芸化学科の存続に関する経過措置）

農学部の農学科ならびに農芸化学科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず平成13年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第9条の規定にかかわらず平成13年度から16年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
文学部	740人	3,260人	710人	3,130人	710人	3,000人	690人	2,850人
教育学科	200人	830人	190人	810人	190人	790人	180人	760人
英米文学科	150人	780人	150人	720人	150人	660人	150人	600人
外国語学科	200人	830人	190人	810人	190人	790人	180人	760人
芸術学科	190人	820人	180人	790人	180人	760人	180人	730人
農学部	220人	880人	210人	870人	210人	860人	200人	840人
生物資源学科	110人	440人	105人	435人	105人	430人	100人	420人
応用生物化学科	110人	440人	105人	435人	105人	430人	100人	420人
工学部	360人	1,520人	360人	1,480人	320人	1,400人	320人	1,360人
機械工学科	90人	380人	90人	370人	80人	350人	80人	340人
電子工学科	90人	380人	90人	370人	80人	350人	80人	340人
情報通信工学科	90人	380人	90人	370人	80人	350人	80人	340人
経営工学科	90人	380人	90人	370人	80人	350人	80人	340人
経営学部	180人	180人	180人	360人	180人	570人	180人	780人
国際経営学科	180人	180人	180人	360人	180人	570人	180人	780人
計	1,500人	5,840人	1,460人	5,840人	1,420人	5,830人	1,390人	5,830人

附 則（平成14年4月1日）

1 この学則は、平成14年4月1日から施行する。

2 （文学部の教育学科、英米文学科、外国語学科ならびに芸術学科の存続に関する経過措置）

文学部の教育学科、英米文学科、外国語学科ならびに芸術学科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず平成14年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第9条の規定にかかわらず平成14年度から平成16年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成14年度			平成15年度			平成16年度		
	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
文学部	280人	40人	2,700人	280人	40人	2,140人	280人	40人	1,620人
人間学科	80人	10人	80人	80人	10人	160人	80人	10人	250人
国際言語文化学科	200人	30人	200人	200人	30人	400人	200人	30人	630人
教育学科	—		620人	—		410人	—		200人
英米文学科	—		570人	—		360人	—		150人
外国語学科	—		620人	—		410人	—		200人
芸術学科	—		610人	—		400人	—		190人
農学部	220人		880人	220人		880人	220人		880人
生物資源学科	110人		440人	110人		440人	110人		440人
応用生物化学科	110人		440人	110人		440人	110人		440人
工学部	360人		1,480人	320人		1,400人	320人		1,360人
機械工学科	90人		370人	80人		350人	80人		340人
電子工学科	90人		370人	80人		350人	80人		340人
情報通信工学科	90人		370人	80人		350人	80人		340人
経営工学科	90人		370人	80人		350人	80人		340人
経営学部	180人	30人	360人	180人	30人	570人	180人	30人	780人
国際経営学科	180人	30人	360人	180人	30人	570人	180人	30人	780人
教育学部	200人		200人	200人		400人	200人		600人
教育学科	200人		200人	200人		400人	200人		600人
芸術学部	190人		190人	190人		380人	190人		570人
パフォーミング・アーツ学科	110人		110人	110人		220人	110人		330人
ビジュアル・アーツ学科	80人		80人	80人		160人	80人		240人
計	1,430人	70人	5,810人	1,390人	70人	5,770人	1,390人	70人	5,810人

附 則（平成14年10月1日）

この学則は、平成14年10月1日から施行する。

この学則の施行に伴い「玉川大学専攻科通則（昭和54年制定）」を廃止する。

附 則（平成15年4月1日）

1 この学則は、平成15年4月1日から施行する。

2 第8条の規定にかかわらず平成15年度から平成17年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成15年度			平成16年度			平成17年度		
	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
文学部	435人		2,295人	435人	40人	1,930人	435人	50人	1,675人
人間学科	80人		160人	80人	10人	250人	80人	10人	340人
国際言語文化学科	200人		400人	200人	30人	630人	200人	30人	860人
リベラルアーツ学科	155人		155人	155人		310人	155人	10人	475人
教育学科	—		410人	—		200人	—		—

英米文学科	—		360人	—		150人	—		—
外国語学科	—		410人	—		200人	—		—
芸術学科	—		400人	—		190人	—		—
農学部	220人		880人	220人		880人	220人		880人
生物資源学科	110人		440人	110人		440人	110人		440人
応用生物化学科	110人		440人	110人		440人	110人		440人
工学部	320人		1,400人	320人		1,360人	320人		1,320人
機械工学科	80人		350人	80人		340人	80人		330人
電子工学科	80人		350人	80人		340人	80人		330人
情報通信工学科	80人		350人	80人		340人	80人		330人
経営工学科	80人		350人	80人		340人	80人		330人
経営学部	180人	30人	570人	180人	30人	780人	180人	30人	780人
国際経営学科	180人	30人	570人	180人	30人	780人	180人	30人	780人
教育学部	250人		450人	250人		700人	250人		950人
教育学科	200人		400人	200人		600人	200人		800人
乳幼児発達学科	50人		50人	50人		100人	50人		150人
芸術学部	190人		380人	190人		570人	190人		760人
パフォーミング・アーツ学科	110人		220人	110人		330人	110人		440人
ビジュアル・アーツ学科	80人		160人	80人		240人	80人		320人
計	1,595人	30人	5,975人	1,595人	70人	6,220人	1,595人	80人	6,365人

附 則（平成16年4月1日）

1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。

2 （工学部の機械工学科、電子工学科、情報通信工学科ならびに経営工学科の存続に関する経過措置）

工学部の機械工学科、電子工学科、情報通信工学科ならびに経営工学科は、改正後の学則第4条の規定に係わらず平成16年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第8条の規定に係わらず平成16年度から平成18年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成16年度			平成17年度			平成18年度		
	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員
文学部	435人	40人	1,930人	435人	50人	1,675人	435人	50人	1,840人
人間学科	80人	10人	250人	80人	10人	340人	80人	10人	340人
国際言語文化学科	200人	30人	630人	200人	30人	860人	200人	30人	860人
リベラルアーツ学科	155人		310人	155人	10人	475人	155人	10人	640人
教育学科	—		200人	—		—	—		—
英米文学科	—		150人	—		—	—		—
外国語学科	—		200人	—		—	—		—
芸術学科	—		190人	—		—	—		—
農学部	220人		880人	220人		880人	220人		880人
生物資源学科	130人		460人	130人		480人	130人		500人
応用生物化学科	90人		420人	90人		400人	90人		380人
工学部	320人		1,360人	320人		1,320人	320人		1,280人
機械システム学科	80人		80人	80人		160人	80人		240人
知能情報システム学科	90人		90人	90人		180人	90人		270人
メディアネットワーク	80人		80人	80人		160人	80人		240人

ク学科									
マネジメントサイエ ンス学科	70人		70人	70人		140人	70人		210人
機械工学科	—		260人	—		170人	—		80人
電子工学科	—		260人	—		170人	—		80人
情報通信工学科	—		260人	—		170人	—		80人
経営工学科	—		260人	—		170人	—		80人
経営学部	180人	30人	780人	180人	30人	780人	180人	30人	780人
国際経営学科	180人	30人	780人	180人	30人	780人	180人	30人	780人
教育学部	250人		700人	250人		950人	250人		1,000人
教育学科	200人		600人	200人		800人	200人		800人
乳幼児発達学科	50人		100人	50人		150人	50人		200人
芸術学部	190人		570人	190人		760人	190人		760人
パフォーミング・アー ツ学科	110人		330人	110人		440人	110人		440人
ビジュアル・アーツ学 科	80人		240人	80人		320人	80人		320人
計	1,595人	70人	6,220人	1,595人	80人	6,365人	1,595人	80人	6,540人

附 則（平成17年4月1日）

1 この学則は、平成17年4月1日から施行する。

2 （農学部の実用生物化学科の存続に関する経過措置）

農学部の実用生物化学科は、改正後の学則第4条の規定に係わらず平成17年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第8条の規定に係わらず平成17年度から平成19年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員
文学部	435人	50人	1,675人	435人	50人	1,840人	435人	50人	1,840人
人間学科	80人	10人	340人	80人	10人	340人	80人	10人	340人
国際言語文化学科	200人	30人	860人	200人	30人	860人	200人	30人	860人
リベラルアーツ学科	155人	10人	475人	155人	10人	640人	155人	10人	640人
農学部	250人		910人	250人		940人	250人		970人
生物資源学科	90人		440人	90人		420人	90人		400人
応用生物化学科	—		310人	—		200人	—		90人
生物環境システム学 科	60人		60人	60人		120人	60人		180人
生命化学科	100人		100人	100人		200人	100人		300人
工学部	320人		1,320人	320人		1,280人	320人		1,280人
機械システム学科	80人		160人	80人		240人	80人		320人
知能情報システム学 科	90人		180人	90人		270人	90人		360人
メディアネットワー ク学科	80人		160人	80人		240人	80人		320人
マネジメントサイエ ンス学科	70人		140人	70人		210人	70人		280人
機械工学科	—		170人	—		80人	—		—
電子工学科	—		170人	—		80人	—		—

情報通信工学科	—		170人	—		80人	—		—
経営工学科	—		170人	—		80人	—		—
経営学部	180人	30人	780人	180人	30人	780人	180人	30人	780人
国際経営学科	180人	30人	780人	180人	30人	780人	180人	30人	780人
教育学部	250人		950人	250人		1,000人	250人		1,000人
教育学科	200人		800人	200人		800人	200人		800人
乳幼児発達学科	50人		150人	50人		200人	50人		200人
芸術学部	190人		760人	190人		760人	190人		760人
パフォーミング・アーツ学科	110人		440人	110人		440人	110人		440人
ビジュアル・アーツ学科	80人		320人	80人		320人	80人		320人
計	1,625人	80人	6,395人	1,625人	80人	6,600人	1,625人	80人	6,630人

附 則（平成18年4月1日）

1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。

2 （文学部国際言語文化学科の存続に関する経過措置）

文学部国際言語文化学科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず平成18年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第8条の規定にかかわらず平成18年度から平成20年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員
文学部	365人	50人	1,770人	365人	50人	1,700人	365人	30人	1,610人
人間学科	80人	10人	340人	80人	10人	340人	80人	10人	340人
比較文化学科	130人		130人	130人		260人	130人	10人	400人
リベラルアーツ学科	155人	10人	640人	155人	10人	640人	155人	10人	640人
国際言語文化学科	—	30人	660人	—	30人	460人	—		230人
農学部	250人		940人	250人		970人	250人		1,000人
生物資源学科	90人		420人	90人		400人	90人		360人
生物環境システム学科	60人		120人	60人		180人	60人		240人
生命化学科	100人		200人	100人		300人	100人		400人
応用生物化学科	—		200人	—		90人	—		—
工学部	320人		1,280人	320人		1,280人	320人		1,280人
機械システム学科	80人		240人	80人		320人	80人		320人
知能情報システム学科	90人		270人	90人		360人	90人		360人
メディアネットワーク学科	80人		240人	80人		320人	80人		320人
マネジメントサイエンス学科	70人		210人	70人		280人	70人		280人
機械工学科	—		80人	—		—	—		—
電子工学科	—		80人	—		—	—		—
情報通信工学科	—		80人	—		—	—		—
経営工学科	—		80人	—		—	—		—
経営学部	180人	30人	780人	180人	30人	780人	180人	30人	780人
国際経営学科	180人	30人	780人	180人	30人	780人	180人	30人	780人

教育学部	250人		1,000人	250人		1,000人	250人		1,000人
教育学科	200人		800人	200人		800人	200人		800人
乳幼児発達学科	50人		200人	50人		200人	50人		200人
芸術学部	260人		830人	260人		900人	260人		970人
パフォーミング・アーツ学科	110人		440人	110人		440人	110人		440人
メディア・アーツ学科	70人		70人	70人		140人	70人		210人
ビジュアル・アーツ学科	80人		320人	80人		320人	80人		320人
計	1,625人	80人	6,600人	1,625人	80人	6,630人	1,625人	60人	6,640人

附 則（平成19年4月1日）

1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。

2 （文学部リベラルアーツ学科の存続に関する経過措置）

文学部リベラルアーツ学科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず平成19年3月31日に当該学部・学科に在学する者が当該学部・学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第8条の規定にかかわらず平成19年度から平成21年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成19年度			平成20年度			平成21年度		
	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員
文学部	210人	40人	1,535人	210人	20人	1,280人	210人	20人	1,035人
人間学科	80人	10人	340人	80人	10人	340人	80人	10人	340人
比較文化学科	130人		260人	130人	10人	400人	130人	10人	540人
リベラルアーツ学科	—		475人	—		310人	—		155人
国際言語文化学科	—	30人	460人	—		230人	—		—
農学部	250人		970人	250人		1,000人	250人		1,000人
生物資源学科	90人		400人	90人		360人	90人		360人
生物環境システム学科	60人		180人	60人		240人	60人		240人
生命化学科	100人		300人	100人		400人	100人		400人
応用生物化学科	—		90人	—		—	—		—
工学部	320人		1,280人	320人		1,280人	320人		1,280人
機械システム学科	80人		320人	80人		320人	80人		320人
知能情報システム学科	90人		360人	90人		360人	90人		360人
メディアネットワーク学科	80人		320人	80人		320人	80人		320人
マネジメントサイエンス学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
経営学部	195人		765人	195人		750人	195人		765人
国際経営学科	115人		685人	115人		590人	115人		525人
観光経営学科	80人		80人	80人		160人	80人		240人
教育学部	250人		1,000人	250人		1,000人	250人		1,000人
教育学科	200人		800人	200人		800人	200人		800人
乳幼児発達学科	50人		200人	50人		200人	50人		200人
芸術学部	260人		900人	260人		970人	260人		1,040人
パフォーミング・アーツ学科	110人		440人	110人		440人	110人		440人

メディア・アート学科	70人		140人	70人		210人	70人		280人
ビジュアル・アート学科	80人		320人	80人		320人	80人		320人
リベラルアート学部	160人		160人	160人		320人	160人		480人
リベラルアート学科	160人		160人	160人		320人	160人		480人
計	1,645人	40人	6,610人	1,645人	20人	6,600人	1,645人	20人	6,600人

附 則（平成20年4月1日）

- この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- （工学部機械システム学科、知能情報システム学科ならびにメディアネットワーク学科の存続に関する経過措置）
工学部機械システム学科、知能情報システム学科ならびにメディアネットワーク学科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず平成20年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第8条の規定にかかわらず平成20年度から平成22年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成20年度			平成21年度			平成22年度		
	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員
文学部	210人	20人	1,280人	210人	20人	1,035人	210人	20人	880人
人間学科	80人	10人	340人	80人	10人	340人	80人	10人	340人
比較文化学科	130人	10人	400人	130人	10人	540人	130人	10人	540人
リベラルアート学科	—		310人	—		155人	—		—
国際言語文化学科	—		230人	—		—	—		—
農学部	250人		1,000人	250人		1,000人	250人		1,000人
生物資源学科	90人		360人	90人		360人	90人		360人
生物環境システム学科	60人		240人	60人		240人	60人		240人
生命化学科	100人		400人	100人		400人	100人		400人
工学部	240人		1,200人	240人		1,120人	240人		1,040人
機械情報システム学科	100人		100人	100人		200人	100人		300人
ソフトウェアサイエンス学科	70人		70人	70人		140人	70人		210人
マネジメントサイエンス学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
機械システム学科	—		240人	—		160人	—		80人
知能情報システム学科	—		270人	—		180人	—		90人
メディアネットワーク学科	—		240人	—		160人	—		80人
経営学部	220人		775人	220人		815人	220人		855人
国際経営学科	130人		605人	130人		555人	130人		505人
観光経営学科	90人		170人	90人		260人	90人		350人
教育学部	290人		1,040人	290人		1,080人	290人		1,120人
教育学科	240人		840人	240人		880人	240人		920人
乳幼児発達学科	50人		200人	50人		200人	50人		200人
芸術学部	270人		980人	270人		1,060人	270人		1,070人
パフォーマンス・アート学科	120人		450人	120人		460人	120人		470人

メディア・アート学科	70人		210人	70人		280人	70人		280人
ビジュアル・アート学科	80人		320人	80人		320人	80人		320人
リベラルアート学部	160人		320人	160人		480人	160人		640人
リベラルアート学科	160人		320人	160人		480人	160人		640人
計	1,640人	20人	6,595人	1,640人	20人	6,590人	1,640人	20人	6,605人

附 則（平成21年4月1日）

この学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成22年4月1日）

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成23年4月1日）

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成24年4月1日）

この学則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成25年4月1日）

1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。

2 （経営学部観光経営学科の存続に関する経過措置）

経営学部観光経営学科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず平成25年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第8条の規定にかかわらず平成25年度から平成27年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成25年度			平成26年度			平成27年度		
	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員
文学部	210人	20人	880人	210人	20人	880人	210人	20人	880人
人間学科	80人	10人	340人	80人	10人	340人	80人	10人	340人
比較文化学科	130人	10人	540人	130人	10人	540人	130人	10人	540人
農学部	250人		1,000人	250人		1,000人	250人		1,000人
生物資源学科	90人		360人	90人		360人	90人		360人
生物環境システム学科	60人		240人	60人		240人	60人		240人
生命化学科	100人		400人	100人		400人	100人		400人
工学部	240人		960人	240人		960人	240人		960人
機械情報システム学科	100人		400人	100人		400人	100人		400人
ソフトウェアサイエンス学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
マネジメントサイエンス学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
経営学部	130人		790人	130人		700人	130人		610人
国際経営学科	130人		520人	130人		520人	130人		520人
観光経営学科	—		270人	—		180人	—		90人
教育学部	290人		1,160人	290人		1,160人	290人		1,160人
教育学科	240人		960人	240人		960人	240人		960人
乳幼児発達学科	50人		200人	50人		200人	50人		200人
芸術学部	270人		1,080人	270人		1,080人	270人		1,080人
パフォーマンス・アート学科	120人		480人	120人		480人	120人		480人

メディア・アーツ学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
ビジュアル・アーツ学科	80人		320人	80人		320人	80人		320人
リベラルアーツ学部	160人		640人	160人		640人	160人		640人
リベラルアーツ学科	160人		640人	160人		640人	160人		640人
観光学部	90人		90人	90人		180人	90人		270人
観光学科	90人		90人	90人		180人	90人		270人
計	1,640人	20人	6,600人	1,640人	20人	6,600人	1,640人	20人	6,600人

附 則（平成26年4月1日）

1 この学則は、平成26年4月1日から施行する。

2 （芸術学部メディア・アーツ学科及びビジュアル・アーツ学科の存続に関する経過措置）

芸術学部メディア・アーツ学科及びビジュアル・アーツ学科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず平成26年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第8条の規定にかかわらず平成26年度から平成28年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成26年度			平成27年度			平成28年度		
	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員
文学部	210人	20人	880人	210人	20人	880人	210人	20人	880人
人間学科	80人	10人	340人	80人	10人	340人	80人	10人	340人
比較文化学科	130人	10人	540人	130人	10人	540人	130人	10人	540人
農学部	250人		1,000人	250人		1,000人	250人		1,000人
生物資源学科	90人		360人	90人		360人	90人		360人
生物環境システム学科	60人		240人	60人		240人	60人		240人
生命化学科	100人		400人	100人		400人	100人		400人
工学部	240人		960人	240人		960人	240人		960人
機械情報システム学科	100人		400人	100人		400人	100人		400人
ソフトウェアサイエンス学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
マネジメントサイエンス学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
経営学部	130人		700人	130人		610人	130人		520人
国際経営学科	130人		520人	130人		520人	130人		520人
観光経営学科	—		180人	—		90人	—		—
教育学部	290人		1,160人	290人		1,160人	290人		1,160人
教育学科	240人		960人	240人		960人	240人		960人
乳幼児発達学科	50人		200人	50人		200人	50人		200人
芸術学部	270人		1,080人	270人		1,080人	270人		1,080人
パフォーミング・アーツ学科	130人		490人	130人		500人	130人		510人
メディア・アーツ学科	—		210人	—		140人	—		70人
ビジュアル・アーツ学科	—		240人	—		160人	—		80人
メディア・デザイン学科	90人		90人	90人		180人	90人		270人
芸術教育学科	50人		50人	50人		100人	50人		150人

音楽コース	30人		30人	30人		60人	30人		90人
美術・工芸コース	20人		20人	20人		40人	20人		60人
リベラルアーツ学部	160人		640人	160人		640人	160人		640人
リベラルアーツ学科	160人		640人	160人		640人	160人		640人
観光学部	90人		180人	90人		270人	90人		360人
観光学科	90人		180人	90人		270人	90人		360人
計	1,640人	20人	6,600人	1,640人	20人	6,600人	1,640人	20人	6,600人

附 則（平成27年4月1日）

1 この学則は、平成27年4月1日から施行する。

2 （文学部比較文化学科の存続に関する経過措置）

文学部比較文化学科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず平成27年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第8条の規定にかかわらず平成27年度から平成29年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成27年度			平成28年度			平成29年度		
	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員
文学部	160人	—	810人	160人	—	740人	160人	—	690人
人間学科	80人	—	330人	80人	—	320人	80人	—	320人
比較文化学科	—	—	400人	—	—	260人	—	—	130人
英語教育学科	80人	—	80人	80人	—	160人	80人	—	240人
農学部	285人	—	1,035人	285人	—	1,070人	285人	—	1,105人
生物資源学科	105人	—	375人	105人	—	390人	105人	—	405人
生物環境システム学科	70人	—	250人	70人	—	260人	70人	—	270人
生命化学科	110人	—	410人	110人	—	420人	110人	—	430人
工学部	240人	—	960人	240人	—	960人	240人	—	960人
機械情報システム学科	60人	—	360人	60人	—	320人	60人	—	280人
ソフトウェアサイエンス学科	60人	—	270人	60人	—	260人	60人	—	250人
マネジメントサイエンス学科	60人	—	270人	60人	—	260人	60人	—	250人
エンジニアリングデザイン学科	60人	—	60人	60人	—	120人	60人	—	180人
経営学部	130人	—	610人	130人	—	520人	130人	—	520人
国際経営学科	130人	—	520人	130人	—	520人	130人	—	520人
観光経営学科	—	—	90人	—	—	—	—	—	—
教育学部	315人	—	1,185人	315人	—	1,210人	315人	—	1,235人
教育学科	240人	—	960人	240人	—	960人	240人	—	960人
乳幼児発達学科	75人	—	225人	75人	—	250人	75人	—	275人
芸術学部	270人	—	1,080人	270人	—	1,080人	270人	—	1,080人
パフォーマンス・アーツ学科	130人	—	500人	130人	—	510人	130人	—	520人
メディア・アーツ学科	—	—	140人	—	—	70人	—	—	—
ビジュアル・アーツ学科	—	—	160人	—	—	80人	—	—	—
メディア・デザイン学	90人	—	180人	90人	—	270人	90人	—	360人

科								
芸術教育学科	50人		100人	50人		150人	50人	200人
音楽コース	30人		60人	30人		90人	30人	120人
美術・工芸コース	20人		40人	20人		60人	20人	80人
リベラルアーツ学部	160人		640人	160人		640人	160人	640人
リベラルアーツ学科	160人		640人	160人		640人	160人	640人
観光学部	90人		270人	90人		360人	90人	360人
観光学科	90人		270人	90人		360人	90人	360人
計	1,650人	—	6,590人	1,650人	—	6,580人	1,650人	— 6,590人

附 則（平成28年4月1日）

この学則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成29年4月1日）

1 この学則は、平成29年4月1日から施行する。

2 （文学部人間学科、農学部生物資源学科、生物環境システム学科及び生命化学科ならびに工学部機械情報システム学科の存続に関する経過措置）

文学部人間学科、農学部生物資源学科、生物環境システム学科及び生命化学科ならびに工学部機械情報システム学科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず平成29年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第8条の規定にかかわらず平成29年度から平成31年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成29年度			平成30年度			平成31年度		
	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員
文学部	140人		670人	140人		600人	140人		580人
国語教育学科	60人		60人	60人		120人	60人		180人
人間学科	—		240人	—		160人	—		80人
比較文化学科	—		130人	—		—	—		—
英語教育学科	80人		240人	80人		320人	80人		320人
農学部	305人		1,125人	305人		1,180人	305人		1,200人
生産農学科	165人		165人	165人		330人	165人		495人
環境農学科	70人		70人	70人		140人	70人		210人
先端食農学科	70人		70人	70人		140人	70人		210人
生物資源学科	—		300人	—		210人	—		105人
生物環境システム学科	—		200人	—		140人	—		70人
生命化学科	—		320人	—		220人	—		110人
工学部	240人		960人	240人		960人	240人		960人
情報通信工学科	60人		60人	60人		120人	60人		180人
機械情報システム学科	—		220人	—		120人	—		60人
ソフトウェアサイエンス学科	60人		250人	60人		240人	60人		240人
マネジメントサイエンス学科	60人		250人	60人		240人	60人		240人
エンジニアリングデザイン学科	60人		180人	60人		240人	60人		240人
経営学部	130人		520人	130人		520人	130人		520人
国際経営学科	130人		520人	130人		520人	130人		520人

教育学部	315人		1,235人	315人		1,260人	315人		1,260人
教育学科	240人		960人	240人		960人	240人		960人
乳幼児発達学科	75人		275人	75人		300人	75人		300人
芸術学部	270人		1,080人	270人		1,080人	270人		1,080人
パフォーミング・アーツ学科	130人		520人	130人		520人	130人		520人
メディア・デザイン学科	90人		360人	90人		360人	90人		360人
芸術教育学科	50人		200人	50人		200人	50人		200人
音楽コース	30人		120人	30人		120人	30人		120人
美術・工芸コース	20人		80人	20人		80人	20人		80人
リベラルアーツ学部	160人		640人	160人		640人	160人		640人
リベラルアーツ学科	160人		640人	160人		640人	160人		640人
観光学部	90人		360人	90人		360人	90人		360人
観光学科	90人		360人	90人		360人	90人		360人
計	1,650人	—	6,590人	1,650人	—	6,600人	1,650人	—	6,600人

附 則（平成30年4月1日）

この学則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成31年4月1日）

この学則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則（令和2年4月1日）

この学則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和3年4月1日）

1 この学則は、令和3年4月1日から施行する。

2 （芸術学部パフォーミング・アーツ学科、メディア・デザイン学科及び芸術教育学科の存続に関する経過措置）

芸術学部パフォーミング・アーツ学科、メディア・デザイン学科及び芸術教育学科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず令和3年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第8条の規定にかかわらず令和3年度から令和5年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	令和3年度			令和4年度			令和5年度		
	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員	入学定員	編入学定員 （3年次）	収容定員
文学部	140人		560人	140人		560人	140人		560人
国語教育学科	60人		240人	60人		240人	60人		240人
英語教育学科	80人		320人	80人		320人	80人		320人
農学部	295人		1,210人	295人		1,200人	295人		1,190人
生産農学科	155人		650人	155人		640人	155人		630人
環境農学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
先端食農学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
工学部	240人		960人	240人		960人	240人		960人
情報通信工学科	60人		240人	60人		240人	60人		240人
ソフトウェアサイエンス学科	60人		240人	60人		240人	60人		240人
マネジメントサイエンス学科	60人		240人	60人		240人	60人		240人
エンジニアリングデザイン学科	60人		240人	60人		240人	60人		240人

経営学部	130人		520人	130人		520人	130人		520人
国際経営学科	130人		520人	130人		520人	130人		520人
教育学部	295人		1,240人	295人		1,220人	295人		1,200人
教育学科	220人		940人	220人		920人	220人		900人
乳幼児発達学科	75人		300人	75人		300人	75人		300人
芸術学部	270人		1,080人	270人		1,080人	270人		1,080人
音楽学科	80人		80人	80人		160人	80人		240人
アート・デザイン学科	100人		100人	100人		200人	100人		300人
演劇・舞踊学科	90人		90人	90人		180人	90人		270人
パフォーマンス・アーツ学科	—		390人	—		260人	—		130人
メディア・デザイン学科	—		270人	—		180人	—		90人
芸術教育学科	—		150人	—		100人	—		50人
音楽コース	—		90人	—		60人	—		30人
美術・工芸コース	—		60人	—		40人	—		20人
リベラルアーツ学部	160人		640人	160人		640人	160人		640人
リベラルアーツ学科	160人		640人	160人		640人	160人		640人
観光学部	120人		390人	120人		420人	120人		450人
観光学科	120人		390人	120人		420人	120人		450人
計	1,650人	—	6,600人	1,650人	—	6,600人	1,650人	—	6,600人

附 則（令和4年4月1日）

この学則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則（令和5年4月1日）

1 この学則は、令和5年4月1日から施行する。

2 （工学部エンジニアリングデザイン学科の存続に関する経過措置）

工学部エンジニアリングデザイン学科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず令和5年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第8条の規定にかかわらず令和5年度から令和7年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	令和5年度			令和6年度			令和7年度		
	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
文学部	140人		560人	140人		560人	140人		560人
国語教育学科	60人		240人	60人		240人	60人		240人
英語教育学科	80人		320人	80人		320人	80人		320人
農学部	295人		1,190人	295人		1,180人	295人		1,180人
生産農学科	155人		630人	155人		620人	155人		620人
環境農学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
先端食農学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
工学部	240人		960人	240人		960人	240人		960人
情報通信工学科	60人		240人	60人		240人	60人		240人
ソフトウェアサイエンス学科	60人		240人	60人		240人	60人		240人
マネジメントサイエンス学科	60人		240人	60人		240人	60人		240人
エンジニアリングデザイン学科	—		180人	—		120人	—		60人
デザインサイエンス学科	60人		60人	60人		120人	60人		180人

経営学部	130人	520人	130人	520人	130人	520人
国際経営学科	130人	520人	130人	520人	130人	520人
教育学部	295人	1,200人	295人	1,180人	295人	1,180人
教育学科	220人	900人	220人	880人	220人	880人
乳幼児発達学科	75人	300人	75人	300人	75人	300人
芸術学部	270人	1,080人	270人	1,080人	270人	1,080人
音楽学科	80人	240人	80人	320人	80人	320人
アート・デザイン学科	100人	300人	100人	400人	100人	400人
演劇・舞踊学科	90人	270人	90人	360人	90人	360人
パフォーミング・アーツ学科	—	130人	—	—	—	—
メディア・デザイン学科	—	90人	—	—	—	—
芸術教育学科	—	50人	—	—	—	—
音楽コース	—	30人	—	—	—	—
美術・工芸コース	—	20人	—	—	—	—
リベラルアーツ学部	160人	640人	160人	640人	160人	640人
リベラルアーツ学科	160人	640人	160人	640人	160人	640人
観光学部	120人	450人	120人	480人	120人	480人
観光学科	120人	450人	120人	480人	120人	480人
計	1,650人	—	6,600人	1,650人	—	6,600人

別表第1

人材養成等教育研究に係る目的

文学部

文学部は、全人教育の理念のもと、国際社会の一員として社会に貢献できる言語運用能力と言語技術、および論理的思考力と柔軟な対応力を備えた人材養成を目指している。そのため、言語・文化に関する専門的知識、言語運用能力（日本語・英語）、論理的思考力というグローバル社会が求める基礎力を育成するための学科構成およびカリキュラム編成を行っている。

国語教育学科は、国際社会の一員であるとの自覚をもち、物事を論理的かつ批判的に思考する力を身につけ、日本語の特質について深い理解を有し、的確な言語運用能力によってグローバル社会に貢献できる人材を養成することを目的として、「言語表現コース」と「国語教員養成コース」を置く。

「言語表現コース」では、豊かな言語観・文化観と確実な言語技術を有し、論理的・批判的思考を基盤にグローバルな社会に貢献することができる人材を、「国語教員養成コース」では、社会で必要とされる実践的な国語の能力と言語文化に関する専門的な知識を駆使して授業ができる能力を十分に有し、中学校・高等学校等の教育機関における国語教育に貢献することができる人材を養成する。

英語教育学科は、「英語教員養成コース」と「E L Fコミュニケーションコース」の2領域で構成され、グローバル化に伴う言語や文化の多様化に対応できる資質・能力を育成することを目指し、国際コミュニケーションのための英語運用能力を身につけることを共通目標としている。「英語教員養成コース」では、英語教員に求められる豊かな言語観・文化観と指導力を、「E L Fコミュニケーションコース」では、国際共通語としての英語コミュニケーション能力を育成し、積極的に国際社会に貢献することのできる人材を養成する。

農学部

農学部は、これからの日本に求められる国際競争力の維持・向上、活力ある地域社会の構築という重要課題に「農学」という「食」、「環境」、「健康」に直結する学問領域を通じて、果敢に取り組み、問題を発見・解決する意欲と実行力のある人材の養成を目的とする。実物教育、総合的・学際的視点、国際性、倫理観の4つを重視する教育・研究を展開し、「生産農学」、「環境農学」、「先端食農」という広い視野で農学全般を捉えることを特色とする。これらを通じ、科学の基本である「なぜ？」という鋭い視点を持つ知的好奇心旺盛な人材育成を達成する。

生産農学科は、あらゆる生物を人間生活の貴重な「資源」としてとらえ、生物の持つ機能や特性を分子から個体の視点で追究できる人材の養成を行う。具体的には、有用微生物や有用天然物の探索、遺伝子組換え・昆

虫の飼育・植物の栽培などの理論と技術を学修後、新機能の開発に結びつく研究を進める。これらの学修を通じて「生命の尊厳」・「他の生物との共存」などの倫理観を培い、食と農の安全安心に貢献できる人材育成を目指す。また、生産農学科は教員を養成するプログラムを設けており、中学・高等学校（理科）及び高等学校（農業）教員を育成する。

環境農学科は、「環境」を中心に「自然、農業、社会のつながり」をよく理解し、国際性と地域性の多様なセンスを兼ね備え、「持続可能な開発目標、SDGs」の達成に貢献できる人材の養成を行う。具体的には、農学に関する分野・諸問題に強い興味や取り組む意欲を持ち、理論的学修と実践的・体験型学修を組み合わせた「環境」理解に基づいて、さまざまな問題解決に必要となる主体性と協調性を身につけた人材を育成する。

先端食農学科は、食料や食品の安全性や信頼性に関心が高まる中、既存の農業を越えた新たな食料生産のしくみや食品の機能性、食品製造にかかわる専門的な知識と実践的な能力を身に付けた人材を養成することを目的とする。植物工場や陸上養殖など最先端のシステム化された食料生産に関する知識や能力を修得し、また食品の機能性や安全性、食品の製造・加工に関する知識や能力を習熟できる学修環境の提供を通じて、食料生産、食品加工の現場で活躍できる人材を養成する。

工学部

工学部では全人教育の下、人間力を備えたモノづくりの実践的技術者を育成することをミッションとしている。教育研究に取り組む学部的基本的なスタンスとして、「技術者は、技術の進歩を追求する技術者である前に、人間であることを希求すること」「失敗を恐れず人生の開拓者として絶えず夢に挑戦する技術者であること」「現状の正しい認識の上に、常に将来を見据えた前向きな姿勢で迅速な改革に取り組むこと」を前提に実技教育、労作教育を展開する。また自然尊重、地球環境に留意し環境教育を実践する。その結果、社会人として十分な品格を持った人間性豊かで、コミュニケーション力、問題発見・解決能力を備え、環境にも配慮した新たな価値を創造できる技術者の育成に努める。

情報通信工学科では、人と人とをつなぐコミュニケーション能力と技術を身につけ、現代のグローバルな情報化社会で活躍できる正しい倫理観をもつ人材を育成する。特に、社会におけるさまざまな物やシステムの情報制御技術、対人サービスのための知能ロボット、クラウドコンピューティングにおけるビッグデータ解析などのデータサイエンス、情報セキュリティおよび高速通信技術といった、時代に即した技術イノベーションの基礎を学ぶ。

ソフトウェアサイエンス学科では、現代社会のインフラストラクチャーとして、生活に不可欠なコンピュータやネットワークを支えるソフトウェア技術を習得した高度情報社会を支える技術者を育成する。教育目標は、ソフトウェア技術およびこれによって実現している身近な携帯電話、ゲーム機、デジカメ、ビデオ、家電製品、自動車などのさまざまな技術を、総合的に修得し、健全な技術として発展させられる見識を持った全人的技術者を育成することにある。

マネジメントサイエンス学科では、教育目標として科学的なアプローチを中心に激変する企業経営に対応できる人材育成を目指している。さらに実践的な経営者・技術者として必要な倫理観を備えた人材の育成、問題発見能力、問題解決能力、評価能力を備える人材の育成を目指している。また社会が求める新たな価値創造のできる実践的な経営者・管理者・技術者の知識が獲得できるように教育プロセスの改善を教員が推進する。

デザインサイエンス学科では、解が一つに定まらない社会の課題に対し、機械工学分野を中心とした科学、技術を活用して、実現可能な解を見つけることができる「デザイン能力」を有する技術者の育成を目的とする。物理学や数学のような自然科学および人間中心の社会を実現する工学に関する学問と、様々な社会科学・人文科学の知識・技術を融合し、社会の一員として地球環境・人類にとって有益となる社会の仕組みや製品を科学的な視点によって生み出すことができる人材を育成する。

情報通信工学科、ソフトウェアサイエンス学科、マネジメントサイエンス学科、デザインサイエンス学科は、数学教員養成プログラムを持つ。1年次から数学を専門として学び、数学の深い知識と幅広い教授法を身につけた数学教員を養成する。

経営学部

経済・社会のグローバル化により、すでに海外進出をしている企業だけでなく国内市場を相手にしてきた企業も基本的な経営資源であるヒト・モノ・カネ・情報が国境を越えて移動することを前提にした経営を考える必要がある。世界の各地域には企業経営やビジネス慣行における独自性が残っているが、グローバル化の進展でそれらの標準化が急速に進んでおり、その動きを背景にして世界の経営学教育も日々進歩し標準化が進展している。またグローバル化の波はトランスナショナル企業を出現させ、国内においては生産の海外移転を加速させている。競争に耐えられない企業が整理される一方で、新たな成長の牽引役となる企業がイノベーション

を生み出していくことが喫緊の課題となっている。

経営学部では国際経営学科に3つのコースを設けて専門性を高めると同時に世界標準で主要科目の学修を進めることで、グローバル化に主体的に取り組む実践力と情報発信できる英語コミュニケーション力を修得し、ビジネスを通して社会の要請に応え世界に貢献できる人材の養成を目指す。

教育学部

教育学部は、全人教育の理念に基づき、幅広い知識と理解の深化、社会の変化やニーズに対応できる総合的かつ汎用的な技能や諸能力の体得、平和で豊かな社会の実現に積極的に寄与できる態度・志向性の涵養、そして専攻する分野における幅広く深い専門力、創造的思考力、実践的指導力の醸成を目指す人材養成等の教育研究を行うことで、人間や社会への理解や敬愛、規範意識・倫理観、教育や職務への使命感・責任感、自ら研鑽に努める意欲、実社会におけるリーダーシップ、それらを総合的に活用し自ら課題を解決する能力等を有する教員・保育士ならびに社会人を世に輩出する。

教育学科は、玉川教師訓を踏まえ、主として幼稚園、小・中・高等学校教育に関する専門的知識・技能、実践的な指導力を併せ持つ教員の養成とともに、教育関連分野をはじめとする幅広い分野に貢献できる人材の養成を目指す。

乳幼児発達学科は、玉川教師訓を踏まえ、教育・保育に関する専門的知識・技能、実践的な指導力を併せ持つ教員・保育士の養成とともに、社会のニーズに応えられる子育て支援に関わる人材の養成を目指す。

芸術学部

芸術学部は、本学創立の理念である全人教育のもと、全人的な人格陶冶と総合大学における芸術学部の特色を生かした芸術教育を目指している。芸術の各専門領域における理論と技能を体系的・実践的に学び、創造力・論理的思考力・マネジメント能力・協働力を培い、実行力と人間力を兼ね備えた「芸術による社会貢献」を推進しうる人材の養成を目的とする。

音楽学科は、音楽の体系的理解に基づき、現代社会における上演芸術及び音楽教育の役割を学修し、音楽における総合実践力、コミュニケーション力及びマネジメント力を有して社会に貢献できる人材を養成する。

アート・デザイン学科は、予測困難な未来において、美術、デザインおよびメディアアートの役割を理解し、多文化・異分野と関連させ、共に新しい発想や芸術表現に挑戦し、問題を解決するプロセスに参画できる人材を養成する。

演劇・舞踊学科は、上演芸術の理論や歴史および創造プロセスを多角的に学修し、上演芸術の価値および社会における使命や役割について説くことができ、創造の現場および社会に貢献する人材を養成する。

リベラルアーツ学部

リベラルアーツ学部では、「幅広く深い教養および総合的な判断力を養い、豊かな人間性を涵養する」ための教育を推進し、将来のキャリア形成を意識しながら、「学際的教養教育」かつ「知の基盤」の充実を図ることを目指しています。さらに、価値観の多様化・複雑化した現代社会では、時代の変化に柔軟に対応しつつ、調和の取れたコミュニケーション能力のある人材が求められており、その実現に向けて、実験・実習・調査・フィールドワークなどの体験型学修を積極的に取り入れ、地域や企業との連携を図り、社会的経験を積みながら「コミュニティの知的リーダー」となる人材の育成に努めています。具体的には、次のような学生を育てていくことを心掛けています。

- (1) 広い視野、判断力、考え抜く問題解決能力があり、積極的かつ協力して社会に関わっていけるコミュニティのリーダーになれる人。
- (2) 基礎基本を土台に専門性を身につけ、様々なプロジェクトを実践・推進できる人。
- (3) 英語力・日本語力・デジタルコミュニケーション力があり、わが国の文化を様々なかたちで世界に発信できる人。
- (4) 生涯教育を可能にする「ラーニング・コミュニティ」を意識し、生涯にわたり学び続ける気持ちを持ち、社会にその知識を還元・推進できる人。

観光学部

観光学部ではグローバル時代におけるツーリズムを通じて、社会の持続的発展に広く貢献できる人材の養成を目指す。

具体的には、組織経営の知識、情報分析力、課題発見力、問題解決力、異文化適応力、コミュニケーション能力を駆使してツーリズムの意義と役割及び諸課題を洞察し、持続的に成長・発展する社会の実現に貢献できる人材を養成する。

ツーリズムと組織経営について、その基礎基本となる知識を体系的に学修し、そこで修得した知見を基に、

幅広い観点からツーリズムという現象の意義や役割を理解する。さらに現状の諸課題を社会科学的な方法論に基づいて認識し、社会の持続的な成長や発展につながる解決策を提示できる能力を培う。

グローバル時代の観光・ホスピタリティ産業にあつては、国際共通語としての英語力はコミュニケーション能力の一部として必須であるとの前提にたち、その高度な運用力の修得を図る。また、自らの歴史や文化、伝統のアイデンティティを十分に理解した上で、異文化理解・適応力に代表される多様な価値観と共生できる力を培う教育・研究を行う。

教育課程は、「ツーリズムと組織経営全般に関する知識」を体系的に修得させることと、「英語運用力」の向上を図ることを主軸として編成されている。この教育課程を通して、「人的ネットワークを構築する力」「情報分析力」「異文化理解・適応力」「社会的責任と倫理観」「洞察力和問題解決力」などを身につけた「国の内外でツーリズムと社会の持続可能な発展に貢献できる人材」を養成する。

ユニバーシティ・スタンダード科目

	授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
玉川教育・FYE科目群	一年次セミナー 101	2	必修	
	一年次セミナー 102	2	必修	
	玉川の教育	0.3	必修	
	健康教育	1	必修	
	音楽 I	0.7	必修	
	音楽 II	1	必修	
	全人教育論	2	選択	
	ピアリーダー	2	選択	
	二年次セミナー 201	2	選択	
	二年次セミナー 202	2	選択	
	三年次セミナー 301	2	選択	
	三年次セミナー 302	2	選択	
人文科学科目群	文化人類学	2	選択	
	民俗学入門	2	選択	
	美術史	2	選択	
	ことばと文化	2	選択	
	比較文化論	2	選択	
	英語学	2	選択	
	歴史（世界）	2	選択	
	歴史（日本）	2	選択	
	日本文学	2	選択	
	日本学入門	2	選択	
	日本語学	2	選択	
	音楽史	2	選択	
	哲学	2	選択	
	倫理学	2	選択	
	ロジック	2	選択	
	宗教学	2	選択	
	世界の宗教と文化	2	選択	
	演劇史	2	選択	
	人文科学アカデミックスキルズ（ライティング）	1	選択	
	人文科学アカデミックスキルズ（リーディング）	1	選択	
	外国文学	2	選択	
	科学史	2	選択	
	キリスト教学	2	選択	
	名著講読（人文科学）	1	選択	
	Modern Japanese History	2	選択	
	Japanese Pop Culture	2	選択	
	Japanology	2	選択	
	East Asian History	2	選択	
	Issues in Japanese Studies A	2	選択	
	Issues in Japanese Studies B	2	選択	
社会科学科目群	会計学	2	選択	
	経営学	2	選択	
	マーケティング	2	選択	
	コミュニケーション論	2	選択	
	経済学（国際経済を含む。）	2	選択	
	ボランティア概論	2	選択	
	市民社会と法	2	選択	
	政治学（国際政治を含む。）	2	選択	
	ポリティカル・サイエンス	2	選択	
	心理学	2	選択	
	社会学	2	選択	
	観光学入門	2	選択	
	社会科学アカデミックスキルズ（ライティング）	1	選択	
	社会科学アカデミックスキルズ（リーディング）	1	選択	

	授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
社会科学科目群	Academic Communication	2	選択	
	国際関係論	2	選択	
	科学技術社会論	2	選択	
	名著講読（社会科学）	1	選択	
	現代社会の教育課題	2	選択	
自然科学科目群	生物学入門	2	選択	
	化学入門	2	選択	
	環境科学	2	選択	
	情報科学入門	2	選択	
	データ処理	2	選択	
	ネットワーク入門	2	選択	
	マルチメディア表現	2	選択	
	STEM入門（科学と社会）	2	選択	
	解析学入門	2	選択	
	数学入門	2	選択	
	代数学入門	2	選択	
	物理学入門	2	選択	
	科学入門	2	選択	
	統計学入門	2	選択	
	自然科学アカデミックスキルズ（ライティング）	1	選択	
	自然科学アカデミックスキルズ（リーディング）	1	選択	
	人工知能と社会	2	選択	
	実践の物理学	2	選択	
	宇宙科学	2	選択	
	エネルギー科学	2	選択	
	地球科学	2	選択	
	名著講読（自然科学）	1	選択	
学際科目群	マクロ脳科学	2	選択	
	ミクロ脳科学	2	選択	
	マスメディアと社会	2	選択	
	インターンシップ A	2	選択	
	インターンシップ B	2	選択	
	インターンシップ C	1	選択	
	インターンシップ D	1	選択	
	環境教育	2	選択	
	環境教育ワークショップ I	2	選択	
	SAE（海外留学・研修）プログラム A	1	選択	
	SAE（海外留学・研修）プログラム B	1	選択	
	SAE（海外留学・研修）プログラム C	2	選択	
	SAE（海外留学・研修）プログラム D	2	選択	
	SAE（海外留学・研修）プログラム E	3	選択	
	SAE（海外留学・研修）プログラム F	3	選択	
	SAE（海外留学・研修）プログラム G	4	選択	
	SAE（海外留学・研修）プログラム H	4	選択	
	SAE（海外留学・研修）プログラム I	5	選択	
	SAE（海外留学・研修）プログラム J	5	選択	
	海外留学入門	2	選択	
	国際研究 A	2	選択	
	国際研究 B	2	選択	
	国際研究 C	2	選択	
	国際研究 D	3	選択	
	国際研究 E	4	選択	
	国際研究 F	5	選択	
	情報倫理と社会	2	選択	
	TAPファシリテーション I	2	選択	
	TAPファシリテーション II	2	選択	

ユニバーシティ・スタンダード科目

	授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
学 際 科 目 群	地域創生プロジェクト A	1	選択	
	地域創生プロジェクト B	1	選択	
	地域創生プロジェクト C	2	選択	
	地域創生プロジェクト D	2	選択	
	地域創生プロジェクト E	3	選択	
	地域創生プロジェクト F	3	選択	
	フィールドワーク A	2	選択	
	フィールドワーク B	2	選択	
	フィールドワーク C	2	選択	
	プレゼンテーションスキル	2	選択	
	健康スポーツ理論	2	選択	
	生涯スポーツ演習	2	選択	
	コーオプ・プログラム	2	選択	
	野外教育	2	選択	
	環境教育ワークショップ II	2	選択	
	スポーツ史	2	選択	
	Presentation Skills in English	2	選択	
	複合領域研究 201～299	2	選択	
	数理・データサイエンス・AIリテラシー	2	選択	
	現代文化論	2	選択	
	キャリア・マネジメント	2	選択	
	栄養学	2	選択	
	病理学	2	選択	
言 語 表 現 科 目 群 □	Japan Studies Overseas A	2	選択	
	Japan Studies Overseas B	2	選択	
	Japan Studies Overseas C	2	選択	
	ELF 101	4	選択	
	ELF 102	4	選択	
	フランス語 101	2	選択	
	フランス語 102	2	選択	
	ドイツ語 101	2	選択	
	ドイツ語 102	2	選択	
	日本語表現 101	2	選択	
	日本語表現 102	2	選択	
	スペイン語 101	2	選択	
	スペイン語 102	2	選択	
	中国語 101	2	選択	
	中国語 102	2	選択	
	ELF 201	4	選択	
	ELF 202	4	選択	
	ELF 301	4	選択	
	ELF 302	4	選択	
	ELF 401	4	選択	
	ELF 402	4	選択	
教 職 関 連 科 目 群	教育原理	2	選択	
	教育哲学	2	選択	
	教職概論	2	選択	
	教育の制度と経営	2	選択	
	教育社会学	2	選択	
	学習・発達論	2	選択	
	教育心理学	2	選択	
	発達心理学	2	選択	
	特別支援教育	1	選択	
	教育課程編成論	2	選択	
	道德教育の理論と方法	2	選択	
	総合的な学習の時間の理論と方法	1	選択	
	特別活動の理論と方法	1	選択	
	教育方法・技術論	1	選択	

	授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
教 職 関 連 科 目 群	ICT活用の理論と実践	1	選択	
	生徒・進路指導の理論と方法	2	選択	
	教育相談の理論と方法	2	選択	
	教育実習（中・高）	5	選択	
	教育実習（高等学校）	3	選択	
	教育実習（副）	3	選択	
	教職実践演習	2	選択	
	異文化理解と教育	2	選択	
	生命と性の教育	2	選択	
	精神保健	2	選択	
	教職演習 A	1	選択	
	教職演習 B	1	選択	
	教育インターンシップ A	2	選択	
	教育インターンシップ B	2	選択	
	教育インターンシップ C	1	選択	
	教育インターンシップ D	1	選択	
	日本国憲法	2	選択	
	体育	1	選択	
資 格 関 連 科 目 群	生涯学習概論	2	選択	
	生涯学習と生涯教育	2	選択	
	情報メディアの活用	2	選択	
	学校経営と学校図書館	2	選択	
	学校図書館メディアの構成	2	選択	
	児童サービス論	2	選択	
	情報サービス論	2	選択	
	図書・図書館史	1	選択	
	図書館概論	2	選択	
	図書館サービス概論	2	選択	
	図書館施設論	1	選択	
	図書館情報技術論	2	選択	
	図書館情報資源概論	2	選択	
	図書館情報資源特論	1	選択	
	図書館制度・経営論	2	選択	
	社会教育課題研究	2	選択	
	社会教育経営論 A	2	選択	
	社会教育経営論 B	2	選択	
	社会教育実習	2	選択	
	生涯学習支援論 A	2	選択	
	生涯学習支援論 B	2	選択	
	社会体育論	2	選択	
	情報資源組織演習 A	1	選択	
	情報資源組織演習 B	1	選択	
	情報資源組織演習 C	2	選択	
	情報資源組織論	2	選択	
	読書と豊かな人間性	2	選択	
	博物館概論	2	選択	
	博物館教育論	2	選択	
	博物館経営論	2	選択	
	博物館情報・メディア論	2	選択	
	博物館資料保存論	2	選択	
	博物館資料論	2	選択	
	博物館展示論	2	選択	
	学習指導と学校図書館	2	選択	
	情報サービス演習 A	1	選択	
	情報サービス演習 B	1	選択	
	情報サービス演習 C	2	選択	
	博物館実習	3	選択	

別表第2－①

国語教育学科科目

授業科目名	単位	履修条件		卒業要件
		国語教員	言語表現	
言語表現入門 A	2	必修	必修	
日本文学概論	2	必修	必修	
言語表現入門 B	2	必修	必修	
学術情報リテラシー	2	選択	選択	
キャリアナビゲーション	1	選択	選択	
現代社会の諸問題	2	選択	必修	
日本文学史	2	必修	選択	
漢文学	2	必修	選択	
日本語文法論 I	2	必修	選択	
日本語文法論 II	2	選択	選択	
日本古典文学演習	2	必修	選択	
日本近代文学演習	2	選択	選択	
書写	2	必修	選択	
国語科指導法 I	2	必修	選択	
異文化間コミュニケーション	2	選択	選択	
世界文学	2	選択	選択	
メディアと文化表現	2	選択	選択	
ロジカルシンキング	2	選択	必修	
クリティカルシンキング	2	選択	必修	
クリティカルリーディング	2	選択	必修	
議論ストラテジー	2	選択	必修	
スクールインターンシップ A	2	選択	選択	
スクールインターンシップ B	2	選択	選択	
インターンシップ A	2	選択	選択	
インターンシップ B	1	選択	選択	
インターンシップ C	2	選択	選択	
インターンシップ D	1	選択	選択	
キャリアセミナー A	2	必修	必修	
国語科指導法 II	2	必修	選択	
日本語語彙論	2	選択	選択	
キャリアセミナー B	2	必修	必修	
日本古典文学研究	2	選択	選択	
日本近代文学研究	2	選択	選択	
日本語史	2	選択	選択	
日本語学演習	2	選択	選択	
日本語音韻論	2	選択	選択	
ランゲージアーツセミナー A	2	選択	選択	
ランゲージアーツセミナー B	2	選択	選択	
教育現場研究	2	選択	選択	
現代思想と言語	2	選択	選択	
テクノロジーと言語	2	選択	選択	
英語で読む日本文学	2	選択	選択	
広告と言語	2	選択	選択	

授業科目名	単位	履修条件		卒業要件
		国語教員	言語表現	
プレゼンテーション技法	2	選択	選択	
情報編集デザイン	2	選択	選択	
読み書きの認知と指導	2	選択	選択	
スクールインターンシップ C	2	選択	選択	
スクールインターンシップ D	2	選択	選択	
国語科指導法 III	2	選択	選択	
国語科指導法 IV	2	選択	選択	
レトリック探究	2	選択	選択	
音声表現法研究	2	選択	選択	
日本語学研究	2	選択	選択	
言語表現教育研究	2	選択	選択	
批評理論	2	選択	選択	
ランゲージアーツセミナー C	2	選択	選択	
ランゲージアーツセミナー D	2	選択	選択	
ランゲージアーツプロジェクト	2	選択	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第2-①

英語教育学科科目

授業科目名	単位	履修条件		卒業要件
		英語 教員	E L F	
Basic Academic English Skills A	2	必修	必修	
English Phonetics	1	必修	必修	
Overseas Study A	2	選択	選択	
Overseas Study B	2	選択	選択	
Overseas Study C	2	選択	選択	
Basic Academic English Skills B	2	必修	必修	
日本語表現演習	2	選択	必修	
English Grammar	2	必修	必修	
World Studies	2	必修	必修	
Pre-departure Seminar	1	必修	必修	
Introduction to Language Studies	2	必修	必修	
英語科指導法 I	2	選択	選択	
British and American Literature	2	必修	必修	
Internship A	2	選択	選択	
Internship B	2	選択	選択	
Internship C	2	選択	選択	
School Internship A	2	選択	選択	
School Internship B	2	選択	選択	
School Internship C	2	選択	選択	
English for Intercultural Communication A	4	選択	選択	
Intercultural Communication A	4	選択	選択	
English for General Communication A	2	選択	選択	
English for General Communication B	2	選択	選択	
Integrated English Language Skills	2	選択	選択	
Academic English Skills A	2	選択	選択	
English for Intercultural Communication B	4	選択	選択	
Intercultural Communication B	4	選択	選択	
Studies in ELT	4	選択	選択	
Studies in ELF Communication	4	選択	選択	

授業科目名	単位	履修条件		卒業要件
		英語 教員	E L F	
Academic English Skills B	2	選択	選択	
English for Writing Research Papers	2	選択	選択	
Strategies for Global Communication	2	選択	選択	
English in Global Contexts	2	必修	必修	
Multiculturalism in English-speaking Areas	2	必修	必修	
英語科指導法 II	4	選択	選択	
Global Communication	2	選択	選択	
Current Issues in Applied Linguistics	2	選択	選択	
Regional Studies	2	選択	選択	
Research Seminar A	2	必修	必修	
Language Testing	2	選択	選択	
Special Studies in American Literature	2	選択	選択	
Language Teaching in Asia	2	選択	選択	
Language and Society	2	選択	選択	
Speaking Workshop	2	選択	選択	
Special Studies in British Literature	2	選択	選択	
Issues in Second Language Acquisition	2	選択	選択	
Issues in Applied Linguistics	2	選択	選択	
Issues in International Mobility A	2	選択	選択	
Project Management Workshop	2	選択	選択	
Research Seminar B	1	必修	必修	
英語科指導法 III	2	選択	選択	
Issues in International Mobility B	2	選択	選択	
Issues in English Linguistics	2	選択	選択	
Research Seminar C	2	必修	必修	
Teaching English to Children	2	選択	選択	
Language through Contemporary English Literature	2	選択	選択	
Career English	2	選択	選択	
Senior Project	2	必修	必修	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第2-①

生産農学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
化学 A	2	必修	
生物学 A	2	必修	
生物統計学 A	2	必修	
科学と教育	2	必修	
環境と農業	2	必修	
基礎生物学実験	2	必修	
生産農学セミナー	1	必修	
化学 B	2	必修	
生物学 B	2	必修	
基礎化学実験	2	必修	
フィールド実習 A	2	必修	
有機化学 A	2	必修	
分析化学	2	必修	
生態学	2	必修	
農業マーケティング論	2	選択	
植物形態学	2	選択	
昆虫資源学	2	選択	
細胞生物学	2	選択	
生物多様性論	2	選択	
応用動物利用学	2	選択	
フィールド実習 B	2	選択	
有機化学 B	2	選択	
物理学	2	選択	
理科指導法 I	2	選択	
職業指導（農業） I	2	選択	
農業科指導法 I	2	選択	
生化学	2	必修	
生物統計学 B	2	必修	
生物化学実験	2	必修	
分子生物学	2	必修	
分類学	2	選択	
動物生理学	2	選択	
動物行動学	2	選択	
作物学	2	選択	
微生物学	2	選択	
脳と動物	2	選択	
地学	2	選択	
地学実験	1	選択	
物理学実験	1	選択	
理科指導法 II	2	選択	
職業指導（農業） II	2	選択	
農業科指導法 II	2	選択	
樹木学	2	選択	
専門実験・実習 A	2	必修	
応用微生物学	2	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
ゲノム科学	2	選択	
植物病理学	2	選択	
分子構造解析論	2	選択	
緑地保全学	2	選択	
食品製造	2	選択	
野外活動指導法	2	選択	
理科指導法 III	2	選択	
遺伝子工学	2	選択	
専門実験・実習 B	2	必修	
生産農学演習 A	2	必修	
天然物化学	2	選択	
植物育種学	2	選択	
昆虫学	2	選択	
果樹園芸学	2	選択	
畜産学	2	選択	
有機合成化学	2	選択	
植物生理学	2	選択	
フィールド実習 C	2	選択	
生物実験スキル	2	選択	
化学実験スキル	2	選択	
食品製造実習	1	選択	
理科指導法 IV	2	選択	
農薬化学	2	選択	
生産農学演習 B	2	必修	
卒業研究 A	2	必修	
生産農学演習 C	2	必修	
卒業研究 B	2	必修	
卒業研究論文	2	選択	
教材研究	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

生産農学科 中・高（理科教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
生産農学科理科教育コース科目	1 年次	基礎生物学実験	2	必修
		化学 B	2	必修
		生物学 B	2	必修
		基礎化学実験	2	必修
		有機化学 A	2	必修
	2 年次	分析化学	2	選択
		細胞生物学	2	選択
		物理学	2	必修
		理科指導法 I	2	必修
		生化学	2	必修
		生物統計学 B	2	必修
		分子生物学	2	選択
		動物行動学	2	選択
		地学	2	必修
		地学実験	1	必修
		物理学実験	1	必修
		理科指導法 II	2	必修
	3 年次	理科指導法 III	2	必修
		生物実験スキル	2	選択
		化学実験スキル	2	選択
		理科指導法 IV	2	必修
	小計（21科目）		40	—
生産農学科理科教育コース関連科目	1 年次	化学 A	2	選択
		生物学 A	2	選択
		生物統計学 A	2	選択
		科学と教育	2	選択
	2 年次	生態学	2	選択
		生物多様性論	2	選択
		脳と動物	2	選択
	3 年次	ゲノム科学	2	選択
		分子構造解析論	2	選択
		天然物化学	2	選択
		有機合成化学	2	選択
	4年次	教材研究	2	必修
	小計（12科目）		24	—

理科の「教科及び教科の指導法に関する科目」

理科の関連科目

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
生産農学科理科教育コース以外の科目	1 年次	環境と農業	2	選択
		生産農学セミナー	1	必修
		フィールド実習 A	2	必修
	2 年次	農業マーケティング論	2	選択
		植物形態学	2	選択
		昆虫資源学	2	選択
		応用動物利用学	2	選択
		フィールド実習 B	2	選択
		有機化学 B	—	—
		職業指導（農業） I	2	選択
		農業科指導法 I	2	選択
		生物化学実験	—	—
		分類学	2	選択
		動物生理学	2	選択
		作物学	2	選択
		微生物学	2	選択
		職業指導（農業） II	2	選択
		農業科指導法 II	2	選択
		樹木学	2	選択
	3 年次	専門実験・実習 A	—	—
		応用微生物学	2	選択
		植物病理学	2	選択
		緑地保全学	2	選択
		食品製造	2	選択
		野外活動指導法	2	選択
		遺伝子工学	2	選択
		専門実験・実習 B	—	—
		生産農学演習 A	—	—
		植物育種学	2	選択
		昆虫学	2	選択
		果樹園芸学	2	選択
		畜産学	2	選択
		植物生理学	2	選択
		フィールド実習 C	2	選択
		食品製造実習	1	選択
		農薬化学	2	選択
	4 年次	生産農学演習 B	—	—
		卒業研究 A	—	—
		生産農学演習 C	—	—
		卒業研究 B	—	—
		卒業研究論文	—	—
	小計（41科目）		60	—

農業の「教科及び教科の指導法に関する科目」

農業の関連科目

生産農学科 高（農業教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1年次	環境と農業 フィールド実習 A	2 2	選択 必修
生産農学科農業教育コース科目	2年次	農業マーケティング論	2	選択
		応用動物利用学	2	選択
		フィールド実習 B	2	選択
		職業指導（農業）Ⅰ	2	必修
		農業科指導法Ⅰ	2	必修
		分類学	2	選択
		動物生理学	2	選択
		作物学	2	選択
		職業指導（農業）Ⅱ	2	選択
		農業科指導法Ⅱ	2	必修
	3年次	樹木学	2	選択
		植物病理学	2	選択
		緑地保全学	2	選択
		食品製造	2	選択
		野外活動指導法	2	選択
		遺伝子工学	2	選択
		植物育種学	2	選択
		果樹園芸学	2	選択
		植物生理学	2	選択
		フィールド実習 C	2	選択
		食品製造実習	1	選択
		農業化学	2	選択
	小計（24科目）		47	—
生産農学科農業教育コース 関連科目	1年次	科学と教育	2	選択
	2年次	植物形態学	2	選択
		昆虫資源学	2	選択
		微生物学	2	選択
		脳と動物	2	選択
	3年次	応用微生物学	2	選択
		昆虫学	2	選択
		畜産学	2	選択
	4年次	教材研究	2	必修
	小計（9科目）		18	—

農業の「教科及び教科の指導法に関する科目」

農業の関連科目

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1年次	化学 A 生物学 A 生物統計学 A 基礎生物学実験 生産農学セミナー 化学 B 生物学 B 基礎化学実験 有機化学 A	2 2 2 2 1 2 2 2 2	選択 選択 選択 必修 必修 必修 必修 必修 必修
生産農学科農業教育コース以外の科目	2年次	分析化学 生態学 細胞生物学 生物多様性論 有機化学 B 物理学 理科指導法Ⅰ 生化学 生物統計学 B 生物化学実験 分子生物学 動物行動学 地学 地学実験 物理学実験 理科指導法Ⅱ	2 2 2 2 — 2 2 2 2 — 2 2 2 1 1 2	選択 選択 選択 選択 — 選択 選択 必修 必修 — 選択 選択 選択 選択 選択 選択
	3年次	専門実験・実習 A ゲノム科学 分子構造解析論 理科指導法Ⅲ 専門実験・実習 B 生産農学演習 A 天然物化学 有機合成化学 生物実験スキル 化学実験スキル 理科指導法Ⅳ	— 2 2 2 — — 2 2 2 2 2	— 選択 選択 選択 — — 選択 選択 選択 選択 選択
	4年次	生産農学演習 B 卒業研究 A 生産農学演習 C 卒業研究 B 卒業研究論文	— — — — —	— — — — —
		小計（41科目）	59	—

理科の「教科及び教科の指導法に関する科目」

理科の関連科目

生産農学科 (理科教育コース・農業教育コースを除く)

生産農学科科目 (理科教育コース・農業教育コースを除く)	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
	1年次	化学 A	2	必修
		生物学 A	2	必修
		生物統計学 A	2	必修
		科学と教育	2	必修
		環境と農業	2	必修
		基礎生物学実験	2	必修
		生産農学セミナー	1	必修
		化学 B	2	必修
		生物学 B	2	必修
		基礎化学実験	2	必修
		フィールド実習 A	2	必修
		有機化学 A	2	必修
		小計 (12科目)	23	—
	2年次	分析化学	2	必修
		生態学	2	必修
		農業マーケティング論	2	選択
		植物形態学	2	選択
		昆虫資源学	2	選択
		細胞生物学	2	選択
		生物多様性論	2	選択
		応用動物利用学	2	選択
		フィールド実習 B	2	選択
		有機化学 B	2	選択
		物理学	—	—
		理科指導法 I	—	—
		職業指導 (農業) I	—	—
		農業科指導法 I	—	—
		生化学	2	必修
		生物統計学 B	2	必修
		生物化学実験	2	必修
		分子生物学	2	必修
		分類学	2	選択
		動物生理学	2	選択
		動物行動学	2	選択
		作物学	2	選択
		微生物学	2	選択
		脳と動物	2	選択
		地学	—	—
		地学実験	—	—
		物理学実験	—	—
		理科指導法 II	—	—
		職業指導 (農業) II	—	—
		農業科指導法 II	—	—
		樹木学	2	選択
		小計 (31科目)	42	—

生産農学科科目 (理科教育コース・農業教育コースを除く)	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
	3年次	専門実験・実習 A	2	必修
		応用微生物学	2	選択
		ゲノム科学	2	選択
		植物病理学	2	選択
		分子構造解析論	2	選択
		緑地保全学	2	選択
		食品製造	—	—
		野外活動指導法	—	—
		理科指導法 III	—	—
		遺伝子工学	2	選択
		専門実験・実習 B	2	必修
		生産農学演習 A	2	必修
		天然物化学	2	選択
		植物育種学	2	選択
		昆虫学	2	選択
		果樹園芸学	2	選択
		畜産学	2	選択
		有機合成化学	2	選択
		植物生理学	2	選択
		フィールド実習 C	2	選択
		生物実験スキル	—	—
		化学実験スキル	—	—
		食品製造実習	—	—
		理科指導法 IV	—	—
		農薬化学	2	選択
		小計 (25科目)	36	—
	4年次	生産農学演習 B	2	必修
		卒業研究 A	2	必修
		生産農学演習 C	2	必修
		卒業研究 B	2	必修
		卒業研究論文	2	選択
		教材研究	—	—
		小計 (6科目)	10	—

別表第2-①
環境農学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
農業と自然環境	2	必修	
Intensive English A	2	必修	
農場実習 A	1	必修	
環境と生態	2	必修	
環境農学概論	2	必修	
Intensive English B	2	必修	
基礎生物学実験	2	必修	
農場実習 B	2	必修	
Regional Environmental Studies	2	選択	
Plant Science	2	選択	
Ecology	2	選択	
Natural Resource Management	2	選択	
General English A	4	選択	
General English B	4	選択	
環境農学実験	2	必修	
土壌生態学	2	必修	
自然環境保全学	2	選択	
生物環境物理学	2	選択	
地理学	2	選択	
環境と法令	2	選択	
野生動物学	2	選択	
分類学	2	選択	
環境倫理学	2	選択	
生物統計学	2	必修	
農場実習 C	2	必修	
環境マネジメント論	2	選択	
農学国際協力	2	選択	
持続的農業論	2	必修	
地球環境科学	2	必修	
Practical English for Science	2	選択	
緑地生態学	2	必修	
領域演習 A	4	必修	
コミュニケーションスキル	2	選択	
農業マーケティング論	2	選択	
野外安全教育	2	選択	
Comprehensive Agri-Environmental Studies	2	必修	
卒業研究 A	2	必修	
領域演習 B	2	必修	
卒業研究 B	2	必修	
卒業研究 C	2	必修	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第2-①
先端食農学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
基礎化学実験	2	必修	
フィールド管理実習 A	2	必修	
先端食農セミナー	1	必修	
化学	2	必修	
生物学	2	必修	
有機化学 A	2	必修	
分析化学	2	必修	
基礎生物学実験	2	必修	
生物化学 A	2	必修	
微生物学	2	必修	
先端食農実習	2	必修	
園芸学	2	選択	
水産学	2	選択	
有機化学 B	2	選択	
食品製造科学	2	選択	
生物化学 B	2	必修	
先端食農実験	2	必修	
植物栄養学	2	選択	
食品機能化学	2	選択	
生物統計学	2	選択	
養殖学	2	選択	
生物化学 C	2	必修	
専門領域研究 A	2	必修	
食品衛生学	2	選択	
栄養生理化学	2	選択	
養蜂学	2	選択	
食品加工実習	2	選択	
専門領域研究 B	2	必修	
応用栄養学	2	選択	
畜産物利用学	2	選択	
植物生理学	2	選択	
農薬化学	2	選択	
公衆衛生学	2	選択	
フィールド管理実習 B	2	選択	
先端食農演習 A	2	必修	
卒業研究 A	4	必修	
先端食農演習 B	2	必修	
卒業研究 B	4	必修	
卒業研究論文	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第2-①
情報通信工学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
チャンピオンシップ	1	必修	
基礎工学演習	2	選択	
代数学 I	2	必修	
解析学 I	2	必修	
数学演習 I	2	選択	
数学演習 II	2	選択	
物理学 I	2	選択	
コミュニケーション科学の世界	2	必修	
プログラミング I	2	必修	
情報システム入門	2	選択	
電気回路入門	2	必修	
ロボットプロジェクト A	1	選択	
ロボット入門	1	選択	
プログラミング II	2	必修	
デジタルシチズンシップ	2	必修	
解析学 II	2	選択	
科学技術英語	2	選択	
センサ工学	2	必修	
交流回路	2	選択	
確率統計学 I	2	選択	
工学倫理	1	選択	
熱と流れの力学	2	選択	
インテリジェントデバイス入門	2	必修	
情報工学実験	1	必修	
基礎物理学実験	2	選択	
通信システム	2	選択	
フーリエ解析	2	選択	
データサイエンス入門	2	選択	
工業科指導法 I	2	選択	
工業科指導法 II	2	選択	
サイエンスイングリッシュ	4	選択	
数学科指導法 I	2	選択	
数学科指導法 II	2	選択	
微分方程式 I	2	選択	
複素解析 I	2	選択	
確率統計学 II	2	選択	
微分方程式 II	2	選択	
電磁気学	2	選択	
幾何学 I	2	選択	
インターフェース工学	2	選択	
ロボットプロジェクト B	1	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
キャリアデザイン	2	選択	
数値解析プログラミング	2	選択	
コミュニケーションロボット工学	2	選択	
ブレインサイエンス	2	選択	
インテリジェントデバイス実験 I	1	必修	
通信工学	2	選択	
応用電子物性	2	選択	
データサイエンス I	2	選択	
エネルギー工学	2	選択	
応用工学演習	1	選択	
インターンシップ I	1	選択	
インターンシップ II	1	選択	
インターンシップ III	1	選択	
インターンシップ IV	1	選択	
ロボットプログラミング	2	選択	
インテリジェントデバイス実験 II	2	選択	
情報理論	2	選択	
データサイエンス II	2	選択	
スマートエネルギー	2	選択	
レーダ工学	2	選択	
生体情報工学	2	選択	
職業指導 (工業) I	2	選択	
職業指導 (工業) II	2	選択	
複素解析 II	2	選択	
代数学 II	2	選択	
数学科指導法 III	2	選択	
数学科指導法 IV	2	選択	
人工知能	4	選択	
インテリジェントデバイス実験 III	2	選択	
量子セキュリティ	2	選択	
ビッグデータ解析	2	選択	
幾何学 II	2	選択	
光通信工学	4	選択	
研究室セミナー	2	選択	
卒業プロジェクト	4	必修	

※履修方法の詳細は学生要覧による

情報通信工学科 中・高（数学教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1 年次	代数学Ⅰ 解析学Ⅰ プログラミングⅠ	2 2 2	必修 必修 必修
情報通信工学科 数学教育コース科目	2 年次	プログラミングⅡ 解析学Ⅱ 確率統計学Ⅰ フーリエ解析 数学科指導法Ⅰ 数学科指導法Ⅱ 微分方程式Ⅰ 複素解析Ⅰ 確率統計学Ⅱ 微分方程式Ⅱ 幾何学Ⅰ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	必修 選択 必修 選択 必修 必修 選択 選択 選択 選択 必修
		数値解析プログラミング データサイエンスⅠ データサイエンスⅡ 複素解析Ⅱ 代数学Ⅱ 数学科指導法Ⅲ 数学科指導法Ⅳ	2 2 2 2 2 2 2	選択 選択 選択 選択 選択 必修 必修
		ビッグデータ解析 幾何学Ⅱ	2 2	選択 選択
	計（23科目）		46	—
	2年次	デジタルシチズンシップ	2	必修
	3 年次	応用工学演習 インターンシップⅠ インターンシップⅡ インターンシップⅢ インターンシップⅣ レーダ工学 生体情報工学	1 1 1 1 1 2 2	選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択
		量子セキュリティ 光通信工学	2 4	選択 選択
	計（10科目）		17	—

数学の「教科及び教科の指導法に関する科目」

数学の関連科目

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1 年次	チャンピオンシップ 基礎工学演習 数学演習Ⅰ 数学演習Ⅱ 物理学Ⅰ コミュニケーション科学の世界 情報システム入門 電気回路入門 ロボットプロジェクトA ロボット入門	1 2 2 2 2 2 2 2 1 1	必修 選択 選択 選択 選択 必修 選択 必修 選択 選択
情報通信工学科 数学教育コース 以外の科目	2 年次	科学技術英語 センサ工学 交流回路 工学倫理 熱と流れの力学 インテリジェントデバイス入門 情報工学実験 基礎物理学実験 通信システム データサイエンス入門 工業科指導法Ⅰ 工業科指導法Ⅱ サイエンスイングリッシュ 電磁気学 インターフェース工学 ロボットプロジェクトB	2 2 2 1 2 2 1 2 2 2 2 2 4 2 2 1	選択 必修 選択 選択 選択 必修 必修 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択
	3 年次	キャリアデザイン コミュニケーションロボット工学 ブレインサイエンス インテリジェントデバイス実験Ⅰ 通信工学 応用電子物性 エネルギー工学 ロボットプログラミング インテリジェントデバイス実験Ⅱ 情報理論 スマートエネルギー 職業指導（工業）Ⅰ 職業指導（工業）Ⅱ	2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2	選択 選択 選択 必修 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択
	4 年次	人工知能 インテリジェントデバイス実験Ⅲ 研究室セミナー 卒業プロジェクト	4 2 2 4	選択 選択 選択 必修
	計（43科目）		85	—

工業の「教科及び教科の指導法に関する科目」

工業の関連科目

情報通信工学科 高（工業教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1 年次	電気回路入門	2	必修
情報通信工学科工業教育コース科目	2 年次	センサ工学	2	必修
		熱と流れの力学	2	選択
		インテリジェントデバイス入門	2	必修
		情報工学実験	1	必修
		通信システム	2	選択
		データサイエンス入門	2	選択
		工業科指導法Ⅰ	2	必修
		工業科指導法Ⅱ	2	必修
		電磁気学	2	選択
		インターフェース工学	2	選択
	3 年次	コミュニケーションロボット工学	2	選択
		インテリジェントデバイス実験Ⅰ	1	必修
		通信工学	2	選択
		応用電子物性	2	選択
		エネルギー工学	2	選択
		ロボットプログラミング	2	選択
		インテリジェントデバイス実験Ⅱ	2	選択
		情報理論	2	選択
		スマートエネルギー	2	必修
		職業指導（工業）Ⅰ	2	必修
	職業指導（工業）Ⅱ	2	選択	
	4 年次	インテリジェントデバイス実験Ⅲ	2	選択
	計（23科目）			44
情報通信工学科工業教育コース関連科目	1 年次	チャンピオンシップ	1	必修
		基礎工学演習	2	選択
		数学演習Ⅰ	2	選択
		数学演習Ⅱ	2	選択
		コミュニケーション科学の世界	2	必修
		情報システム入門	2	選択
		ロボットプロジェクト A	1	選択
		ロボット入門	1	選択
	2 年次	デジタルシチズンシップ	2	必修
		交流回路	2	選択
		工学倫理	1	選択
		基礎物理学実験	2	選択
		ロボットプロジェクト B	1	選択
	3 年次	ブレインサイエンス	2	選択
		インターンシップⅠ	1	選択
		インターンシップⅡ	1	選択
		インターンシップⅢ	1	選択
		インターンシップⅣ	1	選択
	4 年次	人工知能	4	選択
	計（19科目）			31

工業の「教科及び教科の指導法に関する科目」
工業の関連科目

情報通信工学科工業教育コース以外の科目	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1 年 次	代数学Ⅰ	2	必修
		解析学Ⅰ	2	必修
		物理学Ⅰ	2	選択
		プログラミングⅠ	2	必修
	2 年 次	プログラミングⅡ	2	必修
		解析学Ⅱ	2	選択
		科学技術英語	2	選択
		確率統計学Ⅰ	2	選択
		フーリエ解析	2	選択
		サイエンスイングリッシュ	4	選択
		数学科指導法Ⅰ	2	選択
		数学科指導法Ⅱ	2	選択
		微分方程式Ⅰ	2	選択
		複素解析Ⅰ	2	選択
		確率統計学Ⅱ	2	選択
		微分方程式Ⅱ	2	選択
		幾何学Ⅰ	2	選択
	3 年 次	キャリアデザイン	2	選択
		数値解析プログラミング	2	選択
データサイエンスⅠ		2	選択	
応用工学演習		1	選択	
データサイエンスⅡ		2	選択	
レーダ工学		2	選択	
生体情報工学		2	選択	
複素解析Ⅱ		2	選択	
代数学Ⅱ		2	選択	
数学科指導法Ⅲ		2	選択	
数学科指導法Ⅳ		2	選択	
4 年 次	量子セキュリティ	2	選択	
	ビッグデータ解析	2	選択	
	幾何学Ⅱ	2	選択	
	光通信工学	4	選択	
	研究室セミナー	2	選択	
	卒業プロジェクト	4	必修	
計（34科目）			73	—

数学の「教科及び教科の指導法に関する科目」
数学の関連科目

情報通信工学科科目
(数学教育コース・工業教育コースを除く)

情報通信工学科科目 (数学教育コース・工業教育コースを除く)	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1 年 次	チャンピオンシップ	1	必修
		基礎工学演習	2	選択
		代数学 I	2	必修
		解析学 I	2	必修
		数学演習 I	2	選択
		数学演習 II	2	選択
		物理学 I	2	選択
		コミュニケーション科学の世界	2	必修
		プログラミング I	2	必修
		情報システム入門	2	選択
		電気回路入門	2	必修
		ロボットプロジェクト A	1	選択
		ロボット入門	1	選択
	小計 (13科目)		23	—
	2 年 次	プログラミング II	2	必修
		デジタルシチズンシップ	2	必修
		解析学 II	2	選択
		科学技術英語	2	選択
		センサ工学	2	必修
		交流回路	2	選択
		確率統計学 I	2	選択
		工学倫理	1	選択
		熱と流れの力学	2	選択
		インテリジェントデバイス入門	2	必修
		情報工学実験	1	必修
		基礎物理学実験	2	選択
		通信システム	2	選択
		フーリエ解析	2	選択
		データサイエンス入門	2	選択
		工業科指導法 I	—	—
		工業科指導法 II	—	—
		サイエンスイングリッシュ	4	選択
		数学科指導法 I	—	—
		数学科指導法 II	—	—
		微分方程式 I	2	選択
		複素解析 I	2	選択
		確率統計学 II	2	選択
		微分方程式 II	2	選択
		電磁気学	2	選択
		幾何学 I	2	選択
		インターフェース工学	2	選択
		ロボットプロジェクト B	1	選択
	小計 (28科目)		47	—

情報通信工学科科目 (数学教育コース・工業教育コースを除く)	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	3 年 次	キャリアデザイン	2	選択
		数値解析プログラミング	2	選択
		コミュニケーションロボット工学	2	選択
		ブレインサイエンス	2	選択
		インテリジェントデバイス実験 I	1	必修
		通信工学	2	選択
		応用電子物性	2	選択
		データサイエンス I	2	選択
		エネルギー工学	2	選択
		応用工学演習	1	選択
		インターンシップ I	1	選択
		インターンシップ II	1	選択
		インターンシップ III	1	選択
		インターンシップ IV	1	選択
		ロボットプログラミング	2	選択
		インテリジェントデバイス実験 II	2	選択
		情報理論	2	選択
		データサイエンス II	2	選択
		スマートエネルギー	2	選択
		レーダ工学	2	選択
		生体情報工学	2	選択
		職業指導 (工業) I	—	—
		職業指導 (工業) II	—	—
		複素解析 II	2	選択
		代数学 II	2	選択
		数学科指導法 III	—	—
		数学科指導法 IV	—	—
	小計 (27科目)		40	—
	4 年 次	人工知能	4	選択
		インテリジェントデバイス実験 III	2	選択
		量子セキュリティ	2	選択
		ビッグデータ解析	2	選択
		幾何学 II	2	選択
		光通信工学	4	選択
		研究室セミナー	2	選択
		卒業プロジェクト	4	必修
	小計 (8科目)		22	—

別表第2-①
ソフトウェアサイエンス学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
工学基礎 A	2	選択	
数学演習	2	選択	
物理学 I	2	選択	
プログラミング実験	1	選択	
プログラミング I	2	必修	
代数学 I	2	必修	
解析学 I	2	必修	
デジタルシチズンシップ	2	必修	
プログラミング II	2	必修	
離散数学	2	選択	
解析学 II	2	選択	
経営情報分析	2	選択	
情報処理技術	2	選択	
論理回路	2	選択	
回路基礎	2	選択	
微分方程式 I	2	選択	
確率統計学 I	2	選択	
脳工学	2	選択	
フーリエ解析	2	選択	
シグナルプロセッシング	2	選択	
ネットワーク技術 I	2	必修	
ゲーム企画開発論	2	選択	
アルゴリズムとデータ構造	2	選択	
コンピュータグラフィックス	2	選択	
情報システム	2	選択	
データ通信	2	選択	
ビジネスゲーム	2	選択	
微分方程式 II	2	選択	
確率統計学 II	2	選択	
幾何学 I	2	選択	
数学科指導法 I	2	選択	
情報科指導法 I	2	選択	
数学科指導法 II	2	選択	
情報科指導法 II	2	選択	
複素解析 I	2	選択	
システムプログラミング	2	選択	
コンピュータアーキテクチャ	2	選択	
イメージプロセッシング	2	選択	
機械学習基礎	2	選択	
オペレーティングシステム	2	選択	
ユーザインタフェースデザイン	2	選択	
ネットワークプログラミング	2	選択	
データベース	2	選択	
ネットワーク技術 II	2	選択	
セキュアプログラミング	2	選択	
情報セキュリティマネジメント	2	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
代数学 II	2	選択	
企業講義	2	選択	
モバイルシステム総合研究	2	選択	
ゲームアニメーションプログラミング	2	選択	
マルチメディア処理	2	選択	
クラウドコンピューティング	2	選択	
プロジェクト研究 A	2	選択	
プロジェクト研究 B	2	選択	
ソフトウェアサイエンス実験	2	必修	
インターンシップ I	1	選択	
インターンシップ II	1	選択	
インターンシップ III	1	選択	
インターンシップ IV	1	選択	
複素解析 II	2	選択	
数学科指導法 III	2	選択	
数学科指導法 IV	2	選択	
情報セキュリティ	2	選択	
ソフトウェア工学	2	選択	
数値解析プログラミング	2	選択	
情報理論	2	選択	
アルゴリズム応用	2	選択	
ニューラルネットワーク	2	選択	
幾何学 II	2	選択	
輪講 A	2	選択	
輪講 B	2	選択	
卒業研究	4	必修	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第2-①

ソフトウェアサイエンス学科科目
中・高（数学教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件	
ソフトウェアサイエンス学科 数学教育コース科目	1 年次	プログラミングⅠ	2	必修	
		代数学Ⅰ	2	必修	
		解析学Ⅰ	2	必修	
		プログラミングⅡ	2	必修	
	2 年次	解析学Ⅱ	2	選択	
		微分方程式Ⅰ	2	選択	
		確率統計学Ⅰ	2	必修	
		フーリエ解析	2	選択	
		アルゴリズムとデータ構造	2	選択	
		微分方程式Ⅱ	2	選択	
		確率統計学Ⅱ	2	選択	
		幾何学Ⅰ	2	必修	
		数学科指導法Ⅰ	2	必修	
		数学科指導法Ⅱ	2	必修	
		複素解析Ⅰ	2	選択	
	3 年次	代数学Ⅱ	2	選択	
		複素解析Ⅱ	2	選択	
		数学科指導法Ⅲ	2	必修	
		数学科指導法Ⅳ	2	必修	
		数値解析プログラミング	2	選択	
	4 年次	幾何学Ⅱ	2	選択	
計（21科目）			42	—	
	1 年次	プログラミング実験	1	選択	
		離散数学	2	選択	
	2 年次	経営情報分析	2	選択	
		回路基礎	2	選択	
		シグナルプロセッシング	2	選択	
		ビジネスゲーム	2	選択	
	3 年次	インターンシップⅠ	1	選択	
		インターンシップⅡ	1	選択	
		インターンシップⅢ	1	選択	
		インターンシップⅣ	1	選択	
	4 年次	情報理論	2	選択	
		アルゴリズム応用	2	選択	
	計（12科目）			19	—

数学の「教科及び教科の指導法に関する科目」
数学の関連科目

ソフトウェアサイエンス学科数学教育コース以外の科目	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
	1年次	工学基礎 A	2	選択
		数学演習	2	選択
		物理学 I	2	選択
		デジタルシチズンシップ	2	必修
	2年次	情報処理技術	2	選択
		論理回路	2	選択
		脳工学	2	選択
		ネットワーク技術 I	2	必修
		ゲーム企画開発論	2	選択
		コンピュータグラフィックス	2	選択
		情報システム	2	選択
		データ通信	2	選択
		情報科指導法 I	2	選択
		情報科指導法 II	2	選択
		システムプログラミング	2	選択
		コンピュータアーキテクチャ	2	選択
		イメージプロセッシング	2	選択
	3年次	機械学習基礎	2	選択
		オペレーティングシステム	2	選択
ユーザインタフェースデザイン		2	選択	
ネットワークプログラミング		2	選択	
データベース		2	選択	
ネットワーク技術 II		2	選択	
セキュアプログラミング		2	選択	
情報セキュリティマネジメント		2	選択	
企業講義		2	選択	
モバイルシステム総合研究		2	選択	
ゲームアニメーションプログラミング		2	選択	
マルチメディア処理		2	選択	
クラウドコンピューティング		2	選択	
プロジェクト研究 A		2	選択	
プロジェクト研究 B		2	選択	
ソフトウェアサイエンス実験		2	必修	
情報セキュリティ		2	選択	
ソフトウェア工学		2	選択	
4年次	ニューラルネットワーク	2	選択	
	輪講 A	2	選択	
	輪講 B	2	選択	
	卒業研究	4	必修	
計 (39科目)			80	—

情報の「教科及び教科の指導法に関する科目」
情報の関連科目

ソフトウェアサイエンス学科 高（情報教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1 年次	デジタルシチズンシップ	2	必修
ソフトウェアサイエンス学科情報教育コース科目	2 年次	情報処理技術	2	必修
		論理回路	2	選択
		ネットワーク技術 I	2	必修
		コンピュータグラフィックス	2	選択
		情報システム	2	必修
		データ通信	2	選択
		情報科指導法 I	2	必修
		情報科指導法 II	2	必修
		イメージプロセッシング	2	選択
	3 年次	オペレーティングシステム	2	選択
		データベース	2	必修
		ネットワーク技術 II	2	選択
		マルチメディア処理	2	必修
		ソフトウェアサイエンス実験	2	必修
		情報セキュリティ	2	選択
	計（16科目）		32	—
ソフトウェアサイエンス学科情報教育コース関連科目	2 年次	ゲーム企画開発論	2	選択
		システムプログラミング	2	選択
		コンピュータアーキテクチャ	2	選択
	3 年次	ユーザインタフェースデザイン	2	選択
		ネットワークプログラミング	2	選択
		モバイルシステム総合研究	2	選択
		ゲームアニメーションプログラミング	2	選択
		クラウドコンピューティング	2	選択
		インターンシップ I	1	選択
		インターンシップ II	1	選択
		インターンシップ III	1	選択
		インターンシップ IV	1	選択
		ソフトウェア工学	2	選択
	4 年次	ニューラルネットワーク	2	選択
	計（14科目）		24	—

情報の「教科及び教科の指導法に関する科目」
情報の関連科目

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1 年次	工学基礎 A	2	選択
ソフトウェアサイエンス学科情報教育コース以外の科目	1 年次	数学演習	2	選択
		物理学 I	2	選択
		プログラミング実験	1	選択
		プログラミング I	2	必修
		代数学 I	2	必修
		解析学 I	2	必修
		プログラミング II	2	必修
		離散数学	2	選択
	2 年次	解析学 II	2	選択
		経営情報分析	2	選択
		回路基礎	2	選択
		微分方程式 I	2	選択
		確率統計学 I	2	選択
		脳工学	2	選択
		フーリエ解析	2	選択
		シグナルプロセッシング	2	選択
		アルゴリズムとデータ構造	2	選択
		ビジネスゲーム	2	選択
		微分方程式 II	2	選択
		確率統計学 II	2	選択
		幾何学 I	2	選択
		数学科指導法 I	2	選択
		数学科指導法 II	2	選択
		複素解析 I	2	選択
	3 年次	機械学習基礎	2	選択
		セキュアプログラミング	2	選択
		情報セキュリティマネジメント	2	選択
		代数学 II	2	選択
		企業講義	2	選択
		プロジェクト研究 A	2	選択
		プロジェクト研究 B	2	選択
		複素解析 II	2	選択
		数学科指導法 III	2	選択
		数学科指導法 IV	2	選択
		数値解析プログラミング	2	選択
	4 年次	情報理論	2	選択
		アルゴリズム応用	2	選択
		幾何学 II	2	選択
		輪講 A	2	選択
		輪講 B	2	選択
		卒業研究	4	必修
	計（42科目）		85	—

数学の「教科及び教科の指導法に関する科目」
数学の関連科目

ソフトウェアサイエンス学科科目
(数学教育コース・情報教育コースを除く)

ソフトウェアサイエンス学科科目 (数学教育コース・情報教育コースを除く)	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1 年 次	工学基礎 A	2	選択
		数学演習	2	選択
		物理学 I	2	選択
		プログラミング実験	2	選択
		プログラミング I	2	必修
		代数学 I	2	必修
		解析学 I	2	必修
		デジタルシチズンシップ	2	必修
		プログラミング II	2	必修
		離散数学	2	選択
	小計 (10科目)		20	—
	2 年 次	解析学 II	2	選択
		経営情報分析	2	選択
		情報処理技術	2	選択
		論理回路	2	選択
		回路基礎	2	選択
		微分方程式 I	2	選択
		確率統計学 I	2	選択
		脳工学	2	選択
		フーリエ解析	2	選択
		シグナルプロセッシング	2	選択
		ネットワーク技術 I	2	必修
		ゲーム企画開発論	2	選択
		アルゴリズムとデータ構造	2	選択
		コンピュータグラフィックス	2	選択
		情報システム	2	選択
		データ通信	2	選択
		ビジネスゲーム	2	選択
		微分方程式 II	2	選択
		確率統計学 II	2	選択
		幾何学 I	2	選択
		数学科指導法 I	—	—
		情報科指導法 I	—	—
		数学科指導法 II	—	—
		情報科指導法 II	—	—
		複素解析 I	2	選択
		システムプログラミング	2	選択
		コンピュータアーキテクチャ	2	選択
		イメージプロセッシング	2	選択
	小計 (28科目)		48	—

ソフトウェアサイエンス学科科目 (数学教育コース・情報教育コースを除く)	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	3 年 次	機械学習基礎	2	選択
		オペレーティングシステム	2	選択
		ユーザインタフェースデザイン	2	選択
		ネットワークプログラミング	2	選択
		データベース	2	選択
		ネットワーク技術 II	2	選択
		セキュアプログラミング	2	選択
		情報セキュリティマネジメント	2	選択
		代数学 II	2	選択
		企業講義	2	選択
		モバイルシステム総合研究	2	選択
		ゲームアニメーションプログラミング	2	選択
		マルチメディア処理	2	選択
		クラウドコンピューティング	2	選択
		プロジェクト研究 A	2	選択
		プロジェクト研究 B	2	選択
		ソフトウェアサイエンス実験	2	必修
		インターンシップ I	1	選択
		インターンシップ II	1	選択
		インターンシップ III	1	選択
		インターンシップ IV	1	選択
		複素解析 II	2	選択
		数学科指導法 III	—	—
		数学科指導法 IV	—	—
		情報セキュリティ	2	選択
		ソフトウェア工学	2	選択
		数値解析プログラミング	2	選択
	小計 (27科目)		46	—
	4 年 次	情報理論	2	選択
		アルゴリズム応用	2	選択
		ニューラルネットワーク	2	選択
		幾何学 II	2	選択
		輪講 A	2	選択
		輪講 B	2	選択
		卒業研究	4	必修
	小計 (7科目)		16	—

別表第2-①
マネジメントサイエンス学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
プログラミング I	2	選択	
キャリアデザイン	2	必修	
代数学 I	2	必修	
解析学 I	2	必修	
数学演習 I	2	選択	
数学演習 II	2	選択	
物理学 I	2	選択	
デジタルシチズンシップ	2	必修	
プログラミング II	2	選択	
解析学 II	2	選択	
プロジェクトマネジメント	2	選択	
消費生活科学	2	選択	
微分方程式 I	2	選択	
確率統計学 I	2	選択	
マーケティング論	2	選択	
経営情報処理	2	必修	
データサイエンス基礎演習	2	選択	
原価計算	2	選択	
人間工学	2	選択	
確率統計学 II	2	選択	
幾何学 I	2	選択	
微分方程式 II	2	選択	
複素解析 I	2	選択	
データサイエンス応用演習	2	選択	
数学科指導法 I	2	選択	
数学科指導法 II	2	選択	
数値解析プログラミング	2	選択	
チームマネジメント	2	選択	
生産管理	2	選択	
統計的方法	2	選択	
サービスマネジメント	2	選択	
サービスイノベーション	2	選択	
ビジネスコンテンツ	2	必修	
キャリアとコミュニケーション	2	選択	
代数学 II	2	選択	
コストマネジメント	2	選択	
ベクトル解析	2	選択	
マネジメントサイエンスセミナー A	2	必修	
外書探究	2	選択	
マネジメント事例研究 I	2	必修	
マネジメントサイエンスセミナー B	2	選択	
複素解析 II	2	選択	
代数学 III	2	選択	
管理会計	2	選択	
品質管理	2	選択	
インターンシップ I	1	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
インターンシップ II	1	選択	
インターンシップ III	1	選択	
経済性分析	2	選択	
オペレーションズリサーチ	2	選択	
経営戦略マネジメント	2	選択	
数学科指導法 III	2	選択	
数学科指導法 IV	2	選択	
ユニバーサルデザイン	2	選択	
ファイナンス	2	選択	
計量経済学	2	選択	
情報分析論	2	選択	
社会モデル	2	選択	
幾何学 II	2	選択	
マネジメント事例研究 II	2	必修	
幾何学 III	2	選択	
製品開発実践論	2	選択	
意思決定論	2	選択	
最適化システム	2	選択	
卒業プロジェクト	4	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第2-①

デザインサイエンス学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
デザインサイエンス入門 (デザイン史を含む)	2	必修	
デザインサイエンス演習 (デッサンを含む)	2	必修	
数学演習	2	選択	
代数学 I	2	必修	
解析学 I	2	必修	
物理学 I	2	選択	
プログラミング I	2	選択	
デザインサイエンスプログラミング	2	選択	
微分方程式 I	2	選択	
確率統計学 I	2	選択	
解析学 II	2	選択	
物理学 IIA	2	選択	
物理学 IIB	2	選択	
プログラミング II	2	選択	
デジタルシチズンシップ	2	必修	
デジタルファブ리케이션入門	2	必修	
デザインサイエンス実験	1	必修	
スケッチとドラフティング	1	必修	
色彩デザイン学	2	選択	
管理技法	2	選択	
機構デザイン	2	選択	
数学科指導法 I	2	選択	
工業科指導法 I	2	選択	
技術科指導法 I	2	選択	
確率統計学 II	2	選択	
幾何学 I	2	選択	
デジタルファブ리케이션	2	選択	
メカニクス (材料)	2	必修	
人間工学	2	選択	
原価計算	2	選択	
電気回路基礎	2	選択	
化学と環境	2	選択	
数学科指導法 II	2	選択	
工業科指導法 II	2	選択	
技術科指導法 II	2	選択	
データサイエンス I	2	選択	
20世紀の物理学	2	選択	
代数学 II	2	選択	
知的財産権の基礎	2	選択	
メカニクス (機械)	2	選択	
メカニクス (流体)	2	選択	
栽培	2	選択	
工学倫理	1	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
ユニバーサルデザイン	2	選択	
起業プランニング	2	選択	
金属加工実習	2	選択	
ドラフティング応用	1	選択	
バイオメテックス	2	選択	
自然科学実験	1	選択	
ソフトエネルギー	2	選択	
数学科指導法 III	2	選択	
職業指導 (工業) I	2	選択	
技術科指導法 III	2	選択	
デジタルファブ리케이션演習	2	選択	
デザインサイエンスセミナー I	2	必修	
メカニクス (材料) 演習	1	選択	
デザイン思考	2	選択	
木材加工	2	選択	
海外研修	2	選択	
インターンシップ I	1	選択	
インターンシップ II	1	選択	
インターンシップ III	1	選択	
インターンシップ IV	1	選択	
プロダクトデザイン	2	選択	
デザインと経営	2	選択	
管理会計	2	選択	
メカトロニクス	2	選択	
メカトロニクス演習	2	選択	
モデリングとシミュレーション	2	選択	
マテリアルプロセッシング	2	選択	
都市環境デザイン	2	選択	
電気回路演習	1	選択	
デジタル生産加工	2	選択	
数学科指導法 IV	2	選択	
職業指導 (工業) II	2	選択	
技術科指導法 IV	2	選択	
幾何学 II	2	選択	
デザインサイエンスセミナー II	2	必修	
卒業プロジェクト I	2	必修	
卒業プロジェクト II	2	必修	

※履修方法の詳細は学生要覧による

数学の「教科及び教科の指導法に関する科目」
数学の関連科目

- 技術の「教科及び教科の指導法に関する科目」
- 工業の「教科及び教科の指導法に関する科目」
- ▼ 技術の関連科目
- ◇ 工業の関連科目

デザインサイエンス学科 (技術・工業教育コース)

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件 技術	履修条件 工業
	1 年 次	デザインサイエンス入門 (デザイン史を含む)	2	必修	必修
デザインサイエンス学科	1 年 次	デザインサイエンス演習 (デッサンを含む)	2	必修	必修
		デザインサイエンスプログラミング	2	必修	必修
		デジタルファブリケーション入門	2	必修	必修
2 年 次		デザインサイエンス実験	1	必修	必修
		スケッチとドラフティング	1	必修	必修
		技術科指導法 I	2	必修	選択
		メカニクス (材料)	2	必修	必修
		電気回路基礎	2	必修	必修
		技術科指導法 II	2	必修	選択
		工業科指導法 I	2	選択	必修
		工業科指導法 II	2	選択	必修
		機構デザイン	2	選択	選択
		デジタルファブリケーション	2	選択	選択
3 年 次		人間工学	2	選択	選択
		メカニクス (機械)	2	選択	必修
		栽培	2	必修	選択
		金属加工実習	2	必修	選択
		職業指導 (工業) I	2	選択	必修
		技術科指導法 III	2	必修	選択
		木材加工	2	必修	選択
		メカトロニクス演習	2	必修	選択
		技術科指導法 IV	2	必修	選択
		データサイエンス I	2	選択	選択
		知的財産権の基礎	2	選択	選択
		メカニクス (流体)	2	選択	選択
		ドラフティング応用	1	選択	選択
		バイオメティクス	2	選択	選択
		自然科学実験	1	選択	選択
		ソフトエネルギー	2	選択	選択
		デジタルファブリケーション演習	2	選択	選択
		プロダクトデザイン	2	選択	選択
		メカトロニクス	2	選択	選択
		モデリングとシミュレーション	2	選択	選択
技術・工業教育コース科目		マテリアルプロセッシング	2	選択	選択
		電気回路演習	1	選択	選択
		職業指導 (工業) II	2	選択	選択
		計 (37科目)	69	—	—
	1年次	物理学 I	2	選択	選択
	2年次	デジタルシチズンシップ	2	必修	必修
	3年次	デザインサイエンスセミナー I	2	必修	必修
		管理会計	2	選択	選択
	4年次	デザインサイエンスセミナー II	2	必修	必修
		卒業プロジェクト I	2	必修	必修
		卒業プロジェクト II	2	必修	必修
		計 (7科目)	14	—	—

- 技術・工業の「教科及び教科の指導法に関する科目」
 技術の「教科及び教科の指導法に関する科目」
 工業の「教科及び教科の指導法に関する科目」
 技術・工業の関連科目

開設 年次	授業科目名	単位	履修条件 技術	履修条件 工業
1 年 次	代数学 I	★ 2	必修	必修
	解析学 I	★ 2	必修	必修
	数学演習	2	選択	選択
	プログラミング I	★ 2	選択	選択
2 年 次	微分方程式 I	★ 2	選択	選択
	確率統計学 I	★ 2	選択	選択
	解析学 II	★ 2	選択	選択
	物理学 IIA	2	選択	選択
	物理学 IIB	2	選択	選択
	プログラミング II	★ 2	選択	選択
	色彩デザイン学	2	選択	選択
	管理技法	2	選択	選択
	数学科指導法 I	★ 2	選択	選択
	確率統計学 II	★ 2	選択	選択
	幾何学 I	★ 2	選択	選択
	原価計算	2	選択	選択
	化学と環境	2	選択	選択
	数学科指導法 II	★ 2	選択	選択
	20世紀の物理学	2	選択	選択
	代数学 II	★ 2	選択	選択
3 年 次	工学倫理	▲ 1	選択	選択
	ユニバーサルデザイン	2	選択	選択
	起業プランニング	2	選択	選択
	数学科指導法 III	★ 2	選択	選択
	メカニクス (材料) 演習	1	選択	選択
	デザイン思考	▲ 2	選択	選択
	海外研修	2	選択	選択
	インターンシップ I	1	選択	選択
	インターンシップ II	1	選択	選択
	インターンシップ III	1	選択	選択
	インターンシップ IV	1	選択	選択
	デザインと経営	2	選択	選択
	都市環境デザイン	2	選択	選択
	デジタル生産加工	2	選択	選択
	数学科指導法 IV	★ 2	選択	選択
4年次	幾何学 II	★ 2	選択	選択
計 (36科目)		66	—	—

★ 数学の「教科及び教科の指導法に関する科目」

▲ 数学の関連科目

デザインサイエンス学科科目
(数学教育コース、技術・工業教育コースを除く)

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
デザインサイエンス学科科目 (数学教育コース、技術・工業教育コースを除く)	1 年次	デザインサイエンス入門 (デザイン史を含む)	2	必修
		デザインサイエンス演習 (デッサンを含む)	2	必修
		代数学 I	2	必修
		解析学 I	2	必修
		数学演習	2	選択
		物理学 I	2	選択
		プログラミング I	2	選択
		デザインサイエンスプログラミング	2	選択
	小計 (8科目)		16	—
	2 年次	デジタルシチズンシップ	2	必修
		デジタルファブリケーション入門	2	必修
		デザインサイエンス実験	1	必修
		スケッチとドラフティング	1	必修
		メカニクス (材料)	2	必修
		微分方程式 I	2	選択
		確率統計学 I	2	選択
		解析学 II	2	選択
		物理学 IIA	2	選択
		物理学 IIB	2	選択
		プログラミング II	2	選択
		色彩デザイン学	2	選択
		管理技法	2	選択
		機構デザイン	2	選択
		数学科指導法 I	—	—
		工業科指導法 I	—	—
		技術科指導法 I	—	—
		確率統計学 II	2	選択
		幾何学 I	2	選択
		デジタルファブリケーション	2	選択
		人間工学	2	選択
		原価計算	2	選択
		電気回路基礎	2	選択
		化学と環境	2	選択
		数学科指導法 II	—	—
		工業科指導法 II	—	—
		技術科指導法 II	—	—
	小計 (27科目)		40	—
	3 年次	デザインサイエンスセミナー I	2	必修
		データサイエンス I	2	選択
		20世紀の物理学	2	選択
		代数学 II	2	選択
		知的財産権の基礎	2	選択

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
デザインサイエンス学科科目 (数学教育コース・工業教育コースを除く)	3 年次	メカニクス (機械)	2	選択
		メカニクス (流体)	2	選択
		栽培	2	選択
		工学倫理	1	選択
		ユニバーサルデザイン	2	選択
		起業プランニング	2	選択
		金属加工実習	2	選択
		ドラフティング応用	1	選択
		バイオメティクス	2	選択
		自然科学実験	1	選択
		ソフトエネルギー	2	選択
		数学科指導法 III	—	—
		職業指導 (工業) I	2	選択
		技術科指導法 III	—	—
		デジタルファブリケーション演習	2	選択
		メカニクス (材料) 演習	1	選択
		デザイン思考	2	選択
		木材加工	2	選択
		海外研修	2	選択
		インターンシップ I	1	選択
		インターンシップ II	1	選択
		インターンシップ III	1	選択
		インターンシップ IV	1	選択
		プロダクトデザイン	2	選択
		デザインと経営	2	選択
		管理会計	2	選択
		メカトロニクス	2	選択
		メカトロニクス演習	2	選択
		モデリングとシミュレーション	2	選択
		マテリアルプロセッシング	2	選択
		都市環境デザイン	2	選択
		電気回路演習	1	選択
		デジタル生産加工	2	選択
		数学科指導法 IV	—	—
		職業指導 (工業) II	2	選択
		技術科指導法 IV	—	—
	小計 (41科目)		65	—
	4 年次	デザインサイエンスセミナー II	2	必修
		卒業プロジェクト I	2	必修
		卒業プロジェクト II	2	必修
		幾何学 II	2	選択
	小計 (4科目)		8	—

国際経営学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
マクロ経済学	2	必修	
ミクロ経済学	2	必修	
ESS A	1	必修	
ESS B	2	必修	
基礎数学	2	必修	
経営統計学	2	必修	
Intercultural Studies	2	必修	
企業論	2	必修	
基礎ファイナンス	2	必修	
Business English A	4	必修	
Business English B	4	必修	
専門基礎ゼミナール A	2	必修	
専門基礎ゼミナール B	2	必修	
企業倫理	2	必修	
国際会計基礎	4	選択	
マーケティング戦略	4	選択	
EPS A	2	必修	
EPS B	2	必修	
環境経営	2	選択	
人的資源管理	2	選択	
中小企業経営論	2	選択	
Strategic Management	4	選択	
経営塾	4	選択	
Global Business Studies	4	選択	
グローバルビジネスゼミナール A	2	選択	
グローバルビジネスゼミナール B	2	選択	
財務会計論	4	選択	
国際会計理論	4	選択	
国際会計ゼミナール A	2	選択	
国際会計ゼミナール B	2	選択	
パーソナル・ファイナンス	4	選択	
消費者行動論	4	選択	
販売管理・流通	4	選択	
マーケティング・リサーチ	4	選択	
マーケティングゼミナール A	2	選択	
マーケティングゼミナール B	2	選択	
経営法務	4	必修	
コーポレート・ファイナンス	4	選択	
Global Case Studies	4	選択	
グローバルビジネスゼミナール C	2	選択	
グローバルビジネスゼミナール D	2	選択	
管理会計論	4	選択	
国際会計ゼミナール C	2	選択	
国際会計ゼミナール D	2	選択	
Marketing Communication	4	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
New Product Management	4	選択	
マーケティングゼミナール C	2	選択	
マーケティングゼミナール D	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

教育学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
教育学概論	2	必修	
教職概論	2	必修	
教育原理	2	選択	
学習・発達論	2	選択	
教育の制度と経営	2	選択	
教育方法・技術論	1	選択	
ICT活用の理論と実践	1	選択	
教育哲学	2	選択	
教育社会学	2	選択	
教育心理学	2	選択	
発達心理学	2	選択	
教育方法学	2	選択	
国語	2	選択	
社会	2	選択	
算数	2	選択	
理科	2	選択	
生活	2	選択	
音楽	2	選択	
図工	2	選択	
家庭	2	選択	
体育（幼・小）	2	選択	
外国語（英語）	2	選択	
保育内容総論	2	選択	
教育インターンシップ（幼）A	2	選択	
教育インターンシップ（幼）B	2	選択	
教育インターンシップ（幼）C	1	選択	
教育インターンシップ（幼）D	1	選択	
文化人類学	2	選択	
民俗学入門	2	選択	
比較文化論	2	選択	
世界の宗教と文化	2	選択	
経済学（国際経済を含む。）	2	選択	
市民社会と法	2	選択	
政治学（国際政治を含む。）	2	選択	
社会学	2	選択	
生涯学習概論	2	選択	
ボランティア概論	2	選択	
日本史概論	2	選択	
体育実技（体操）	1	選択	
体育実技（陸上）	1	選択	
体育実技（スキー）	1	選択	
図書館情報資源概論	2	選択	
図書館情報資源特論	1	選択	
全人教育実践演習 A	2	必修	
全人教育実践演習 B	2	必修	
特別支援教育	1	必修	
総合的な学習の時間の理論と方法	1	選択	
特別活動の理論と方法	1	選択	
幼児教育課程論	2	選択	
幼児理解と教育相談	2	選択	
幼児指導論	2	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
保育内容指導法（健康）	2	選択	
保育内容指導法（人間関係）	2	選択	
保育内容指導法（環境）	2	選択	
保育内容指導法（言葉）	2	選択	
保育内容指導法（表現）	2	選択	
国語科指導法	2	選択	
社会科指導法	2	選択	
算数科指導法	2	選択	
理科指導法	2	選択	
生活科指導法	2	選択	
音楽科指導法	2	選択	
家庭科指導法	2	選択	
図工科指導法	2	選択	
体育科指導法	2	選択	
外国語（英語）指導法	2	選択	
日本史各論 A	2	選択	
日本史各論 B	2	選択	
外国史概論	2	選択	
外国史各論 A	2	選択	
外国史各論 B	2	選択	
西洋文化史	2	選択	
東洋文化史	2	選択	
地理学概論	2	選択	
観光地誌論	2	選択	
西洋哲学思想史	2	選択	
東洋思想史	2	選択	
地球科学	2	選択	
宇宙科学	2	選択	
体育実技（水泳）	1	選択	
体育実技（ダンス）	1	選択	
体育実技（球技 A）	1	選択	
体育原理	2	選択	
体育社会学	2	選択	
生理学（運動生理学を含む。）	2	選択	
衛生学	2	選択	
公衆衛生学	2	選択	
学校保健	2	選択	
保健体育科指導法 I	2	選択	
保健体育科指導法 II	2	選択	
体育測定評価	2	選択	
博物館概論	2	選択	
博物館資料論	2	選択	
博物館教育論	2	選択	
現代教育研究 I	2	必修	
現代教育研究 II	2	必修	
教育課程編成論	2	選択	
道德教育の理論と方法	2	選択	
生徒・進路指導の理論と方法	2	選択	
教育相談の理論と方法	2	選択	
法律学（国際法を含む。）	2	選択	
日本の伝統文化と歴史	2	選択	

教育学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
地理情報論	2	選択	
人文地理学	2	選択	
自然地理学	2	選択	
地誌学概論	2	選択	
日本と外国の歴史	2	選択	
歴史資料情報論	2	選択	
社会科・公民科指導法Ⅰ	2	選択	
社会科・公民科指導法Ⅱ	2	選択	
社会科・地理歴史科指導法Ⅰ	2	選択	
社会科・地理歴史科指導法Ⅱ	2	選択	
世界の教育と文化環境	2	選択	
体育実技（球技B）	1	選択	
体育実技（武道）	1	選択	
運動学（運動方法学を含む。）	2	選択	
体育心理学	2	選択	
体育経営管理学	2	選択	
栄養学	2	選択	
病理学	2	選択	
保健体育科指導法Ⅲ	2	選択	
保健体育科指導法Ⅳ	2	選択	
運動部活動の指導法	2	選択	
現代社会の教育課題	2	選択	
臨床心理学	2	選択	
学習指導と学校図書館	2	選択	
教育実習（幼・小）	5	選択	
教育実習（小・中）	5	選択	
教育実習（中・高）	5	選択	
教育実習（高等学校）	3	選択	
教育実習（副）	3	選択	
卒業課題研究Ⅰ	2	必修	
卒業課題研究Ⅱ	2	必修	
教職実践演習	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

教育学科（幼稚園教育コース）

開設年次	授業科目名	単位	履修条件
幼稚園教育コース科目	教育学概論	2	必修
	教職概論	2	必修
	教育の制度と経営	2	必修
	教育方法・技術論	1	選択
	ICT活用の理論と実践	1	選択
	教育哲学	2	選択
	教育社会学	2	選択
	教育心理学	2	選択
	発達心理学	2	選択
	教育方法学	2	選択
	国語	2	選択
	算数	2	選択
	音楽	2	選択
	図工	2	選択
	体育（幼・小）	2	選択
	保育内容総論	2	必修
	教育インターンシップ（幼） A	2	選択
	教育インターンシップ（幼） B	2	選択
	教育インターンシップ（幼） C	1	選択
	教育インターンシップ（幼） D	1	選択
	生涯学習概論	2	選択
2年次	教育原理	2	必修
	学習・発達論	2	必修
	幼児教育課程論	2	必修
	幼児理解と教育相談	2	必修
	幼児指導論	2	必修
	保育内容指導法（健康）	2	必修
	保育内容指導法（人間関係）	2	必修
	保育内容指導法（環境）	2	必修
	保育内容指導法（言葉）	2	必修
	保育内容指導法（表現）	2	必修
	特別支援教育	1	必修
3年次	道徳教育の理論と方法	2	選択
	教育実習（幼・小）	5	必修
4年次	教職実践演習	2	必修
小計(35科目)		68	

幼稚園の「領域及び保育内容の指導法に関する科目」

幼稚園の「教育の基礎的理解に関する科目」

開設年次	授業科目名	単位	履修条件
1年次	社会	●	2 選択
	理科	●	2 選択
	生活	●	2 選択
	家庭	●	2 選択
	外国語（英語）	●	2 選択
	文化人類学	□	2 選択
	民俗学入門	◆□	2 選択
	比較文化論	□	2 選択
	世界の宗教と文化	□	2 選択
	経済学（国際経済を含む。）	◆▲	2 選択
	市民社会と法	□	2 選択
	社会学	◆▲	2 選択
	ボランティア概論	◆▲	2 選択
	日本史概論	◆□	2 選択
	体育実技（体操）	▼	1 選択
	体育実技（陸上）	▼	1 選択
	体育実技（スキー）	▼	1 選択
	図書館情報資源概論	□	2 選択
	図書館情報資源特論	□	1 選択
幼稚園教育コース以外の科目	全人教育実践演習 A		2 必修
	全人教育実践演習 B		2 必修
	政治学（国際政治を含む。）	◆▲	2 選択
	総合的な学習の時間の理論と方法	●◆▼▲□	1 選択
	特別活動の理論と方法	●◆▼▲□	1 選択
	国語科指導法	●	2 選択
	社会科指導法	●	2 選択
	算数科指導法	●	2 選択
	理科指導法	●	2 選択
	生活科指導法	●	2 選択
	音楽科指導法	●	2 選択
	家庭科指導法	●	2 選択
	図工科指導法	●	2 選択
	体育科指導法	●	2 選択
	外国語（英語）指導法	●	2 選択
	日本史各論 A	□	2 選択
	日本史各論 B	□	2 選択
	外国史概論	◆□	2 選択
	外国史各論A	□	2 選択
	外国史各論B	□	2 選択
	西洋文化史	□	2 選択
	東洋文化史	□	2 選択
	地理学概論	◆□	2 選択
	観光地誌論	□	2 選択
	西洋哲学思想史	◆▲	2 選択
	東洋思想史	◆▲	2 選択
	地球科学	□	2 選択
	宇宙科学	□	2 選択
	体育実技（水泳）	▼	1 選択
	体育実技（ダンス）	▼	1 選択
	体育実技（球技 A）	▼	1 選択

● 小学校

◆ 社会

▲ 公民

▼ 保健体育

□ 地理歴史

教育学科（幼稚園教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件	
	2 年 次	体育原理	▼	2	選択
体育社会学		▼	2	選択	
生理学（運動生理学を含む。）		▼	2	選択	
衛生学		▼	2	選択	
公衆衛生学		▼	2	選択	
学校保健		▼	2	選択	
保健体育科指導法Ⅰ		▼	2	選択	
保健体育科指導法Ⅱ		▼	2	選択	
体育測定評価			2	選択	
博物館概論		□	2	選択	
博物館資料論		□	2	選択	
博物館教育論		□	2	選択	
幼稚園教育コース以外の科目		3 年 次	現代教育研究Ⅰ		2
	現代教育研究Ⅱ			2	必修
	教育課程編成論		●◆▼▲□	2	選択
	生徒・進路指導の理論と方法		●◆▼▲□	2	選択
	教育相談の理論と方法		●◆▼▲□	2	選択
	法律学（国際法を含む。）		◆▲	2	選択
	日本の伝統文化と歴史		□	2	選択
	地理情報論		□	2	選択
	人文地理学		□	2	選択
	自然地理学		□	2	選択
	地誌学概論		◆□	2	選択
	日本と外国の歴史		◆□	2	選択
	歴史資料情報論		□	2	選択
	社会科・公民科指導法Ⅰ		◆▲	2	選択
	社会科・公民科指導法Ⅱ		◆▲	2	選択
	社会科・地理歴史科指導法Ⅰ		◆□	2	選択
	社会科・地理歴史科指導法Ⅱ		◆□	2	選択
	世界の教育と文化環境		□	2	選択
	保健体育科指導法Ⅲ		▼	2	選択
	保健体育科指導法Ⅳ		▼	2	選択
	現代社会の教育課題			2	選択
	臨床心理学			2	選択
	体育実技（球技 B）		▼	1	選択
	体育実技（武道）		▼	1	選択
	運動学（運動方法学を含む。）		▼	2	選択
	体育心理学		▼	2	選択
	体育経営管理学		▼	2	選択
	栄養学		▼	2	選択
	病理学		▼	2	選択
	運動部活動の指導法		▼	2	選択
	学習指導と学校図書館		□	2	選択
教育実習（小・中）	●◆▼	5	—		
教育実習（中・高）	◆▼▲□	5	—		
教育実習（高等学校）	▼▲□	3	—		
教育実習（副）	●◆▼	3	—		
4 年 次	卒業課題研究Ⅰ		2	必修	
	卒業課題研究Ⅱ		2	必修	
小計(99科目)			195		

- 小学校
 ◆ 社会
 ▲ 公民
 ▼ 保健体育
 □ 地理歴史

教育学科（小学校教育コース）

開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
1 年次	教育学概論	2	必修
	教職概論	2	必修
	教育の制度と経営	2	必修
	教育方法・技術論	1	選択
	ICT活用の理論と実践	1	選択
	教育哲学	2	選択
	教育社会学	2	選択
	教育心理学	2	選択
	発達心理学	2	選択
	教育方法学	2	選択
	国語	2	選択
	社会	2	選択
	算数	2	選択
	理科	2	選択
	生活	2	選択
	音楽	2	選択
	図工	2	選択
	家庭	2	選択
	体育（幼・小）	2	選択
	外国語（英語）	2	選択
	生涯学習概論	2	選択
2 年次	教育原理	2	必修
	学習・発達論	2	必修
	総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
	特別活動の理論と方法	1	必修
	国語科指導法	2	必修
	社会科指導法	2	必修
	算数科指導法	2	必修
	理科指導法	2	必修
	生活科指導法	2	必修
	音楽科指導法	2	必修
	家庭科指導法	2	必修
	図工科指導法	2	必修
	体育科指導法	2	必修
	外国語（英語）指導法	2	必修
3 年次	特別支援教育	1	必修
	教育課程編成論	2	必修
	道德教育の理論と方法	2	必修
	生徒・進路指導の理論と方法	2	必修
	教育相談の理論と方法	2	必修
	現代社会の教育課題	2	選択
	教育実習（幼・小）	5	選択
	教育実習（小・中）	5	選択
4年次	教職実践演習	2	必修
小計(44科目)		89	

■ 小学校の「教科及び教科の指導法に関する科目」

■ 小学校の「教育の基礎的理解に関する科目」

開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
1 年次	保育内容総論	★	2 選択
	教育インターンシップ（幼）A	★	2 選択
	教育インターンシップ（幼）B	★	2 選択
	教育インターンシップ（幼）C	★	1 選択
	教育インターンシップ（幼）D	★	1 選択
	文化人類学	□	2 選択
	民俗学入門	◆□	2 選択
	比較文化論	□	2 選択
	世界の宗教と文化	□	2 選択
	経済学（国際経済を含む。）	◆▲	2 選択
	市民社会と法	□	2 選択
	社会学	◆▲	2 選択
	ボランティア概論	◆▲	2 選択
	日本史概論	◆□	2 選択
	体育実技（体操）	▼	1 選択
	体育実技（陸上）	▼	1 選択
	体育実技（スキー）	▼	1 選択
	図書館情報資源概論	□	2 選択
	図書館情報資源特論	□	1 選択
2 年次	政治学（国際政治を含む。）	◆▲	2 選択
	全人教育実践演習 A		2 必修
	全人教育実践演習 B		2 必修
	幼児教育課程論	★	2 選択
	幼児理解と教育相談	★	2 選択
	幼児指導論	★	2 選択
	保育内容指導法（健康）	★	2 選択
	保育内容指導法（人間関係）	★	2 選択
	保育内容指導法（環境）	★	2 選択
	保育内容指導法（言葉）	★	2 選択
	保育内容指導法（表現）	★	2 選択
	日本史各論 A	□	2 選択
	日本史各論 B	□	2 選択
	外国史概論	◆□	2 選択
	外国史各論 A	□	2 選択
	外国史各論 B	□	2 選択
	西洋文化史	□	2 選択
	東洋文化史	□	2 選択
	地理学概論	◆□	2 選択
	観光地誌論	□	2 選択
2 年次	西洋哲学思想史	◆▲	2 選択
	東洋思想史	◆▲	2 選択
	地球科学	□	2 選択
	宇宙科学	□	2 選択
	体育実技（水泳）	▼	1 選択
	体育実技（ダンス）	▼	1 選択

★ 幼稚園

◆ 社会

▲ 公民

▼ 保健体育

□ 地理歴史

教育学科（小学校教育コース）

開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
2 年 次	体育実技（球技 A） ▼	1	選択
	体育原理 ▼	2	選択
	体育社会学 ▼	2	選択
	生理学（運動生理学を含む。） ▼	2	選択
	衛生学 ▼	2	選択
	公衆衛生学 ▼	2	選択
	学校保健 ▼	2	選択
	保健体育科指導法 I ▼	2	選択
	保健体育科指導法 II ▼	2	選択
	体育測定評価	2	選択
	博物館概論 □	2	選択
	博物館資料論 □	2	選択
	博物館教育論 □	2	選択
小学校 教育 コース 以外 の 科目	現代教育研究 I	2	必修
	現代教育研究 II	2	必修
	日本の伝統文化と歴史 □	2	選択
	人文地理学 □	2	選択
	日本と外国の歴史 ◆□	2	選択
	歴史資料情報論 □	2	選択
	臨床心理学	2	選択
	法律学（国際法を含む。） ◆▲	2	選択
	地理情報論 □	2	選択
	自然地理学 □	2	選択
	地誌学概論 ◆□	2	選択
	社会科・公民科指導法 I ◆▲	2	選択
	社会科・公民科指導法 II ◆▲	2	選択
	社会科・地理歴史科指導法 I ◆□	2	選択
	社会科・地理歴史科指導法 II ◆□	2	選択
	世界の教育と文化環境 □	2	選択
	体育実技（球技 B） ▼	1	選択
	体育実技（武道） ▼	1	選択
	運動学（運動方法学を含む。） ▼	2	選択
	体育心理学 ▼	2	選択
	体育経営管理学 ▼	2	選択
	栄養学 ▼	2	選択
	病理学 ▼	2	選択
	保健体育科指導法 III ▼	2	選択
	保健体育科指導法 IV ▼	2	選択
	運動部活動の指導法 ▼	2	選択
	学習指導と学校図書館 □	2	選択
	教育実習（中・高） ◆▼▲□	5	—
	教育実習（高等学校） ▼▲□	3	—
	教育実習（副） ★◆▼	3	—
4 年 次	卒業課題研究 I	2	必修
	卒業課題研究 II	2	必修
小計(90科目)		174	

★ 幼稚園

◆ 社会

▲ 公民

▼ 保健体育

□ 地理歴史

教育学科 中 (社会科教育コース)

開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
1 年次	教育学概論	2	必修
	教職概論	2	必修
	教育の制度と経営	2	必修
	教育方法・技術論	1	選択
	ICT活用の理論と実践	1	選択
	教育哲学	2	選択
	教育社会学	2	選択
	教育心理学	2	選択
	発達心理学	2	選択
	教育方法学	2	選択
	日本史概論	2	必修
	民俗学入門	2	選択
	経済学（国際経済を含む。）	2	選択
	社会学	2	選択
	ボランティア概論	2	選択
	生涯学習概論	2	選択
2 年次	教育原理	2	必修
	学習・発達論	2	必修
	政治学（国際政治を含む。）	2	選択
	総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
	特別活動の理論と方法	1	必修
	外国史概論	2	必修
	地理学概論	2	必修
	西洋哲学思想史	2	選択
	東洋思想史	2	選択
3 年次	特別支援教育	1	必修
	教育課程編成論	2	必修
	道德教育の理論と方法	2	必修
	生徒・進路指導の理論と方法	2	必修
	教育相談の理論と方法	2	必修
	法学（国際法を含む。）	2	選択
	地誌学概論	2	必修
	日本と外国の歴史	2	必修
	社会科・公民科指導法Ⅰ	2	必修
	社会科・公民科指導法Ⅱ	2	必修
	社会科・地理歴史科指導法Ⅰ	2	必修
	社会科・地理歴史科指導法Ⅱ	2	必修
	現代社会の教育課題	2	選択
	教育実習（中・高）	5	必修
4年次	教職実践演習	2	必修
小計(40科目)		78	

社会の「教科及び教科の指導法に関する科目」

社会の「教育の基礎的理解に関する科目等」

開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
1 年次	国語	★●	2 選択
	社会	●	2 選択
	算数	★●	2 選択
	理科	●	2 選択
	生活	★●	2 選択
	音楽	★●	2 選択
	図工	★●	2 選択
	家庭	●	2 選択
	体育（幼・小）	★●	2 選択
	外国語（英語）	●	2 選択
	保育内容総論	★	2 選択
	教育インターンシップ（幼）A	★	2 選択
	教育インターンシップ（幼）B	★	2 選択
	教育インターンシップ（幼）C	★	1 選択
	教育インターンシップ（幼）D	★	1 選択
	文化人類学	□	2 選択
	比較文化論	□	2 選択
	世界の宗教と文化	□	2 選択
	市民社会と法	□	2 選択
	体育実技（体操）	▼	1 選択
	体育実技（陸上）	▼	1 選択
	体育実技（スキー）	▼	1 選択
2 年次	図書館情報資源概論	□	2 選択
	図書館情報資源特論	□	1 選択
	全人教育実践演習 A		2 必修
	全人教育実践演習 B		2 必修
	幼児教育課程論	★	2 選択
	幼児理解と教育相談	★	2 選択
	幼児指導論	★	2 選択
	保育内容指導法（健康）	★	2 選択
	保育内容指導法（人間関係）	★	2 選択
	保育内容指導法（環境）	★	2 選択
	保育内容指導法（言葉）	★	2 選択
	保育内容指導法（表現）	★	2 選択
	国語科指導法	●	2 選択
	社会科指導法	●	2 選択
	算数科指導法	●	2 選択
	理科指導法	●	2 選択
	生活科指導法	●	2 選択
	音楽科指導法	●	2 選択
	家庭科指導法	●	2 選択
	図工科指導法	●	2 選択
	体育科指導法	●	2 選択
	外国語（英語）指導法	●	2 選択
	日本史各論 A	□	2 選択
	日本史各論 B	□	2 選択
	外国史各論 A	□	2 選択
	外国史各論 B	□	2 選択
	西洋文化史	□	2 選択
	東洋文化史	□	2 選択

★ 幼稚園 ▼保健体育 ▲公民

● 小学校 □地理歴史

教育学科 中（社会科教育コース）

開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
2 年 次	観光地誌論	□ 2	選択
	地球科学	□ 2	選択
	宇宙科学	□ 2	選択
	体育実技（水泳）	▼ 1	選択
	体育実技（ダンス）	▼ 1	選択
	体育実技（球技 A）	▼ 1	選択
	体育原理	▼ 2	選択
	体育社会学	▼ 2	選択
	生理学（運動生理学を含む。）	▼ 2	選択
	衛生学	▼ 2	選択
	公衆衛生学	▼ 2	選択
	学校保健	▼ 2	選択
	保健体育科指導法 I	▼ 2	選択
	保健体育科指導法 II	▼ 2	選択
	体育測定評価	2	選択
	博物館概論	□ 2	選択
	博物館資料論	□ 2	選択
	博物館教育論	□ 2	選択
3 年 次	現代教育研究 I	2	必修
	現代教育研究 II	2	必修
	日本の伝統文化と歴史	□ 2	選択
	地理情報論	□ 2	選択
	人文地理学	□ 2	選択
	自然地理学	□ 2	選択
	歴史資料情報論	□ 2	選択
	世界の教育と文化環境	□ 2	選択
	体育実技（球技 B）	▼ 1	選択
	体育実技（武道）	▼ 1	選択
	運動学（運動方法学を含む。）	▼ 2	選択
	体育心理学	▼ 2	選択
	体育経営管理学	▼ 2	選択
	栄養学	▼ 2	選択
	病理学	▼ 2	選択
	保健体育科指導法 III	▼ 2	選択
	保健体育科指導法 IV	▼ 2	選択
	運動部活動の指導法	▼ 2	選択
	臨床心理学	2	選択
	教育実習（幼・小）	★● 5	—
	教育実習（小・中）	●▼ 5	—
	教育実習（高等学校）	▼▲□ 3	—
	教育実習（副）	★● 3	選択
	学習指導と学校図書館	□ 2	選択
4 年 次	卒業課題研究 I	2	必修
	卒業課題研究 II	2	必修
小計(94科目)		185	

★ 幼稚園 ▼保健体育 ▲公民

● 小学校 □地理歴史

教育学科 高（公民教育コース）

開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
1 年 次	教育学概論	2	必修
	教職概論	2	必修
	教育の制度と経営	2	必修
	教育方法・技術論	1	選択
	ICT活用の理論と実践	1	選択
	教育哲学	2	選択
	教育社会学	2	選択
	教育心理学	2	選択
	発達心理学	2	選択
	教育方法学	2	選択
	生涯学習概論	2	選択
	経済学（国際経済を含む。）	2	選択
	社会学	2	選択
	ボランティア概論	2	選択
2 年 次	教育原理	2	必修
	学習・発達論	2	必修
	政治学（国際政治を含む。）	2	選択
	総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
	特別活動の理論と方法	1	必修
	西洋哲学思想史	2	選択
3 年 次	東洋思想史	2	選択
	特別支援教育	1	必修
	教育課程編成論	2	必修
	道德教育の理論と方法	2	選択
	生徒・進路指導の理論と方法	2	必修
	教育相談の理論と方法	2	必修
	法律学（国際法を含む。）	2	選択
	社会科・公民科指導法Ⅰ	2	必修
	社会科・公民科指導法Ⅱ	2	必修
	現代社会の教育課題	2	選択
4年次	教育実習（中・高）	5	必修
	教育実習（高等学校）	3	選択
	教職実践演習	2	必修
小計(33科目)		65	

社会の「教科及び教科の指導法に関する科目」
 社会の「教育の基礎的理解に関する科目等」

開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
1 年 次	国語	★●	2 選択
	社会	●	2 選択
	算数	★●	2 選択
	理科	●	2 選択
	生活	★●	2 選択
	音楽	★●	2 選択
	図工	★●	2 選択
	家庭	●	2 選択
	体育（幼・小）	★●	2 選択
	外国語（英語）	●	2 選択
	保育内容総論	★	2 選択
	教育インターンシップ（幼）A	★	2 選択
	教育インターンシップ（幼）B	★	2 選択
	教育インターンシップ（幼）C	★	1 選択
	教育インターンシップ（幼）D	★	1 選択
	文化人類学	□	2 選択
	民俗学入門	□	2 選択
	比較文化論	□	2 選択
	世界の宗教と文化	□	2 選択
	市民社会と法	□	2 選択
	日本史概論	◆□	2 選択
	体育実技（体操）	▼	1 選択
	体育実技（陸上）	▼	1 選択
	体育実技（スキー）	▼	1 選択
2 年 次	図書館情報資源概論	□	2 選択
	図書館情報資源特論	□	1 選択
	全人教育実践演習 A		2 必修
	全人教育実践演習 B		2 必修
	幼児教育課程論	★	2 選択
	幼児理解と教育相談	★	2 選択
	幼児指導論	★	2 選択
	保育内容指導法（健康）	★	2 選択
	保育内容指導法（人間関係）	★	2 選択
	保育内容指導法（環境）	★	2 選択
	保育内容指導法（言葉）	★	2 選択
	保育内容指導法（表現）	★	2 選択
	国語科指導法	●	2 選択
	社会科指導法	●	2 選択
	算数科指導法	●	2 選択
	理科指導法	●	2 選択
	生活科指導法	●	2 選択
	音楽科指導法	●	2 選択
	家庭科指導法	●	2 選択
	図工科指導法	●	2 選択
	体育科指導法	●	2 選択
	外国語（英語）指導法	●	2 選択
	日本史各論 A	□	2 選択
	日本史各論 B	□	2 選択
	外国史概論	◆□	2 選択

★ 幼稚園 ● 小学校 ◆ 社会
 ▼ 保健体育 □ 地理歴史

教育学科 高（公民教育コース）

開設 年次	授業科目名		単位	履修条件
2 年 次	外国史各論 A	□	2	選択
	外国史各論 B	□	2	選択
	西洋文化史	□	2	選択
	東洋文化史	□	2	選択
	地理学概論	◆□	2	選択
	観光地誌論	□	2	選択
	地球科学	□	2	選択
	宇宙科学	□	2	選択
	体育実技（水泳）	▼	1	選択
	体育実技（ダンス）	▼	1	選択
	体育実技（球技 A）	▼	1	選択
	体育原理	▼	2	選択
	体育社会学	▼	2	選択
	生理学（運動生理学を含む。）	▼	2	選択
	衛生学	▼	2	選択
	公衆衛生学	▼	2	選択
	学校保健	▼	2	選択
	保健体育科指導法 I	▼	2	選択
	保健体育科指導法 II	▼	2	選択
	体育測定評価		2	選択
	博物館概論	□	2	選択
	博物館資料論	□	2	選択
	博物館教育論	□	2	選択
3 年 次	現代教育研究 I		2	必修
	現代教育研究 II		2	必修
	日本の伝統文化と歴史	□	2	選択
	地理情報論	□	2	選択
	人文地理学	□	2	選択
	自然地理学	□	2	選択
	地誌学概論	◆□	2	選択
	日本と外国の歴史	◆□	2	選択
	歴史資料情報論	□	2	選択
	社会科・地理歴史科指導法 I	◆□	2	選択
	社会科・地理歴史科指導法 II	◆□	2	選択
	世界の教育と文化環境	□	2	選択
	体育実技（球技 B）	▼	1	選択
	保健体育科指導法 III	▼	2	選択
	保健体育科指導法 IV	▼	2	選択
	運動部活動の指導法	▼	2	選択
	体育実技（武道）	▼	1	選択
	運動学（運動方法学を含む。）	▼	2	選択
	体育心理学	▼	2	選択
	体育経営管理学	▼	2	選択
	栄養学	▼	2	選択
	病理学	▼	2	選択
	臨床心理学		2	選択
	学習指導と学校図書館	□	2	選択
	教育実習（幼・小）	★●	5	—
	教育実習（小・中）	●◆▼	5	—
	教育実習（副）	★●◆▼	3	—
4 年 次	卒業課題研究 I		2	必修
	卒業課題研究 II		2	必修
小計(101科目)			198	

★ 幼稚園 ● 小学校 ◆ 社会

▼ 保健体育 □ 地理歴史

教育学科 高（地理歴史教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
地理歴史教育コースの科目	1 年次	教育学概論	2	必修
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	必修
		教育方法・技術論	1	選択
		ICT活用の理論と実践	1	選択
		教育哲学	2	選択
		教育社会学	2	選択
		教育心理学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		教育方法学	2	選択
		民俗学入門	2	選択
		生涯学習概論	2	選択
		日本史概論	2	必修
	2 年次	教育原理	2	必修
		学習・発達論	2	必修
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
		特別活動の理論と方法	1	必修
		日本史各論 A	2	選択
		日本史各論 B	2	選択
		外国史概論	2	必修
		外国史各論 A	2	選択
		外国史各論 B	2	選択
		西洋文化史	2	選択
		東洋文化史	2	選択
	3 年次	地理学概論	2	必修
		観光地誌論	2	選択
		特別支援教育	1	必修
		教育課程編成論	2	必修
		道德教育の理論と方法	2	選択
		生徒・進路指導の理論と方法	2	必修
		教育相談の理論と方法	2	必修
		日本の伝統文化と歴史	2	必修
		地理情報論	2	必修
		人文地理学	2	選択
		自然地理学	2	選択
		地誌学概論	2	必修
		日本と外国の歴史	2	必修
		歴史資料情報論	2	必修
		社会科・地理歴史科指導法Ⅰ	2	必修
		社会科・地理歴史科指導法Ⅱ	2	必修
		現代社会の教育課題	2	選択
		教育実習（中・高）	5	必修
		教育実習（高等学校）	3	選択
	4年次	教職実践演習	2	必修
	小計（44科目）		87	

地理歴史の「教科及び教科の指導法に関する科目」

地理歴史の「教育の基礎的理解に関する科目等」

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
地理歴史教育コース関連科目	1 年次	文化人類学	2	選択
		比較文化論	2	選択
		世界の宗教と文化	2	選択
		市民社会と法	2	選択
		図書館情報資源概論	2	選択
		図書館情報資源特論	1	選択
	2 年次	地球科学	2	選択
		宇宙科学	2	選択
		博物館概論	2	選択
		博物館資料論	2	選択
	3 年次	博物館教育論	2	選択
		世界の教育と文化環境	2	選択
		学習指導と学校図書館	2	選択
	小計（13科目）		25	

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
地理歴史教育コース以外の科目	1 年次	国語	★●	2 選択
		社会	●	2 選択
		算数	★●	2 選択
		理科	●	2 選択
		生活	★●	2 選択
		音楽	★●	2 選択
		図工	★●	2 選択
		家庭	●	2 選択
		体育（幼・小）	★●	2 選択
		外国語（英語）	●	2 選択
		保育内容総論	★	2 選択
		教育インターンシップ（幼）A	★	2 選択
		教育インターンシップ（幼）B	★	2 選択
		教育インターンシップ（幼）C	★	1 選択
		教育インターンシップ（幼）D	★	1 選択
		経済学（国際経済を含む。）	◆▲	2 選択
		社会学	◆▲	2 選択
		ボランティア概論	◆▲	2 選択
		体育実技（体操）	▼	1 選択
		体育実技（陸上）	▼	1 選択
		体育実技（スキー）	▼	1 選択
	2 年次	政治学（国際政治を含む。）	◆▲	2 選択
		全人教育実践演習 A		2 必修
		全人教育実践演習 B		2 必修
		幼児教育課程論	★	2 選択
		幼児理解と教育相談	★	2 選択
		幼児指導論	★	2 選択
		保育内容指導法（健康）	★	2 選択
		保育内容指導法（人間関係）	★	2 選択
		保育内容指導法（環境）	★	2 選択

★ 幼稚園 ● 小学校 ◆ 社会

▲ 公民 ▼ 保健体育

教育学科 高（地理歴史教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
地理 歴史 教育 コース 以外 の 科目	2 年 次	保育内容指導法（言葉）★	2	選択
		保育内容指導法（表現）★	2	選択
		国語科指導法●	2	選択
		社会科指導法●	2	選択
		算数科指導法●	2	選択
		理科指導法●	2	選択
		生活科指導法●	2	選択
		音楽科指導法●	2	選択
		家庭科指導法●	2	選択
		図工科指導法●	2	選択
		体育科指導法●	2	選択
		外国語（英語）指導法●	2	選択
		西洋哲学思想史◆▲	2	選択
		東洋思想史◆▲	2	選択
		体育実技（水泳）▼	1	選択
		体育実技（ダンス）▼	1	選択
		体育実技（球技 A）▼	1	選択
		体育原理▼	2	選択
		体育社会学▼	2	選択
		生理学（運動生理学を含む。）▼	2	選択
	衛生学▼	2	選択	
	公衆衛生学▼	2	選択	
	学校保健▼	2	選択	
	保健体育科指導法Ⅰ▼	2	選択	
	保健体育科指導法Ⅱ▼	2	選択	
	体育測定評価	2	選択	
	3 年 次	現代教育研究Ⅰ	2	必修
		現代教育研究Ⅱ	2	必修
		法律学（国際法を含む。）◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法Ⅰ◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法Ⅱ◆▲	2	選択
		体育実技（球技 B）▼	1	選択
		体育実技（武道）▼	1	選択
		体育心理学▼	2	選択
		体育経営管理学▼	2	選択
		保健体育科指導法Ⅲ▼	2	選択
保健体育科指導法Ⅳ▼		2	選択	
運動部活動の指導法▼		2	選択	
臨床心理学		2	選択	
運動学（運動方法学を含む。）▼		2	選択	
栄養学▼		2	選択	
病理学▼		2	選択	
教育実習（幼・小）★●	5	—		
教育実習（小・中）●◆▼	5	—		
教育実習（副）★●◆▼	3	選択		
4 年 次	卒業課題研究Ⅰ	2	必修	
	卒業課題研究Ⅱ	2	必修	
小計（77科目）			151	

★ 幼稚園 ● 小学校 ◆ 社会

▲ 公民 ▼ 保健体育

教育学科 中高（保健体育教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修 条件		開設 年次	授業科目名	単位	履修条件	
保健体育教育コース科目	1 年次	教育学概論	2	必修	保健体育教育コース以外の科目	1 年次	国語	★●	2	選択
		教職概論	2	必修			社会	●	2	選択
		教育の制度と経営	2	必修			算数	★●	2	選択
		教育方法・技術論	1	選択			理科	●	2	選択
		ICT活用の理論と実践	1	選択			生活	★●	2	選択
		教育哲学	2	選択			音楽	★●	2	選択
		教育社会学	2	選択			図工	★●	2	選択
		教育心理学	2	選択			家庭	●	2	選択
		発達心理学	2	選択			体育（幼・小）	★●	2	選択
		教育方法学	2	選択			外国語（英語）	●	2	選択
		生涯学習概論	2	選択			保育内容総論	★	2	選択
		体育実技（体操）	1	必修			教育インターンシップ（幼） A	★	2	選択
		体育実技（陸上）	1	必修			教育インターンシップ（幼） B	★	2	選択
		体育実技（スキー）	1	必修			教育インターンシップ（幼） C	★	1	選択
	2 年次	教育原理	2	必修		教育インターンシップ（幼） D	★	1	選択	
		学習・発達論	2	必修		文化人類学	□	2	選択	
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修		民俗学入門	◆□	2	選択	
		特別活動の理論と方法	1	必修		比較文化論	□	2	選択	
		体育実技（水泳）	1	必修		世界の宗教と文化	□	2	選択	
		体育実技（ダンス）	1	必修		経済学（国際経済を含む。）	◆▲	2	選択	
		体育実技（球技 A）	1	必修		政治学（国際政治を含む。）	◆▲	2	選択	
		体育原理	2	選択		市民社会と法	□	2	選択	
		体育社会学	2	選択		社会学	◆▲	2	選択	
		生理学（運動生理学を含む。）	2	必修		ボランティア概論	◆▲	2	選択	
		衛生学	2	必修		日本史概論	◆□	2	選択	
		公衆衛生学	2	必修		図書館情報資源概論	□	2	選択	
	学校保健	2	必修	図書館情報資源特論		□	1	選択		
	保健体育科指導法Ⅰ	2	必修	2 年次		全人教育実践演習 A		2	必修	
	保健体育科指導法Ⅱ	2	必修			全人教育実践演習 B		2	必修	
	特別支援教育	1	必修			幼児教育課程論	★	2	選択	
	教育課程編成論	2	必修			幼児理解と教育相談	★	2	選択	
	道德教育の理論と方法	2	必修			幼児指導論	★	2	選択	
	生徒・進路指導の理論と方法	2	必修			保育内容指導法（健康）	★	2	選択	
	教育相談の理論と方法	2	必修			保育内容指導法（人間関係）	★	2	選択	
	体育実技（球技 B）	1	必修			保育内容指導法（環境）	★	2	選択	
	体育実技（武道）	1	必修			保育内容指導法（言葉）	★	2	選択	
	運動学（運動方法学を含む。）	2	必修			保育内容指導法（表現）	★	2	選択	
	体育心理学	2	選択			国語科指導法	●	2	選択	
	体育経営管理学	2	選択			社会科指導法	●	2	選択	
	栄養学	2	選択			算数科指導法	●	2	選択	
	病理学	2	選択			理科指導法	●	2	選択	
	保健体育科指導法Ⅲ	2	必修	生活科指導法		●	2	選択		
	保健体育科指導法Ⅳ	2	必修	音楽科指導法		●	2	選択		
	運動部活動の指導法	2	選択	家庭科指導法		●	2	選択		
	現代社会の教育課題	2	選択	図工科指導法		●	2	選択		
	教育実習（中・高）	5	必修	体育科指導法		●	2	選択		
	教育実習（高等学校）	3	選択	外国語（英語）指導法		●	2	選択		
	4年次	教職実践演習	2	必修		日本史各論 A	□	2	選択	
		小計(48科目)	87	選択		日本史各論 B	□	2	選択	

保健体育の「教科及び教科の指導法に関する科目」

保健体育の「教育の基礎的理解に関する科目等」

★ 幼稚園 ◆ 社会 ▲ 公民

● 小学校 □ 地理歴史

教育学科 中高（保健体育教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	2 年 次	外国史概論 ◆□	2	選択
保 健 体 育 教 育 コ ー ス 以 外 の 科 目		外国史各論 A □	2	選択
		外国史各論 B □	2	選択
		西洋文化史 □	2	選択
		東洋文化史 □	2	選択
		地理学概論 ◆□	2	選択
		観光地誌論 □	2	選択
		西洋哲学思想史 ◆▲	2	選択
		東洋思想史 ◆▲	2	選択
		地球科学 □	2	選択
		宇宙科学 □	2	選択
		体育測定評価	2	選択
		博物館概論 □	2	選択
		博物館資料論 □	2	選択
		博物館教育論 □	2	選択
	3 年 次	現代教育研究 I	2	必修
		現代教育研究 II	2	必修
		法律学（国際法を含む。） ◆▲	2	選択
		日本の伝統文化と歴史 □	2	選択
		地理情報論 □	2	選択
		人文地理学 □	2	選択
		自然地理学 □	2	選択
		地誌学概論 ◆□	2	選択
		日本と外国の歴史 ◆□	2	選択
		歴史資料情報論 □	2	選択
		社会科・公民科指導法 I ◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法 II ◆▲	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法 I ◆□	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法 II ◆□	2	選択
		世界の教育と文化環境 □	2	選択
		臨床心理学	2	選択
		学習指導と学校図書館 □	2	選択
		教育実習（幼・小） ★●	5	—
		教育実習（小・中） ●◆	5	—
		教育実習（副） ★●	3	—
	4 年 次	卒業課題研究 I	2	必修
		卒業課題研究 II	2	必修
		小計(86科目)	176	

★ 幼稚園 ◆社会 ▲公民
● 小学校 □地理歴史

教育学科科目（教員免許取得コースを除く）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
教育学科科目 （免許取得コースを除く）	1 年次	教育学概論	2	必修
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	選択
		教育方法・技術論	1	選択
		ICT活用の理論と実践	1	選択
		教育哲学	2	選択
		教育社会学	2	選択
		教育心理学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		教育方法学	2	選択
		国語	2	選択
		社会	2	選択
		算数	2	選択
		理科	2	選択
		生活	2	選択
		音楽	2	選択
		図工	2	選択
		家庭	2	選択
		体育（幼・小）	2	選択
		外国語（英語）	2	選択
		保育内容総論	2	選択
		教育インターンシップ（幼）A	2	選択
		教育インターンシップ（幼）B	2	選択
		教育インターンシップ（幼）C	1	選択
		教育インターンシップ（幼）D	1	選択
		文化人類学	2	選択
		民俗学入門	2	選択
		比較文化論	2	選択
		世界の宗教と文化	2	選択
		経済学（国際経済を含む。）	2	選択
		市民社会と法	2	選択
		社会学	2	選択
		生涯学習概論	2	選択
		ボランティア概論	2	選択
		日本史概論	2	選択
		体育実技（体操）	1	選択
		体育実技（陸上）	1	選択
		体育実技（スキー）	1	選択
		図書館情報資源概論	2	選択
		図書館情報資源特論	1	選択

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
教育学科科目 （免許取得コースを除く）	2 年次	教育原理	2	選択
		学習・発達論	2	選択
		政治学（国際政治を含む。）	2	選択
		全人教育実践演習 A	2	必修
		全人教育実践演習 B	2	必修
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	選択
		特別活動の理論と方法	1	選択
		幼児教育課程論	2	選択
		幼児理解と教育相談	2	選択
		幼児指導論	2	選択
		保育内容指導法（健康）	2	選択
		保育内容指導法（人間関係）	2	選択
		保育内容指導法（環境）	2	選択
		保育内容指導法（言葉）	2	選択
		保育内容指導法（表現）	2	選択
		国語科指導法	2	選択
		社会科指導法	2	選択
		算数科指導法	2	選択
		理科指導法	2	選択
		生活科指導法	2	選択
		音楽科指導法	2	選択
		家庭科指導法	2	選択
		図工科指導法	2	選択
		体育科指導法	2	選択
		外国語（英語）指導法	2	選択
		日本史各論 A	2	選択
		日本史各論 B	2	選択
		外国史概論	2	選択
		外国史各論 A	2	選択
		外国史各論 B	2	選択
		西洋文化史	2	選択
		東洋文化史	2	選択
		地理学概論	2	選択
		観光地誌論	2	選択
		西洋哲学思想史	2	選択
		東洋思想史	2	選択
		地球科学	2	選択
		宇宙科学	2	選択
		体育実技（水泳）	1	選択
		体育実技（ダンス）	1	選択
		体育実技（球技 A）	1	選択
		教育原理	2	選択
		体育社会学	2	選択
		生理学（運動生理学を含む。）	2	選択
		衛生学	2	選択
		公衆衛生学	2	選択

教育学科科目（教員免許取得コースを除く）

教育学科科目（免許取得コースを除く）	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	2 年次	学校保健	2	選択
		保健体育科指導法Ⅰ	2	選択
		保健体育科指導法Ⅱ	2	選択
		体育測定評価	2	選択
		博物館概論	2	選択
		博物館資料論	2	選択
		博物館教育論	2	選択
	3 年次	特別支援教育	1	必修
		現代教育研究Ⅰ	2	必修
		現代教育研究Ⅱ	2	必修
		教育課程編成論	2	選択
		道德教育の理論と方法	2	選択
		生徒・進路指導の理論と方法	2	選択
		教育相談の理論と方法	2	選択
		法律学（国際法を含む。）	2	選択
		日本の伝統文化と歴史	2	選択
		地理情報論	2	選択
		人文地理学	2	選択
		自然地理学	2	選択
		地誌学概論	2	選択
		日本と外国の歴史	2	選択
		歴史資料情報論	2	選択
		社会科・公民科指導法Ⅰ	2	選択
		社会科・公民科指導法Ⅱ	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法Ⅰ	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法Ⅱ	2	選択
		世界の教育と文化環境	2	選択
		体育実技（球技 B）	1	選択
		体育実技（武道）	1	選択
		運動学（運動方法学を含む。）	2	選択
		体育心理学	2	選択
		体育経営管理学	2	選択
		栄養学	2	選択
		病理学	2	選択
		保健体育科指導法Ⅲ	2	選択
		保健体育科指導法Ⅳ	2	選択
		運動部活動の指導法	2	選択
現代社会の教育課題	2	選択		
臨床心理学	2	選択		
学習指導と学校図書館	2	選択		
教育実習（幼・小）	5	—		
教育実習（小・中）	5	—		
教育実習（中・高）	5	—		
教育実習（高等学校）	3	—		
教育実習（副）	3	—		
4 年次	卒業課題研究Ⅰ	2	必修	
	卒業課題研究Ⅱ	2	必修	
	教職実践演習	2	—	
小計(134科目)			263	

別表第2－①

乳幼児発達学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
教育学概論	2	必修	
保育原理	2	選択	
児童学	2	選択	
子どもの保健	2	選択	
社会福祉	2	選択	
教育原理	2	選択	
保育者論	2	必修	
学習・発達論	2	選択	
保育内容総論	2	選択	
教育の制度と経営	2	選択	
教育の方法と技術	2	選択	
教育哲学	2	選択	
教育社会学	2	選択	
子どもと家庭の発達心理学	2	選択	
教育方法学	2	選択	
国語	2	選択	
算数	2	選択	
生活	2	選択	
図工（幼）	2	選択	
教育インターンシップ（幼）A	2	選択	
教育インターンシップ（幼）B	2	選択	
教育インターンシップ（幼）C	1	選択	
教育インターンシップ（幼）D	1	選択	
保育インターンシップA	2	選択	
保育インターンシップB	2	選択	
保育インターンシップC	1	選択	
保育インターンシップD	1	選択	
全人教育実践演習A	2	必修	
全人教育実践演習B	2	必修	
保育の心理学	2	選択	
幼児理解と教育相談	2	選択	
幼児指導論	2	選択	
保育内容指導法（健康）	2	選択	
保育内容指導法（人間関係）	2	選択	
保育内容指導法（環境）	2	選択	
保育内容指導法（言葉）	2	選択	
保育内容指導法（表現）	2	選択	
音楽（幼）	2	選択	
体育（幼）	2	選択	
乳児保育Ⅰ	2	選択	
乳児保育Ⅱ	1	選択	
子どもの遊びと育ち	2	選択	
子どもの健康と安全	1	選択	
子ども家庭福祉	2	選択	
人間関係論	2	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
現代教育研究Ⅰ	2	必修	
現代教育研究Ⅱ	2	必修	
保育カリキュラム論	2	選択	
子どもの食と栄養	2	選択	
社会的養護	2	選択	
社会的養護演習	1	選択	
特別な支援を必要とする子どもの理解と援助Ⅰ	1	選択	
特別な支援を必要とする子どもの理解と援助Ⅱ	1	選択	
救急処置法	2	選択	
児童文化	2	選択	
保育実践論A	2	選択	
教育実習（幼稚園1種）	5	選択	
保育実習指導Ⅰ	2	選択	
保育実習Ⅰ	4	選択	
卒業課題研究Ⅰ	2	必修	
卒業課題研究Ⅱ	2	必修	
子育て支援演習	1	選択	
保育実践論B	2	選択	
保育実践論C	2	選択	
子ども家庭支援論	2	選択	
子どもと家族の福祉	2	選択	
保育・教職実践演習	2	選択	
保育実習指導Ⅱ	1	選択	
保育実習指導Ⅲ	1	選択	
保育実習Ⅱ	2	選択	
保育実習Ⅲ	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第 2 - ①

音楽学科科目

授業科目の名称	単位	履修条件			卒業要件
		演奏・創作	ミュージカル	音楽教育	
芸術概論	2	必修	必修	必修	
音楽理論	2	必修	必修	必修	
ソルフェージュ I	2	必修	必修	必修	
ソルフェージュ II	2	必修	必修	選択	
アンサンブル I	2	選択	必修	選択	
アンサンブル II	2	選択	必修	選択	
音楽専門実技 I	2	必修	選択	選択	
音楽専門実技 II	2	必修	選択	選択	
器楽基礎 A	2	選択	選択	選択	
器楽基礎 B	2	選択	選択	選択	
声楽基礎 A	2	選択	選択	選択	
声楽基礎 B	2	選択	選択	必修	
演技・舞踊入門	2	選択	選択	選択	
演技・舞踊基礎演習	2	選択	選択	選択	
舞台技術基礎演習	2	選択	選択	選択	
上演基礎実習	4	選択	選択	選択	
世界演劇・舞踊史 I	2	選択	選択	選択	
世界演劇・舞踊史 II	2	選択	選択	選択	
鍵盤楽器基礎	2	選択	選択	必修	
和楽器指導法（管・絃・打）	2	選択	選択	必修	
音楽文化論	2	必修	選択	選択	
和声学 I	2	必修	選択	選択	
和声学 II	2	必修	選択	選択	
アンサンブル III	2	選択	選択	選択	
アンサンブル IV	2	選択	選択	選択	
第九演奏表現 A	2	選択	選択	選択	
音楽専門実技 III	2	選択	選択	選択	
音楽専門実技 IV	2	選択	選択	選択	
器楽基礎 C	2	選択	選択	選択	
器楽基礎 D	2	選択	選択	選択	
声楽基礎 C	2	選択	選択	選択	
声楽基礎 D	2	選択	選択	選択	
ミュージカル表現 I	4	選択	必修	選択	
ミュージカル表現 II	4	選択	必修	選択	
演劇理論	2	選択	選択	選択	
芸術と社会	2	選択	選択	選択	
上演実習 A	4	選択	必修	選択	
上演実習 B	4	選択	選択	選択	
音楽科指導法 I	2	選択	選択	必修	
音楽科指導法 II	2	選択	選択	必修	
創作教育法	1	選択	選択	選択	
器楽教育法 I（管・打・合奏）	2	選択	選択	必修	
日本音楽史	2	選択	選択	選択	

授業科目の名称	単位	履修条件			卒業要件
		演奏・創作	ミュージカル	音楽教育	
民族音楽概説	2	選択	選択	選択	
作家理解と作品講読	2	選択	選択	選択	
歌唱教育法（合唱）	2	選択	選択	必修	
指揮法	2	選択	選択	必修	
対位法	2	選択	選択	選択	
楽式論	2	選択	選択	選択	
西洋音楽史	2	選択	選択	選択	
現代音楽史	2	選択	選択	選択	
第九演奏表現 B	2	選択	選択	選択	
アンサンブル V	2	選択	選択	選択	
アンサンブル VI	2	選択	選択	選択	
演奏・創作 I	2	必修	選択	選択	
演奏・創作 II	2	必修	選択	選択	
文献資料講読	2	選択	選択	選択	
器楽 I	2	選択	選択	選択	
器楽 II	2	選択	選択	選択	
声楽 I	2	選択	選択	選択	
声楽 II	2	選択	選択	選択	
オーディション演習	2	選択	選択	選択	
劇場接遇演習（ゲストリレーション）	2	選択	選択	選択	
音楽科指導法 III	2	選択	選択	必修	
音楽科指導法 IV	2	選択	選択	必修	
器楽教育法 II（リコーダー・弦楽器）	2	選択	選択	選択	
鑑賞教育理論（音楽）	2	選択	選択	選択	
伴奏法	2	選択	選択	選択	
歌曲伴奏法	2	選択	選択	選択	
作曲法 I	2	必修	選択	必修	
作曲法 II	2	必修	選択	選択	
器楽 III	2	選択	選択	選択	
器楽 IV	2	選択	選択	選択	
声楽 III	2	選択	選択	選択	
声楽 IV	2	選択	選択	選択	
アンサンブル VII	2	選択	選択	選択	
アンサンブル VIII	2	選択	選択	選択	
第九演奏表現 C	2	選択	選択	選択	
音楽教育実践法	2	選択	選択	選択	
演奏・創作 III	2	選択	選択	選択	
卒業演奏・卒業創作	2	選択	選択	選択	
卒業創作・研究 A	4	選択	必修	選択	
卒業創作・研究 B	4	選択	選択	選択	
卒業論文執筆法	2	選択	選択	選択	
卒業論文	2	選択	選択	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第 2 - ①

アート・デザイン学科科目

授業科目名称	単位	履修条件		卒業要件
		メディア表現	美術教育	
芸術概論	2	必修	必修	
アート・デザイン理論基礎 I	2	必修	選択	
アート・デザイン理論基礎 II	2	必修	選択	
アート・デザイン演習基礎 A	2	選択	選択	
アート・デザイン演習基礎 B	2	選択	選択	
アート・デザイン演習基礎 C	2	必修	選択	
美術理論	2	選択	必修	
絵画基礎	2	選択	必修	
彫刻基礎	2	選択	必修	
デザイン基礎	2	選択	必修	
工芸基礎	2	選択	必修	
映像メディア表現基礎	2	選択	必修	
ドローイング	1	選択	必修	
コンピュータ音楽基礎 A	2	選択	選択	
コンピュータ音楽基礎 B	2	選択	選択	
文化立国論	2	必修	選択	
芸術コミュニケーション論	2	必修	選択	
工芸理論	2	選択	選択	
工芸史	2	選択	選択	
西洋美術史	2	選択	必修	
日本美術史	2	選択	必修	
美術科・工芸科指導法 I	2	選択	選択	
美術科・工芸科指導法 II	2	選択	選択	
デザイン史	2	選択	選択	
音楽分析技法	2	選択	選択	
メディア・デザイン理論 A	2	選択	選択	
メディア・デザイン理論 B	2	選択	選択	
絵画 I	2	選択	選択	
絵画 II	2	選択	選択	
図法・製図	2	選択	選択	
彫刻 I	2	選択	選択	
彫刻 II	2	選択	選択	
デザイン I	2	選択	選択	
デザイン II	2	選択	選択	
工芸 I	2	選択	選択	
工芸 II	2	選択	選択	
コンピュータ・グラフィックス I	2	選択	選択	
コンピュータ・グラフィックス II	2	選択	選択	
映像メディア表現 I	2	選択	選択	
映像メディア表現 II	2	選択	選択	
空間表現 I	2	選択	選択	
空間表現 II	2	選択	選択	
総合造形 I	2	選択	選択	
総合造形 II	2	選択	選択	
コンピュータ音楽 I	2	選択	選択	
コンピュータ音楽 II	2	選択	選択	

授業科目名称	単位	履修条件		卒業要件
		メディア表現	美術教育	
共創芸術プロジェクト A	2	選択	選択	
共創芸術プロジェクト B	2	選択	選択	
Art and Sound Techniques	2	選択	選択	
Art and Sound Design A	2	選択	選択	
Art and Sound Design B	2	選択	選択	
タイポグラフィ基礎演習	2	選択	選択	
デジタルタイポグラフィ	2	選択	選択	
アート・デザイン研究 I	2	必修	必修	
アート・デザイン研究 II	2	必修	必修	
芸術表現学	2	必修	選択	
アート・デザイン理論研究 I	2	必修	選択	
アート・デザイン理論研究 II	2	必修	選択	
鑑賞教育理論（美術）	2	選択	必修	
デザイン理論	2	選択	選択	
美術科指導法 I	2	選択	選択	
美術科指導法 II	2	選択	選択	
アート・デザイン演習 A	2	選択	選択	
アート・デザイン演習 B	2	選択	選択	
メディア・デザイン理論 C	2	選択	選択	
メディア・デザイン理論 D	2	選択	選択	
情報デザイン I	2	選択	選択	
情報デザイン II	2	選択	選択	
アート・デザイン卒業研究 I	2	必修	必修	
アート・デザイン卒業研究 II	2	必修	必修	
東洋美術史	2	選択	選択	
アートによる社会貢献	2	必修	選択	
アート・デザイン演習 C	2	選択	選択	
アート・デザイン演習 D	2	選択	選択	
エキシビジョン	2	選択	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第 2－①

演劇・舞踊学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
芸術概論	2	必修	
演技・舞踊入門	2	必修	
演技・舞踊基礎演習	2	必修	
舞台技術基礎演習	2	必修	
上演基礎実習	4	必修	
日本文化芸術論	2	選択	
世界演劇・舞踊史 I	2	必修	
世界演劇・舞踊史 II	2	必修	
Performing in English	1	選択	
演技・舞踊演習 I	4	選択	
演技・舞踊演習 II	4	選択	
日本演劇・舞踊史 I	2	必修	
日本演劇・舞踊史 II	2	必修	
演劇理論	2	選択	
芸術と社会	2	選択	
所作・擬闘	2	選択	
シアターデザイン基礎演習 I	2	選択	
シアターデザイン基礎演習 II	2	選択	
メイクアップ	2	選択	
上演実習 A	4	選択	
上演実習 B	4	選択	
舞台創造演習 I	4	選択	
舞台創造演習 II	4	選択	
芸術創造演習 I	4	選択	
芸術創造演習 II	4	選択	
応用演劇演習 I	2	選択	
応用演劇演習 II	2	選択	
芸術プロジェクト A	2	選択	
芸術プロジェクト B	2	選択	
演技・舞踊演習 III	4	選択	
演技・舞踊演習 IV	4	選択	
オーディション演習	2	選択	
上演実習 C	4	選択	
上演実習 D	4	選択	
劇場接遇演習（ゲストリレーション）	2	選択	
舞台創造演習 III	4	選択	
舞台創造演習 IV	4	選択	
芸術プロジェクト C	2	選択	
芸術プロジェクト D	2	選択	
アナウンス・ナレーション研究	2	選択	
劇空間デザイン研究	2	選択	
舞台芸術研究 I	2	必修	
舞台芸術研究 II	2	必修	
芸術創造演習 III	4	選択	
芸術創造演習 IV	4	選択	
応用演劇演習 III	2	選択	
応用演劇演習 IV	2	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
芸術プロジェクト E	2	選択	
芸術プロジェクト F	2	選択	
卒業創作・研究 A	4	選択	
卒業創作・研究 B	4	選択	
舞台芸術研究 III	2	必修	
舞台芸術研究 IV	2	必修	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第2-①
リベラルアーツ学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
リベラルアーツ基礎	1	必修	
こどもと心の科学	2	選択	
パーソナリティ心理学	2	選択	
ブリッジ講座 A	2	必修	
ブリッジ講座 B	2	選択	
現代サブカルチャー論	2	選択	
哲学の諸問題	2	選択	
倫理学の諸問題	2	選択	
宗教学の諸問題	2	選択	
社会分析基礎論	2	選択	
文学と社会	2	選択	
キリスト教思想史	2	選択	
社会心理学	2	選択	
社会調査実習 I	2	選択	
社会調査法	4	選択	
心理学研究法 I	2	選択	
心理学研究法 II	2	選択	
日本語教育概論	2	選択	
日本語教育演習	2	選択	
考現学演習	2	選択	
儀礼文化論	2	選択	
国際関係研究	2	選択	
国際貿易論	2	選択	
リベラルアーツセミナー IA	2	必修	
リベラルアーツセミナー IB	2	選択	
リベラルアーツセミナー IIA	2	必修	
リベラルアーツセミナー IIB	2	選択	
文献講読 A	2	選択	
文献講読 B	2	選択	
フィールドリサーチ	2	選択	
死生論	2	選択	
現代と倫理	2	選択	
心の哲学	2	選択	
哲学特殊研究	2	選択	
法哲学	2	選択	
宗教的人間研究	2	選択	
宗教的文化研究	2	選択	
青年・成人・老年期の心の科学	2	選択	
認知行動科学	2	選択	
言語心理学	2	選択	
児童文学	2	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
現代文学研究	2	選択	
比較文学	2	選択	
民俗芸能論	2	選択	
民俗文化研究	2	選択	
日本学調査実習	2	選択	
日本語指導法 I	2	選択	
日本語指導法 II	2	選択	
日本語教育実習 A	1	選択	
日本語教育実習 B	2	選択	
日本語教育実習 C	2	選択	
表象文化論	2	選択	
社会学理論	2	選択	
社会調査実習 II	2	選択	
産業・組織心理学	2	選択	
国際関係事例研究 A	2	選択	
国際関係事例研究 B	2	選択	
STEMと現代社会 I	2	選択	
STEMと現代社会 II	2	選択	
リベラルアーツセミナー III	2	選択	
リベラルアーツセミナー IV	2	選択	
リベラルアーツプロジェクト	2	必修	
専門研究 A	2	選択	
専門研究 B	2	選択	
日本思想史	2	選択	
実証的社会学研究	2	選択	
健康心理学	2	選択	
犯罪心理学	2	選択	
日本語教育現場研究	2	選択	
鑑賞批評論	2	選択	
グローバル人材論	2	選択	
環境平和論	2	選択	
STEM文献研究	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第2-①

観光学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
ソーリズム概論	4	必修	
Business Communication A	1	必修	
Business Communication B	1	必修	
Intensive English Training A	1	必修	
マネジメント基礎	2	必修	
観光地形成論	2	選択	
日本文化論	2	選択	
研究・調査の方法	1	必修	
Business Communication C	1	必修	
Business Communication D	1	必修	
Intensive English Training B	1	必修	
組織行動とリーダーシップ	2	選択	
ソーリズム・マーケティング入門	2	選択	
グローバル・ソーリズム	2	選択	
観光心理学	2	選択	
ソーリズムとSDGs	2	選択	
観光産業とテクノロジー	2	選択	
留学準備セミナー	1	必修	
English for Study Abroad	2	必修	
Intensive English Training C	1	必修	
Communicative Skills in English A	1	選択	
Communicative Skills in English B	1	選択	
Communicative Skills in English C	1	選択	
Communicative Skills in English D	1	選択	
English for Specific Purposes A	2	選択	
English for Specific Purposes B	2	選択	
English for Specific Purposes C	2	選択	
English for Specific Purposes D	2	選択	
Tourism & Management Studies A	4	選択	
Tourism & Management Studies B	4	選択	
Tourism & Management Studies C	4	選択	
Tourism & Management Studies D	4	選択	
Cross Cultural Research	1	選択	
ソーリズム最新事情	2	選択	
経営戦略とITマネジメント	2	選択	
人材マネジメント論	2	選択	
Globalization & International Management	2	選択	
宿泊事業論	2	選択	
ホスピタリティ・マネジメント	2	選択	
エアライン・オペレーション	2	選択	
MICE事業論	2	選択	
旅行事業論	2	選択	
観光行動論	2	選択	
観光政策論	2	選択	
観光開発論	2	選択	
観光・地域活性化論	2	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
観光データ・サイエンス	2	選択	
異文化コミュニケーション	2	選択	
観光学ゼミナール I	2	必修	
English for Business Purposes A	2	必修	
外書講読	2	選択	
企業ガバナンスとマネジメント	2	選択	
アントレプレナーシップ	2	選択	
サービス・マーケティング	2	選択	
航空事業論	2	選択	
Revenue Management	2	選択	
Financial Management for Tourism & Hospitality	2	選択	
イベント・マネジメント	2	選択	
地域ブランド論	2	選択	
デスティネーション・マネジメント	2	選択	
国際観光ビジネス実務	2	選択	
デジタル・マーケティング	2	選択	
Tourism & Sustainable Development	2	選択	
観光と国際社会	2	選択	
異文化マネジメント	2	選択	
International Cooperation	2	選択	
観光学ゼミナール II	2	選択	
English for Business Purposes B	2	必修	
Business Case Study	2	選択	
ホスピタリティ産業の戦略	2	選択	
スポーツ地域マネジメント	2	選択	
観光事業のイノベーション	2	選択	
観光学ゼミナール III	2	選択	
卒業論文	2	選択	
English for Business Purposes C	2	必修	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第2-①

教育学科通信教育課程ユニバーシティ・スタンダード科目

	授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
F Y E 科 目 群 玉川教育・	一年次セミナー 101	2	必修	9 単位
	一年次セミナー 102	2	必修	
	健康教育	1	必修	
	音楽 I	1	必修	
	音楽 II	1	必修	
	全人教育論	2	必修	
科 目 群 人文科学	歴史 (世界)	2	選択	16 単位以上
	歴史 (日本)	2	選択	
	哲学	2	選択	
	宗教学	2	選択	
科 目 群 社会科学	コミュニケーション論	2	選択	
	国際関係論	2	選択	
	心理学	2	選択	
科 目 群 自然科学	生物学入門	2	選択	
	数学入門	2	選択	
	物理学入門	2	選択	
科 目 群 学際	環境教育	2	選択	
	健康スポーツ理論	2	選択	
科 目 群 言語表現	ELF (通信101)	2	選択	
	ELF (通信102)	2	選択	
	日本語表現	2	選択	

	授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
教職 関 連 科 目 群	教職 (体育実技)	1	選択	学科科目と合わせて 99 単位以上
	教職 (健康教育)	1	選択	
	日本国憲法	2	選択	
	情報科学入門	2	選択	
	精神保健	2	選択	
	生命と性の教育	2	選択	
	異文化理解と教育	2	選択	
資格 関 連 科 目 群	図書館概論	2	選択	
	生涯学習と生涯教育	2	選択	
	図書館情報技術論	2	選択	
	図書館サービス概論	2	選択	
	情報サービス論	2	選択	
	情報資源組織論	2	選択	
	情報資源組織演習 A	1	選択	
	情報資源組織演習 B	1	選択	
	図書・図書館史	1	選択	
	図書館施設論	1	選択	
	情報サービス演習 A	1	選択	
	情報サービス演習 B	1	選択	
	博物館資料保存論	2	選択	
	考古学	2	選択	
	自然科学史	2	選択	
	西洋美術史	2	選択	
	日本美術史	2	選択	
	文化史	2	選択	
	社会教育課題研究	2	選択	
	社会教育実習	2	選択	
	社会教育経営論 A	2	選択	
	社会教育経営論 B	2	選択	
	生涯学習支援論 A	2	選択	
	生涯学習支援論 B	2	選択	
	視聴覚教育メディア論	2	選択	
	情報メディアの活用	2	選択	
	学校図書館メディアの構成	2	選択	
	学習指導と学校図書館	2	選択	
	読書と豊かな人間性	2	選択	
	学校経営と学校図書館	2	選択	
	図書館制度・経営論	2	選択	
	児童サービス論	2	選択	
	博物館経営論	2	選択	
	博物館展示論	2	選択	
	博物館情報・メディア論	2	選択	
	博物館実習	3	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第2-①

教育学科通信教育課程科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
教育学概論	2	必修	
教育原理	2	選択	
教育哲学	2	選択	
教職概論	2	選択	
教育の制度と経営	2	選択	
教育社会学	2	選択	
学習・発達論	2	選択	
教育心理学	2	選択	
発達心理学	2	選択	
ICT活用の理論と実践	1	選択	
教育方法学	2	選択	
教育方法・技術論	1	選択	
保育内容総論	2	選択	
国語	2	選択	
社会	2	選択	
算数	2	選択	
理科	2	選択	
生活	2	選択	
音楽	2	選択	
図工	2	選択	
家庭	2	選択	
体育（幼・小）	2	選択	
外国語（英語）	2	選択	
日本史概論	2	選択	
民俗学入門	2	選択	
社会学	2	選択	
経済学（国際経済を含む。）	2	選択	
ボランティア概論	2	選択	
生涯学習概論	2	選択	
文化人類学	2	選択	
比較文化論	2	選択	
市民社会と法	2	選択	
世界の宗教と文化	2	選択	
図書館情報資源概論	2	選択	
図書館情報資源特論	1	選択	
教育課程編成論	2	選択	
道德教育の理論と方法	2	選択	
総合的な学習の時間の理論と方法	1	選択	
特別活動の理論と方法	1	選択	
生徒・進路指導の理論と方法	2	選択	
教育相談の理論と方法	2	選択	
幼児教育課程論	2	選択	
幼児指導論	2	選択	
保育内容指導法（健康）	2	選択	
保育内容指導法（人間関係）	2	選択	
保育内容指導法（環境）	2	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
保育内容指導法（言葉）	2	選択	
保育内容指導法（表現）	2	選択	
幼児理解と教育相談	2	選択	
国語科指導法	2	選択	
社会科指導法	2	選択	
算数科指導法	2	選択	
理科指導法	2	選択	
生活科指導法	2	選択	
音楽科指導法	2	選択	
図工科指導法	2	選択	
体育科指導法	2	選択	
家庭科指導法	2	選択	
外国語（英語）指導法	2	選択	
外国史概論	2	選択	
地理学概論	2	選択	
政治学（国際政治を含む。）	2	選択	
西洋哲学思想史	2	選択	
東洋思想史	2	選択	
日本史各論 A	2	選択	
日本史各論 B	2	選択	
外国史各論 A	2	選択	
外国史各論 B	2	選択	
西洋文化史	2	選択	
東洋文化史	2	選択	
観光地誌論	2	選択	
博物館概論	2	選択	
博物館資料論	2	選択	
博物館教育論	2	選択	
地球科学	2	選択	
宇宙科学	2	選択	
教育実践演習 A	2	必修	
現代教育研究 I	2	必修	
特別支援教育	1	選択	
地誌学概論	2	選択	
法律学（国際法を含む。）	2	選択	
地理情報論	2	選択	
人文地理学	2	選択	
自然地理学	2	選択	
日本と外国の歴史	2	選択	
歴史資料情報論	2	選択	
社会科・公民科指導法 I	2	選択	
社会科・公民科指導法 II	2	選択	
社会科・地理歴史科指導法 I	2	選択	
社会科・地理歴史科指導法 II	2	選択	
現代社会の教育課題	2	選択	
臨床心理学	2	選択	

別表第 2－①

教育学科通信教育課程科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
日本の伝統文化と歴史	2	選択	
世界の教育と文化環境	2	選択	
教育実践演習 B	2	必修	
現代教育研究 II	2	必修	
卒業課題研究	4	選択	
教育実習 (幼・小)	5	選択	
教育実習 (小・中)	5	選択	
教育実習 (中・高)	5	選択	
教育実習 (高)	3	選択	
教育実習 (副) (幼・小)	3	選択	
教育実習 (副) (小・中)	3	選択	
教育実習 (副) (中・高)	3	選択	
教職実践演習	2	選択	
代数学 I	2	選択	
代数学 II	2	選択	
幾何学 I	2	選択	
幾何学 II	2	選択	
解析学 I	2	選択	
解析学 II	2	選択	
解析学 III	2	選択	
確率統計学 I	2	選択	
確率統計学 II	2	選択	
コンピュータ	2	選択	
数学科指導法 I	2	選択	
数学科指導法 II	2	選択	
数学科指導法 III	2	選択	
数学科指導法 IV	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

教育学科通信教育課程（幼稚園教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1 年次	教育学概論	2	必修
幼稚園 教育コース 科目		教育原理	2	必修
		教育哲学	2	選択
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	必修
		教育社会学	2	選択
		学習・発達論	2	必修
		教育心理学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		ICT活用の理論と実践	1	必修
		教育方法学	2	選択
		教育方法・技術論	1	必修
		保育内容総論	2	必修
		国語	2	選択
		算数	2	選択
		生活	2	選択
		音楽	2	選択
		図工	2	選択
		体育（幼・小）	2	選択
		生涯学習概論	2	選択
		道徳教育の理論と方法	2	選択
		幼児教育課程論	2	必修
		幼児指導論	2	必修
		保育内容指導法（健康）	2	必修
		保育内容指導法（人間関係）	2	必修
		保育内容指導法（環境）	2	必修
		保育内容指導法（言葉）	2	必修
		保育内容指導法（表現）	2	必修
		幼児理解と教育相談	2	必修
	3年次	特別支援教育	1	必修
		教育実習（幼・小）	5	必修
		教育実習（副）（幼・小）	3	必修
		教職実践演習	2	必修
	小計(33科目)		67	

幼稚園の「領域及び保育の指導法に関する科目」
幼稚園の「教育の基礎的理解に関する科目」

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1 年次	社会	2	選択
幼稚園 教育コース 以外の 科目		理科	2	選択
		家庭	2	選択
		外国語（英語）	2	選択
		日本史概論	2	選択
		民俗学入門	2	選択
		社会学	2	選択
		経済学（国際経済を含む。）	2	選択
		ボランティア概論	2	選択
		文化人類学	2	選択
		比較文化論	2	選択
		市民社会と法	2	選択
		世界の宗教と文化	2	選択
		図書館情報資源概論	2	選択
		図書館情報資源特論	1	選択
		代数学Ⅰ	2	選択
		解析学Ⅰ	2	選択
		解析学Ⅱ	2	選択
		教育課程編成論	2	選択
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	選択
		特別活動の理論と方法	1	選択
		生徒・進路指導の理論と方法	2	選択
		教育相談の理論と方法	2	選択
		国語科指導法	2	選択
		社会科指導法	2	選択
		算数科指導法	2	選択
		理科指導法	2	選択
		生活科指導法	2	選択
		音楽科指導法	2	選択
		図工科指導法	2	選択
		体育科指導法	2	選択
		家庭科指導法	2	選択
		外国語（英語）指導法	2	選択
		外国史概論	2	選択
		地理学概論	2	選択
		政治学（国際政治を含む。）	2	選択
		西洋哲学思想史	2	選択
		東洋思想史	2	選択
		日本史各論A	2	選択
		日本史各論B	2	選択
		外国史各論A	2	選択
		外国史各論B	2	選択
		西洋文化史	2	選択
		東洋文化史	2	選択
		観光地誌論	2	選択

● 小学校 □ 地理歴史
◆ 社会 ▲ 公民

教育学科通信教育課程（幼稚園教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件	
	2 年 次	博物館概論	□	2	選択
博物館資料論		□	2	選択	
博物館教育論		□	2	選択	
地球科学		□	2	選択	
宇宙科学		□	2	選択	
確率統計学Ⅰ			2	選択	
確率統計学Ⅱ			2	選択	
幾何学Ⅰ			2	選択	
解析学Ⅲ			2	選択	
数学科指導法Ⅰ			2	選択	
数学科指導法Ⅱ			2	選択	
幼稚園 教育 コース 以外 の 科 目	3 年 次	教育実践演習Ⅰ		2	必修
		現代教育研究Ⅰ		2	必修
		地誌学概論	◆□	2	選択
		法律学(国際法を含む。)	◆▲	2	選択
		地理情報論	□	2	選択
		人文地理学	□	2	選択
		自然地理学	□	2	選択
		日本と外国の歴史	◆□	2	選択
		歴史資料情報論	□	2	選択
		社会科・公民科指導法Ⅰ	◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法Ⅱ	◆▲	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法Ⅰ	□◆	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法Ⅱ	□◆	2	選択
		現代社会の教育課題		2	選択
		臨床心理学		2	選択
		日本の伝統文化と歴史	□	2	選択
		世界の教育と文化環境	□	2	選択
		代数学Ⅱ		2	選択
		数学科指導法Ⅲ		2	選択
	数学科指導法Ⅳ		2	選択	
4 年 次	教育実践演習Ⅱ		2	必修	
	現代教育研究Ⅱ		2	必修	
	卒業課題研究		4	選択	
	教育実習(小・中)	●◆	5	—	
	教育実習(中・高)	◆▲□	5	—	
	教育実習(高)	▲□	3	—	
	教育実習(副)(小・中)	●◆	3	—	
	教育実習(副)(中・高)	◆	3	—	
	幾何学Ⅱ		2	選択	
	コンピュータ		2	選択	
	小計(86科目)			180	

● 小学校 □地理歴史

◆ 社会 ▲公民

教育学科通信教育課程（小学校教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
小学校教育コース科目	1 年次	教育学概論	2	必修
		教育原理	2	必修
		教育哲学	2	選択
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	必修
		教育社会学	2	選択
		学習・発達論	2	必修
		教育心理学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		ICT活用の理論と実践	1	必修
		教育方法学	2	選択
		教育方法・技術論	1	必修
		国語	2	選択
		社会	2	選択
		算数	2	選択
		理科	2	選択
		生活	2	選択
		音楽	2	選択
		図工	2	選択
		家庭	2	選択
		体育(幼・小)	2	選択
		外国語（英語）	2	選択
		生涯学習概論	2	選択
	2 年次	教育課程編成論	2	必修
		道德教育の理論と方法	2	必修
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
		特別活動の理論と方法	1	必修
		生徒・進路指導の理論と方法	2	必修
		教育相談の理論と方法	2	必修
		国語科指導法	2	必修
		社会科指導法	2	必修
		算数科指導法	2	必修
		理科指導法	2	必修
		生活科指導法	2	必修
		音楽科指導法	2	必修
		図工科指導法	2	必修
		体育科指導法	2	必修
		家庭科指導法	2	必修
		外国語（英語）指導法	2	必修
	3年次	特別支援教育	1	必修
		現代社会の教育課題	2	選択
	4 年次	教育実習（幼・小）	5	必修
		教育実習（小・中）	5	必修
		教育実習（副）（幼・小）	3	必修
		教育実習（副）（小・中）	3	必修
		教職実践演習	2	必修
	小計（46科目）		95	
		小学校の「教科及び教科の指導法に関する科目」		
		小学校の「教育の基礎的理解に関する科目」		

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
小学校教育コース以外の科目	1 年次	保育内容総論	★	2 選択
		日本史概論	◆□	2 選択
		民俗学入門	◆□	2 選択
		社会学	◆▲	2 選択
		経済学(国際経済を含む。)	◆▲	2 選択
		ボランティア概論	◆▲	2 選択
		文化人類学	□	2 選択
		比較文化論	□	2 選択
		市民社会と法	□	2 選択
		世界の宗教と文化	□	2 選択
		図書館情報資源特論	□	1 選択
		図書館情報資源概論	□	2 選択
		代数学 I		2 選択
		解析学 I		2 選択
		解析学 II		2 選択
	2 年次	幼児教育課程論	★	2 選択
		幼児指導論	★	2 選択
		保育内容指導法（健康）	★	2 選択
		保育内容指導法（人間関係）	★	2 選択
		保育内容指導法（環境）	★	2 選択
		保育内容指導法（言葉）	★	2 選択
		保育内容指導法（表現）	★	2 選択
		幼児理解と教育相談	★	2 選択
		外国史概論	◆□	2 選択
		地理学概論	◆□	2 選択
		政治学（国際政治を含む。)	◆▲	2 選択
		西洋哲学思想史	◆▲	2 選択
		東洋思想史	◆▲	2 選択
		日本史各論 A	□	2 選択
		日本史各論 B	□	2 選択
		外国史各論 A	□	2 選択
		外国史各論 B	□	2 選択
		西洋文化史	□	2 選択
		東洋文化史	□	2 選択
		観光地誌論	□	2 選択
		博物館概論	□	2 選択
		博物館資料論	□	2 選択
		博物館教育論	□	2 選択
		地球科学	□	2 選択
		宇宙科学	□	2 選択
		確率統計学 I		2 選択
		確率統計学 II		2 選択
		幾何学 I		2 選択
		解析学 III		2 選択
		数学科指導法 I		2 選択
		数学科指導法 II		2 選択

★ 幼稚園 □ 地理歴史

◆ 社会 ▲ 公民

教育学科通信教育課程（小学校教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
小学校教育コース以外の科目	3 年次	教育実践演習 A	2	必修
		現代教育研究 I	2	必修
		地誌学概論 ◆□	2	選択
		法律学(国際法を含む。)	2	選択
		地理情報論 □	2	選択
		人文地理学 □	2	選択
		自然地理学 □	2	選択
		日本と外国の歴史 ◆□	2	選択
		歴史資料情報論 □	2	選択
		社会科・公民科指導法 I ◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法 II ◆▲	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法 I ◆□	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法 II ◆□	2	選択
		臨床心理学	2	選択
		日本の伝統文化と歴史 □	2	選択
		世界の教育と文化環境 □	2	選択
		代数学 II	2	選択
		数学科指導法 III	2	選択
		数学科指導法 IV	2	選択
	4 年次	教育実践演習 B	2	必修
		現代教育研究 II	2	必修
		卒業課題研究	4	選択
		教育実習（中・高） ◆▲□	5	—
		教育実習（高） ▲□	3	—
		教育実習（副）（中・高） ◆	3	—
		幾何学 II	2	選択
		コンピュータ	2	選択
	小計(73科目)		152	

★ 幼稚園 □地理歴史

◆ 社会 ▲公民

教育学科通信教育課程（社会科教育コース）

開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
1 年次	教育学概論	2	必修
	教育原理	2	必修
	教育哲学	2	選択
	教職概論	2	必修
	教育の制度と経営	2	必修
	教育社会学	2	選択
	学習・発達論	2	必修
	教育心理学	2	選択
	発達心理学	2	選択
	ICT活用の理論と実践	1	必修
	教育方法学	2	選択
	教育方法・技術論	1	必修
	日本史概論	2	必修
	民俗学入門	2	選択
	社会学	2	選択
	経済学(国際経済を含む。)	2	選択
	ボランティア概論	2	選択
	生涯学習概論	2	選択
2 年次	教育課程編成論	2	必修
	道德教育の理論と方法	2	必修
	総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
	特別活動の理論と方法	1	必修
	生徒・進路指導の理論と方法	2	必修
	教育相談の理論と方法	2	必修
	外国史概論	2	必修
	地理学概論	2	必修
	政治学（国際政治を含む。）	2	選択
	西洋哲学思想史	2	選択
3 年次	特別支援教育	1	必修
	地誌学概論	2	必修
	法律学(国際法を含む。)	2	選択
	日本と外国の歴史	2	選択
	社会科・公民科指導法Ⅰ	2	必修
	社会科・公民科指導法Ⅱ	2	必修
	社会科・地理歴史科指導法Ⅰ	2	必修
	社会科・地理歴史科指導法Ⅱ	2	必修
	現代社会の教育課題	2	選択
4 年次	教育実習（小・中）	5	必修
	教育実習（中・高）	5	必修
	教育実習（副）（小・中）	3	必修
	教育実習（副）（中・高）	3	必修
	教職実践演習	2	必修
小計（43科目）		89	

社会の「教科及び教科の指導法に関する科目」

社会の「教育の基礎的理解に関する科目等」

開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
1 年次	保育内容総論	★	2 選択
	国語	★●	2 選択
	社会	●	2 選択
	算数	★●	2 選択
	理科	●	2 選択
	生活	★●	2 選択
	音楽	★●	2 選択
	図工	★●	2 選択
	家庭	●	2 選択
	体育(幼・小)	★●	2 選択
	外国語（英語）	●	2 選択
	文化人類学	□	2 選択
	比較文化論	□	2 選択
	市民社会と法	□	2 選択
	世界の宗教と文化	□	2 選択
	図書館情報資源特論	□	1 選択
	図書館情報資源概論	□	2 選択
	代数学Ⅰ		2 選択
	解析学Ⅰ		2 選択
	解析学Ⅱ		2 選択
2 年次	幼児教育課程論	★	2 選択
	幼児指導論	★	2 選択
	保育内容指導法（健康）	★	2 選択
	保育内容指導法（人間関係）	★	2 選択
	保育内容指導法（環境）	★	2 選択
	保育内容指導法（言葉）	★	2 選択
	保育内容指導法（表現）	★	2 選択
	幼児理解と教育相談	★	2 選択
	国語科指導法	●	2 選択
	社会科指導法	●	2 選択
	算数科指導法	●	2 選択
	理科指導法	●	2 選択
	生活科指導法	●	2 選択
	音楽科指導法	●	2 選択
	図工科指導法	●	2 選択
	体育科指導法	●	2 選択
	家庭科指導法	●	2 選択
	外国語（英語）指導法	●	2 選択
	日本史各論A	□	2 選択
	日本史各論B	□	2 選択
	外国史各論A	□	2 選択
	外国史各論B	□	2 選択
	西洋文化史	□	2 選択
	東洋文化史	□	2 選択
	観光地誌論	□	2 選択
	博物館概論	□	2 選択
	博物館資料論	□	2 選択

★ 幼稚園

● 小学校

▲ 公民

□ 地理歴史

教育学科通信教育課程（社会科教育コース）

開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
2 年 次	博物館教育論 ☐	2	選択
	地球科学 ☐	2	選択
	宇宙科学 ☐	2	選択
	確率統計学 I	2	選択
	確率統計学 II	2	選択
	幾何学 I	2	選択
	解析学 III	2	選択
	数学科指導法 I	2	選択
	数学科指導法 II	2	選択
3 年 次	教育実践演習 A	2	必修
	現代教育研究 I	2	必修
	地理情報論 ☐	2	選択
	人文地理学 ☐	2	選択
	自然地理学 ☐	2	選択
	歴史資料情報論 ☐	2	選択
	臨床心理学	2	選択
	日本の伝統文化と歴史 ☐	2	選択
	世界の教育と文化環境 ☐	2	選択
	代数学 II	2	選択
	数学科指導法 III	2	選択
	数学科指導法 IV	2	選択
4 年 次	教育実践演習 B	2	必修
	現代教育研究 II	2	必修
	卒業課題研究	4	選択
	教育実習（幼・小） ★●	5	—
	教育実習（高） ▲□	3	—
	教育実習（副）（幼・小） ★●	3	—
	幾何学 II	2	選択
	コンピュータ	2	選択
小計（76科目）		158	

★ 幼稚園

● 小学校

▲ 公民

□ 地理歴史

教育学科通信教育課程（地理歴史教育コース）

地理歴史教育コースの科目	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
	1年次	教育学概論	2	必修
		教育原理	2	必修
		教育哲学	2	選択
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	必修
		教育社会学	2	選択
		学習・発達論	2	必修
		教育心理学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		ICT活用の理論と実践	1	必修
		教育方法学	2	選択
		教育方法・技術論	1	必修
		日本史概論	2	必修
		民俗学入門	2	選択
		生涯学習概論	2	選択
	2年次	教育課程編成論	2	必修
		道德教育の理論と方法	2	選択
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
		特別活動の理論と方法	1	必修
		生徒・進路指導の理論と方法	2	必修
		教育相談の理論と方法	2	必修
		外国史概論	2	必修
		地理学概論	2	必修
		日本史各論 A	2	選択
		日本史各論 B	2	選択
		外国史各論 A	2	選択
		外国史各論 B	2	選択
		西洋文化史	2	選択
		東洋文化史	2	選択
		観光地誌論	2	選択
	3年次	特別支援教育	1	必修
		地誌学概論	2	必修
		地理情報論	2	必修
		人文地理学	2	選択
		自然地理学	2	選択
		日本と外国の歴史	2	必修
		歴史資料情報論	2	必修
		社会科・地理歴史科指導法 I	2	必修
		社会科・地理歴史科指導法 II	2	必修
		現代社会の教育課題	2	選択
		日本の伝統文化と歴史	2	必修
	4年次	教育実習（中・高）	5	必修
		教育実習（高）	3	必修
		教育実習（副）（中・高）	3	必修
		教職実践演習	2	必修
	小計（45科目）		90	

地理歴史の「教科及び教科の指導法に関する科目」

地理歴史の「教育の基礎的理解に関する科目等」

地理歴史教育コース関連科目	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
	1年次	文化人類学	2	選択
		比較文化論	2	選択
		市民社会と法	2	選択
		世界の宗教と文化	2	選択
		図書館情報資源特論	1	選択
		図書館情報資源概論	2	選択
	2年次	博物館概論	2	選択
		博物館資料論	2	選択
		博物館教育論	2	選択
		地球科学	2	選択
		宇宙科学	2	選択
	3年次	世界の教育と文化環境	2	選択
	小計（12科目）		23	

地理歴史教育コース以外の科目	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
	1年次	保育内容総論	★	2 選択
		国語	★●	2 選択
		社会	●	2 選択
		算数	★●	2 選択
		理科	●	2 選択
		生活	★●	2 選択
		音楽	★●	2 選択
		図工	★●	2 選択
		家庭	●	2 選択
		体育(幼・小)	★●	2 選択
		外国語（英語）	●	2 選択
		社会学	◆▲	2 選択
		経済学(国際経済を含む。)	◆▲	2 選択
		ボランティア概論	◆▲	2 選択
		代数学 I		2 選択
		解析学 I		2 選択
		解析学 II		2 選択

★幼稚園 ◆社会

●小学校 ▲公民

教育学科通信教育課程（地理歴史教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
地理 歴史 教育 コース 以外 の 科目	2 年 次	幼児教育課程論 ★	2	選択
		幼児指導論 ★	2	選択
		保育内容指導法（健康） ★	2	選択
		保育内容指導法（人間関係） ★	2	選択
		保育内容指導法（環境） ★	2	選択
		保育内容指導法（言葉） ★	2	選択
		保育内容指導法（表現） ★	2	選択
		幼児理解と教育相談 ★	2	選択
		国語科指導法 ●	2	選択
		社会科指導法 ●	2	選択
		算数科指導法 ●	2	選択
		理科指導法 ●	2	選択
		生活科指導法 ●	2	選択
		音楽科指導法 ●	2	選択
		図工科指導法 ●	2	選択
		体育科指導法 ●	2	選択
		家庭科指導法 ●	2	選択
		外国語（英語）指導法 ●	2	選択
		政治学（国際政治を含む。） ◆▲	2	選択
		西洋哲学思想史 ◆▲	2	選択
		東洋思想史 ◆▲	2	選択
		確率統計学Ⅰ	2	選択
		確率統計学Ⅱ	2	選択
		幾何学Ⅰ	2	選択
		解析学Ⅲ	2	選択
		数学科指導法Ⅰ	2	選択
		数学科指導法Ⅱ	2	選択
	3 年 次	教育実践演習Ⅰ	2	必修
		現代教育研究Ⅰ	2	必修
		法律学(国際法を含む。) ◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法Ⅰ ◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法Ⅱ ◆▲	2	選択
		臨床心理学	2	選択
		代数学Ⅱ	2	選択
		数学科指導法Ⅲ	2	選択
		数学科指導法Ⅳ	2	選択
	4 年 次	教育実践演習Ⅱ	2	必修
		現代教育研究Ⅱ	2	必修
		卒業課題研究	4	選択
		教育実習（幼・小） ★●	5	—
		教育実習（小・中） ●◆	5	—
		教育実習（副）（幼・小） ★●	3	—
		教育実習（副）（小・中） ●◆	3	—
		幾何学Ⅱ	2	選択
		コンピュータ	2	選択
	小計（62科目）		134	

★幼稚園 ◆社会

●小学校 ▲公民

教育学科通信教育課程（公民教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1 年次	教育学概論	2	必修
公民 教育 コース の 科目	1 年次	教育原理	2	必修
		教育哲学	2	選択
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	必修
		教育社会学	2	選択
		学習・発達論	2	必修
		教育心理学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		ICT活用の理論と実践	1	必修
		教育方法学	2	選択
		教育方法・技術論	1	必修
		社会学	2	選択
		経済学(国際経済を含む。)	2	選択
		ボランティア概論	2	選択
		生涯学習概論	2	選択
	2 年次	教育課程編成論	2	必修
		道德教育の理論と方法	2	選択
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
		特別活動の理論と方法	1	必修
		生徒・進路指導の理論と方法	2	必修
		教育相談の理論と方法	2	必修
		政治学（国際政治を含む。）	2	選択
		西洋哲学思想史	2	選択
		東洋思想史	2	選択
	3 年次	特別支援教育	1	必修
		法律学(国際法を含む。)	2	選択
		社会科・公民科指導法Ⅰ	2	必修
		社会科・公民科指導法Ⅱ	2	必修
		現代社会の教育課題	2	選択
	4 年次	教育実習（中・高）	5	必修
		教育実習（高）	3	必修
		教育実習（副）（中・高）	3	必修
		教職実践演習	2	必修
	小計（34科目）		68	

社会の「教科及び教科の指導法に関する科目」

社会の「教育の基礎的理解に関する科目等」

開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
公民 教育 コース 以 外 の 科目	保育内容総論	★	2 選択
	国語	★●	2 選択
	社会	●	2 選択
	算数	★●	2 選択
	理科	●	2 選択
	生活	★●	2 選択
	音楽	★●	2 選択
	図工	★●	2 選択
	家庭	●	2 選択
	体育(幼・小)	★●	2 選択
	外国語（英語）	●	2 選択
	日本史概論	◆□	2 選択
	民俗学入門	◆□	2 選択
	文化人類学	□	2 選択
	比較文化論	□	2 選択
	市民社会と法	□	2 選択
	世界の宗教と文化	□	2 選択
	図書館情報資源特論	□	1 選択
	図書館情報資源概論	□	2 選択
	代数学Ⅰ		2 選択
	解析学Ⅰ		2 選択
	解析学Ⅱ		2 選択
2 年次	幼児教育課程論	★	2 選択
	幼児指導論	★	2 選択
	保育内容指導法（健康）	★	2 選択
	保育内容指導法（人間関係）	★	2 選択
	保育内容指導法（環境）	★	2 選択
	保育内容指導法（言葉）	★	2 選択
	保育内容指導法（表現）	★	2 選択
	幼児理解と教育相談	★	2 選択
	国語科指導法	●	2 選択
	社会科指導法	●	2 選択
	算数科指導法	●	2 選択
	理科指導法	●	2 選択
	生活科指導法	●	2 選択
	音楽科指導法	●	2 選択
	図工科指導法	●	2 選択
	体育科指導法	●	2 選択
	家庭科指導法	●	2 選択
	外国語（英語）指導法	●	2 選択
	外国史概論	◆□	2 選択
	地理学概論	◆□	2 選択
	日本史各論A	□	2 選択
	日本史各論B	□	2 選択
	外国史各論A	□	2 選択
	外国史各論B	□	2 選択
	西洋文化史	□	2 選択
	東洋文化史	□	2 選択

★幼稚園 ◆社会

●小学校 □地理歴史

教育学科通信教育課程（公民教育コース）

公民教育コース以外の科目	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
	2 年 次	観光地誌論 □	2	選択
		博物館概論 □	2	選択
		博物館資料論 □	2	選択
		博物館教育論 □	2	選択
		地球科学 □	2	選択
		宇宙科学 □	2	選択
		確率統計学Ⅰ	2	選択
		確率統計学Ⅱ	2	選択
		幾何学Ⅰ	2	選択
		解析学Ⅲ	2	選択
		数学科指導法Ⅰ	2	選択
		数学科指導法Ⅱ	2	選択
	3 年 次	教育実践演習 A	2	必修
		現代教育研究Ⅰ	2	必修
		地誌学概論 ◆□	2	選択
		地理情報論 □	2	選択
		人文地理学 □	2	選択
		自然地理学 □	2	選択
		日本と外国の歴史 ◆□	2	選択
		歴史資料情報論 □	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法Ⅰ ◆□	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法Ⅱ ◆□	2	選択
		臨床心理学	2	選択
		日本の伝統文化と歴史 □	2	選択
		世界の教育と文化環境 □	2	選択
		代数学Ⅱ	2	選択
		数学科指導法Ⅲ	2	選択
		数学科指導法Ⅳ	2	選択
	4 年 次	教育実践演習 B	2	必修
		現代教育研究Ⅱ	2	必修
		卒業課題研究	4	選択
		教育実習（幼・小） ★●	5	—
		教育実習（小・中） ●◆	5	—
		教育実習（副）（幼・小） ★●	3	—
		教育実習（副）（小・中） ●◆	3	—
		幾何学Ⅱ	2	選択
		コンピュータ	2	選択
	小計（85科目）		179	

★幼稚園 ◆社会

●小学校 □地理歴史

教育学科通信教育課程（教員免許取得コースを除く）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1 年次	教育学概論	2	必修
教育学 学科科目 （教員免許取得コースを除く）		教育原理	2	選択
		教育哲学	2	選択
		教職概論	2	選択
		教育の制度と経営	2	選択
		教育社会学	2	選択
		学習・発達論	2	選択
		教育心理学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		ICT活用の理論と実践	1	選択
		教育方法学	2	選択
		教育方法学・技術論	1	選択
		保育内容総論	2	選択
		国語	2	選択
		社会	2	選択
		算数	2	選択
		理科	2	選択
		生活	2	選択
		音楽	2	選択
		図工	2	選択
		家庭	2	選択
		体育	2	選択
		外国語（英語）	2	選択
		日本史概論	2	選択
		民俗学入門	2	選択
		社会学	2	選択
		経済学(国際経済を含む。)	2	選択
		ボランティア概論	2	選択
		生涯学習概論	2	選択
		文化人類学	2	選択
		比較文化論	2	選択
		市民社会と法	2	選択
		世界の宗教と文化	2	選択
		図書館情報資源特論	1	選択
		図書館情報資源概論	2	選択
		代数学 I	2	選択
		解析学 I	2	選択
		解析学 II	2	選択

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	2 年次	教育課程編成論	2	選択
教育学 学科科目 （教員免許取得コースを除く）		道德教育の理論と方法	2	選択
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	選択
		特別活動の理論と方法	1	選択
		生徒・進路指導の理論と方法	2	選択
		教育相談の理論と方法	2	選択
		幼児教育課程論	2	選択
		幼児指導論	2	選択
		保育内容指導法（健康）	2	選択
		保育内容指導法（人間関係）	2	選択
		保育内容指導法（環境）	2	選択
		保育内容指導法（言葉）	2	選択
		保育内容指導法（表現）	2	選択
		幼児理解と教育相談	2	選択
		国語科指導法	2	選択
		社会科指導法	2	選択
		算数科指導法	2	選択
		理科指導法	2	選択
		生活科指導法	2	選択
		音楽科指導法	2	選択
		家庭科指導法	2	選択
		図工科指導法	2	選択
		体育科指導法	2	選択
		外国語（英語）指導法	2	選択
		外国史概論	2	選択
		地理学概論	2	選択
		政治学（国際政治を含む。)	2	選択
		西洋哲学思想史	2	選択
		東洋思想史	2	選択
		日本史各論 A	2	選択
		日本史各論 B	2	選択
		外国史各論 A	2	選択
		外国史各論 B	2	選択
		西洋文化史	2	選択
		東洋文化史	2	選択
		観光地誌論	2	選択
		博物館概論	2	選択
		博物館資料論	2	選択
		博物館教育論	2	選択
		地球科学	2	選択
		宇宙科学	2	選択
		確率統計学 I	2	選択
		確率統計学 II	2	選択
		幾何学 I	2	選択
		解析学 III	2	選択
		数学科指導法 I	2	選択
		数学科指導法 II	2	選択

教育学科通信教育課程（教員免許取得コースを除く）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修 条件
教育学 学科科目（教員免許取得コースを除く）	3 年次	教育実践演習 A	2	必修
		現代教育研究 I	2	必修
		特別支援教育	1	選択
		地誌学概論	2	選択
		法律学(国際法を含む。)	2	選択
		地理情報論	2	選択
		人文地理学	2	選択
		自然地理学	2	選択
		日本と外国の歴史	2	選択
		歴史資料情報論	2	選択
		社会科・公民科指導法 I	2	選択
		社会科・公民科指導法 II	2	選択
		社会科・地理歴史指導法 I	2	選択
		社会科・地理歴史指導法 II	2	選択
		現代社会の教育課題	2	選択
		臨床心理学	2	選択
		日本の伝統文化と歴史	2	選択
		世界の教育と文化環境	2	選択
		代数学 II	2	選択
	数学科指導法 III	2	選択	
	数学科指導法 IV	2	選択	
	4 年次	教育実践演習 B	2	必修
		現代教育研究 II	2	必修
		卒業課題研究	4	—
		教育実習 (幼・小)	5	—
		教育実習 (小・中)	5	—
		教育実習 (中・高)	5	—
		教育実習 (高)	3	—
		教育実習 (副) (幼・小)	3	—
教育実習 (副) (小・中)		3	—	
教育実習 (副) (中・高)		3	—	
教職実践演習	2	—		
幾何学 II	2	選択		
コンピュータ	2	選択		
合計 (119科目)			247	

芸術専攻科芸術専攻

授業科目	単位数	備考
A群《共通必修科目》		
芸術専攻演習Ⅰ	2	
芸術専攻演習Ⅱ	2	
修了研究	6	
B群《共通選択科目》		
芸術特別研究A（音楽系）	2	
芸術特別研究B（舞台美術系）	2	
芸術特別研究C（美術系）	2	
芸術教育研究	2	
C群《選択必修》		
芸術専門研究Ⅰ	4	
芸術専門研究Ⅱ	4	
専門特殊研究Ⅰ	4	
専門特殊研究Ⅱ	4	
実技専門研究Ⅰ（音楽）	8	
実技専門研究Ⅱ（音楽）	8	
実技専門研究Ⅰ（美術）	8	
実技専門研究Ⅱ（美術）	8	
実技専門研究Ⅰ（舞台芸術）	8	
実技専門研究Ⅱ（舞台芸術）	8	

履修方法

- （1）A群《共通必修科目》を履修し、10単位を修得しなければならない。
- （2）B群《共通選択科目》より科目を選択し、4単位を修得しなければならない。
- （3）C群《選択必修科目》より各々の専門分野に従い16単位を修得しなければならない。
- （4）本専攻科を修了するには、上記第1項、第2項及び第3項の要件を満たし、合計30単位以上を修得しなければならない。

別表第3－①

学部	学科	免許状の種類	教科
文学部	国語教育学科	中学校教諭1種免許状	国語
		高等学校教諭1種免許状	国語
	英語教育学科	中学校教諭1種免許状	英語
		高等学校教諭1種免許状	英語
農学部	生産農学科	中学校教諭1種免許状	理科
		高等学校教諭1種免許状	理科・農業
工学部	情報通信工学科	中学校教諭1種免許状	数学
		高等学校教諭1種免許状	数学・工業
	ソフトウェアサイエンス学科	中学校教諭1種免許状	数学
		高等学校教諭1種免許状	数学・情報
	マネジメントサイエンス学科	中学校教諭1種免許状	数学
		高等学校教諭1種免許状	数学
	デザインサイエンス学科	中学校教諭1種免許状	数学・技術
		高等学校教諭1種免許状	数学・工業
教育学部	教育学科	幼稚園教諭1種免許状	
		小学校教諭1種免許状	
		中学校教諭1種免許状	社会・保健体育
		高等学校教諭1種免許状	地理歴史・公民・保健体育
	乳幼児発達学科	幼稚園教諭1種免許状	
芸術学部	音楽学科	中学校教諭1種免許状	音楽
		高等学校教諭1種免許状	音楽
	アート・デザイン学科	中学校教諭1種免許状	美術
		高等学校教諭1種免許状	美術・工芸
教育学部	教育学科 通信教育課程	幼稚園教諭1種免許状	
		小学校教諭1種免許状	
		中学校教諭1種免許状	社会
		高等学校教諭1種免許状	地理歴史・公民

別表第 3－②

専攻科名	免許状の種類	教科
芸術専攻科芸術専攻	中学校教諭専修免許状	音楽
		美術
	高等学校教諭専修免許状	音楽
		美術

履修方法

免許状の種類	基礎資格	専攻科における修得単位数
中学校教諭専修免許状（音楽）	中学校教諭 1 種免許状（音楽）	24単位以上
中学校教諭専修免許状（美術）	中学校教諭 1 種免許状（美術）	
高等学校教諭専修免許状（音楽）	高等学校教諭 1 種免許状（音楽）	24単位以上
高等学校教諭専修免許状（美術）	高等学校教諭 1 種免許状（美術）	

令和5年度新入生 学費等納付金一覧表

(単位は円)

				文学部			農学部			工学部		経営学部	教育学部	芸術学部	リベラルアーツ学部	観光学部
				国語教育学科	*英語教育学科	生産農学科	*環境農学科	先端農食学科	情報通信工学科 ソフトウェアサイエンス学科 ロボティクス・メカニクス学科 デザインサイエンス学科	国際経営学科	教育学科	音楽学科	乳幼児発達学科	アート・デザイン学科 演劇・舞踊学科	リベラルアーツ学科	*観光学科
授業料	1年次	1,029,000	1,029,000	1,053,000	1,053,000	1,053,000	1,109,000	1,029,000	1,029,000	1,029,000	1,199,000	1,029,000	1,029,000	1,029,000	1,029,000	1,029,000
	2年次	1,039,000	1,039,000	1,063,000	1,063,000	1,063,000	1,119,000	1,039,000	1,039,000	1,039,000	1,209,000	1,039,000	1,039,000	1,039,000	1,039,000	1,039,000
	3年次	1,049,000	1,049,000	1,073,000	1,073,000	1,073,000	1,129,000	1,049,000	1,049,000	1,049,000	1,219,000	1,049,000	1,049,000	1,049,000	1,049,000	1,049,000
	4年次	1,059,000	1,059,000	1,083,000	1,083,000	1,083,000	1,139,000	1,059,000	1,059,000	1,059,000	1,229,000	1,059,000	1,059,000	1,059,000	1,059,000	1,059,000
教育研究諸料	1年次	223,100	223,100	299,400	299,400	301,500	299,400	223,100	233,100	233,100	269,400	223,100	223,100	223,100	223,100	223,100
	2年次	223,100	223,100	299,400	299,400	301,500	299,400	223,100	233,100	233,100	269,400	223,100	223,100	223,100	223,100	223,100
	3年次	223,100	223,100	299,400	299,400	301,500	299,400	223,100	233,100	233,100	269,400	223,100	223,100	223,100	223,100	223,100
	4年次	223,100	223,100	299,400	299,400	301,500	299,400	223,100	233,100	233,100	269,400	223,100	223,100	223,100	223,100	223,100
施設設備金	1年次	200,000	200,000	250,000	250,000	256,800	270,000	200,000	200,000	200,000	280,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
	2年次	200,000	200,000	250,000	250,000	256,800	270,000	200,000	200,000	200,000	280,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
	3年次	200,000	200,000	250,000	250,000	256,800	270,000	200,000	200,000	200,000	280,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
	4年次	200,000	200,000	250,000	250,000	256,800	270,000	200,000	200,000	200,000	280,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
特別プログラム費用	1年次															
	2年次		61,150 (備考7)		142,300 (備考7)											139,500 (備考7)
	3年次		61,150 (備考7)													139,500 (備考7)
	4年次															
入学金		250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000
入学検定料		35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000

備考

1. 休学期間中の在籍料は、玉川大学休学に関する在籍料取扱要領による。
2. 留学（S A E）期間中は、在籍料として当該年次の教育研究諸料、施設設備金を納入するものとする。
3. 玉川学園女子短期大学卒業生及び本大学からの編入生は入学金を徴収しない。
4. 卒業延期者の納付金は、授業料、教育研究諸料及び施設設備金を原則セメスター単位で徴収する。
5. 大学入学共通テスト利用入学試験【3教科型】、大学入学共通テスト利用入学試験【5教科型】、*TOEIC*スコア利用入学試験及び本学が指定する資格・検定取得者並びに併願受験の際の入学検定料については、別途に定める。
6. 教職課程の受講料及び学芸員資格取得に関する費用は、別途に定める。
7. *学科の特別プログラム費用の最終決定は、留学当該年の留学先の授業料と2月の為替レートを円換算し決定される。
(参考) *英語教育学科 2年次の留学費用は、680,650円。内訳は、授業料・施設設備金の1/2および特別プログラム費用61,150円。
*英語教育学科 3年次の留学費用は、685,650円。内訳は、授業料・施設設備金の1/2および特別プログラム費用61,150円。
*環境農学科 2年次の国内外研修費用は、580,000円。内訳は、授業料・施設設備金の4/12および特別プログラム費用142,300円。
*観光学科 2年次の留学費用は、759,000円。内訳は、授業料・施設設備金の1/2および特別プログラム費用139,500円。
*観光学科 3年次の留学費用は、764,000円。内訳は、授業料・施設設備金の1/2および特別プログラム費用139,500円。
8. 経済事情変動に伴い若干変更する場合がある。

令和5年度在校生 学費等納付金一覧表

(単位は円)

		文学部		農学部			工学部			経営学部	教育学部	芸術学部		リベラルアーツ学部	観光学部
		国語教育学科	*英語教育学科	生産農学科	*環境農学科	先端農食学科	情報通信工学科	デザインサイエンス学科	国際経営学科	教育学科	パフォーマンス・アート学科	音楽学科	リベラルアーツ学科	*観光学科	
							ソフトウェアサイエンス学科	デザインサイエンス学科							
							ロボティクス・メカニクス学科								
授業料	1年生	1,029,000	1,029,000	1,053,000	1,053,000	1,053,000	1,109,000		1,109,000	1,029,000	1,029,000		1,199,000	1,029,000	1,029,000
	2年生	1,036,000	1,036,000	1,060,000	1,060,000	1,060,000	1,116,000	1,116,000		1,036,000	1,036,000		1,206,000	1,036,000	1,036,000
	3年生	1,043,000	1,043,000	1,067,000	1,067,000	1,067,000	1,123,000	1,123,000		1,043,000	1,043,000		1,213,000	1,043,000	1,043,000
	4年生	1,050,000	1,050,000	1,074,000	1,074,000	1,074,000	1,130,000	1,130,000		1,050,000	1,050,000	1,220,000		1,050,000	1,050,000
教育研究諸料	1年生	223,100	223,100	299,400	299,400	301,500	299,400		299,400	223,100	233,100		269,400	223,100	223,100
	2年生	223,100	223,100	299,400	299,400	301,500	299,400	299,400		223,100	233,100		269,400	223,100	223,100
	3年生	223,100	223,100	299,400	299,400	301,500	299,400	299,400		223,100	233,100		269,400	223,100	223,100
	4年生	223,100	223,100	299,400	299,400	301,500	299,400	299,400		223,100	233,100	269,400		223,100	223,100
施設設備金	1年生	200,000	200,000	250,000	250,000	256,800	270,000		270,000	200,000	200,000		280,000	200,000	200,000
	2年生	200,000	200,000	250,000	250,000	256,800	270,000	270,000		200,000	200,000		280,000	200,000	200,000
	3年生	200,000	200,000	250,000	250,000	256,800	270,000	270,000		200,000	200,000		280,000	200,000	200,000
	4年生	200,000	200,000	250,000	250,000	256,800	270,000	270,000		200,000	200,000	280,000		200,000	200,000
特別プログラム費用	1年生														
	2年生	61,150（備考7）			142,300（備考7）										139,500（備考7）
	3年生	170,650（備考7）													205,000（備考7）
	4年生														
入学金		250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000
入学検定料		35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000

備考

1. 休学期間中の在籍料は、玉川大学休学に関する在籍料取扱要領による。
2. 留学（SAE）期間中は、在籍料として当該年次の教育研究諸料、施設設備金を納入するものとする。
3. 玉川学園女子短期大学卒業生及び本大学からの編入生は入学金を徴収しない。
4. 卒業延期者の納付金は、授業料、教育研究諸料及び施設設備金を原則セメスター単位で徴収する。
5. 大学入学共通テスト利用入学試験【3教科型】、大学入学共通テスト利用入学試験【5教科型】、*TOEIC*スコア利用入学試験及び本学が指定する資格・検定取得者並びに併願受験の際の入学検定料については、別途に定める。
6. 教職課程の受講料及び学芸員資格取得に関する費用は、別途に定める。
7. *学科の特別プログラム費用の最終決定は、留学当該年の留学先の授業料と2月の為替レートを円換算し決定される。
(参考) *英語教育学科 2年次の留学費用は、679,150円。内訳は、授業料・施設設備金の1/2および特別プログラム費用61,150円。
*英語教育学科 3年次の留学費用は、792,150円。内訳は、授業料・施設設備金の1/2および特別プログラム費用170,650円。
*環境農学科 2年次の国内外研修費用は、579,000円。内訳は、授業料・施設設備金の4/12および特別プログラム費用142,300円。
*観光学科 2年次の留学費用は、757,500円。内訳は、授業料・施設設備金の1/2および特別プログラム費用139,500円。
*観光学科 3年次の留学費用は、826,500円。内訳は、授業料・施設設備金の1/2および特別プログラム費用205,000円。
8. 在学中納付金について、変更のあった場合は、新たに定められた金額を納めるものとする。

別表第4－①

教育学部教育学科通信教育課程

(単位は円)

課程 費目	正科生	科目等履修生	備考
入学選考料	20,000	20,000	
入学金	30,000	—	
編入料	10,000	—	
登録料	—	15,000	
授業料	125,300	8,000	
学修料	8,000	8,000	
面接授業受講料	8,500	12,000	

1. 科目等履修生授業料は科目等履修料と読み替えるものとする。
2. 面接授業受講料ならびに科目等履修生の科目等履修料は1単位分である。
3. 休学期間中は、在籍料として当該年次の授業料、学修料の2分の1相当額を徴収する。
4. 所定の年限を経てなお在学する場合の授業料は別途定める。
5. 玉川大学・玉川学園女子短期大学卒業者及び玉川大学大学院修了者の正科生入学金・編入料、科目等履修生登録料は徴収しない。
6. インターネットによる出願にあたっては、入学選考料・編入料は2分の1相当額、学修料は2,000円を差し引いた金額を徴収する。

別表第4－②

(単位は円)

専攻 \ 項目	授業料	教育研究諸料	施設設備金	入学金	入学検定料
芸術専攻科芸術専攻	1,166,000	199,400	160,000	150,000	35,000

- 備 考 1. 休学期間中は、在籍料として別途定める額を納入するものとする。
 2. 玉川大学からの進学者は、入学金を徴収しない。

玉川大学学則

「教授会に関する記述の抜粋」

第12章 大学部長会及び教授会

(省 略)

第44条 各学部それぞれ教授会を置く。

2 教授会は、その学部の専任教授をもって組織する。

3 教授会は審議事項について必要があるとき、准教授、講師、助教及びその他必要な教職員を出席させることができる。

4 教授会は、定例に学部長がこれを招集する。ただし、学長が必要と認めたときは、これを招集することができる。

5 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業

(2) 学位の授与

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

6 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長(以下「学長等」という)がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

7 教授会の運営については、玉川大学教授会等運営規程による。

第45条 学長が必要と認めたときは、又は教授会から特に要求があったときは、学長は全学教授会を招集することができる。

2 全学教授会は全学の専任教授をもって組織する。

3 全学教授会は審議事項について必要があるとき、准教授、講師、助教及びその他必要な教職員を出席させることができる。

4 全学教授会は、学長が特に必要と認めた本大学の重要事項を審議する。

第46条 学長が必要と認めたとき、各種委員会等を組織し、それぞれの専門分野について審議研究することができる。なお、細部については、玉川大学教授会等運営規程による。

(省 略)

玉川大学教授会等運営規程

平成14年4月1日制定

改正

平成16年4月1日	平成17年4月1日
平成18年4月1日	平成19年4月1日
平成20年4月1日	平成21年4月1日
平成22年4月1日	平成23年4月1日
平成24年4月1日	平成25年4月1日
平成26年4月1日	平成27年4月1日
平成28年4月1日	平成28年7月29日
平成29年4月1日	平成30年4月1日
平成31年4月1日	令和2年4月1日
令和3年4月1日	令和4年4月1日

(目的)

第1条 玉川大学学則(以下「本大学学則」という。)第44条第7項並びに第46条に規定する玉川大学教授会(以下「教授会」という。)の運営について、学校法人玉川学園会議等運営規程のほか、本規程に定める。

(会議)

第2条 教授会は毎月これを開会する。

2 教授会の議長は、学部長がこれに当たる。

3 教授会は、特に定めのある場合を除き、構成員の過半数の出席をもって成立する。

4 教授会に係る事務主管は教学部とする。

(審議事項)

第3条 本大学学則第44条第5項及び第6項の審議並びに第7項の運営については、次の各号による。

(1) 学部長が必要と認めた場合には、学科ごとに審議し、学部教授会の意見とすることができる。

(2) 本大学学則第44条第5項第1号の「入学者の決定」については、学長が委嘱した各学部入学試験判定会議において審議し、学長がこれを決定する。

(3) 学長又は学部長は、前号の決定を学部教授会に報告するものとする。

(4) 教員の任用、昇格にあたっての教員資格審査については、予め学長が委嘱した教員資格審査委員会で審議し、学長が決定する。

(審議事項の報告)

第4条 教授会の審議の結果は、学科主任等により、必要に応じ速やかに各学科に報告するものとする。

(各委員会)

第5条 本大学学則第46条に基づき、教務委員会、教職課程委員会、学生委員会、入学試験運営委員会、課外活動支援委員会、キャリア・就職指導委員会、FD委員会、大学学事運営委員会、国際教育推進委員会、インターンシップ委員会、ELF運営委員会、環境エデュケーター委員会、アクティブ・ラーニング推進委員会、教育再生加速委員会、及びIR委員会を置く。また、文学部には、中学校英語2種免許認定通信教育プログラム運営委員会、教育学部には、通信教育課程入学選考委員会を置く。

2 各委員会の委員は、毎年度当初、学部長等が各学科主任等の意見を徴し、学長に推薦し、学長が任命する。

3 委員会は、学長の諮問に答え、審議の結果を答申する。また、委員会は、必要な事項を審議し、大学部長会に建議又は学長に上申することができる。

(教務委員会)

第6条 教務委員会は、教学部長を委員長とし、各学部の教務主任及び事務担当をもって構成する。

2 教務委員会は、次の事項を審議する。

(1) 教育課程の基本的・共通的事項(教育課程改正に関する事項を含む。)

(2) 時間割編成に係る共通的事項

(3) その他本委員会に属する事項

- 3 教務委員会は、委員長が招集し開催する。
- 4 教務委員会は、原則として毎月開催する。
- 5 事務主管は教学部とする。

(教職課程委員会)

第7条 教職課程委員会は、教師教育リサーチセンター長を委員長とし、各学部の教職担当及び事務担当をもって構成する。

- 2 教職課程委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 教職に関する事項
- (2) 教職課程に関する事項
- (3) 教職課程のカリキュラムに関する事項
- (4) 教育職員免許状・保育士資格、その他の資格に関する事項
- (5) その他本委員会に属する事項

- 3 教職課程委員会は、委員長が招集し開催する。
- 4 教職課程委員会は、原則として毎月開催する。
- 5 事務主管は教師教育リサーチセンターとする。

(学生委員会)

第8条 学生委員会は、学生支援センター長を委員長とし、各学部の学生主任及び事務担当をもって構成する。

- 2 学生委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 学生の生活指導に関する基本的事項
- (2) 学生の福利厚生に関する事項
- (3) その他本委員会に属する事項

- 3 学生委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。
- 4 事務主管は学生支援センターとする。

(入学試験運営委員会)

第9条 入学試験運営委員会は、学長を委員長とし、副学長、高等教育担当理事、各学部長、副学部長、教学部長、教学部事務部長、入試広報部長及び事務担当をもって構成し、各入学試験を中立及び公正に実施するために、次に掲げる事項について取り組み、充実に努めるものとする。

- (1) 試験問題作成における機密性の確保と漏洩防止
- (2) 試験問題作成や実施担当教職員の選任における適格性の確保
- (3) 入学試験合否判定資料における個人情報の適切な取り扱い
- (4) 入学試験合否判定における公正な意思決定。

- 2 入学試験運営委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 入学試験科目及び日程に関する事項
- (2) 推薦入学試験の推薦基準に関する事項
- (3) 入学試験の出題・点検・採点者及び監督者の編成に関する事項
- (4) 入学者選抜の在り方とその実施方法に関する事項
- (5) その他本委員会に属する事項

- 3 入学試験運営委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。
- 4 事務主管は入試広報部とする。

(課外活動支援委員会)

第10条 課外活動支援委員会は、学生支援センター長を委員長とし、各学部から選任された委員及び事務担当をもって構成する。

- 2 課外活動支援委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 課外活動全般の指導に関する事項
- (2) 課外活動の行事に関する事項
- (3) 各会(体育会、文化会)の指導運営に関する事項

- (4) 課外活動における緊急事故処置に関する事項
- (5) その他本委員会に属する事項
- 3 課外活動支援委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。
- 4 事務主管は学生支援センターとする。
(キャリア・就職指導委員会)

第11条 キャリア・就職指導委員会は、キャリアセンター長を委員長とし、各学部の就職担当及び事務担当をもって構成する。

- 2 キャリア・就職指導委員会は、次の事項を審議する。
 - (1) 就職及びキャリア支援に対する基本的・共通的な事項
 - (2) その他本委員会に属する事項
- 3 キャリア・就職指導委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。
- 4 事務主管はキャリアセンターとする。
(FD委員会)

第12条 FD委員会の運営については、別に定める玉川大学FD委員会規程による。

- 2 事務主管は教学部とする。
(大学学事運営委員会)

第13条 大学学事運営委員会は、教学部長を委員長とし、各学部から選任された委員及び事務担当をもって構成する。

- 2 大学学事運営委員会は、次の事項を審議する。
 - (1) 学事日程の調整に関する事項
 - (2) 行事の内容及び形態に関する事項
 - (3) 行事の運営に関する事項
 - (4) 行事の運営体制に関する事項
 - (5) オリエンテーション・入学式・大学卒業式・大学院修了式・体育祭・音楽祭・クリスマス礼拝・卒業祝賀パーティに関する事項
 - (6) その他本委員会が本大学の行事の共通運営に必要と認める事項
- 3 大学学事運営委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。
- 4 事務主管は教学部とする。
(国際教育推進委員会)

第14条 国際教育推進委員会は、国際教育センター長を委員長とし、各学部の国際教育担当及び事務担当をもって構成する。

- 2 委員長が必要と認めたときは、本委員会に前項以外の教職員を出席させることができる。
- 3 国際教育推進委員会は、次の事項を審議する。
 - (1) 海外留学プログラムに関する事項
 - (2) 海外研修プログラムに関する事項
 - (3) 国際教育・交流プログラムに関する事項
 - (4) 海外留学受け入れの推進に関する事項
 - (5) その他委員長が必要と認めた事項
- 4 国際教育推進委員会は、委員長が招集し開催する。
- 5 国際教育推進委員会は、原則として毎月開催する。
- 6 事務主管は国際教育センターとする。
(インターンシップ委員会)

第15条 インターンシップ委員会は、教学部長を委員長とし、各学部のインターンシップ担当及び事務担当をもって構成する。

- 2 委員長が必要と認めたときは、副委員長を置くことができる。
- 3 インターンシップ委員会は、次の事項を審議する。
 - (1) インターンシップ推進に関する事項
 - (2) インターンシップ受入企業等の選定に関する事項

(3) 派遣学生に関する事項

(4) その他本委員会に属する事項

4 インターンシップ委員会は、委員長が招集し開催する。

5 インターンシップ委員会は、原則として毎月開催する。

6 事務主管は教学部とする。

(ELF運営委員会)

第16条 ELF運営委員会は、ELFセンター長を委員長とし、各学部から選任された委員及び事務担当をもって構成する。

2 委員長が必要と認めたときは、本委員会に前項以外の教職員を出席させることができる。

3 ELF運営委員会は、次の事項を審議する。

(1) ELFプログラムの開発・運営・実施に関する事項

(2) 教科書選定・教材開発・整備に関する事項

(3) 学生の英語学修サポートに関する事項

(4) プレースメントテストの実施・クラス編成・成績管理に関する事項

(5) その他本委員会に属する事項

4 ELF運営委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。

5 事務主管はELFセンターとする。

(環境エデュケーター委員会)

第17条 環境エデュケーター委員会は、教学部長を委員長とし、各学部から選任された委員及び事務担当をもって構成する。

2 環境エデュケーター委員会は、次の事項を審議する。

(1) 環境エデュケーター養成講座に関する事項

(2) 環境エデュケータートレーニング講座に関する事項

(3) 学生環境保全委員会の活動に関する事項

(4) その他本委員会が必要と認める事項

3 環境エデュケーター委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。

4 事務主管は教学部とする。

(アクティブ・ラーニング推進委員会)

第18条 アクティブ・ラーニング推進委員会は、教学部長を委員長とし、各学部から選任された委員及び事務担当をもって構成する。

2 アクティブ・ラーニング推進委員会は、次の事項を審議する。

(1) アクティブ・ラーニングの推進に関する事項

(2) その他本委員会が必要と認める事項

3 事務主管は教学部とする。

(教育再生加速委員会)

第19条 教育再生加速委員会は、教学部長を委員長とし、各学部から選任された委員及び事務担当をもって構成する。

2 教育再生加速委員会は、次の事項を審議する。

(1) 教育再生加速事業に関する事項

(2) その他本委員会が必要と認める事項

3 事務主管は教学部とする。

(IR委員会)

第20条 IR委員会の審議事項は、別に定める玉川大学IR委員会規程による。

2 IR委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。

3 事務主管は教学部とする。

(文学部中学校英語2種免許認定通信教育プログラム運営委員会)

第21条 文学部中学校英語2種免許認定通信教育プログラム運営委員会の運営については、別に定める玉川大学文学部中学校英語2種免許認定通信教育プログラム運営委員会規程による。

2 事務主管は教学部とする。

(通信教育課程入学選考委員会)

第22条 通信教育課程入学選考委員会の運営については、別に定める玉川大学教育学部教育学科通信教育課程規程による。

2 事務主管は入試広報部とする。

附 則

1 この規程は、平成14年4月1日から施行する。

2 玉川大学教授会等運営に関する細則(昭和44年4月1日制定)は廃止する。

附 則(平成15年4月1日)

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成16年4月1日)

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成17年4月1日)

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成18年4月1日)

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成19年4月1日)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成20年4月1日)

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成21年4月1日)

1 この規程は、平成21年4月1日から施行する。

2 玉川大学学事運営委員会規程(平成15年4月1日制定)は廃止する。

附 則(平成22年4月1日)

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則(平成23年4月1日)

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年4月1日)

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成25年4月1日)

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則(平成26年4月1日)

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成27年4月1日)

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則(平成28年4月1日)

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成28年7月29日)

この規程は、平成28年7月29日から施行する。

附 則(平成29年4月1日)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則(平成30年4月1日)

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則(平成31年4月1日)

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則(令和2年4月1日)

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則(令和3年4月1日)

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則(令和4年4月1日)

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

目 次

1. 設置の趣旨及び必要性	p.2
2. 学部・学科等の特色	p.4
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称	p.5
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	p.5
5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	p.7
6. 教育実習の具体的計画	p.9
7. 企業実習（インターンシップ含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の 具体的計画	p.11
8. 取得可能な資格	p.12
9. 入学者選抜の概要	p.12
10. 教員組織の編制の考え方及び特色	p.13
11. 施設、設備等の整備計画	p.13
12. 管理運営	p.14
13. 自己点検・評価	p.15
14. 情報の公表	p.17
15. 教育内容等の改善を図るための組織的な取組	p.18
16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	p.18

設置の趣旨等を記載した書類

1.設置の趣旨及び必要性

(1) 設置の必要性

①大学の目的と使命

創立者小原國芳は、人間を「生まれながらにして、唯一無二の個性を持ちつつも、万人共通の世界をも有する存在である」と定義した。この人間観を基礎に、その人をより魅力的な存在にする個性を伸ばそうとする「個性尊重」の教育と、全ての人間に共通する才能を育む「全人教育」が成立した。

ここでいう「全人教育」とは、真・善・美・聖・健・富の6つの価値の創造にあるとし、それは即ち学問・道徳・芸術・宗教・健康・生活の6方面の人間文化を調和的に豊かに形成することをいうのである。

この教育理想の実現に向けて、当初、中学部、小学部、幼稚部の学校を設置してスタート。さらに数々の設置を経て昭和24年新学制の公布によって新制の玉川大学設置を見た。

玉川大学は、玉川学園の建学の理想にかんがみ、「全人教育」をもって教育精神とし、広い教養と深い専門の学術の理論及び応用を教授する。宗教教育、芸術教育を重んじ魂を醇化し、浄らかな情操を養成し、厳粛な道義心を涵養することをもって人格を陶冶し、併せて人類の幸福と世界の文化の進展に寄与することを目的としている。

これからの玉川大学の使命は、一つにこの人間像を実現させることであり、そして二つに、日本社会、さらには世界に貢献できる人材を養成することにある。

本学の目指す人間像として、創立者の語る「人生の最も苦しい、いやな、辛い、損な場面を、真っ先に微笑を以って担当せよ」の言葉が「玉川モットー」として正門の石碑にも刻まれている。これは、困難な事態にも立ち向かい、失敗を恐れずに難関に挑戦していく気概のある人材の輩出を願ってのことであり、同時に、21世紀の日本社会・世界に貢献することのできる「人生の開拓者」を育てていくことを本学の使命と考えているためである。

玉川大学の理念のもと、工学部は人間力を備えたものづくりの実践的技術者を育成することをミッションとし、昭和37年に機械工学科、電子工学科、経営工学科を以って設立した。社会環境の変化及びニーズに対応するために昭和47年に情報通信工学科を開設し、その後も教育・研究を通じて社会に貢献するため改組を行い、現在の4学科に至っている。

②学科の設置の必要性

第5期科学技術振興基本計画（平成28年1月22日閣議決定）において、IoT、ロボット、AI等の先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、格差なく、多様なニーズにきめ細かに対応したモノやサービスを提供することで経済発展と社会的課題の解決を両立していく人間中心の社会「Society 5.0」の実現が提唱された。既設の工学部エンジニアリングデザイン学科では、第5期科学技術振興基本計画に基づき、ロボット、デジタルものづくり、商品デザインといった分野を中心として、社会が大きく変化する中で社会課題の解決に貢献し、イノベーション・新しい価値を創出する人材を育成してきた。

更に第6期科学技術・イノベーション基本計画（令和3年3月26日閣議決定）においては、Society5.0を再提示したうえで、「急速に社会構造が変化する中、既存の枠組みや従来の延長では対応できない課題に取り組む能力」が求められ、「自ら課題を発見し解決手法を模索する、探究的な活動を通じて身につく能力・資質」が重要とされている。また、直接本物に触れる経験が減少していく中でA(Art)を含むSTEAM教育等を通して直接本物に触れる経験を重ね、感性や感覚を磨いていくことが一層重要になるとしている。

この第6期科学技術・イノベーション基本計画策定の根拠であった令和2年の科学技術基本法

改正時の論点として、「現代の諸課題に対峙するためには、人間社会の多様な側面を総合的に理解することが必須」であり、「そのためには自然科学のみならず人文科学の知見を生かした文理融合の推進」が必要といった点が挙げられていた。深刻化する自然災害、科学技術の国際競争力低下といった社会的課題や、若者世代の自己肯定感の低さなど次世代を担う人材に関する課題が浮き彫りになったことから、それらを解決するためには、「自然科学のみならず人文・社会科学も含めた多様な『知』の創造と、『総合知』による現存の社会全体の再設計、さらには、これらを担う人材育成が避けては通れない」としている。

また、一般財団法人日本経済団体連合会「Society 5.0 時代を切り拓く人材の育成」（令和 2 年 3 月 17 日）によると、「Society5.0 を実現する人材の育成」では、「企業が AI やビッグデータなどを活用し、新たな価値創造を図っていくためには、働き手が、ビジネスの知識・経験、デジタルに関するスキル・リテラシーやデザイン思考等を身につけて、従来の枠にとらわれない独創的な構想力を磨いていくことが不可欠」としており、「デザイン思考」が重視されていることがわかる。

上記に加え、一般財団法人日本技術者教育認定機構（JABEE）の技術者教育プログラム「認定基準および達成すべき知識と能力」には、学生が身に付けているべき知識・能力の一つとして「種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力」が挙げられている。平成元年に設立されたエンジニア教育認定団体の国際的協定であるワシントン協定（Washington Accord）に、平成 17 年に JABEE が加盟した際、我が国における「エンジニアリング・デザイン教育」の弱さを指摘されたように、「デザイン能力の育成」は世界における技術者教育の最重要課題である。したがって、科学技術の知識だけでなく、解が一つに定まらない社会の要求を解決するための「デザイン能力」を保持していることは、将来、グローバルに展開する技術者に必須であり、その教育を本学の工学・技術者教育において実施することには必要性があると考えた。

「大学における工学系教育の在り方について（中間まとめ）」（平成 29 年（2017 年）6 月 大学における工学系教育の在り方に関する検討委員会）においても「社会における工学の価値を理解し、自律的に学ぶ姿勢を具備するとともに、原理・原則を理解する力、構想力、アイデア創出能力、問題発見能力、課題設定能力、モデル化能力、課題解決、遂行能力を持つ人材育成が必要」とされている。

このような社会的背景から、これまでのエンジニアリングデザイン学科における実績を踏まえ、力学、設計・制御などの機械工学分野を柱とした科学・技術を中心としながら、社会科学・人文科学の知識・技術も融合し、解が一つに定まらない社会の課題を「総合知」により解決する「デザイン能力」を有した人材を養成すべく、デザインサイエンス学科を設置することとした。

（2）教育研究上の目的及び養成する人材像（資料 1 参照）

①研究対象とする中心的な学問分野、養成する人材像及び学位授与の方針

デザインサイエンス学科の研究対象とする中心的な学問分野は工学分野である。

前述「学科の設置の必要性」のとおり、社会が急激に変化する状況下、既存の知識と既存の方法では対応できない課題、国家間紛争・パンデミック・環境負荷などが山積する現代において、それらの課題は複雑な関係性を持ちながら表出してくるものであり、そこには与えられた問題を解くのではなく、自ら課題を発見し解決手法を自ら作り出していく人材が必要である。このような人材には、社会の良きリーダーであり、社会を良い方向へ「デザイン」できる能力を必要とするであろう。この「種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力」を高等教育において育成すべき、という社会の要請に応えるため、デザインサイエンス学科では、解が一つに定まらない社会の課題に対し、機械工学分野を中心とした科学、技術を活用して、実現可能な解を見つけることができる「デザイン能力」を有する技術者の育成を目的とする。物理学や数学のような自然科学および人間中心の社会を実現する工学に関する学問と、様々

な社会科学・人文科学の知識・技術を融合し、社会の一員として地球環境・人類にとって有益となる社会の仕組みや製品を科学的な視点によって生み出すことができる人材を育成する。

上記人材像を実現するため、次のような能力を身に付けさせることを学位授与の方針（ディプロマポリシー）とする。

ディプロマ・ポリシー策定にあたっては、文部科学省中央教育審議会答申「学士課程教育の構築にむけて」を踏まえて「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」の3種類に分類し、身に付けるべき知識等を、「～できる」「～を身に付けている」という学生を主語とした行為動詞とすることで、卒業時の到達目標を具体化している。

- a) 自然や社会のさまざまな事象を詳細に理解するために、物理学や化学、数学など、工学に関連する自然科学の基礎分野に加え、社会科学・人文科学の基礎及び英語をはじめとした語学力を身に付けている。
- b) プロダクトデザイン、ロボットデザイン、新エネルギーを中心とした環境デザイン等の領域を基盤とし、幅広い視野と適切な判断力をもって社会課題の解決を目指した企画・設計・実行・報告を実践することができる。
- c) 演習や実習を通して、工学におけるコミュニケーションの重要性を理解し、主体的に実行できる力、課題を発見できる力、他者と協調して課題を解決することができる力を身に付けている。
- d) さまざまな事象を科学的かつ学際的に分析することにより、社会の一員として解決すべき課題を発見することができる。
- e) 幅広い視野とイノベーション力によって、社会の課題の最適解を見つけ、その実現を目指すことができる。

②想定される卒業後の具体的な進路

工学に関する専門知識・技能及びデザイン思考を生かして社会に貢献することが期待される。主な進路としては、商品開発技術者、設計技術者、CAD 技術者、工業デザイナー、商品デザイナー、商品プランナー、デジタルクリエイター、データサイエンティスト、起業家、経営者、研究者（企業、大学）、教員（数学、工業、技術）、意匠審査官、商標審査官、公務員などが想定される。また、デザイン思考を活用した課題の解決手法は幅広く応用が可能であり、公共機関、自治体など多くの職種への就業も想定される。このほか、国内外の大学院進学や海外留学を目指すことも選択できる。

2.学部・学科等の特色

本学科は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」（平成 17 年 1 月）を踏まえ、7 つの機能のうち、「幅広い職業人養成」に重点を置く。解が一つに定まらない社会の課題に対し、機械工学分野を中心とした科学、技術を活用して、実現可能な解を見つめることができる「デザイン能力」を有する技術者を養成するため、次のような特色をもって教育・研究を展開する。

1 年次より将来の自己目標に則して履修上のコース「プロダクトデザインコース」「ロボットデザインコース」「環境デザインコース」を設ける。

「プロダクトデザインコース」は人間の身体的・心理的な特性や環境を科学的データに基づき分析し、安全で使いやすい、環境にもやさしい製品やシステムづくりを中心に据える。多彩な授業を通して、科学的思考力と実践力を修得し、企画・開発・販売までの一連のプロダクト創成に携わる人材を育成するコースである。

「ロボットデザインコース」はさまざまな分野で人の役に立つロボットについて学ぶ。基本的なメカニズムおよびその設計方法をはじめとし、それらを制御するためのメカトロニクス分野についても学修する。機械工学および電子工学の知識をもとにした先端ロボットの教育研究を展開

し、専門的知識を活かして多様な技術的要求に応えられる人材を育成するコースである。

「環境デザインコース」は持続可能な社会の実現のために環境負荷の少ないエネルギー源や技術、材料を用いた製品やシステムづくりを学ぶ。機械工学分野を中心として、エネルギー、マテリアル、化学、電気回路、都市環境などの授業を通じて分野横断的な知識と技術を修得する。製品やシステムの完成形だけでなく、地球環境を考慮した幅広い視野で俯瞰した課題解決法を提示できる人材を育成するコースである。

中央教育審議会答申の「我が国の高等教育の将来像」では「学習機会全体の中での高等教育の位置付けと各高等教育機関の個性・特色」で「教育の実施や卒業認定・学位授与に関する方針（カリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシー）を明確にし、教育課程の改善や出口管理の強化を図ることが求められる。」と述べている。デザインサイエンス学科では、3つのポリシーを一体的で整合性あるものとして策定することはもちろんのこと、高等教育の質保証として GPA (Grade Point Average) 制度を導入し、単位の実質化に向けて履修登録上限単位数を半期 16 単位とし、GPA による学修警告制度を実施し、卒業要件に累積 GPA2.00 以上を付加している。

3.学部・学科等の名称及び学位の名称

デザインサイエンス学科の名称および学位の名称は以下のとおりである。

【学科の名称】デザインサイエンス学科 (Department of Design Science)

【学位の名称】学士 (工学) (Bachelor of Engineering)

解が一つに定まらない社会の課題に対し、機械工学分野を中心として、自然科学、社会科学、人文科学といった科学 (サイエンス) を活用し、実現可能な解を見つけることができる「デザイン能力」を有する技術者の育成を目的とする学科とすることから、学科名称を「デザインサイエンス学科」とした。

また、学位に付記する専攻分野の名称を「学士 (工学)」(Bachelor of Engineering) とする。

4.教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程の編成方針・考え方

「養成する人材像」並びに学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) に挙げた知識・技能の修得、態度・志向性の育成を目指し、以下の教育課程の編成方針 (カリキュラム・ポリシー) に基づきカリキュラムを編成している。

- a) 「デザイン能力」の基盤 (課題を理解する力) を身に付けるために、数学・物理学などの自然科学分野から、経済学・社会学などの社会科学分野、芸術・哲学・英語・日本語などの人文科学・語学分野まで、多様な学問分野を幅広く学ぶ。
- b) 課題を発見し解決する力を身に付けるために、工学倫理、知的財産分野 (特許や工業デザインなどの知的財産権)、デザイン分野 (人間工学・プロダクトデザインなど)、ロボット分野 (機構デザイン・メカトロニクスなど)、環境分野 (ソフトエネルギー・都市環境デザインなど) について、地球環境・人類にとって有益であるという観点を基本にして学ぶ。
- c) 課題の解決策 (解) を社会実装するために、現場での実体験を重視した実験・実習・演習科目を通じて、創造力・コミュニケーション力・イノベーション力を養い、企画・設計・実行・報告などの能力を身に付ける。
- d) 課題を多角的に把握するために、商品企画・マーケティング・資金調達などのビジネス分野も学ぶと同時に、研究室活動・学内外各種コンテスト・学会活動等を通じて、再度、課題の発見と解の策定を統合的に学び、「デザイン能力」の完成を目指す。
- e) 「より高度な社会貢献度を持つデザイン能力」を修得するための大学院進学も見据えて、学部最終学年では、さらに専門性の高い大学院設置科目を先行して学ぶことができる。

(2) 教育課程の特色 (資料 2、3、4 参照)

諸答申において学士課程教育は教養教育と専門基礎教育を中心に行うとされており、また、教育基本法には「大学は学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに…」と定められている。その趣旨を踏まえ、教養豊かな幅広い知識を持ち、基礎学力の堅固な基盤と高度な専門能力を持った人材を育成するために、全学共通の教養科目「ユニバーシティ・スタンダード科目群」と本学科の「専門科目群」により教育課程を編成している。

①ユニバーシティ・スタンダード科目群

ユニバーシティ・スタンダード科目群については、「玉川教育・FYE (First Year Experience・初年次教育)科目群」、「人文科学科目群」、「社会科学科目群」、「自然科学科目群」、「学際科目群」、「言語表現科目群」、「資格関連科目群」の7群で構成されている。

<玉川教育・FYE 科目群>

この科目群は、『玉川の教育』、『一年次セミナー』、『二年次セミナー』、『健康教育』、『音楽』、『全人教育論』など全人教育の基底となるばかりでなく、基本的な学修スキルの獲得やキャリア教育の要素も含む。

初年次教育科目である『一年次セミナー101』、『一年次セミナー102』は必修科目として1年次の前期と後期に開設されている。大学での授業をいかに効果的に受講するか、4年間の大学生活の中でどのように人生の目標を設定しキャリアデザインを行っていくかを考え学ぶ科目である。主な授業内容は、「なぜ大学で学ぶのか」「時間管理の技術」「効果的な学修方法」「学問とは何か」「文章作成の方法」「コミュニケーションのあり方」「情報の活用と倫理」「ライフデザインとキャリアデザイン」「個人情報、データ倫理、AI 社会原則」である。

<人文科学科目群>

多文化・異文化についての造詣を深めると同時に、これまで人類が積み重ねてきた文化について学修する科目群である。『文化人類学』、『ことばと文化』、『比較文化論』、『歴史(世界)』、『歴史(日本)』、『哲学』、『倫理学』、『宗教学』、『ロジック』などの科目で構成されている。

<社会科学科目群>

社会現象を考察、分析、総合し、そこに一定の法則を見い出すとともに、学修を通して市民の社会的役割と責任を理解する科目群である。『会計学』、『経営学』、『マーケティング』、『コミュニケーション論』、『経済学(国際経済を含む。)]、『政治学(国際政治を含む。)]、『心理学』、『社会学』などの科目で構成されている。

<自然科学科目群>

自然現象の法則を学ぶと同時に、人間社会を発展させる自然科学の社会的機能を理解する科目群である。『生物学入門』、『環境科学』、『情報科学入門』、『データ処理』、『マルチメディア表現』、『数学入門』、『統計学入門』、『宇宙科学』、『エネルギー科学』、『地球科学』などの科目で構成されている。

<学際科目群>

既存の学問領域の枠組みだけではとらえきれない事象について、様々な学問の知見を援用しながら学修する科目群である。『マクロ脳科学』、『ミクロ脳科学』、『マスメディアと社会』、『健康スポーツ理論』、『環境教育ワークショップ』、『数理・データサイエンス・AI リテラシー』、『キャリア・マネジメント』などの科目で構成されている。

<言語表現科目群>

言語の運用能力、言語によるコミュニケーション能力の養成を目的とする科目群である。

『E L F』、『フランス語』、『ドイツ語』、『中国語』で構成されている。

<資格関連科目群>

学生の興味、関心に応じて幅広く学修できる科目を配置している。『生涯学習概論』、『情報サービス論』、『図書館概論』、『社会教育課題研究』、『生涯学習支援論』、『読書と豊かな人間性』、『博物館教育論』、『学習指導と学校図書館』などの科目で構成されている。

②専門科目群

専門科目群については、工学分野の理論と実践に関する科目で構成し、学修の展開に合わせて履修できるよう、100 番台科目から 400 番台科目までナンバリングを施している。教育課程を編成するにあたっては、学部・学科の特色を生かし、学位授与方針や人材養成の目標を実現するために、カリキュラム・ツリーを作成し、体系的な履修を可能にする科目編成としている。

<100 番台科目>

『代数学I』、『解析学I』、『物理学I』、『プログラミングI』など工学を学修するうえで必要となる基礎科目のほかに、専門科目を学修するための導入科目として、『デザインサイエンス入門(デザイン史を含む)』および『デザインサイエンス演習(デッサンを含む)』(いずれも必修)を開設している。

<200 番台科目>

工学分野をより発展的に学修するために、学科共通の必修科目として、『デジタルファブリケーション入門』、『デザインサイエンス実験』、『スケッチとドラフティング』、『メカニクス(材料)』を開設する。また、デジタルリテラシーを学び、その根幹となる倫理観、責任感を身に付ける『デジタルシチズンシップ』を必修科目として開設する。学科共通の選択科目として、『微分方程式I』や『確率統計学I』、『物理学IIA』や『物理学IIB』など自然科学の発展科目を履修できる。また、ここから3デザイン分野の学科科目が履修でき、プロダクトデザイン分野では、『色彩デザイン学』、『管理技法』、『人間工学』、『原価計算』、ロボットデザイン分野では、『機構デザイン』、環境デザイン分野では、『電気回路基礎』、『化学と環境』を開設している。

<300 番台科目>

学科共通の必修科目として、研究室配属後、秋学期に行われる『デザインサイエンスセミナーI』を開設する。専門分野に関する知識を深めながら基礎的な研究能力を身に付ける。学科共通の専門科目として、『20 世紀の物理学』、『知的財産権の基礎』、『工学倫理』、『メカニクス(機械)』、『メカニクス(材料)演習』、『デザイン思考』、『データサイエンスI』、『メカニクス(流体)』、『デジタルファブリケーション演習』を開設する。プロダクトデザイン分野では、『ユニバーサルデザイン』、『プロダクトデザイン』、『デザインと経営』、『起業プランニング』、『管理会計』、ロボットデザイン分野では、『金属加工実習』、『ドラフティング応用』、『バイオミメティクス』、『メカトロニクス』、『メカトロニクス演習』、『モデリングとシミュレーション』、環境デザイン分野では、『自然科学実験』、『ソフトエネルギー』、『マテリアルプロセッシング』、『都市環境デザイン』、『電気回路演習』、『デジタル生産加工』を開設し、各分野における専門知識を深化させる。

<400 番台科目>

主に、必修科目として、各研究室のゼミである『デザインサイエンスセミナーII』および卒業研究である『卒業プロジェクトI』『卒業プロジェクトII』がある。これまでに学修した工学分野の基礎知識及び専門分野の知識、問題解決に必要な手法などを活用し、自ら研究を進める力を身に付ける。

③教職関連科目群

中学校教員(数学・技術)、高等学校教員(数学・工業)に従事することを目指す学生のために必要な科目を配置している。

5.教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 教育方法

①授業方法と受講生数、配当年次

本学科においては、基礎から専門まで幅広い知識を学修すると共に、様々な技能を修得した上で、それらの知識や技能に基づいた実践力を身に付けられるようにカリキュラムを編成している。幅広い知識を学修する科目は講義形式を中心として、様々な技能を修得する科目は演習形式を中

心として授業を実施する。そして、それらの知識や技能に基づいた実践力を身に付ける科目については実習・実験形式の授業を行い、例えば、PBL（Project Based Learning）などを取り入れ、学生が主体的・能動的に学べるようにする。また、デジタルデータや 3D マシンを用いたものづくりを基幹として学ばせつつ、3 つの学問領域（①プロダクトデザイン、②ロボットデザイン、③環境デザイン）について体系的に理解させていく。

受講生数については、授業の内容や授業形態に応じて、より効果的な人数を設定する。目安として、講義科目は 40 人～60 人、演習科目は 20 人～40 人とする。実験・実習科目は授業内容や教育研究設備との兼ね合いもあるので、特に目安は定めないが、補助員・技術員を付けてきめ細かな指導を行い、学生の理解を深めると共に学生の安全を確保する。

配当年次については、基礎から専門へと体系的な学修ができるよう設定している。また、カリキュラム・ツリーやカリキュラム・マップ、履修モデルなどを基に、科目間の関係や履修順序にも配慮して配当年次を決定している。

②授業におけるメディアの利用

本学で導入している、学修教材の配信や成績などを統合して管理するシステムである Learning Management System「Blackboard@Tamagawa」を本学科でも活用する。通常授業は対面で行われるが、通常の授業にこのシステムを活用することにより、授業教材の管理、授業の進捗管理、授業内容の補完、学生の予習・復習課題などの進捗管理等が可能であり、学生の自主的な学修をより効果的に促進することができる。グループワーク、ディスカッション、教材や資料の提供、課題提出、小テストなどがインターネットを通じていつでもどこからでもできるようになっている。また近年のコロナ禍においては Microsoft Teams 及び Zoom を活用し、遠隔授業やハイフレックス型授業を含めたハイブリッド型授業も展開している。

③単位制度の実質化を図るために履修科目登録の上限を半期 16 単位に設定

単位制度の実質化を図るため、各学期における履修登録できる単位数の上限を 16 単位（前セメスターの GPA が 3.20 以上の成績優秀者は 18 単位まで履修可能）と定めている。それにより、学生は少数の授業を集中的に学ぶことができる。授業及び授業外学修時間を合わせて 1 日 8 時間の学修を基本とし、1 単位を 45 時間の学修を標準とする内容を以って構成することで、単位制度の趣旨との合致及び、単位の実質化を目指す。

なお、学生の主体的な学びを促すため、時間割を工夫して、授業と授業の間に予習・復習を行える時間を設ける。さらに、自主的学修のためのスペースとして、教育学術情報図書館内に従来の個人学修に適した環境に加え、グループワークやプレゼンテーションを行える空間としてラーニング・コモンズを設置している。

④学修の質を評価する制度の導入

学修の質を評価するために GPA 制度を導入する。各学期における学修の成果（S、A、B、C、F の 5 段階）を履修 1 単位あたりのポイント（GPA）として数値化して算出し、学修の質を可視化する。なお、卒業要件として累積 GPA2.00 以上を課す。また、各学年の学修継続条件にも GPA を活用する。

(2) 履修指導方法（資料 5 参照）

教務主任を中心に教務担当教員および各クラス担任教員による教務ガイダンスを開催し、学生への履修アドバイスの機会を設ける。また、個々の学生に対しては、教務担当教員および各クラス担任教員がシラバスや履修モデルを提示し、体系的に学修が進められるよう履修指導を行う。なお、成績に関しては GPA をもとに指導を行う。

(3) 卒業要件

卒業要件は卒業時における卒業生の質の確保を目標に設定している。学生に質の高い知識や技術を身に付けさせたいと、卒業生として送り出すことが大学の責任である。そのため、卒業時に学修量ばかりでなく GPA で学修の質を評価する。なお、卒業に必要な単位数は 124 単位であり、卒業にあたっての条件を次のように定める。

- a) 修業年限を満たすこと。
- b) 全科目の修得単位の合計が 124 単位以上であること。
- c) 累積 GPA が 2.00 以上であること。
- d) ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、玉川教育・FYE 科目群から必修科目をすべて含み 7 単位以上を修得していること。
- e) ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、人文科学科目群・社会科学科目群・自然科学科目群・学際科目群から各 2 単位以上、言語表現科目群のうち、必修選択科目 (ELF) から 4 単位以上を修得し、合計 18 単位以上を修得していること。
- f) デザインサイエンス学科科目のうち、必修科目 24 単位を含み、62 単位以上を修得していること。

6.教育実習の具体的計画（資料 6、7 参照）

(1) 実習の目的

教育実習では、数学・工業・技術の専門的な知識・技能をもとに教育現場における課題を認識し、分析、解決する言語力、論理的思考力、マネジメント力、コミュニケーション力及び表現力を身に付けさせる。また、社会人としての倫理観と責任感を醸成する。

学級経営や教育課程・教育方法、生徒指導をはじめ学校全般の教育活動を総合的に体験し、考察することで、教育の厳粛さ、教師としての使命を認識するとともに、自発的・継続的に省察できる力を備えることを目指す。

(2) 実習の具体的内容、実習水準の確保の方策

実習は事前指導、教育実習（現場実習）、事後指導の組み合わせで実施し、知識（理論）や技能（実践）の往還を図る。具体的な内容とそれに伴い習得しようとしている知能・技術は以下の通りとする。教育実習指導教員で共有し、指導にあたる。

①事前指導

教育実習（現場実習）に先立ち、指導計画と指導案、学級経営や生徒指導、道徳教育、教員の服務、さらには学校教育の実情や教育実習の心構え等総括的な指導を行う。

②教育実習（現場実習）

授業の観察、生徒指導への参加、実地授業の実施等の体験を通して、授業の在り方や教師としての役割を果たすのに必要な知識、技能、態度などについて理解を深めさせる。

<第 1 週目（導入）>

教育計画や活動の概要をつかみ、指導法の基本を習得する。

- a) 学校・学年・学級経営の概要、生徒についての基本的理解、授業の観察と指導法についての理解、生徒指導への参加など。
- b) 講話・・・実習の心構えと実習校の教育、学級経営、学習指導、道徳・総合的な学習の時間、特別活動の指導、保健安全指導、生徒指導など。

<第 2 週目（展開）>

- a) 示範授業・・・担当教科、道徳、学級指導等の授業。基本実習を活かし充実した実習へと積み重ねを図る。

- b) 授業実践による学習指導法の実証的習得。
- c) 学級経営についての基本的事項の把握、生徒指導への参加など。

<第3週目(まとめ)>

教育実習の一層の充実を図り、その成果をまとめる。

- a) 実地授業・・・担当科目、道徳・総合的な学習の時間又は学級指導。
- b) 研究授業と研究会。
- c) 教育実習反省会・・・まとめと今後の課題。

③事後指導

現場実習終了後、教育実習事後報告書及び実習日誌をもとに本学の教育実習指導教員を中心に現場実習の反省を行い、これからの課題等についての指導を行う。

(3) 成績評価体制及び単位認定方法

以下の通り、教育実習の評価は実習校の評価及び、事前指導、事後指導の振り返りを踏まえ、総合的に評価する。

- a) 実習先の評価(教育実習評価票、総合所見)
- b) 実習日誌の内容
- c) 事後報告書の内容
- d) 実習及び事前・事後指導の出席状況

(4) 実習前の準備状況

感染予防に関する対策として、1年次の参観実習(中学校または高等学校での1日現場体験)実施の際に麻疹の抗体確認を行う。2回以上の接種記録が確認できない場合には抗体検査の結果もしくは予防接種証明書の提出を義務付ける。

近年における新型コロナウイルス感染症対策については教育実習開始日の4週間前から不要不急の外出を控えるよう促し、3週間前から健康チェック表による健康管理を実施させ、PCR検査(費用は大学負担)を必須としている。

保険は一括加入とする。学生自身が教育実習中に被った災害、障害に対しては「学生教育研究災害損害保険」に、学生が教育実習中に生徒を含む学校関係者に怪我を負わせてしまった、または備品等を損壊してしまったことによる法律上の損害賠償を保障するための「学研災付帯賠償責任保険」に加入する。

守秘義務やSNSの利用については事前指導および教育実習直前ガイダンスにおいても注意を喚起すべく指導を行う。

(5) 教員の配置並びに巡回指導計画

教育実習生には教育実習指導教員を割り当て、訪問指導等を行う。

巡回(訪問)指導については、大学近郊の地域(東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県他)において実施し、実習生に対して個別指導を行う。遠方の実習校においては電話やメールを用いた個別指導ならびに、学生の様子等について実習校の関係者にヒアリングを行う。また、年1回「実習協議会」を開催し、実習校の校長や実習担当教員などと意見交換を行うことで、次年度以降の指導に生かす。

(6) 実習先の確保

本学では、東京都や神奈川県等の教育委員会や校長会への依頼を中心に実習校を決定している。工学部において平成30～令和3年度に教育実習が行われた、または行う予定の中学校(教科「数学・技術」)、高等学校(教科「数学・工業」)は資料7のとおりである。

(7) 実習の時期

本学及び実習先の教育日程を考慮して実習の時期を決定する。その際、複数の学生を受け入れてもらう実習先に対しては、実習が重ならないよう配慮する。なお、基本的には、実習は4年次の5月上旬より6月下旬の間に行う。

(8) 実習先との連携体制

本学教師教育リサーチセンターが窓口となり、実習開始年度当初に実習校宛に「教育実習指導のお願い」を送付して教育実習の目的を伝え、指導等の依頼を行う。また、あわせて「実習日誌」「教育実習評価票」「教育実習生出勤簿」等の資料については学生に配付し、教育実習校における事前オリエンテーション等において提出するよう指示している。

前述のとおり、実習中に教育実習指導教員が実習校の校長や実習担当教員から意見を聴取するとともに、年1回「実習協議会」を開催し意見交換を行うことで、次年度以降の指導に生かす。

7.企業実習（インターンシップ含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

(1) 海外研修（資料8参照）

グローバル時代において、解が一つに定まらない社会の課題に対し、科学・工学・技術と多様な学問の融合により実現可能な解を見つけ、且つ社会実装することができる「デザイン能力」を有する人材を養成する本学科の目的を実現させるため、3年次の夏休みを中心に、2週間程度の海外研修を選択科目として開設する。指導体制としては、『インターンシップ』及び『海外研修』担当教員を中心に研修担当として配置し、一定の期間、現地での指導・見回りも行う。受入企業には、予め研修の趣旨および目的等を記載した「研修の手引き」を送付し、受入の承諾を得る。学生には、事前指導を実施し、研修中の注意事項や報告書の作成等に関するきめ細かな指導を行う。研修先企業と大学はインターンシップ協定書を取り交わす。単位の認定は、研修先企業からの評価結果、研修報告書、研修状況（欠勤、遅刻の有無なども含む）、見回り教員の所見、研修成果報告会などにより行う。

特に、海外で研修をさせることにより、グローバル人材に必要な以下のような資質・能力の育成を図る。

- ① 国際共通語である高度な英語運用力を身に付けさせる。
- ② 異文化理解や対応力を身に付けさせる。
- ③ 国際感覚を身に付けさせる。
- ④ 多様な価値観に触れさせる。
- ⑤ 海外展開している企業の生産活動を学ばせる。

既に大学として実施している「海外研修」の実施内容・方法をもとに計画を進める。

(2) インターンシップ（資料9参照）

インターンシップは、生産現場等を体験することにより、技術者としての資質を高めることを目的として実施する。具体的には、「現場の知識・経験」を通じて、大学の授業で得られた知識やスキルがいかに応用されているかを学ぶと共に、生産の意義を知り、それを支える責任感や協調性を体得する。

原則として、3年生の夏期休暇中の1～4週間に、実習先企業の指導の下に設計や試験の補助を行いながら、生産現場等の実際を体験する。運営は学科にインターンシップ担当を置き、担当者を実習受入企業との窓口とする。受入企業には予め実習の趣旨および目的等を記載した「実習の手引き」を送付し、受入の承諾を得る。学生には事前指導を実施し、実習中の注意事項や報告書の作成等に関するきめ細かな指導を行う。さらに実習期間中にも学科教員が企業を訪問し見回り指導を行う。単位の認定は、実習先企業からの評価結果、実習報告書、実習状況（欠勤、遅刻の

有無なども含む)、見回り教員の所見、実習成果報告会などにより行う。

なお、本学科が行うインターンシップでは、『インターンシップⅠ』(1単位)、『インターンシップⅡ』(1単位)、『インターンシップⅢ』(1単位)、『インターンシップⅣ』(1単位)の4科目を開設する。学生の希望などを考慮し、これら4科目のうち複数を連続して履修することができ、自己の研究課題を発見し解決する課題解決型研修と位置付ける。実習先企業と大学はインターンシップ協定書を取り交わす。既存のエンジニアリングデザイン学科で実施している「インターンシップ」の過去3年の希望者の平均は25名である。過年度の実績においても希望者に対して十分な受け入れ先を確保できしており、また、それ以上の希望があった場合でも過去の受け入れ先及びキャリアセンターと連携し、受け入れ先を確保することが可能である。

8.取得可能な資格

デザインサイエンス学科では、中学校教諭1種免許状(数学・技術)および高等学校教諭1種免許状(数学・工業)の国家資格を取得することができる。ただし、資格取得は卒業要件ではない。

9.入学者選抜の概要

(1) 受入方針

デザインサイエンス学科では、解が一つに定まらない社会の課題に対し、機械工学分野を中心とした科学、技術を活用して、実現可能な解を見つけることができる「デザイン能力」を有する技術者を養成することを目指している。以下のような入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)を受験生に示し、学生の受け入れを行う。

- a) 高等学校の課程における主要な教科(数学、理科(物理・化学)、外国語(英語)、国語等)の教科書レベルの基礎知識を有し、文章を正しく読解できると共に適切な表現を用いて論理的に説明できる基礎的な能力を有する人。例えば、数学は実用数学技能検定2級程度の学力を有する人。英語は実用英語技能検定準2級程度、またはTOEIC®L&R400点程度の学力を有する人。
- b) 研修行事や各種コンテスト・学会などの学内外のさまざまな活動に積極的に関われる人。
- c) 解が一つに定まらない社会の課題に対し、さまざまな学問を融合して課題解決に向けた取り組みを継続できる人。
- d) グローバルに活動するために、意思疎通ができる外国語(英語)の修得を目指せる人。
- e) 本学科で学んだことを生かし、社会に貢献する意欲を有する人。

(2) 実施方法

本学科では、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行い、養成する人材像や教育課程との関連性を踏まえて、アドミッション・ポリシーのもと、志願者が高等教育を受けるに相応しい資質や能力を有しているかを多面的に判定する。

入学者選抜は、一般選抜(全学統一入学試験、地域創生教員養成入学試験、給付型奨学金入学試験、英語外部試験スコア利用入学試験、大学入学共通テスト利用入学試験、国公立大学併願スカラシップ入学試験)、学校推薦型選抜(公募制推薦入学試験、指定校制推薦入学試験)、総合型選抜(総合型入学審査、首都圏教員養成総合型入学審査、スポーツ選抜総合型入学審査、卒業生子弟総合型入学審査、国際バカロレア総合型入学審査)により実施する。本学では、学長を委員長とする入学試験運営委員会を設置し、上述の入学者選抜の基本方針に基づき、入学試験全般について統括する体制を採っている。入学試験運営委員会は本学の入学試験の在り方について、その方針を策定し、入学試験の実施方法について具体的な審議、検討を行う。

10.教員組織の編制の考え方及び特色

本学科は、教授 5 人、准教授 2 人、講師 1 人の合計 8 人の専任教員で教員組織を編制する。教育研究の目的や養成する人材像、学科の特色、教育課程の編成を踏まえ、教員組織を編制している。なお、専任教員の中心的な研究対象分野は工学である。

具体的な専任教員の科目担当配置は次のとおりである。

ユニバーシティ・スタンダード科目群のうち、『一年次セミナー101』、『一年次セミナー102』は、学科の学びを俯瞰し、大学での学修プラン及び卒業後のキャリアプランを構想できるようにすることを目的として必修としており、30 名程度の少人数クラスで開講し、専任が授業を担当する。

1 年次開講科目は、学科専門科目の基礎となる数学や物理学の科目が中心となっている。2 年次から開設するプロダクトデザイン、ロボットデザインおよび環境デザインの 3 分野の主要な専門科目は専任の教授、准教授が担当する。

専門科目の必修科目である『デザインサイエンス入門（デザイン史を含む）』、『デザインサイエンス演習（デッサンを含む）』、『デジタルファブリケーション入門』、『デザインサイエンス実験』、『スケッチとドラフティング』、『メカニクス（材料）』、『デザインサイエンスセミナーⅠ』、『デザインサイエンスセミナーⅡ』、『卒業プロジェクトⅠ』および『卒業プロジェクトⅡ』といった基幹科目には基本的に専任の教授、准教授を科目担当者として配置することから、適切な教員配置になっているといえる。

開設年度の年齢構成は、59 歳～50 歳が 5 人、そして 49 歳～40 歳が 2 人、39 歳～35 歳が 1 人で、平均年齢は 50.6 歳である。また、本学の教員定年年齢は 65 歳であるが、専任教員 8 人については、いずれも完成年度である令和 8 年度以前に定年になる者はいない。

11.施設、設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

本学では教育理念の具現化を遂行するにあたり『12 の教育信条』を定め、その一つに『自然の尊重』を掲げ、雄大な自然の教育的価値を重視し、かつ環境への配慮を積極的に行ってきた。現在、町田市にあるキャンパスは約 61 万㎡に及ぶ。

大学の校地は玉川学園幼稚部、小学部、中学部、高等部との共用となるが、各部ごとにその主な活動区域は分散しており、教育活動が特定の区域に集中して行われないう配慮している。校舎間の移動においては余裕のある通路や空地が確保されており、スムーズな移動が可能となっている。また、学生が利用する食堂および周辺にはベンチやテーブル・椅子等を配置しており、学生が休息できるスペースを十分有している。体育施設については屋外運動場として大グラウンドをはじめテニスコート、ゴルフ練習場、洋弓場、弓道場を備えている。また、屋内運動場としては大体育館、温水プールなどを設置している。

(2) 校舎等施設の整備計画

本学科では単位制度の実質化を図るため、各学期において履修登録できる単位数の上限を 16 単位と定め、学生が集中して科目を受講することができ、予習・復習が十分行えるよう配慮している。これまで工学部エンジニアリングデザイン学科が使用していた教室等を継続して使用することから、施設・設備は十分に確保できており、学生の利用上における支障はないものと考えている。

教育課程、授業形態などから考慮される必要な施設・設備として、講義室、演習室、実験室などを設置している。異分野融合によってイノベーションを創出する人材育成の場として建設された「STREAM Hall2019」には、デジタルマシンや工作機械を配置した「メーカーズフロア」を設置。モノづくりのスペースだけでなく、「シェアアイディアスペース」や「プレゼンテーションステップ」といったオープンスペースを多く配置することで、自由に議論をしながらアイディアを形にすることを可能としている。また、同じく異分野融合を図ることを目的として建設された

「Consilience Hall 2020」には、「NextGen. Mobility Work Shop（ソーラーカー工房）」を設置。新エネルギーの利用技術の研究に取り組めるようになっている。

多くの講義室ではマルチメディア対応の機器（プロジェクター、BD・DVD プレーヤー、書画カメラ等）が導入されている。また、学内 LAN 光ケーブルを敷設しそれぞれの校舎及び建物間のネットワークを構築している。また、一般教室、研究室及び図書館、ラウンジ等においては「いつでも、どこでも」の教育環境を構築すべく無線 LAN を設置し、キャンパスのあらゆる場所でネットワークにアクセスして学修ができる環境にある。

教員の研究室については、本学科の専任教員が合計 8 人であることから 8 室を用意する。また、別に教職員ラウンジ、学生と面談するスペース、非常勤講師控室、会議室を整備している。

その他、図書館、体育館、教育博物館、学長室、事務室、保健センター健康院、学生食堂などを備えている。

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

大学教育の質保証を支える学修の場として「教育学術情報図書館（以降、「本学図書館」）」を設置している。

本学図書館はもはや本を置くだけの場所ではなく、ラーニング・コモンズやデジタル基盤の推進プログラム（電子ジャーナル、電子書籍、データベース、コンテンツ作成、ICT 支援）を組み合わせ提供している。さらに、そのような技術基盤の資源はリテラシー教育を通して学修生活を変革し研究等にも貢献している。

情報を迅速に収集するとともに、主体的な学修サイクルの各段階に向けて発信・支援できる体制を整えている。例えば、研究成果を公開する学術リポジトリ・システムを、平成 24 年度より運用開始した。また、本学図書館員の学部担当制を継続しながら、学生支援センターと連携して人的支援を推進している。彼らは、学生対象の各種ガイダンスを適時行いつつ、教育・研究活動に直接関係する資料を体系的に収集するために、カリキュラムや研究動向を把握しながら図書等の資料を選定している。

本学図書館は「大学教育棟 2014」の 1 階から 3 階及び 4 階の一部（合計：9,022 m²）を専有し、内部には最大約 130 万冊（自動書庫含む、令和 3 年度末蔵書冊数約 98 万冊）の図書等資料が収容可能である。また 1,040 席の座席を保有しており、これは学生収容定員数の約 15%にあたる。

グループワークやアクティブ・ラーニングといった、課題解決学修に適したラーニング・コモンズを内部（3・4F）に設置する一方で、個室 96 室、個人キャレル席 84 席など、個人学修に適した環境（1・2F）にも配慮している。

図書等資料の閲覧要求に迅速に対応するため、約 85 万冊規模の IC タグ対応自動書庫を設置している。そして学生証等の IC カード化に伴い、入退館ゲートを導入し、安心・安全な学修環境を確保している。

データベースは「CiNii」をはじめとした横断的なデータベースのみならず、分野別、主題別にも対応し利用環境を整えている。平成 24 年度より大規模なデータベース「Web of Science（全分野）」を導入し、引用文献情報の検索も可能となっている。

電子ジャーナルも年々増加し、「EBSCO Academic Search Premier」をはじめ「日経 BP」などを導入し約 9,300 誌の電子ジャーナルが利用可能となっている。いずれも学内 IP サイト契約を行い、利用の便を図っている。

また、本学に所蔵されていない図書等の資料は、大学図書館間の相互貸借や文献複写システムである「NACSIC-ILL」を経由して取寄せ、他大学との相互協力の体制を整えている。

12. 管理運営

(1) 教授会

教授会は、学部の専任教授をもって組織する。ただし、審議事項に応じて、准教授、講師、助

教及びその他必要な教職員を出席させることができる。教授会は、原則として毎月 1 回定例で開催する。召集は学部長が行う。

教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

- a) 学生の入学、卒業
- b) 学位の授与
- c) その他、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

(2) 大学部長会

大学部長会は、全学に共通する教育及び研究の施策を審議するために設置されている。構成員は、学長、副学長、高等教育担当理事、学部長、教学部長、教学事務部長である。大学部長会は、原則として毎月 1 回定例で開催する。召集は学長が行う。

大学部長会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

- a) 教育、研究及びこれに関連する人事に関する基本方針等、その運営における全学的な事項
- b) 教授会の審議に関する基本的共通的な事項
- c) 各種委員会に関する事項
- d) 学位の授与に関する事項
- e) 本大学学則、その他関係規程等の制定・改廃及び運用に関する事項
- f) 学長の諮問に関する事項
- g) 教育研究活動等点検調査委員会の自己点検・評価結果に基づく改善に関する事項
- h) その他本大学の運営に属する必要と認められる重要な事項

(3) 各種委員会

それぞれの専門分野について審議研究し、その運営を図るために次の 15 の委員会を設置している。教務委員会、教職課程委員会、学生委員会、入学試験運営委員会、課外活動支援委員会、キャリア・就職指導委員会、FD 委員会、大学学事運営委員会、国際教育推進委員会、インターンシップ委員会、ELF 運営委員会、環境エデュケーター委員会、アクティブ・ラーニング推進委員会、教育再生加速委員会、IR 委員会で、各学部の専任教員と事務系職員で構成され、定期的に行っている。各委員会の具体的な構成員、審議事項、開催頻度等については、玉川大学教授会等運営規程に定めている。

13. 自己点検・評価(資料 10、11 参照)

(1) 実施体制・実施方法

本学においては、教育研究等の活動及びその運営に関し、総合的な点検・調査・分析・評価を行い、その結果に基づく改善に努め、教育研究水準の質を保証し、その向上を図ることを目的として、平成 4 年に「教育研究活動等点検調査委員会（以下「点検調査委員会」）を発足した。委員会の委員は理事長・学長（委員長）、常務理事・副学長（副委員長）、理事、各学部長、各研究科長、高等教育附置機関の長、高等教育支援機関の長、法人部門の各部長などで構成している。

学部等の各組織が自らその諸活動において点検調査を行い、その結果に基づく改善に努めるため、点検調査委員会の下に「学部・研究科部会」（各学部・研究科の部会で構成）、「大学共通部会」（教務部会、教員養成部会、国際教育部会、ELF 部会、大学院教務部会、研究活動部会、教員組織部会、入試広報部会、学生生活支援部会、キャリア・就職指導部会で構成）、「管理運営分科会」を設け、それぞれ点検・評価を行っている。「学部・研究科部会」は各学部・研究科における点検・評価を、「大学共通部会」は大学共通事項の点検・評価（学部を横断した点検・評価）を行う。

更に、「学部・研究科部会」「大学共通部会」「管理運営分科会」の点検・評価結果をもとに、全学的観点から改善施策案の適切性や実際の改善状況をチェックする「大学分科会」を置いている。

年度初めに点検調査委員会において各分科会、部会における年間の重点・点検評価項目及びスケジュールを共有し、年度末に当該年度の活動内容を分科会、部会ごとに点検調査委員会にて報告している。点検・分析の実施にあたっては指定統計調査などのデータを利用し、根拠に基づく点検・評価を実施している。

また、本学では、より客観的な意見を取り入れ、教育研究水準の向上を図るため、平成 14 年 4 月に教育研究活動等有識者会議を発足した。年 2 回定例会議を開催し、高等教育・初等中等教育に高い識見を持つ委員、民間関係者を含む学識経験者など多方面で高い見識を持つ学外の委員により構成し、本学の教育研究活動ならびに管理運営に関する意見交換を行っている。また、点検調査委員会がまとめた「自己点検・評価報告書」に対する評価、意見、助言をもらい、調査報告としてまとめてホームページで公表している。

(2) 評価項目

以下の項目に関する点検、調査、分析、評価を行い、それをもとに改善を図っている。

①理念・目的

大学および学部・研究科の理念・目的の適切性。

②内部質保証

a) 内部質保証の推進に責任を負う体制及び内部質保証システムの適切性

b) 教育研究活動、自己点検・評価結果、財務その他情報公開の適切性

③教育研究組織

教育研究組織（学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織）の適切性

④教育課程・学修成果

a) ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性

b) 教育課程の適切性

c) 学習の活性化、効果的な教育を行うための措置

d) 成績評価、単位認定、学位授与の適切性

e) 学修成果を適切に把握及び評価するための措置

⑤学生の受け入れ

a) アドミッション・ポリシーの適切性

b) 学生募集及び入学者選抜、運営体制の適切性

c) 定員設定及び定員管理の適切性

⑥教員・教員組織

a) 教員組織編制の適切性

b) 教員の募集、採用、昇任等の適切性

c) 教員の資質向上のための措置

⑦学生支援

学生支援体制及び学生支援の適切性

⑧教育研究等環境

a) 教育研究活動に必要な施設・設備の適切性

b) 研究倫理を遵守するための措置

⑨社会連携・社会貢献

社会連携・社会貢献活動の適切性

⑩大学運営・財務

a) 学長、教授会等の権限の適切性

b) 法人及び大学運営に関する業務、教育研究活動の支援等に必要な事務組織の適切性

c) 事務職員及び教員の大学運営に対する意欲・資質向上を図るための措置

(3) 結果の活用・公表

自己点検・評価の結果明らかになった課題・改善施策については、点検調査委員会で共有の上、教育研究等の運営を司る各種委員会や学部・研究科において具体的な改善案を検討、実施している。公表については、平成 13 年度に「自己点検・評価報告書 2000」、平成 17 年度に「自己点検・評価報告書 2005」、平成 23 年度に「自己点検・評価報告書 2010」、そして平成 30 年度に「自己点検・評価報告書 2017」をそれぞれホームページに掲載した。

なお、平成 30 年度に認証評価機関（財団法人大学基準協会）による 3 回目の認証評価（機関評価）を受け、平成 31 年 3 月に適合と認定されている。

また、大学院教育学研究科教職専攻（専門職学位課程）は令和 2 年度に認証評価機関（教員養成評価機構）の教職大学院認証評価を受け、適合と認定されている。

14. 情報の公表

学校法人玉川学園情報公開規程の第 1 条に「この規程は、学校法人玉川学園（以下「本法人」といい、設置する学校を含む。）が保有する情報の公開及び本法人寄附行為第 36 条並びに第 37 条に基づく書類の開示及び閲覧に関し必要な事項を定める。但し、個人情報に関する事項については別に定める学校法人玉川学園個人情報保護規程によるものとする。」と規定し、公開する情報を第 2 条に示している。

具体的には、学校教育法施行規則第 172 条の 2 及び教育職員免許法施行規則 22 条の 6 に定められた情報に加え、学内外への情報の提供としては「玉川学園総合パンフレット（日本語版・英語版）」「全人（毎月発行）」「全人特別号」「父母会報」（本学学生の保護者向け）、「大学案内」、「研究者情報総覧」、「FD 活動報告書」などがあり、「玉川大学・玉川学園ホームページ（<http://www.tamagawa.jp/>）」で公開している。

また、大学関係者の情報公開請求に対応できるよう財産目録、財務諸表、事業報告書、役員等名簿、監査報告書、役員に対する報酬等の支給の基準及び寄附行為を備え付けており、同時に前述のホームページで公開している。

なお、「大学教育情報（<http://www.tamagawa.jp/university/introduction/information/>）」に以下に記載する項目を一覧で公開している（玉川大学玉川学園総合サイト＞玉川大学＞大学教育情報）。

- a) 大学の教育研究上の目的および 3 つの方針に関すること
- b) 教育研究上の基本組織に関すること
- c) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
- d) 統計データ（入学者数、在籍者数、卒業者数、進学者数、就職者数）
- e) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること
- f) 学修の成果に係る評価及び卒業または修了の認定にあたっての基準に関すること
- g) 大学の教員の養成の状況に関すること
- h) 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
- i) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
- j) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
- k) 教職大学院の教育研究活動等の状況に関すること（専門性が求められる職業に関連する事業を行う者との協力の状況に関すること）
- l) 財務に関する情報（事業計画書・予算、事業報告書・決算）

その他、以下の項目についてもホームページ等で公開している。

- a) 本学の教育理念
(<http://www.tamagawa.jp/education/idea/>)
- b) 大学の概要（学則、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、FD 活動、自己点検・評価、研究者情報など）

(<http://www.tamagawa.jp/university/introduction/outline/>)

c) シラバス

(<https://unitama.tamagawa.ac.jp/up/faces/login/Com00505A.jsp>)

d) アクレディテーション (認証評価結果)

(<http://www.tamagawa.jp/introduction/accreditation.html>)

e) 設置届出書及び設置計画履行状況報告書

(<http://www.tamagawa.jp/introduction/assessment/workshop/past.html>)

f) コンプライアンス方針

(<http://www.tamagawa.jp/introduction/compliance.html>)

g) 社会・地域連携

(<http://www.tamagawa.jp/social/>)

h) 玉川ライブラリ (総合パンフレット、大学案内、「全人特別号」、など)

(<http://www.tamagawa.jp/introduction/study/library.html>)

i) 月刊誌「全人」

(<http://www.tamagawa.jp/serial/zenjin/>)

15.教育内容等の改善を図るための組織的な取組 (資料 12 参照)

本学では、教育研究活動の向上・能力開発に関して恒常的に検討を行い、その質的充実を図ることを目的として、各学部・各学科に FD 担当教員並びにファカルティ・ディベロッパー (以下 FDer) を配置し、当該学部の特色に合わせた様々な FD 活動を展開している。さらにそれを横断する形で、教学部長を委員長とした全学的な「大学 FD 委員会」を設置し、学生による授業評価アンケートの実施及び授業改善に関する検討、全学的な課題や情報の収集と伝達及び他大学における FD 活動の情報収集を行っている。また、授業方法の改善や学修成果の把握に関する講演やワークショップ、事例報告会等の開催、FDer の養成、ティーチング・ポートフォリオの導入と利用拡大に向けたメンター (TP を作成する教員を支援する教員) 養成、さらに、ピアレビューとして教職員による授業公開などにより全学的に教員の教育力向上を図っている。

工学部においては、工学部長を中心とした主任会の構成員及び FD 委員が中核メンバーとなり、「全人教育の下、人間力を備えたモノづくりの実践的技術者を育成する」という工学部の理念・目標の実現に向け、教育内容・教育環境の向上を図っている。工学部 FD 研修会、授業評価アンケートの実施およびその結果に基づく授業評価検討会を中心とし、遠隔授業、16 単位キャップ制および GPA 警告制度における学生の学修状況分析、その結果と課題の共有、次年度に向けての指導方法の在り方の議論・検討を行っている。

具体的には次のような FD 活動を実施している。

- a) 工学部 FD 研修会 (年 2 回/GPA や単位修得率による学修状況・成績動向の把握・共有等)
- b) 学生による授業評価アンケートの実施 (年 2 回期)
- c) 各学科授業評価検討会、工学部授業評価総合検討会 (年 2 回/授業評価アンケートの集計結果に基づく授業改善の検討等)
- d) 研修会の開催
- e) 研究授業 (授業参観) の実施 (年 2 回)

16.社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1)社会的・職業的自立に関する指導等の実施に向けた体制の整備

本学では、キャリアデザイン及び就職の支援を、各学部・学科の学級担任、就職担当教員、教職担当教員とキャリアセンター、教師教育リサーチセンター等関係部署が連携して行っている。

キャリアセンターでは企業及び公務員への就職希望者を対象に、教師教育リサーチセンターでは教員及び保育士志望の学生を対象に支援を行っている。

キャリアセンターには国家資格「キャリアコンサルタント」保有者(専任・兼任)を配置し、個別指導に加え、就職ガイダンス、業界研究会等を開催している。

教師教育リサーチセンターには教員採用に係る支援を行う職員に加え、校長経験者を置き、教育現場に即した指導を行っている。

就職担当教員で構成するキャリア・就職指導委員会、教職担当で構成する教職課程委員会を設置し、全学を横断して就職・教職及びキャリア支援に関する事項を共有、審議することで支援部署と教員が連携を取りながら支援を行っている。

(2) 教育課程内の取組

現代は知識基盤社会であり、知識が生産資源の中核となり、知識労働者が働き手の中核となっていく。すなわち、モノが原材料の中核となり、それをマニュアルに沿った単純労働によって商品として大量生産する時代から、モノやサービスの価値を左右するものが知識や創意工夫となり、クリエイティブな働き手が人々の様々なニーズに沿った多様かつ高品質なモノやサービスを提供していく時代となる。つまり、「知識」や「情報」をクリエイティビティの道具や材料として「イノベーション」を発生させることができる「クリエイティブ人材」が今後の職業人の能力として求められている。

また、分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる基礎的・汎用的能力も求められている。たとえば、人間関係形成・社会形成能力(他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップなど)、自己理解・自己管理能力(自己の役割の理解、自己の動機付けなど)、課題対応能力(課題発見、計画立案など)、キャリアプランニング能力(学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計など)である。

そのような能力を含め、社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培うために、教育課程内ではつぎのような取組を行っている。

まず1年次では前述「4.教育課程の編成の考え方及び特色」に示した必修科目『一年次セミナー101』『一年次セミナー102』において、大学での効果的な学び方に加え、働くことの意義や将来の人生設計など、一人ひとりが将来の目標を立てるための知識と方法を学修する。また、社会人として必要な物事の考え方や倫理観、コミュニケーションの在り方、社会との関わり方についても学ぶこととなる。具体的な内容としては、「時間管理の技術」、「文章作法の方法」、「社会生活とメディア」、「社会貢献」、「コミュニケーションの在り方」、「情報の活用と倫理」、「個人情報保護と関わり方」、「セルフマネジメント」、「ライフデザインとキャリアデザイン」である。『一年次セミナー101』『一年次セミナー102』は全学共通科目であるが、本学科ではともに必修科目で、いずれも30人規模のクラスで開講し、クラス担任が授業を担当する。

3年次には全学共通科目である『キャリア・マネジメント』において、世の中にはどのような職業・職種・仕事があり、その職業・職種・仕事はどのように確立してきたのか、その職業・職種・仕事に就くにはどのような能力(知識、経験、技能など)が求められているかを学ぶことができる。具体的な内容としては、社会や労働市場との関係で職業構造がどのように形成されてきたのか、職業倫理、職業資格、職業訓練、OJT・Off-JT、職業能力の評価制度など職業にまつわる基礎的な知識や、自律的な職業生活の設計をする上での基本的な職業の知識を学ぶ。

専門科目では、「チームで特定の課題に取り組む経験」や「実社会とのつながりを意識した教育」が職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度として社会的・職業的自立力の要素として挙げられる。本学科では、ものづくりに関わるさまざまな実習・実験科目が設置され、その中で「チームで特定の課題に取り組む経験」を積むことになる。また、『起業プランニング』では、自ら商品を企画・設計・製作し、それを誰に、どのように販売し、資金をどのように調達するかを計画する起業プロセスを通して、「実社会とのつながりを意識した教育」を実践する。このようにして本学科では、社会的・職業的に自立した「クリエイティブ人材」を育成する。

さらに、社会が大きく変化する時代においては、特定の専門知識、技能の育成と共に、多様な

職業に対応し得る、社会的、職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度の育成が重要となる。このような能力や態度は、具体的な現場体験や職業体験を通して育成することが有効であるとの考えから、『インターンシップⅠ』『インターンシップⅡ』『インターンシップⅢ』『インターンシップⅣ』といった科目を開設し、将来のキャリアに関連した実社会での就業体験を行うことにより、より具体的に将来のキャリア展望を描けることを目指している。本学科においても、国際共通語である英語運用力の育成は必要である。言語表現科目群の『ELF』関連科目から4単位以上を修得していることを卒業条件として組み込んでいる。『海外研修』では、海外の日系企業に派遣して現場における専門教育と語学研修を兼ねる。

(3) 教育課程外の取組（資料 13 参照）

上述したキャリアセンター及び教師教育リサーチセンターが各種講座、セミナー、研究会、ガイダンス、面談等の計画を立て、毎年内容を見直しながら実施している。

具体的には、各学年に応じたガイダンスや学内企業説明会、業界研究会、OB・OG 交流会、卒業生による面接対策などを通して就職観・職業観の醸成を図り、また、就職活動や就職試験対策として、面接対策講座、教員採用模擬試験、公務員対策講座などを実施している。その他、通年で、キャリアカウンセリング（個別面談）や模擬面接、教職講座を実施している。

また、キャリア・就職への意識を高めるために、3 年次生に「就職ハンドブック」を配付して啓蒙を図っている。

キャリアセンターと教師教育リサーチセンターでは、就職情報 Web サイト「たまナビ」を共有利用し、学生の志望変更にもリアルタイムに対応できるシステムを構築している。このサイトでは、年間 15,000 社の求人及び企業からの最新情報、キャリアセンターが企業との面談で得た情報、OB・OG の在職状況などを提供している。

継続学習センターにおいては、秘書検定対策講座、TOEIC®テスト対策、フランス語、スペイン語、中国語をはじめ自然、芸術、日本文化、語学、健康・スポーツ、教育、資格、教養に関する講座を開設している。学生は教育課程で学ぶ以外に、自身の興味・関心に応じて受講することが可能である。有料ではあるが、同じキャンパス内で受講することができるメリットがある。

全学の学生対象に行っている上述の取組を、本学科学生にも同様に行う。

資 料 目 次

資料 1	人材養成および教育課程の概要	p.2
資料 2	教育課程の構成	p.3
資料 3	教育課程表	p.4
資料 4	カリキュラム・ツリー	p.5
資料 5	履修モデル	p.6
資料 6	教育実習実施計画	p.9
資料 7	教育実習先一覧	p.19
資料 8	海外研修実施計画	p.22
資料 9	インターンシップ実施計画	p.23
資料 10	教育研究活動等点検調査委員会組織図	p.25
資料 11	学校法人玉川学園教育研究活動等点検調査委員会規程	p.26
資料 12	玉川大学 FD 委員会規程	p.34
資料 13	就職支援プログラムについて	p.35

工学部 デザインサイエンス学科 人材養成および教育課程の概要

【養成する人材像】

解が一つに定まらない社会の課題に対し、機械工学分野を中心とした科学・技術と多様な学問の融合により実現可能な解を見つけ、且つ社会実装することができる「デザイン能力」を有する技術者

(キーワード：デザイン能力、社会実装、プロダクト、ロボット、環境、デジタルファブリケーション)

【ディプロマ・ポリシー】

- | | |
|---|------------------|
| (1) 自然や社会のさまざまな事象を詳細に理解するために、自然科学・社会科学・人文科学の基礎及び英語をはじめとした語学力を身に付けている | 知識・理解 |
| (2) プロダクト、ロボット、環境等の領域を基盤とし、幅広い視野と適切な判断力により、社会課題の解決を目指した企画・設計・実行・報告を実践することができる | 汎用的技能 |
| (3) 演習や実習を通してコミュニケーションの重要性を理解し、主体的に実行できる力、課題を発見できる力、他者と協調して課題を解決することができる力を身に付けている | 汎用的技能
態度・志向性 |
| (4) さまざまな事象を科学的・学際的に分析することにより、社会の一員として解決すべき課題を発見することができる | 汎用的技能
統合的学習経験 |
| (5) 幅広い視野とイノベーション力によって社会の課題の最適解を見つけ、その実現を目指すことができる | 汎用的技能
創造的思考力 |

【カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程の編成と主な教育科目】

インターンシップ、デザインサイエンスセミナー、卒業プロジェクト 課題を多角的に把握でき、「デザイン能力」の完成を目指す

課題を発見し解決する力・創造力・コミュニケーション力・イノベーション力を身に付ける

プロダクトデザイン

色彩デザイン学
人間工学
プロダクトデザイン
起業プランニング
デザインと経営

ロボットデザイン

機構デザイン
ドラフティング応用
メカトロニクス
バイオメティクス
モデリングとシミュレーション

環境デザイン

化学と環境
電気回路基礎
ソフトエネルギー
マテリアルプロセッシング
都市環境デザイン

専門領域を学ぶ科目（実験・実習を含む）

デザインサイエンス実験、デザイン思考、デジタルファブリケーション、スケッチとドラフティング、メカニクス（材料）、知的財産権の基礎

課題の発見・解決力
コミュニケーション力

工学の基礎を学ぶ科目

解析学Ⅰ/Ⅱ、代数学Ⅰ/Ⅱ、微分方程式、確率統計学Ⅰ/Ⅱ、物理学Ⅰ/ⅡA/ⅡB、プログラミングⅠ/Ⅱ、データサイエンス、デジタルシチズンシップ、工学倫理

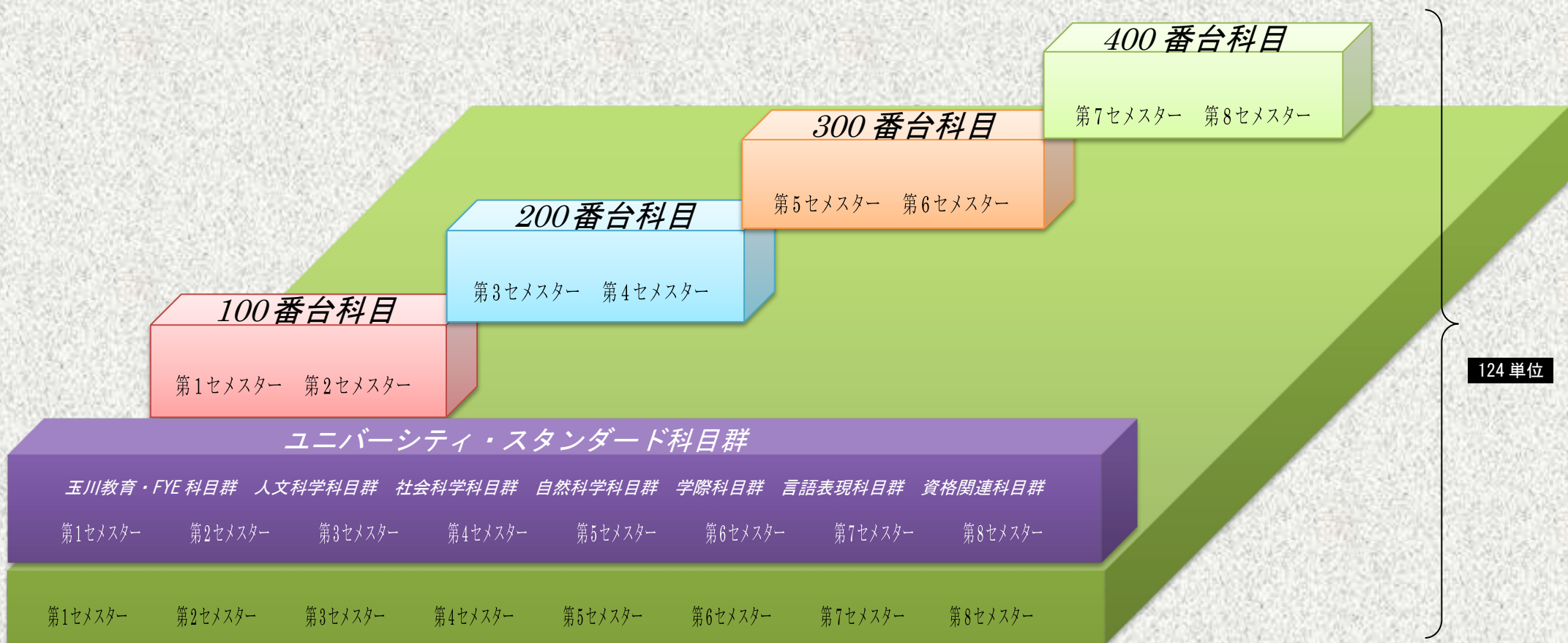
「デザイン能力」の基礎となる
(課題を理解する)力

ユニバーシティ・スタンダード科目

玉川教育・FYE科目群、人文科学科目群、社会科学科目群、自然科学科目群、学際科目群、言語表現科目群、資格関連科目群

多様な学問分野を幅広く学び、
広い視野をもつ力

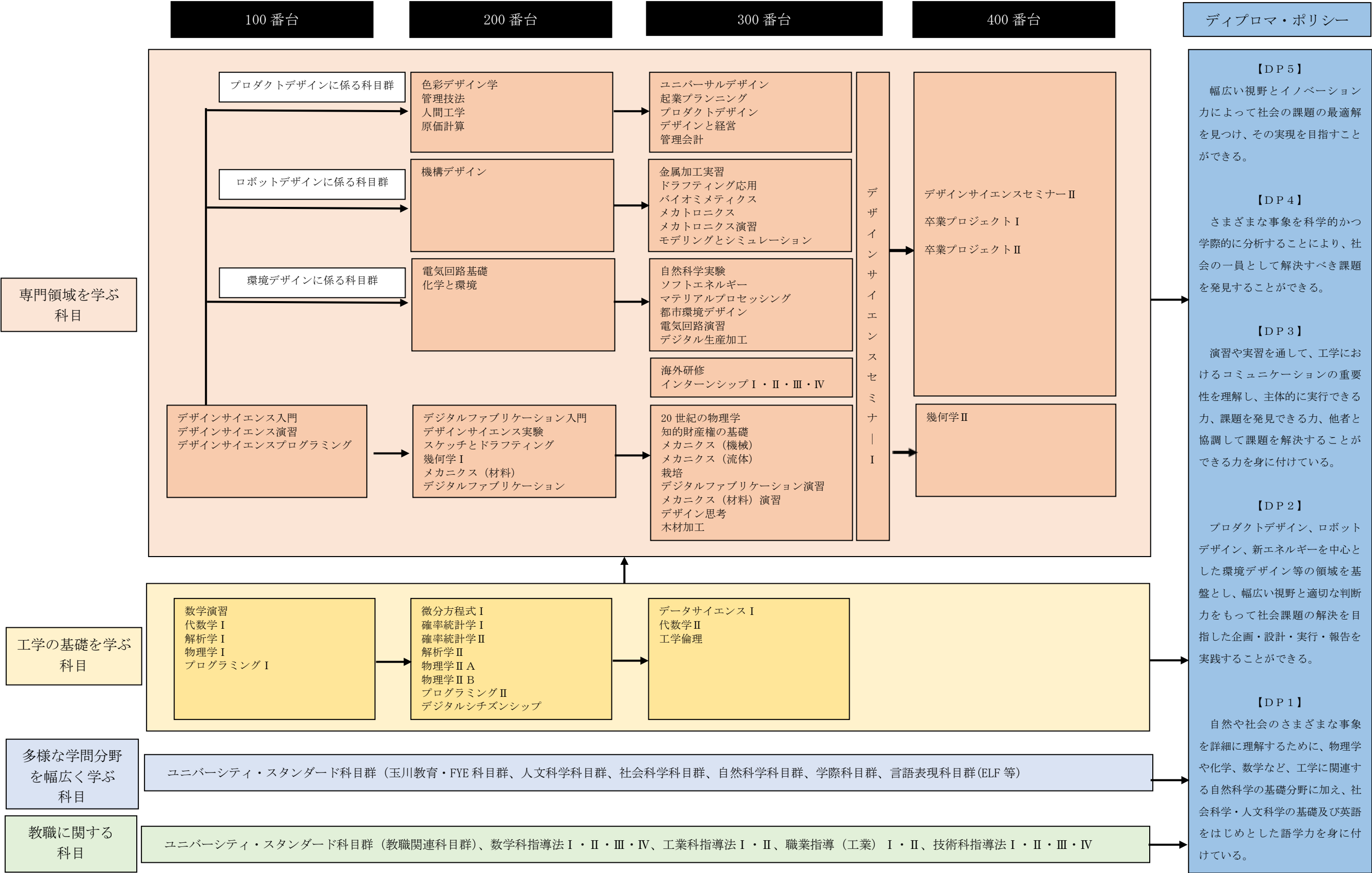
工学部 デザインサイエンス学科 教育課程の構成



工学部 デザインサイエンス学科 教育課程表

			1年次		2年次		3年次		4年次	
			1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター	
ユニバーシティ・スタンダード科目群	・ F Y E 科目群	・ 玉川教育 必修 選択	一年次セミナー101	2	一年次セミナー102	2				
			健康教育	1	玉川の教育	0.3				
			音楽Ⅰ	0.7	音楽Ⅱ	1				
	人文科学 科目群				二年次セミナー201	2	二年次セミナー202	2	三年次セミナー301	2
					全人教育論	2				
					ピアリーダー	2				
			文化人類学	2	美術史	2	ことばと文化	2	比較文化論	2
			日本語入門	2	日本語学	2	音楽史	2	哲学	2
			人文科学アドバンストスキルズ (リーディング)	1	外国文学	2			英語学	2
					民俗学入門	2	倫理学	2	世界の宗教と文化	2
							初級数学	2	名著講読 (人文科学)	1
									科学史	2
									Japanology	2
									Modern Japanese History	2
									Japanese Pop Culture	2
									East Asian History	2
									Issues in Japanese Studies A	2
									Issues in Japanese Studies B	2
	社会科学 科目群		会計学	2	経営学	2	マーケティング	2	コミュニケーション論	2
			社会学	2	観光学入門	2			経済学 (国際経済を含む。)	2
					ホランディング概論	2	市民社会と法	2	政治学 (国際政治を含む。)	2
							Academic Communication	2	名著講読 (社会科学)	1
	自然科学 科目群								科学技術社会論	2
									現代社会の教育課題	2
			生物学入門	2	化学入門	2	環境科学	2	情報科学入門	2
			数学入門	2	代数学入門	2	物理学入門	2	科学入門	2
専門科目群	学際科目群				STEM入門 (科学と社会)	2			統計学入門	2
							実践の物理学	2	宇宙科学	2
									エネルギー科学	2
									地球科学	2
									名著講読 (自然科学)	1
			マクロ脳科学	2	マスメディアと社会	2	インターンシップ A	2	インターンシップ B	2
			SAE(海外留学・研修)プログラム C	2	SAE(海外留学・研修)プログラム D	2	SAE(海外留学・研修)プログラム E	3	SAE(海外留学・研修)プログラム F	3
			海外留学入門	2	情報倫理と社会	2	TAP7アプリケーションⅠ	2	地域創生プロジェクト A	1
			地域創生プロジェクト F	3	フィールドワーク A	2	フィールドワーク B	2	フィールドワーク C	2
	科目表現 現語									
	資格関連科目群		ELF Introduction (A)	2	ELF Introduction (C)	2	ELF Communication for Teachers	2	ELF Foundation (A)	2
			ELF Academic Literacy 上級	2	フランス語 101	2	ドイツ語 101	2	日本語表現101	2
					ELF Introduction (B)	2	BELF 初級	2	ELF Foundation (B)	2
					BELF 上級	2	フランス語 102	2	ドイツ語 102	2
			生涯学習概論	2	情報メディアの活用	2	学校経営と学校図書館	2	学校図書館メディアの構成	2
					生涯学習と生涯教育	2	児童サービス論	2	情報サービス概論	2
							社会教育課題研究	2	社会教育経営論 B	2
							博物館資料保存論	2	博物館展示論	2
									社会教育経営論 A	2
									情報資源組織演習 C	2
教職関連科目群	100番台科目	必修	デザインサイエンス入門(デザイン史を含む)	2						
					デザインサイエンス演習(デザインを含む)	2	代数学I	2	解析学I	2
					数学演習	2	物理学I	2	プログラミングI	2
							デジタルデザイン	2	プログラミングII	2
							デジタルデザイン実践	1	スケッチとラフデザイン	1
							デジタルデザイン実践	1	スケッチとラフデザイン	1
							デジタルデザイン実践	1	スケッチとラフデザイン	1
							デジタルデザイン実践	1	スケッチとラフデザイン	1
							デジタルデザイン実践	1	スケッチとラフデザイン	1
							デジタルデザイン実践	1	スケッチとラフデザイン	1
	200番台科目	必修								
	300番台科目	必修								
	400番台科目	必修								
教職関連科目群			教育原理	2	教職概論	2	教育の制度と経営	2	学習・発達論	2
			教育インターンシップ B	2	教育インターンシップ C	1	教育インターンシップ D	1	日本国憲法	2
					教育哲学	2	教育社会学	2	教育心理学	2
							特別支援教育	1	特別活動の理論と方法	1
									異文化理解と教育	2
									教育課程編成論	2
									道徳教育の理論と方法	2
									生徒・進路指導の理論と方法	2
									教育相談の理論と方法	2
									教育実習 (中・高)	5
教職関連科目群										
教職関連科目群										

工学部デザインサイエンス学科カリキュラム・ツリー



工学部 デザインサイエンス学科

●履修モデルA（**プロダクトデザイン**に関する学びを通して人材養成の目的を達成するモデル）

【プロダクトデザインコース】

		1年次				2年次				3年次				4年次				卒業必要 単位数
		1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター		5セメスター		6セメスター		7セメスター		8セメスター		
ユニバーシティ・スタンダード 科目群	玉川教育・FYE科目群(必修)	一年次セミナー101 健康教育 音楽Ⅰ	2 1 0.7	一年次セミナー102 玉川の教育 音楽Ⅱ	2 0.3 1												7 単位	
	人文科学科目群							美術史	2							科学史 哲学	2 2	6 単位
	社会科学科目群							社会学	2					経済学(国際経済を含む。)	2	科学技術社会論	2	6 単位
	自然科学科目群	解析学入門 代数学入門 物理学入門 データ処理	2 2 2 2							エネルギー科学	2	環境科学	2					12 単位
	学際科目群											キャリア・マネジメント	2	現代文化論	2	数理・データサイエンス・AIリテラシー	2	6 単位
	言語表現科目群	ELF Introduction (A)	2	ELF Introduction (B)	2	日本語表現101	2											6 単位
専門科目	100番台科目	デザインサイエンス入門 (デザイン史を含む)	2	解析学Ⅰ 代数学Ⅰ 物理学Ⅰ プログラミングⅠ デザインサイエンス演習 (デッサンを含む)	2 2 2 2 2													81 単位
	200番台科目					物理学ⅡA プログラミングⅡ デジタルシチズンシップ デジタルファブリケーション入門 デザインサイエンス実験 スケッチとドラフティング 色彩デザイン学 管理技法	2 2 2 2 1 1 2 2	物理学ⅡB 解析学Ⅱ デジタルファブリケーション メカニクス(材料) 人間工学 原価計算	2 2 2 2 2	微分方程式Ⅰ 確率統計学Ⅰ	2 2	確率統計学Ⅱ	2					
	300番台科目									知的財産権の基礎 工学倫理 メカニクス(機械) 金属加工実習 ユニバーサルデザイン ドラフティング応用	2 1 2 2 2 1	デジタルファブリケーション演習 デザインサイエンスセミナーⅠ デザイン思考 プロダクトデザイン デザインと経営	2 2 2 2 2	メカニクス(流体) 起業プランニング 20世紀の物理学 データサイエンスⅠ	2 2 2 2	メカニクス(材料)演習 管理会計	1 2	
	400番台科目													卒業プロジェクトⅠ デザインサイエンスセミナーⅡ	2 2	卒業プロジェクトⅡ	2	
	履修単位数合計	15.7単位		15.3単位		16単位		16単位		16単位		16単位		16単位		13単位		

工学部 デザインサイエンス学科

●履修モデルB (ロボットデザインに関する学びを通して人材養成の目的を達成するモデル)

【ロボットデザインコース】

		1年次				2年次				3年次				4年次				卒業必要 単位数
		1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター		5セメスター		6セメスター		7セメスター		8セメスター		
ユニバーシティ・スタンダード 科目群	玉川教育・FYE科目群(必修)	一年次セミナー101 健康教育 音楽Ⅰ	2 1 0.7	一年次セミナー102 玉川の教育 音楽Ⅱ	2 0.3 1												7 単位	
	人文科学科目群							美術史	2							科学史 哲学	2 2	6 単位
	社会科学科目群							社会学	2					経済学(国際経済を含む。)	2	科学技術社会論	2	6 単位
	自然科学科目群	解析学入門 代数学入門 物理学入門 データ処理	2 2 2 2					生物学入門	2	情報科学入門	2					環境科学	2	14 単位
	学際科目群											キャリア・マネジメント	2	現代文化論	2			4 単位
	言語表現科目群	ELF Introduction (A)	2	ELF Introduction (B)	2	日本語表現101	2											6 単位
専門科目	100番台科目	デザインサイエンス入門(デザイン史を含む)	2	解析学Ⅰ 代数学Ⅰ 物理学Ⅰ プログラミングⅠ デザインサイエンス演習(デッサンを含む)	2 2 2 2 2													81 単位
	200番台科目					物理学ⅡA プログラミングⅡ デジタルシチズンシップ デジタルファブ리케이션入門 デザインサイエンス実験 スケッチとドラフティング 機構デザイン 色彩デザイン学	2 2 2 2 1 1 2 2	物理学ⅡB 解析学Ⅱ デジタルファブ리케이션 メカニクス(材料) 電気回路基礎	2 2 2 2 2	微分方程式Ⅰ 確率統計学Ⅰ	2 2	確率統計学Ⅱ	2					
	300番台科目							知的財産権の基礎 工学倫理 メカニクス(機械) 金属加工実習 ドラフティング応用 バイオメディクス	2 1 2 2 1 2	デジタルファブ리케이션演習 デザインサイエンスセミナーⅠ デザイン思考 メカトロニクス メカトロニクス演習 モデリングとシミュレーション	2 1 2 2 2 2	メカニクス(流体) 起業プランニング データサイエンスⅠ 20世紀の物理学	2 2 2 2	メカニクス(材料)演習 デザインと経営	1 2			
	400番台科目												卒業プロジェクトⅠ デザインサイエンスセミナーⅡ	2 2	卒業プロジェクトⅡ	2		
	履修単位数合計	15.7単位		15.3単位		16単位		16単位		16単位		16単位		16単位		13単位		

工学部 デザインサイエンス学科

●履修モデルC(環境デザインに関する学びを通して人材養成の目的を達成するモデル) 【環境デザインコース】

		1年次				2年次				3年次				4年次				卒業必要 単位数
		1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター		5セメスター		6セメスター		7セメスター		8セメスター		
ユニバーシティ・スタンダード 科目群	玉川教育・FYE科目群(必修)	一年次セミナー101 健康教育 音楽Ⅰ	2 1 0.7	一年次セミナー102 玉川の教育 音楽Ⅱ	2 0.3 1												7 単位	
	人文科学科目群							美術史	2							科学史 哲学	2 2	6 単位
	社会科学科目群							社会学	2					経済学(国際経済を含む。)	2	科学技術社会論	2	6 単位
	自然科学科目群	解析学入門 代数学入門 物理学入門 データ処理	2 2 2 2							情報科学入門	2			自然科学アカデミック スキルズ(ライティング)	1	環境科学	2	13 単位
	学際科目群											キャリア・マネジメント	2	現代文化論	2			4 単位
	言語表現科目群	ELF Introduction (A)	2	ELF Introduction (B)	2	日本語表現101	2											6 単位
専門科目	100番台科目	デザインサイエンス入門(デザイン史を含む)	2	解析学Ⅰ 代数学Ⅰ 物理学Ⅰ プログラミングⅠ デザインサイエンス演習(デッサンを含む)	2 2 2 2 2													82 単位
	200番台科目					物理学ⅡA プログラミングⅡ デジタルシチズンシップ デジタルファブリケーション入門 デザインサイエンス実験 スケッチとドラフティング 機構デザイン 色彩デザイン学	2 2 2 2 1 1 2 2	物理学ⅡB 解析学Ⅱ デジタルファブリケーション メカニクス(材料) 電気回路基礎 化学と環境	2 2 2 2 2 2	微分方程式Ⅰ 確率統計学Ⅰ	2 2	確率統計学Ⅱ	2					
	300番台科目									知的財産権の基礎 工学倫理 メカニクス(機械) 金属加工実習 自然科学実験 ソフトエネルギー	2 1 2 2 1 2	デジタルファブリケーション演習 デザインサイエンスセミナーⅠ メカニクス(材料)演習 デザイン思考 マテリアルプロセッシング 都市環境デザイン 電気回路演習	2 2 1 2 2 2 1	メカニクス(流体) 20世紀の物理学 データサイエンスⅠ	2 2 2	デザインと経営 デジタル生産加工	2 2	
	400番台科目												卒業プロジェクトⅠ デザインサイエンスセミナーⅡ	2 2	卒業プロジェクトⅡ	2		
	履修単位数合計	15.7単位		15.3単位		16単位		16単位		16単位		16単位		15単位		14単位		

工学部デザインサイエンス学科 教育実習実施計画

教育目的	現場での体験を通して、教育の厳粛さを認識するとともに、各自の課題を明確にし、適性についての省察をもとに教職についての自覚を持ち、教師としての使命感を新たに認識することを目的とする。
教育効果	実習校や併設の中学校・高等学校、教育委員会等との連携を密にし、学級経営や教育課程・教育方法、生徒指導をはじめ学校全般の教育活動を総合的に体験し考察する機会とする。
実施時期	本学及び実習先の教育日程を考慮して実習の時期を決定する。その際、複数の学生を受け入れてもらう実習先に対しては、実習が重ならないよう配慮する。なお、基本的には、実習は 4 年次の 5 月上旬より 6 月下旬の間に行う。
事前指導	教育実習(現場実習)に先立ち、指導計画と指導案、学級経営や生徒指導、道德教育、教員の服務、さらには学校教育の実情や教育実習の心構え等総括的な指導を行う。
(現場実習) 教育実習	授業の観察、生徒指導への参加、実地授業の実施等の体験を通して、授業のあり方や教師としての役割を果たすのに必要な知識、技能、態度などについて理解を深めさせる。
事後指導	現場実習終了後、教育実習事後報告書及び実習日誌をもとに本学の教育実習指導教員を中心に現場実習の反省を行い、これからの課題等についての指導を行う。
実習先との連携体制	本学教師教育リサーチセンターが窓口となり、実習開始年度当初に実習校宛に「教育実習指導のお願い」を送付して教育実習の目的を伝え、指導等の依頼を行う。また、あわせて「実習日誌」「教育実習評価票」「教育実習生出勤簿」等の資料については学生に配付し、教育実習校における事前オリエンテーション等において提出するよう指示している。 実習中にも、大学近郊の地域(東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県他)には教育実習指導教員が実習校を訪問して、実習生に対して個別指導を行う。また、実習校の校長や実習担当教員などと協議する機会を持つ。なお、遠方の実習校においては電話やメール等を用いた個別指導ならびに、学生の様子等について実習校の関係者にヒアリングを行っている。
成績評価体制および単位認定方法	実習校においては校長、教頭(副校長)、教務主任、実習担当の先生方等の実習の評価を依頼し、「教育実習評価票」に記入していただく。玉川大学教職課程委員会が教職担当教員に委嘱して、実習校からの書類に基づき、事前・事後指導と併せて評価する。本学では成績評価について以下の内容をもとに総合的に評価する。 (i) 実習先の評価 (ii) 実習日誌の内容 (iii) 事後報告書の内容 (iv) 実習及び事前・事後指導の出席状況

教育実習受入承諾書 一覧

工学部デザインサイエンス学科

教育委員会名	免許種・教科	承認開始時期
東京都教育委員会	中学校教諭一種免許状（数学） 中学校教諭一種免許状（技術） 高等学校教諭一種免許状（数学） 高等学校教諭一種免許状（工業）	令和５年４月１日
神奈川県教育委員会	中学校教諭一種免許状（数学） 中学校教諭一種免許状（技術） 高等学校教諭一種免許状（数学） 高等学校教諭一種免許状（工業）	令和５年４月１日
横浜市教育局	中学校教諭一種免許状（数学） 中学校教諭一種免許状（技術） 高等学校教諭一種免許状（数学） 高等学校教諭一種免許状（工業）	令和５年４月１日
川崎市教育委員会	中学校教諭一種免許状（数学） 中学校教諭一種免許状（技術） 高等学校教諭一種免許状（数学） 高等学校教諭一種免許状（工業）	令和５年４月１日
相模原市立教育委員会	中学校教諭一種免許状（数学） 中学校教諭一種免許状（技術） 高等学校教諭一種免許状（数学） 高等学校教諭一種免許状（工業）	令和５年４月１日

学校名	所在地	免許種・教科	承認開始時期
玉川学園中学部	東京都町田市玉川学園 6-1-1	中学校教諭一種免許状（数学） 中学校教諭一種免許状（技術） 高等学校教諭一種免許状（数学） 高等学校教諭一種免許状（工業）	令和５年４月１日
玉川学園高等部	東京都町田市玉川学園 6-1-1	中学校教諭一種免許状（数学） 中学校教諭一種免許状（技術） 高等学校教諭一種免許状（数学） 高等学校教諭一種免許状（工業）	令和５年４月１日

工学部 教育実習先一覧

令和4年度予定
(中学校)

実習校名	所在地
江戸川区立小松川第二中学校	東京都江戸川区小松川2-10-2
町田市立町田第三中学校	東京都町田市本町田1853
国立市立国立第三中学校	東京都国立市谷保1348-1
三鷹市立第七中学校	東京都三鷹市大沢2-11-12
小平市立小平第六中学校	東京都小平市大沼町6-4-1
横浜市立本宿中学校	横浜市旭区川島町1979
横浜市立樽町中学校	横浜市港北区樽町4-15-1
横浜市立錦台中学校	横浜市神奈川区西寺尾三丁目10番1号
横浜市立東鴨居中学校	神奈川県横浜市緑区鴨居三丁目39番1号
横須賀市立池上中学校	神奈川県横須賀市池上3-5-1
藤沢市立明治中学校	神奈川県藤沢市辻堂新町2丁目13-1
さいたま市立田島中学校	埼玉県さいたま市桜区田島10-13-1
富士見市立西中学校	埼玉県富士見市西みずほ台3丁目14-6
埼玉県立伊奈学園中学校	埼玉県北足立郡伊奈町学園4-1-1
八千代市立八千代台西中学校	千葉県八千代市八千代台西7-23-3
日光市立東原中学校	栃木県日光市平ヶ崎775-1
つくば市立並木中学校	茨城県つくば市並木3丁目8
燕市立分水中学校	新潟県燕市分水向陽1番1号

(高等学校)

実習校名	所在地
東京都立つばさ総合高等学校	東京都大田区本羽田3-11-5
東京都立若葉総合高等学校	東京都稲城市坂浜1434-3
神奈川県立伊志田高等学校	神奈川県伊勢原市石田1356-1
神奈川県立津久井浜高等学校	神奈川県横須賀市津久井4-4-1
神奈川県立横浜南稜高等学校	神奈川県横浜市港南区日野中央2-26-1
神奈川県立市ヶ尾高等学校	神奈川県横浜市青葉区市ヶ尾町1854
神奈川県立住吉高等学校	神奈川県川崎市中原区木月住吉町34-1
神奈川県立上溝南高等学校	神奈川県相模原市中央区上溝269
神奈川県立上鶴間高等学校	神奈川県相模原市南区上鶴間本町9-31-1
駒沢学園女子高等学校	東京都稲城市坂浜238番地
興南高等学校	沖縄県那覇市古島1-7-1

(中学校・高等学校)

実習校名	所在地
明星中学校・高等学校	東京都府中市栄町1-1

工学部 教育実習先一覧

令和3年度実績

(中学校)

実習校名	所在地
板橋区立板橋第五中学校	東京都板橋区板橋4-49-3
町田市立小山中学校	東京都町田市小山ヶ丘一丁目2番地4
横浜市立境木中学校	神奈川県横浜市戸塚区平戸3丁目48-2
横浜市立日吉台中学校	神奈川県横浜市港北区日吉本町4-9-1
横浜市立谷本中学校	神奈川県横浜市青葉区梅が丘5
横浜市立潮田中学校	神奈川県横浜市鶴見区向井町4丁目83
横浜市立西谷中学校	神奈川県横浜市保土ヶ谷区川島町1208番地
横浜市立希望が丘中学校	神奈川県横浜市旭区東希望が丘118
鎌倉市立玉縄中学校	神奈川県鎌倉市岡本1100
藤沢市立明治中学校	神奈川県藤沢市辻堂新町2-13-1
藤沢市立御所見中学校	神奈川県藤沢市用田500
川崎市立金程中学校	神奈川県川崎市麻生区金程3-16-1
伊勢原市立成瀬中学校	神奈川県伊勢原市高森二丁目22番1号
伊勢原市立伊勢原中学校	神奈川県伊勢原市桜台4-2-1
伊勢原市立山王中学校	神奈川県伊勢原市上粕屋804-2
大磯町立大磯中学校	神奈川県中郡大磯町東小磯261番地
船橋市立御滝中学校	千葉県船橋市金杉6-5-1
前橋市立第三中学校	群馬県前橋市平和町2-13-24
水戸市立赤塚中学校	茨城県水戸市河和田1丁目1708-4
弘前大学教育学部附属中学校	青森県弘前市学園町1-1
江戸川区立小松川第三中学校	東京都江戸川区平井5-3-11
二本松市立二本松第一中学校	福島県二本松市郭内2-56-1

(高等学校)

実習校名	所在地
専修大学附属高等学校	東京都杉並区和泉4-4-1
東洋大学京北中学高等学校	東京都文京区白山2-36-5
東京都立桜町高等学校	東京都世田谷区用賀2丁目4番1号
神奈川県立伊志田高等学校	神奈川県伊勢原市石田1356-1
神奈川県立横浜氷取沢高等学校	神奈川県横浜市磯子区氷取沢町938-2
神奈川県立海老名高等学校	神奈川県海老名市中新田1-26-1
千葉県立松戸高等学校	千葉県松戸市中和倉590-1
国立筑波大学附属坂戸高等学校	埼玉県坂戸市千代田1-24-1
日本工業大学駒場高等学校	東京都目黒区駒場1丁目35-32
群馬県立前橋東高等学校	群馬県前橋市江木町800
常総学院高等学校	茨城県土浦市中村西根1010
静岡県立静岡城北高等学校	静岡県静岡市葵区北安東2-3-1
福島成蹊学園高等学校	福島県福島市上浜町5-10

(中学校・高等学校)

実習校名	所在地
桜美林中学高等学校	東京都町田市常盤町3758
相模女子大学中学部・高等部	神奈川県相模原市南区文京2丁目1-1
東洋大学附属牛久中学校・高等学校	茨城県牛久市柏田町1360-2
茨城キリスト教学園中学校高等学校	茨城県日立市大みか町6丁目11-1
広島なぎさ中学校・高等学校	広島県広島市佐伯区海老山南2丁目2-1

工学部 教育実習先一覧

令和2年度実績 (中学校)

実習校	実習先(住所)
練馬区立大泉北中学校	東京都練馬区大泉町5丁目4番32号
加須市立大利根中学校	埼玉県加須市北下新井1705-1
戸田市立戸田中学校	埼玉県戸田市本町5-8-46
所沢市立安松中学校	埼玉県所沢市東所沢和田2-19
深谷市立幡羅中学校	埼玉県深谷市常盤町38
川越市立川越西中学校	埼玉県川越市川鶴1-1
中央市立田富中学校	山梨県中央市布施2493
横浜市立上永谷中学校	神奈川県横浜市港南区上永谷4-12-14
横浜市立いずみ野中学校	神奈川県横浜市泉区泉町6201
海老名市立海老名中学校	神奈川県海老名市国分南3-11-1
茅ヶ崎市立赤羽根中学校	神奈川県茅ヶ崎市赤羽根3030
厚木市立睦合中学校	神奈川県厚木市三田3-1-1
小田原市立千代中学校	神奈川県小田原市千代800
相模原市立内出中学校	神奈川県相模原市緑区下九沢2845
相模原市立大沢中学校	神奈川県相模原市緑区大島1800
山北町立山北中学校	神奈川県足柄上郡山北町向原405
大和市立南林間中学校	神奈川県大和市南林間9-3-1
富士市立岩松中学校	静岡県富士市松岡2353-1
成田市立大栄中学校	千葉県成田市伊能125
千葉市立貝塚中学校	千葉県千葉市若葉区貝塚1-7-1
葛飾区立奥戸中学校	東京都葛飾区細田1-6-1
小金井市立南中学校	東京都小金井市貫井南町1-26-1
新宿区立新宿西戸山中学校	東京都新宿区百人町4-3-1
玉川学園中学年	東京都町田市玉川学園6-1-1
町田市立薬師中学校	東京都町田市金井一丁目20番1号
品川区立浜川中学校	東京都品川区東大井3丁目18番34号
郁文館中学校	東京都文京区向丘2-19-1
東京都立大泉高等学校附属中学校	東京都練馬区東大泉5-3-1
相馬市立中村第二中学校	福島県相馬市和田字北迫185-13
富良野市立富良野西中学校	北海道富良野市桂木町1-1

(高等学校)

実習校名	所在地
仙台育英学園高等学校	宮城県多賀城市高橋5-6-1
中越高等学校	新潟県長岡市新保町1371-1
新潟県立柏崎高等学校	新潟県柏崎市学校町4-1
横浜隼人高等学校	神奈川県横浜市瀬谷区阿久和南1-3-1
横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	神奈川県横浜市鶴見区小野町6
鶴沼高等学校	神奈川県藤沢市鶴沼藤が谷4-9-10
湘南工科大学附属高等学校	神奈川県藤沢市辻堂西海岸1-1-25
松本第一高等学校	長野県松本市浅間温泉1-4-17
玉川学園高学年	東京都町田市玉川学園6-1-1
福島県立白河高等学校	福島県白河市南登り町54

(中学校・高等学校)

実習校名	所在地
北鎌倉女子学園中学校高等学校	神奈川県鎌倉市山ノ内913
常葉大学附属橘中学・高等学校	静岡県静岡市葵区瀬名2-1-1
東京都市大学等々力中学校・高等学校	東京都世田谷区等々力8-10-1

工学部デザインサイエンス学科 海外研修実施計画

実施目的	海外研修は、多様化する社会での課題について分野横断的な知識をもとに柔軟な思考で実行可能な解を見つけるデザイン能力を養うため、多様な文化や人々、生活様式に触れて国際感覚を身に付けるとともに、海外の企業を通して業務上の基本的英語コミュニケーション力を養い、学内ひいては国内においても修得できない生産現場等を体験することにより、グローバル技術者としての資質を高めることを目的として実施する。具体的には、専門として学んだ科目群がいかに関海外展開されているかを学ぶとともに、それを支える責任感や現地スタッフとの協調性を体得する。また、研修の成果をより確実にするために、派遣教員が現地にて派遣学生に出前講義を行って、現場技術との相互理解を促進させる。
実施時期・場所	原則として3年次の夏期休暇中の2週間とする。 本学と提携関係にある台北城市科技大学(台湾)と協議の上研修先を決める。 研修先候補、内容 ・幸福縫衣機股份有限公司(株)ハッピージャパングループ) ・製造ならびにメンテナンスの現地企業や日系企業 ・三次元設計 ・科学技術博物館・デザイン関連施設の視察 ・専門科目の現地講義 ・学生交流など
事前指導	目的、学修内容、課題、日程の確認、訪問先地域ならびに企業の事前調査や注意事項、報告書の書き方などについての説明やディスカッションを行う。 担当派遣教員より、「研修の手引き」による個別指導を行う。
事後指導	報告書の作成方法を中心に指導する。 ・研修先企業へのお礼状の発送 ・研修報告書の作成指導 ・研修成果報告会での発表指導
成績評価体制および単位認定方法	次の各項目により単位の認定を行う。 ・研修先企業からの評価結果 ・研修報告書 ・研修状況(欠勤、遅刻の有無なども含む) ・派遣教員の所見 ・研修成果報告会での発表

工学部デザインサイエンス学科 インターンシップ実施計画

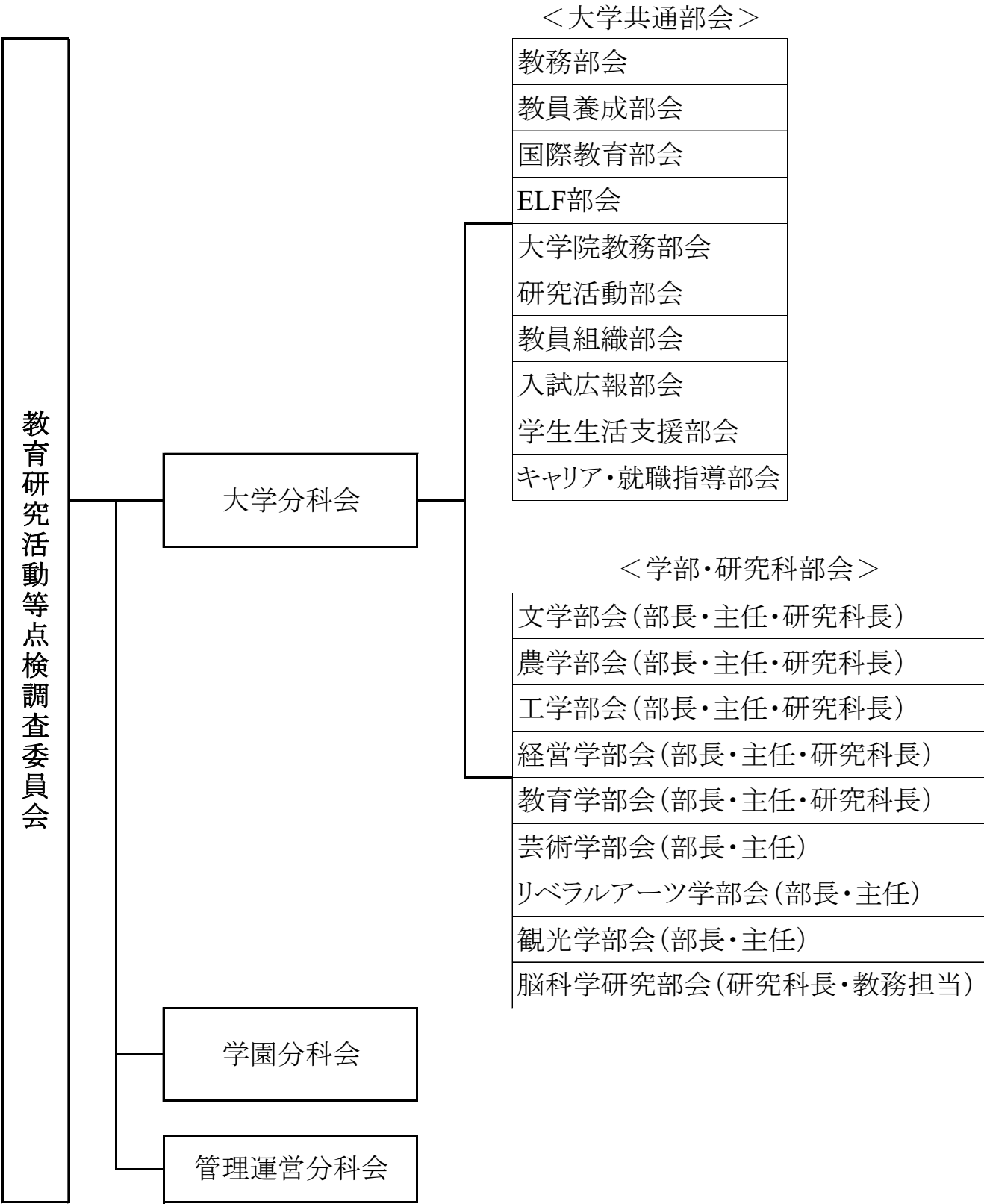
	実 習 計 画
教育目的	実際の生産現場等を体験することにより、技術者としての資質を高めることを目的として実施する。具体的には、「現場の知識・経験」を通じて、大学の授業で得られた知識やスキルがいかに応用されているかを学ぶと共に、生産の意義を知り、それを支える責任感や協調性を体得する。
教育効果	教育課程内で修得した知識や技術が、卒業後の社会のどのような場で、何のために必要とされるかを実感することができる。これを通じて大学で学ぶ内容の意味を再認識することができ、その後の学修や卒業研究に向けての意識づけを図ることができる。また、就職や進学など進路検討に向けての意識付けを図ることができる。
実習内容	実習先の企業の指導の下で、生産現場の作業や設計・実験の補助、業務改善の検討などを行い、生産現場での実務を体験することを通じて実社会における仕事とはどういうものかを体得する。実習する部門は以下を予定している。 研究開発部門、設計部門、生産管理部門、生産技術部門、製造部門、検査部門、工場運営、プログラム開発部門、保守・サービス部門 など
実施期間	原則として3年生の夏期休暇中の1～4週間。実施期間に応じて以下のように単位を取得することができる。 『インターンシップⅠ』（1単位）1週間 『インターンシップⅡ』（1単位）1週間 『インターンシップⅢ』（1単位）1週間 『インターンシップⅣ』（1単位）1週間
事前指導	以下を指導する。 ・インターンシップの意義と目的、注意事項、報告書の作成方法 ・社会人としての必要なマナー また、見回り担当教員から個別の指導を行う。
体制及び巡回指導	学科にインターンシップ担当を置き、担当者を実習受入企業との窓口とする。受入企業には、予め実習の趣旨および目的等を記載した「実習の手引き」を送付し、受入の承諾を得る。実習先企業と大学は「実習生に関する協定書」を取り交わす。必要に応じて随時お互いに連絡を取り合える体制を敷き、学生の体調不良などの緊急時にも大学側が対応できるようにする。実習期間中にも学科教員が企業を訪問し見回り指導を行う。
事後指導	・実習報告書の作成指導 ・実習成果報告会での発表指導
成績評価体制及び単位認定方法	次の各項目により、単位の認定を行う。 ・実習先企業からの評価結果 ・実習報告書 ・実習状況（欠勤、遅刻の有無も含む） ・見回り教員の所見 ・実習成果報告会での発表

インターンシップ実習先企業一覧

科目名称	実習企業名	実習内容	受け入れ可能人数
	所在地		
インターンシップ	千代田工商株式会社 神奈川県横浜市	プラントエンジニアリング	1名
	日本ケミコン株式会社 東京都品川区	電子回路製作	1名
	MHI さがみハイテック株式会社 神奈川県相模原市	製品開発業務	3名
	株式会社エスシー・マシーナリ 神奈川県横浜市	機械整備業務	3名
	日本電産トーソク株式会社 神奈川県座間市	製品設計業務	1名
	有限会社ベスト青梅 東京都青梅市	製品製造業務	2名
	由利ロール機械株式会社 神奈川県厚木市	CAD 設計、製造業務	1名
	東芝プラントシステム株式会社 神奈川県横浜市	プラントエンジニアリング	1名
	第一高周波工業株式会社 神奈川県川崎市	技術開発業務	1名
	株式会社富士テクノロジーソリューションズ [※] 神奈川県厚木市	製品開発業務	4名
	トーテックアメニティ株式会社 東京都新宿区	製品開発業務	4名
	ホンザキ東京株式会社 東京都品川区西	業務用冷凍庫冷蔵庫の保守	2名
	湘南技術センター株式会社 神奈川県横浜市西	機械設計、CAD 設計、解析	3名
	株式会社アビスト 東京都豊島区	CAD 設計	2名
	日機装株式会社 東京都渋谷区	機械設計、整備業務	1名
	安全自動車株式会社 東京都港区	製品開発業務	2名
	三和工機株式会社 東京都千代田区	CAD 設計	3名
	新菱冷熱工業株式会社 東京都新宿区	空調機械開発設計業務	1名
	東洋電溶株式会社 東京都小平市	製造技術業務	3名
	東芝情報システム株式会社 神奈川県川崎市	組込回路開発業務	1名

2022年度 教育研究活動等点検調査委員会 組織図

2022年4月1日現在



○学校法人玉川学園教育研究活動等点検調査委員会規程

平成4年4月1日制定

改正

平成6年4月1日
 平成14年4月1日
 平成17年4月1日
 平成23年4月1日
 平成27年4月1日
 平成29年4月1日
 平成31年4月1日
 令和2年4月1日
 令和4年4月1日

学校法人玉川学園教育研究活動等点検調査委員会規程

(目的)

第1条 学校法人玉川学園（以下「本法人」という。）に教育研究活動等点検調査委員会（以下「本委員会」という。）を置く。

2 本委員会は本法人の教育研究等の活動及びその運営に関し、総合的な点検・調査・分析・評価（以下「点検・評価等」という。）を行い、その結果に基づく改善に努め、もって本法人の教育研究水準の質を保証し、その向上を図ることを目的とする。

3 前条の点検・評価等の項目は別に定める。

(構成)

第2条 本委員会は全学園連絡会の構成員を中心に、次の区分によって毎年度当初理事長が委嘱する。

委員長
 副委員長
 委員
 事務担当

2 本委員会の委員長は理事長とし、副委員長は常務理事とする。

3 委員長は必要あると認めたとき他の教職員を含めることができる。

4 学部等の各組織が自らその諸活動において点検・評価等を行い、その結果に基づく改善に努めるため、本委員会に分科会、部会を設ける。分科会、部会については別に定める。

(審議事項)

第3条 本委員会は次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 各部会の点検・評価等の結果及び改善施策に関する事項
- (2) 前号に基づく改善の指摘に関する事項
- (3) 第1号及び第2号に基づく改善施策の進捗に関する事項
- (4) 本委員会の組織、手続きの点検・評価に関する事項

(外部評価)

第4条 前条第4号に加え、本委員会の組織、手続きの適切性の検証について、監事に監査を付託する。監事監査は7年を周期とする。

(活動報告)

第5条 本委員会における点検・評価等に関する審議の結果及び改善施策は、学内に公表するものとする。

(自己点検・評価および学校評価)

第6条 大学の自己点検・評価及びK-12の学校評価については、分科会、部会にてこれを行い、本委員会の審議を経て「自己点検・評価報告書」及び「学校評価結果」としてとりまとめ公表するものとする。

2 大学の「自己点検・評価報告書」の公表は7年を周期とする。

3 大学の自己点検・評価の客観性、妥当性を確保するため、「自己点検・評価報告書」は「K-16教育研究活動等有識者会議」に諮ることとする。得られた意見、助言等は本委員会において共有し、

同報告書と併せてホームページで公表するものとする。

4 専門職学位課程の「自己評価書」の公表は5年を周期とする。

5 K-12の「学校評価結果」の公表は毎年行う。

6 K-12の「学校評価結果」の公表にあたっては、学校関係者評価の結果を付すものとする。

(その他)

第7条 本委員会はその運営に関し必要な事項を細則に定める。

第8条 この規程の改廃は、全学園連絡会の議を経なければならない。

第9条 本委員会に係る事務主管は、教育情報・企画部EQA課が行う。

附 則

この規程は、平成4年4月1日から施行する。

附 則 (平成6年4月1日)

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則 (平成14年4月1日)

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則 (平成17年4月1日)

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則 (平成23年4月1日)

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則 (平成27年4月1日)

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則 (平成29年4月1日)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則 (平成31年4月1日)

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則 (令和2年4月1日)

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則 (令和4年4月1日)

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

改正

平成5年4月1日
 平成6年4月1日
 平成7年4月1日
 平成8年4月1日
 平成9年4月1日
 平成17年4月1日
 平成28年4月1日
 平成28年7月29日
 平成29年4月1日
 平成29年6月1日
 平成30年4月1日
 平成31年4月1日
 令和4年4月1日

学校法人玉川学園教育研究活動等点検調査委員会運営細則

第1条 学校法人玉川学園教育研究活動等点検調査委員会規程（以下「本委員会規程」という。）第6条に基づき、本運営細則を定める。

第2条 本委員会規程第1条第3項の点検・調査・分析・評価（以下「点検・評価等」という。）の項目は次の各号による。

- (1) 教育目標等学校運営の根幹に関すること
- (2) 教育活動に関すること
- (3) 学生、生徒等の支援に関すること
- (4) 研究活動に関すること
- (5) 教員組織に関すること
- (6) 教育研究等環境に関すること
- (7) 国際教育・交流に関すること
- (8) 社会貢献・社会連携に関すること
- (9) 管理運営に関すること
- (10) 本委員会の組織・手続きに関すること

2 前項の細目は別に定める。

第3条 本委員会規程第1条第2項の目的を達成するために、前条の項目及び細目に応じた統計調査を行う。

2 前項の統計調査の実施方法及び結果の公表方法については別に定める学校法人玉川学園指定統計調査に関する取扱要領による。

第4条 本委員会規程第2条第3項の分科会は次の各号による。

	〈分科会名称〉	〈基本構成〉	〈まとめ役〉	〈事務主管部署〉
(1)	学園分科会	K-12協議会（学園長、副学園長、理事を除く）	学園教学部長	学園教学部学園教学課
(2)	大学分科会	大学共通部会の座長、教育学術情報図書館長、教育学部事務部長	教学部長	教学部教務課
(3)	管理運営分科会	法人部長会（理事長、常務理事及び理事を除く）	総務部長	総務部総務課

2 前項各号の分科会のうち第2号には学部等ごとの点検・評価を行うため、次の部会を置く（総称して「学部・研究科部会」という）。学部・研究科部会における点検・評価等の結果の適切性及び、その結果に基づく全学的観点からの点検・評価等は大学分科会が担当する。

〈学部・研究科部会〉

	〈部会名称〉	〈基本構成〉	〈まとめ役〉	〈事務主管部署〉
(1)	文学部会	文学部の部長・主任、文学研究科長	文学部長	教学部
(2)	農学部会	農学部の部長・主任、農学研究科長	農学部長	
(3)	工学部会	工学部の部長・主任、工学研究科長	工学部長	
(4)	経営学部会	経営学部の部長・主任、マネジメント研究科長	経営学部長	
(5)	教育学部会	教育学部の部長・主任、教育学研究科長、教職大学院科長	教育学部長	
(6)	芸術学部会	芸術学部の部長・主任、芸術専攻科主任	芸術学部長	
(7)	リベラルアーツ学部会	リベラルアーツ学部の部長・主任	リベラルアーツ学部長	
(8)	観光学部会	観光学部の部長・主任	観光学部長	
(9)	脳科学研究部会	脳科学研究科の科長・教務担当	脳科学研究科長	

3 全学的観点の点検・評価を行うことを目的として、学園分科会及び大学分科会は必要に応じて法人部門の部長及び教育情報・企画部長を招集することができる。

4 専門職学位課程の点検・評価等の体制は別に定める。

5 第1項各号の分科会のうち第2号には大学共通事項の点検・評価を行うため、次の部会を置く（総称して「大学共通部会」という）。大学共通部会における点検・評価等の結果の適切性及び、その結果に基づく全学的観点からの点検・評価等は大学分科会が担当する。

〈大学共通部会〉

	〈部会名称〉	〈基本構成〉	〈まとめ役〉	〈事務主管部署〉
(1)	教務部会	教務委員会	教学部長	教学部
(2)	教員養成部会	教職課程委員会、教学部	教師教育リサーチセンター長	教師教育リサーチセンター
(3)	国際教育部会	国際教育推進委員会、教学部	国際教育センター長	国際教育センター
(4)	E L F 部会	E L F 運営委員会、教学部	E L F センター長	E L F センター
(5)	大学院教務部会	大学院教務委員会	教学部長	教学部
(6)	研究活動部会	学術研究所長、脳科学研究所長、量子情報科学研究所長、教学部長、学部長、研究科長、教育博物館長、T A P センター長、教学部事務部長	学術研究所長	学術研究所研究促進室
(7)	教員組織部会	教学部長、教学部事務部長、学部長、学術研究所長、脳科学研究所長、量子情報科学研究所長	教学部長	教学部
(8)	入試広報部会	入学試験運営委員会（学長、副学長、理事を除く）	入試広報部長	入試広報部
(9)	学生生活支援部会	学生委員会、学生担当	学生支援センター長	学生支援センター

(10)	キャリア・就職指導 部会	キャリア・就職指導委員会	キャリアセンター 長	キャリアセンター
------	-----------------	--------------	---------------	----------

6 第1項各号の分科会、第2項各号及び第4項各号の部会の点検・評価等の項目は別に定める。

7 第1項各号の分科会、第2項各号及び第4項各号の委員及び事務担当は毎年度当初理事長が委嘱する。

8 委員長は必要あると認めたとき第2項及び第4項以外の部会を置くことができる。

第5条 各部会の分担以外の項目及び細目等については大学分科会が直接担当する。

第6条 各分科会・部会等における点検・評価等の結果と、その結果に基づく改善施策については委員長に上申しなければならない。

第7条 委員長は各審議会議に対し、点検・評価等の結果を受け改善事項の指摘を行うこととする。

各審議会議は改善策を検討し、学部・研究科、部署等に改善を指示する。

第8条 本委員会及び各部会等が行う点検・評価等の進行手順詳細は別記の通りとする。

附 則

この細則は、平成4年4月1日から施行する。

附 則（平成5年4月1日）

この細則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則（平成6年4月1日）

この細則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成7年4月1日）

この細則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則（平成8年4月1日）

この細則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則（平成9年4月1日）

この細則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則（平成17年4月1日）

この細則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則（平成28年4月1日）

この細則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成28年7月29日）

この細則は、平成28年7月29日から施行する。

附 則（平成29年4月1日）

この細則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成29年6月1日）

この細則は、平成29年6月1日から施行する。

附 則（平成30年4月1日）

この細則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成31年4月1日）

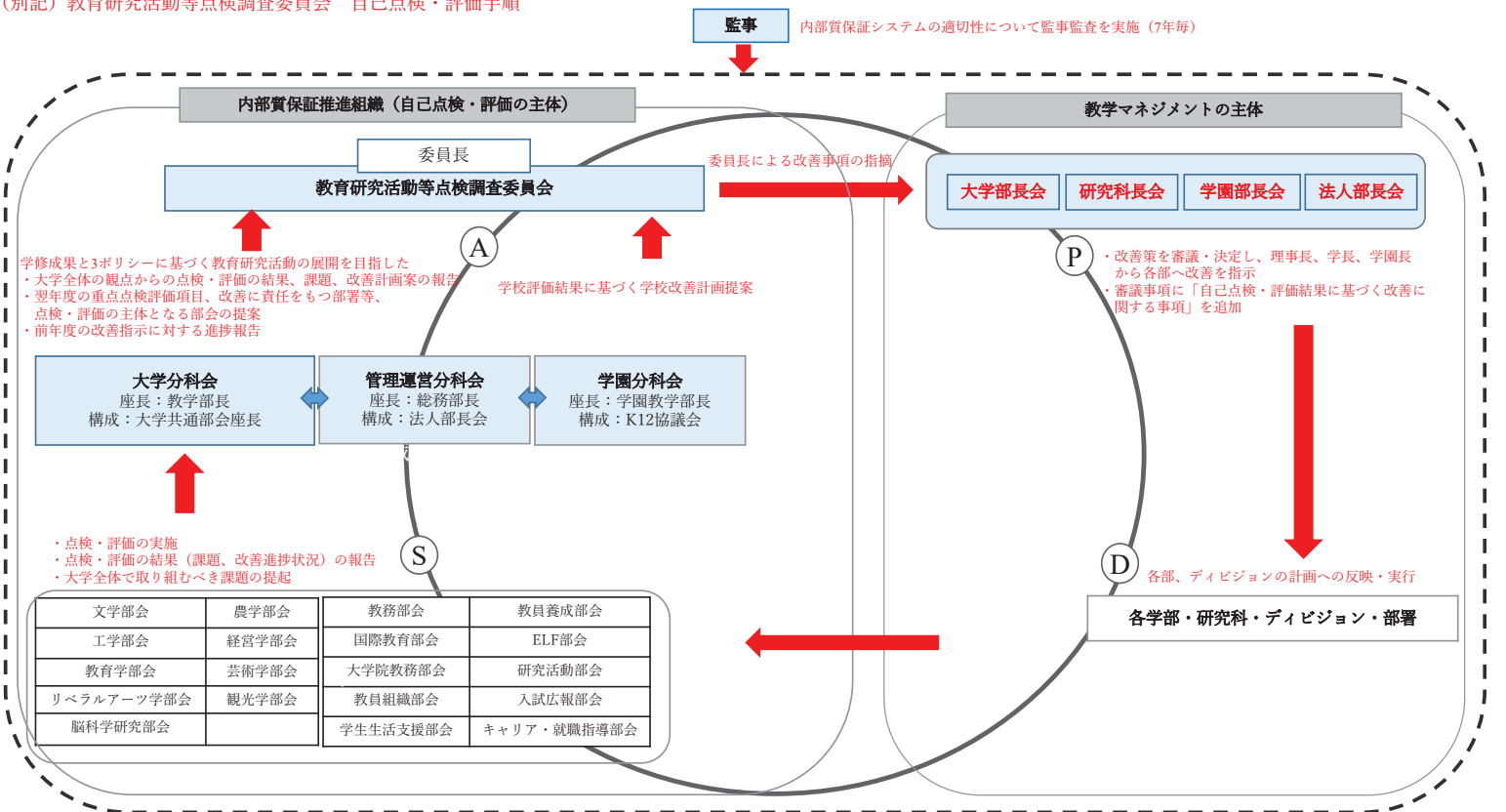
この細則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則（令和4年4月1日）

この細則は、令和4年4月1日から施行する。

（別記）教育研究活動等点検調査委員会 自己点検・評価手順

(別記) 教育研究活動等点検調査委員会 自己点検・評価手順



1. この指定統計調査は次の各号による。
 - (1) 各部署が業務上作成する統計調査のうち学校法人玉川学園（以下「本法人」という。）が指定するもの
 - (2) 本法人が必要と認め、特定部署に委託して作成する統計調査
 - (3) 学校法人玉川学園教育研究活動等点検調査委員会運営細則第3条の規定による統計調査
2. 前項の指定統計調査を実施する場合、その実施者はその調査事項についてあらかじめ理事長の承認を得なければならない。ただし、定期的報告を義務づけられている統計調査は除く。
3. 第1項第1号の「各部署が業務上作成する調査のうち本法人が指定するものの統計調査」については、当該年度の3月31日までに提出するものとする。
4. 第1項第2号の「本法人が必要と認め、特定部署に委託して作成する統計調査」については、その都度指定する期日までに提出するものとする。
5. 第1項第3号の「学校法人玉川学園教育研究活動等点検調査委員会運営細則第3条の規定による統計調査」については特定の事項を除き原則として、当該年度の3月31日までに提出するものとする。
6. 第3項から第5項の指定統計調査報告書の様式及び提出部数は別に定める。

附 則

この要領は、平成4年4月1日から実施する。

改正

平成17年4月1日

学校法人玉川学園K-16教育研究活動等有識者会議規程

(趣旨)

第1条 本規程は、学校法人玉川学園教育研究活動等点検調査委員会規程第1条第2項の目的に照らし、学校法人玉川学園（以下「本法人」という。）が、より客観的な意見を取り入れた教育研究水準向上を図るために、K-16教育研究活動等有識者会議（以下「本有識者会議」という。）を置き、広くかつ高い見識を有する者の意見、提言を徴し、教育・研究の充実及び質の維持向上に資することを目的として定める。

(審議事項)

第2条 本有識者会議は、次の各号に定める事項を審議、助言する。

- (1) 本法人の教育の目標達成、及びその質の維持向上を図るための基本的計画に関する事項
- (2) 本法人の教育研究活動等総合的な点検、調査、分析、評価に関する事項
- (3) その他本法人の基本的事項に関し、理事長が必要と認めた事項

(組織構成)

第3条 本有識者会議は、委員長、委員をもって構成する。

- 2 本有識者会議の委員長は、理事長がこれにあたる。
- 3 本有識者会議の委員については、理事長が委嘱する。
- 4 委員のうち学外者は次の区分による。
 - (1) 高等教育に高い識見を有する者 2～4名
 - (2) 初等中等教育に高い識見を有する者 2～4名
 - (3) 民間関係者を含む学識経験者 2～4名
- 5 委員には本法人の教職員を委嘱することができる。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任することができる。

- 2 委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営)

第5条 本有識者会議は、委員長が召集する。

- 2 本有識者会議は、年2回、6月と1月に開催する。
- 3 委員長が必要と認めたときは、臨時にこれを召集することができる。

(審議結果の報告)

第6条 本有識者会議の審議結果は、教育研究活動等点検調査委員会に報告するものとする。

(事務主管)

第7条 本有識者会議に係る事務主管は、教育情報・企画部EQA課が行う。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成17年4月1日）

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

○玉川大学FD委員会規程

平成15年4月1日制定

改正

平成21年4月1日

平成31年4月1日

玉川大学FD委員会規程

(目的)

第1条 玉川大学（以下「本大学」という。）教員の、教育研究活動の向上・能力開発に関して恒常的に検討を行い、その質的充実を図ることを目的として、大学FD（ファカルティ・ディベロップメント）（以下「FD」という。）委員会（以下「本委員会」という。）を置く。

(組織)

第2条 本委員会は、委員長、委員、事務担当をもって構成する。

2 前項の委員長は教学部長とする。

3 委員は、各学部のFD担当があたる。

4 委員等は、毎年度当初、学長がこれを委嘱する。

5 委員長が必要と認めたときは副委員長を置くことができる。

6 本委員会には学部ごとの分科会を設けることができる。

7 前項による分科会のまとめ役及び委員は学部長が選任する。

(任期)

第3条 委員の任期は1か年とする。ただし、再任を妨げない。

(運営)

第4条 本委員会は、委員長が招集・開会し、議長となる。

2 委員長が必要と認めた場合は、委員以外の教職員の出席を求め、意見を聴取することができる。

(審議事項)

第5条 本委員会は、次の事項を審議する。

(1) 教育研究活動改善の方策に関する事項

(2) 初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事項

(3) 学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事項

(4) FDに関する教員への各種コンサルティングに関する事項

(5) 教員のFD活動の指針に関する冊子及びFD活動報告書の刊行

(6) 分科会からの報告・審議に関する事項

(7) その他FDに関連する事項

(分科会)

第6条 各分科会は、FD担当が取りまとめ、本委員会に検討・実施事項を報告しなければならない。

2 各分科会にはFD活動を円滑に進めるため、FDer（ファカルティ・ディベロッパー）（以下、「FDer」）を置く。FDerはFD担当が兼ねることができる。

(答申)

第7条 委員長は、本委員会の審議結果を学長に答申しなければならない。

(実施事項の決定)

第8条 前条の答申内容の実施については、大学部長会の議を経て学長が決定する。

(実施事項の運用)

第9条 前条により決定した実施事項に関する実際の運用に関しては、教務委員会及び教育研究活動等点検調査委員会との調整を図りながら検討、実施するものとする。

(事務主管)

第10条 本委員会に係る事務主管は、教学部が行う。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則（平成21年4月1日）

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成31年4月1日）

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

就職支援プログラムについて

実施月	講座名	実施学年			
		1年	2年	3年	4年
4月	大学3年生対象 就職ガイダンス①			●	
	企業説明会				●
	公務員ガイダンス	●	●	●	
	教職課程受講希望者ガイダンス	●			
	公立学校教員採用選考・学内説明会（全国教育委員会）		●	●	●
	教職講座	●	●	●	
	教職特別講座「公立試験集中対策(幼・保・施)」				●
	教員採用模擬試験[実践力診断テスト]（幼・小・中・高）		●	●	●
	保育士就職模擬試験（幼を含む）		●	●	●
	私立教員就職ガイダンス（小・中・高）				●
	論作文実践講座			●	
5月	大学3年生対象 就職ガイダンス②			●	
	大学2年生対象 就職ガイダンス①		●		
	企業説明会				●
	適職診断テスト			●	
	教職講座		●		
	教職特別講座「公立試験集中対策(幼・保・施)」				●
	教員採用模擬試験[5月模試]（幼・小・中・高）			●	●
	論作文対策講座		●		
6月	大学3年生対象 就職ガイダンス③			●	
	大学2年生対象 就職ガイダンス②		●		
	まるわかり講座			●	
	OBOG交流会	●	●	●	
	障害者ガイダンス	●	●	●	●
	公務員試験対策講座（～3月末まで）	●	●	●	
	教職講座	●			
	教員採用模擬試験（幼・小・中・高）	●			
	大学推薦者ガイダンス				●
	論作文対策講座		●	●	
	教職特別講座「教員採用試験1次試験対策（小・中・高）」				●
	私立幼稚園教諭・保育士・福祉職就職ガイダンス				●
7月	インターンシップ説明会	●	●	●	
	メイク講座	●	●	●	
	U・Iターン就職相談会	●	●	●	●
	教職講座	●	●		
	教職特別講座「公立試験集中対策(幼・保・施)」				●
8月	教職特別講座「教員採用試験2次試験対策（小・中・高）」				●
9月	【学科研修行事】工場見学			●	
	論作文対策講座			●	
	教員採用模擬試験[ﾌﾟﾚ模試]（幼・小・中・高）		●	●	
	教職特別講座「採用試験対策（幼・保・小・中・高）」				●
	ピアノ実技集中講座（幼・保）（9月～）			●	

実施月	講座名	実施学年			
		1年	2年	3年	4年
10月	大学3年生対象 就職ガイダンス④			●	
	大学2年生対象 就職ガイダンス③		●		
	仕事理解セミナー	●	●	●	
	筆記試験ガイダンス			●	
	就活スタートアップ講座（～1月末まで）			●	
	【学科研修行事】就職活動対策研修（～11月）			●	
	公立学校教員採用選考・秋季学内説明会（全国教育委員会）	●	●	●	
	教職講座		●	●	
	論作文対策講座			●	
	教員採用模擬試験[ﾌﾟﾚ模試]（幼・小・中・高）	●			
11月	大学3年生対象 就職ガイダンス⑤			●	
	インターンシップ説明会	●	●	●	
	OBOG交流会	●	●	●	
	筆記試験対策講座（～1月末まで）	●	●	●	
	【学科研修行事】キャリアデザイン研修		●		
	教職講座	●		●	●
	面接対策講座			●	
	教職特別講座「合格者ガイダンス」				●
12月	大学3年生対象 就職ガイダンス⑥			●	
	公立学校教員採用選考・学内説明会（全国教育委員会）	●	●	●	●
	教職講座		●		●
	論作文対策講座		●	●	
	面接対策講座			●	
1月	大学3年生対象 就職ガイダンス⑦			●	
	適職診断テスト			●	
	OBOGによる面接対策講座			●	
	教職講座		●	●	●
	論作文対策講座			●	
	面接対策講座			●	
2月	学内企業説明会			●	
	筆記試験対策講座[教職教養]		●	●	
3月	教員採用模擬試験（首都圏近郊・自治体別）	●	●	●	
	教員・保育士就職直前ガイダンス			●	
	大学推薦学内選考（小・中・高）			●	
通年	キャリアカウンセリング（個別面談）	●	●	●	●
	模擬面接			●	●
	就職活動座談会	●	●	●	●
	教職サポートルーム学習支援（個別相談）	●	●	●	●
	採用試験対策講座	●	●	●	●

※●が実施学年

目 次

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	p.2
(1) 学生の確保の見通し	p.2
①定員充足の見込み	p.2
②定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	p.2
③学生納付金の設定の考え方	p.3
(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況	p.3
2. 人材需要の動向等社会の要請	p.4
(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的	p.4
(2) 上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	p.4

学 生 の 確 保 の 見 通 し 等 を 記 載 し た 書 類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

① 定員充足の見込み

1) 入学定員設定の考え方（資料 1、2、3、6 参照）

デザインサイエンス学科の入学定員設定の考え方は、設置圏域の年齢別人口の動向（資料 1、資料 2）を踏まえるとともに、玉川学園高等部の在校生、オープンキャンパス参加者、キャンパス見学来園者、入試広報課への資料請求者、進学相談会参加者、高校内説明会参加者を対象とした進学需要等に関するアンケート調査の結果（資料 3）並びに機械工業関係の企業等、求人実績や採用実績のある企業等、取引企業等を対象とした人材需要等に関するアンケート調査の結果（資料 6）などを総合的に勘案したうえで、入学定員を 60 人としていることから、十分な定員充足を見込むことができるものと考えている。

なお、デザインサイエンス学科の設置に伴い、既設の工学部エンジニアリングデザイン学科は、令和 5 年 4 月より学生募集を停止し、在学生の卒業を待って廃止することとしている。

2) 定員未充足の原因分析と定員充足の在り方（資料 4 参照）

既設の農学部環境農学科と芸術学部音楽学科の 4 年間の定員充足率の平均は、環境農学科 0.67、音楽学科 0.52 で、いずれも定員未充足となっている。

環境農学科の定員未充足の原因は、近年の新型コロナウイルス感染症による影響が大きく、環境農学科が教育の特色としている留学教育における現地実習の実施が困難となり、授業科目における教育内容等に変更が生じていることが大きな要因であると考えられる。

一方、開設 2 年目の音楽学科の定員未充足の原因は、養成する人材及び習得する知識や能力などの情報が受験生をはじめ保護者や高校教員に十分理解されていないことが要因の一つであると考えられるとともに、新型コロナウイルス感染症の拡大による音楽学科の教育の特色である実技教育における対面授業の実施が困難となったことも要因であると考えられる。

環境農学科と音楽学科の定員充足の在り方については、新型コロナウイルス感染症の拡大以降、継続的な審議と検討を重ねてきており、上述の定員未充足の要因への対応として、実習科目や実技科目における様々な代替方法を駆使した教育内容や教育方法の展開を試みているとともに、新興感染症下における様々な取り組みをはじめ、養成する人材及び習得する知識や能力などが受験生や保護者・高校教員により分かり易く伝わるよう、学生募集活動において、これまで以上に戦略性と具体策を持って取り組むこととしている。

② 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

1) 設置圏域の人口動向等（資料 1、2 参照）

本学の入学生は、東京都と神奈川県在住者が 62.5%を占めている。千葉県、埼玉県を加えるとその割合は 76.7%となる。このことから本学における定員充足のための基盤となる地域は東京・神奈川・千葉・埼玉の 1 都 3 県であることがわかる。このエリアの人口動態について「住民基本台帳による東京都の世帯と人口 第 2 表：年齢（各歳）別 1 年間の増加人口」、「神奈川県年齢別人口統計調査 第 1 表：年齢（各歳・5 歳階級）別、男女別人口」、「千葉県年齢別・町丁字別人口 第 2 表：年齢（5 歳階級、各歳）別、男女別人口」、「埼玉県町（丁）字別人口調査 第 3 表：市区町村別・町（丁）字別・年齢（各歳）別・男女別人口」を使用して比較した。いずれも令和 3 年の 16 歳人口（新学科初年度受験時の令和 5 年に 18 歳）を起点とし、それぞれの年齢の人数がそのままスライドすると仮定して、18 歳人口の増減を調べた。東京都に関しては、令和 6 年に一旦落ち込むが以降令和 5 年の規模より微増傾向にある。他 3 県については、増加に転じる年があるものの全体的に減少傾向にある。総務省発表の「人口推計 第 1

表：年齢（各歳）、男女別人口及び人口性比―総人口、日本人人口」によれば、令和 5 年（資料 2 の令和 3 年の 16 歳が 18 歳になる年）から令和 20 年（資料 2 の 1 歳児が 18 歳になる年）までの全国の 18 歳人口の減少率は数年間維持傾向にあるもののその後 77.7%まで落ち込む。それに対し、前述の 1 都 3 県の減少率は 86.6%、特に本学への入学者が多い東京都と神奈川県の場合では減少率が 91.9%と減少幅はわずか 8.1%となっている。したがって、今後も基盤となる地域の受験者数は安定した推移を保つと推定できる。

上述の工学に関しての社会からのニーズや今後の 18 歳人口の推移をもとに、少人数制の教育の重視を考慮したうえで、本学科の入学定員を 60 人と設定した。

2) 受験対象者に対する進学需要調査結果（資料 3 参照）

一般のデザインサイエンス学科の設置計画は、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の年齢別人口の動向を踏まえたうえで計画していることから、十分な学生確保が見込めるものであるが、デザインサイエンス学科を設置するにあたり、学生確保の見通しを計量的な数値から推定することを目的として、デザインサイエンス学科の開設初年度に受験対象者となる高校 2 年生に対する進学意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、デザインサイエンス学科への興味・関心については、回答者数 4,713 人の 18.9%にあたる 889 人が「興味・関心がある」と回答しているとともに、デザインサイエンス学科の受験希望については、270 人が「受験を希望する」と回答しており、デザインサイエンス学科への進学意向については、デザインサイエンス学科が設置された場合、「受験を希望する」と回答した者のうち、玉川大学の新学科に合格した場合、デザインサイエンス学科への「進学を希望する」と回答した者は 224 人となっている。

このような玉川学園高等部の在校生、設置圏域に所在する高等学校の在校生、玉川大学のオープンキャンパス参加者、大学見学者、合同相談会参加者、高校内説明会参加者、入試広報課への資料請求者に限定した調査結果においても、デザインサイエンス学科の入学定員を上回る受験希望と進学希望がうかがえることから、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる。

③ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、大学及び学部の運営に係る収支バランスをはじめとする財務的な視点と学生納付金の学生への適切な還元など受益者に対する説明責任の観点を重視した考えに基づいている。さらに、設置圏周辺地域の類似学部・学科における学生納付金の設定状況を勘案したうえで、完成年度の教育研究経費比率を見据え、大学及び学部の運営上における人件費及び教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測による実質的な採算分岐点に基づく設定としている。

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

デザインサイエンス学科の学生確保に向けた具体的な取組はこれから実施するため、その効果、反応等はまだわからない。ただし、上述のアンケート調査も学生確保に向けた広報活動の一つと捉えれば、その効果、反応は予想以上であったと考える。今後行う取組は以下の通りである。

a) オープンキャンパスの実施（令和 4 年度開催予定）

- 6 月 19 日（日） 大学紹介&総合型・学校推薦型選抜ガイダンス
- 7 月 17 日（日） 大学紹介&総合型・学校推薦型選抜ガイダンス
- 8 月 7 日（日） 体験授業フェアⅠ
- 8 月 21 日（日） 体験授業フェアⅡ
- 11 月 6 日（日） 大学説明会

12月11日（日） ガイダンス

2月19日（日） 大学説明会

※以上の日程以外に随時受付によるキャンパス見学と個別相談を実施

b) 進学相談会

本学キャンパス、函館、札幌、盛岡、仙台、郡山、福島、宇都宮、高崎、大宮、幕張、水道橋、新宿、池袋、市ヶ谷、有楽町、横浜、新潟、金沢、甲府、長野、松本、静岡、浜松、名古屋、大阪、岡山、広島、福岡、長崎、宮崎、鹿児島、那覇、宜野湾にて実施予定。

c) 高校を訪問しての入試ガイダンス

d) ホームページや新聞等への掲載

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

「急速に社会構造が変化する中、既存の枠組みや従来の延長では対応できない課題に取り組む能力」や「自ら課題を発見し解決手法を模索する、探究的な活動を通じて身につく能力・資質」、「種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力」を高等教育において育成すべきという社会の要請に応えるため、デザインサイエンス学科では、解が一つに定まらない社会の課題に対し、機械工学分野を中心とした科学、技術を活用して、実現可能な解を見つけることができる「デザイン能力」を有する技術者の育成を目的とする。物理学や数学のような自然科学および人間中心の社会を実現する工学に関する学問と、様々な社会科学・人文科学の知識・技術を融合し、社会の一員として地球環境・人類にとって有益となる社会の仕組みや製品を科学的な視点によって生み出すことができる人材を育成する。

(2) 上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

第6期科学技術・イノベーション基本計画（令和3年3月26日閣議決定）においては、Society5.0を再提示したうえで、「急速に社会構造が変化する中、既存の枠組みや従来の延長では対応できない課題に取り組む能力」が求められ、「自ら課題を発見し解決手法を模索する、探究的な活動を通じて身につく能力・資質」を持った人材の育成が重要とされている。

また、「大学における工学系教育の在り方について（中間まとめ）」（平成29年（2017年）6月 大学における工学系教育の在り方に関する検討委員会）においても「社会における工学の価値を理解し、自律的に学ぶ姿勢を具備するとともに、原理・原則を理解する力、構想力、アイデア創出能力、問題発見能力、課題設定能力、モデル化能力、課題解決、遂行能力を持つ人材育成が必要」であるとされている。

1) 既設の工学部における最近3年間の求人件数の状況（資料5参照）

既設の工学部における最近3年間の求人件数の実績（全学部対象のものを含む）は、令和元年度は就職希望者183人に対して求人件数14,640件で求人倍率は80.0倍、令和2年度は就職希望者176人に対して求人件数13,330件で求人倍率は75.7倍、令和3年度は就職希望者183人に対して求人件数12,677件で求人倍率は69.3倍と高い求人倍率を示している。

2) 既設の工学部における最近3年間の就職者数の状況（資料5参照）

既設の工学部における最近3年間の就職希望者数に対する就職者数の実績は、令和元年度は

就職希望者 183 人に対して就職者数 180 人で就職率は 98.4%、令和 2 年度は就職希望者 176 人に対して就職者数 171 人で就職率は 97.2%、令和 3 年度は就職希望者 183 人に対して就職者数 175 人で就職率は 95.6%と高い就職率を示している。

上記の通り、既設の工学部では、昨今の就職難の状況下でも大きな影響を受けることなく、多数の求人件数を得ているとともに、高い就職率を維持しており、このことは、既設の工学部における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、人材需要の動向等社会の要請に応えたものであることを示しているものである。

今般、設置を計画しているデザインサイエンス学科は、社会環境の変化や地域社会の要請を踏まえるとともに、既設の工学部の卒業生の進路や卒業生を受け入れる側の需要を勘案したうえで設置することから、これまで以上の求人件数を見込むことができると考えられる。

3) 民間企業等に対する人材需要調査結果（資料 6 参照）

デザインサイエンス学科の設置を計画するにあたり、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、人材需要等社会の要請を踏まえたものであることについて、客観的なデータから検証することを目的として、機械工業関係の企業及び業界研究会参加企業等を対象とした人材需要等に関するアンケート調査を実施した。

その結果、デザインサイエンス学科の必要性については、回答件数 302 社の 95.4%にあたる 288 社が「必要性を感じる」と回答しており、デザインサイエンス学科の人材需要については、回答件数 302 社の 85.4%にあたる 258 社が「拡大する」と回答している。

またデザインサイエンス学科で学んだ卒業生の採用については、回答件数 302 社の 84.4%にあたる 255 社が「採用したい」と回答しており、「採用したい」と回答した企業等のうち、「採用予定人数 5 人以上」と回答した企業等の採用予定人数を 5 人とし、「未回答・不明」の企業等の採用予定人数を 0 人としてカウントした場合、全体で 450 人の採用が見込まれる結果となっている。

このような機械工業関連の企業等及び業界研究会参加企業等に限定した調査結果においても、デザインサイエンス学科で学んだ卒業生への一定程度の採用意向が窺えることから、卒業後の進路については十分な見通しがあると結論づけた。

資料目次

資料 1	令和 4 年度 玉川大学入学者 「在住する都道府県別の人数」	p.2
資料 2	人口比較（日本全国／東京／神奈川／千葉／埼玉）	p.3
資料 3	受験対象者に対する進学需要調査結果－抜粋－	p.4
資料 4	農学部環境農学科、芸術学部音楽学科 志願者・合格者・入学者数の推移	p.6
資料 5	工学部（既設学部）における最近 3 年間の就職状況	p.7
資料 6	民間企業等に対する人材需要調査結果－抜粋－	p.8
資料 7	進学需要等に関するアンケート調査結果報告書－原本－	p.10

令和4年度 玉川大学入学者 「在住する都道府県別の人数」

在住する都道府県名	人数（人）	比率（%）		
		設置圏別	東京・神奈川 合計	東京・神奈川・ 千葉・埼玉 合計
東京都	464	26.6%	62.5%	76.7%
神奈川県	624	35.8%		
千葉県	114	6.5%		
埼玉県	134	7.7%		
その他	406	23.3%		
合　　計	1742	100%	100%	100%

人口比較（日本全国/東京/神奈川/千葉/埼玉）

日本全国（単位 千人）				
入学予定年度	令和3年度の年齢	男女計	男	女
令和20	1歳	837	428	409
令和19	2歳	872	446	426
令和18	3歳	915	468	447
令和17	4歳	939	480	459
令和16	5歳	979	502	477
令和15	6歳	1,004	514	490
令和14	7歳	1,002	514	488
令和13	8歳	1,026	525	501
令和12	9歳	1,029	527	503
令和11	10歳	1,054	541	513
令和10	11歳	1,063	545	518
令和9	12歳	1,068	548	521
令和8	13歳	1,088	558	531
令和7	14歳	1,082	555	527
令和6	15歳	1,074	550	524
令和5	16歳	1,077	553	524

総務省統計局発表の人口推計より抜粋

（令和2年10月1日現在の数値を利用）

東京都（単位 人）				
入学予定年度	令和3年度の年齢	男女計	男	女
令和20	1歳	99,101	50,589	48,512
令和19	2歳	103,773	53,258	50,515
令和18	3歳	104,797	53,543	51,254
令和17	4歳	107,163	54,749	52,414
令和16	5歳	108,487	55,474	53,013
令和15	6歳	105,920	53,987	51,933
令和14	7歳	106,118	54,144	51,974
令和13	8歳	103,586	52,997	50,589
令和12	9歳	102,899	52,917	49,982
令和11	10歳	104,775	53,825	50,950
令和10	11歳	103,597	53,249	50,348
令和9	12歳	103,591	52,997	50,594
令和8	13歳	102,340	52,626	49,714
令和7	14歳	100,832	51,530	49,302
令和6	15歳	96,638	49,467	47,171
令和5	16歳	100,756	51,213	49,543

「住民基本台帳による東京都の世帯と人口

第2表 年齢（各歳）別1年間の増加人口」より抜粋

（令和3年1月現在）

神奈川県（単位 人）				
入学予定年度	令和3年度の年齢	男女計	男	女
令和20	1歳	65,230	33,527	31,703
令和19	2歳	68,719	35,287	33,432
令和18	3歳	70,242	35,929	34,313
令和17	4歳	72,571	37,307	35,264
令和16	5歳	70,119	35,757	34,362
令和15	6歳	70,718	36,145	34,573
令和14	7歳	72,283	37,053	35,230
令和13	8歳	73,394	37,560	35,834
令和12	9歳	74,200	38,043	36,157
令和11	10歳	75,334	38,432	36,902
令和10	11歳	75,683	38,522	37,161
令和9	12歳	77,125	39,611	37,514
令和8	13歳	76,888	39,494	37,394
令和7	14歳	77,067	39,599	37,468
令和6	15歳	74,829	38,097	36,732
令和5	16歳	78,115	40,230	37,885

神奈川県年齢別人口統計調査「神奈川県第1表年齢（各歳

・5歳階級）別、男女別人口」より抜粋

（令和2年1月1日現在の数値を利用）

千葉県（単位 人）				
入学予定年度	令和3年度の年齢	男女計	男	女
令和20	1歳	43,125	22,045	21,080
令和19	2歳	45,464	23,318	22,146
令和18	3歳	46,944	24,097	22,847
令和17	4歳	48,006	24,569	23,437
令和16	5歳	50,151	25,628	24,523
令和15	6歳	50,549	26,045	24,504
令和14	7歳	50,384	25,939	24,445
令和13	8歳	50,953	26,227	24,726
令和12	9歳	51,921	26,739	25,182
令和11	10歳	52,898	27,070	25,828
令和10	11歳	53,289	27,567	25,722
令和9	12歳	54,356	27,912	26,444
令和8	13歳	54,575	27,967	26,608
令和7	14歳	54,572	27,941	26,631
令和6	15歳	52,996	27,206	25,790
令和5	16歳	55,195	28,285	26,910

「千葉県年齢別・町丁字別人口 第2表：年齢（5歳階級、

各歳）別、男女別人口」より抜粋

（令和3年4月1日）

埼玉県（単位 人）				
入学予定年度	令和3年度の年齢	男女計	男	女
令和20	1歳	51,293	26,257	25,036
令和19	2歳	54,272	27,809	26,463
令和18	3歳	56,436	28,653	27,783
令和17	4歳	58,258	30,052	28,206
令和16	5歳	59,588	30,559	29,029
令和15	6歳	59,540	30,568	28,972
令和14	7歳	61,007	31,123	29,884
令和13	8歳	60,780	31,037	29,743
令和12	9歳	61,542	31,576	29,966
令和11	10歳	62,861	32,445	30,416
令和10	11歳	63,250	32,436	30,814
令和9	12歳	64,050	32,798	31,252
令和8	13歳	64,481	33,012	31,469
令和7	14歳	64,568	33,230	31,338
令和6	15歳	62,774	32,135	30,639
令和5	16歳	64,805	33,147	31,658

「埼玉県 市区町村別・町（丁）字別・年齢（各歳）別・

男女別人口」

（令和3年1月1日現在）

4県合計（単位 人）				
入学予定年度	令和3年度の年齢	男女計	男	女
令和20	1歳	258,749	132,418	126,331
令和19	2歳	272,228	139,672	132,556
令和18	3歳	278,419	142,222	136,197
令和17	4歳	285,998	146,677	139,321
令和16	5歳	288,345	147,418	140,927
令和15	6歳	286,727	146,745	139,982
令和14	7歳	289,792	148,259	141,533
令和13	8歳	288,713	147,821	140,892
令和12	9歳	290,562	149,275	141,287
令和11	10歳	295,868	151,772	144,096
令和10	11歳	295,819	151,774	144,045
令和9	12歳	299,122	153,318	145,804
令和8	13歳	298,284	153,099	145,185
令和7	14歳	297,039	152,300	144,739
令和6	15歳	287,237	146,905	140,332
令和5	16歳	298,871	152,875	145,996

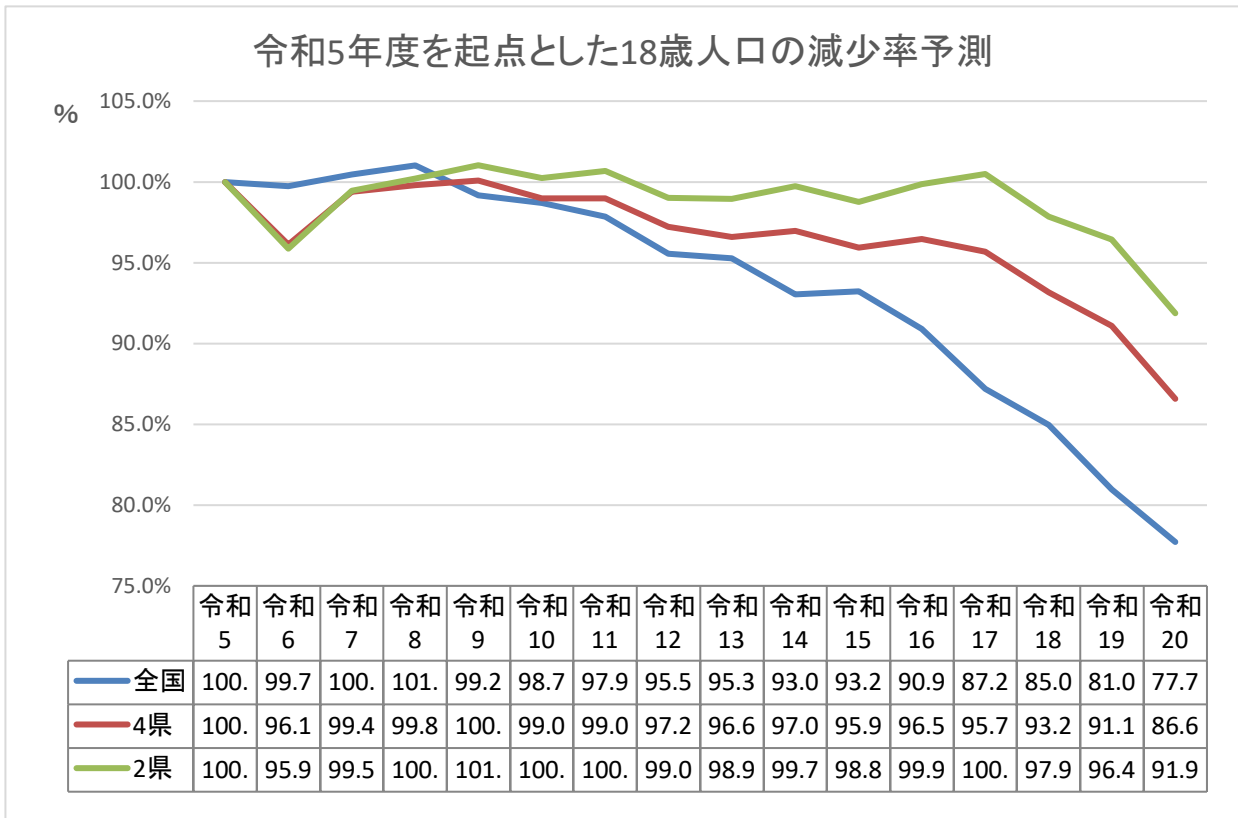
4県合計は東京、神奈川、千葉、埼玉の合計

2県合計（単位 人）				
入学予定年度	令和3年度の年齢	男女計	男	女
令和20	1歳	164,331	84,116	80,215
令和19	2歳	172,492	88,545	83,947
令和18	3歳	175,039	89,472	85,567
令和17	4歳	179,734	92,056	87,678
令和16	5歳	178,606	91,231	87,375
令和15	6歳	176,638	90,132	86,506
令和14	7歳	178,401	91,197	87,204
令和13	8歳	176,980	90,557	86,423
令和12	9歳	177,099	90,960	86,139
令和11	10歳	180,109	92,257	87,852
令和10	11歳	179,280	91,771	87,509
令和9	12歳	180,716	92,608	88,108
令和8	13歳	179,228	92,120	87,108
令和7	14歳	177,899	91,129	86,770
令和6	15歳	171,467	87,564	83,903
令和5	16歳	178,871	91,443	87,428

2県合計 は東京、神奈川の合計

令和5年度を起点とした 18歳人口の減少率				
入学予定年度	令和3年度の年齢	全国	4県	2県
令和20	1歳	77.7%	86.6%	91.9%
令和19	2歳	81.0%	91.1%	96.4%
令和18	3歳	85.0%	93.2%	97.9%
令和17	4歳	87.2%	95.7%	100.5%
令和16	5歳	90.9%	96.5%	99.9%
令和15	6歳	93.2%	95.9%	98.8%
令和14	7歳	93.0%	97.0%	99.7%
令和13	8歳	95.3%	96.6%	98.9%
令和12	9歳	95.5%	97.2%	99.0%
令和11	10歳	97.9%	99.0%	100.7%
令和10	11歳	98.7%	99.0%	100.2%
令和9	12歳	99.2%	100.1%	101.0%
令和8	13歳	101.0%	99.8%	100.2%
令和7	14歳	100.5%	99.4%	99.5%
令和6	15歳	99.7%	96.1%	95.9%
令和5	16歳	100.0%	100.0%	100.0%

減少率(%)＝当該年男女合計人口／30年男女合計人口×100



受験対象者に対する進学需要調査結果―抜粋―

1. 工学部の新学科への興味・関心

問1で、「4年制大学への進学」と回答した者に対して、玉川大学の工学部の新学科への興味について質問したところ、回答者数 4,713 人の約 18.86%にあたる 889 人がデザインサイエンス学科に「興味関心がある」と回答している。

問3 工学部の新学科への興味・関心

【デザインサイエンス学科】

№	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	興味・関心がある	889	18.86
2	興味・関心がない	3,822	81.09
	未回答・不明	2	0.04
	合計	4,713	100.00

2. 工学部の新学科の受験希望

問1で、「4年制大学への進学」と回答した者に対して、玉川大学の工学部に新学科が設置された場合の受験希望について質問したところ、回答者数 4,713 人の約 5.73%にあたる 270 人が、デザインサイエンス学科の「受験を希望する」と回答している。

問4 工学部の新学科の受験希望

【デザインサイエンス学科】

№	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	受験を希望する	270	5.73
2	受験を希望しない	4,439	94.19
	未回答・不明	4	0.08
	合計	4,713	100.00

3. 工学部の新学科への進学希望

問1で、「4年制大学への進学」と回答した者に対して、玉川大学の工学部の新学科に合格した場合の進学希望について質問したところ、デザインサイエンス学科に「進学を希望する」と回答した者は 237 人となっている。

また、問4で、玉川大学の工学部に新学科が設置された場合、デザインサイエンス学科の「受験を希望する」と回答した者で、玉川大学の新学科に合格した場合、デザインサイエンス学科への「進学を希望する」と回答した者は 224 人となっている。

このような玉川学園高等部の在校生、設置圏域に所在する高等学校の在校生、玉川大学のオープンキャンパス参加者、大学見学者、合同相談会参加者、高校内説明会参加者、入試広報課への資料請求者に限定した調査結果においても、デザインサイエンス学科の入学定員を上回る受験希望と進学希望がうかがえることから、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる。

問 5 工学部の新学科への進学希望

【デザインサイエンス学科】

No	カテゴリ	件数／人
1	進学を希望する	237
2	進学を希望しない	1,619

問 4×問 5 新学科の受験を希望×新学科への進学を希望

【デザインサイエンス学科】

No	カテゴリ	件数／人
1*1	受験を希望する／進学を希望する	224
1*2	受験を希望する／進学を希望しない	46

農学部環境農学科、芸術学部音楽学科 志願者・合格者・入学者数の推移

農学部 環境農学科

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
志願者	765	698	539	353	275
合格者	304	311	230	160	162
入学者(A)	75	75	43	30	42
入学定員(B)	70	70	70	70	70
A/B	1.07	1.07	0.61	0.42	0.60

芸術学部 音楽学科(令和3年4月開設)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
志願者				224	228
合格者				97	140
入学者(A)				43	42
入学定員(B)				80	80
A/B				0.53	0.52

工学部（既設学部）における最近3年間の就職状況

		就職希望者数 (A)	求人件数 (B)	求人倍率 (B/A)	就職者数 (C)	就職率 (C/A)
令和3年度	2021年度	183 ※1	12,677	69.3	175 ※1	95.6%
令和2年度	2020年度	176	13,330	75.7	171	97.2%
令和元年度	2019年度	183	14,640	80.0	180	98.4%

※1：就職希望者数・就職者数は2022年4月7日時点の途中実績。

民間企業等に対する人材需要調査結果―抜粋―

1. 工学部の新学科の必要性

機械工業関連の企業等及び業界研究会参加企業等に、玉川大学の新学科の必要性について質問したところ、回答件数 302 社の約 95.36%にあたる 288 社が、デザインサイエンス学科の「必要性を感じる」と回答している。

問 1 工学部の新学科の必要性

【デザインサイエンス学科】

№	カテゴリ	件数／社	全体／%
1	必要性を感じる	288	95.36
2	必要性を感じない	14	4.64
	未回答・不明	0	0.00
	合計	302	100.00

2. 工学部の新学科に対する人材需要

機械工業関連の企業等及び業界研究会参加企業等に、玉川大学の新学科に対する人材需要の展望について質問したところ、回答件数 302 社の約 85.43%にあたる 258 社が、デザインサイエンス学科に対する人材需要が「拡大する」と回答している。

問 2 工学部の新学科に対する人材需要

【デザインサイエンス学科】

№	カテゴリ	件数／社	全体／%
1	拡大する	258	85.43
2	拡大しない	44	14.57
	未回答・不明	0	0.00
	合計	302	100.00

3. 工学部の新学科で学んだ卒業生の採用

機械工業関連の企業等及び業界研究会参加企業等に、玉川大学の新学科で学んだ卒業生の採用について質問したところ、回答件数 302 社の約 84.44%にあたる 255 社が、デザインサイエンス学科で学んだ卒業生を「採用したい」と回答している。

問3 工学部の新学科で学んだ卒業生の採用

【デザインサイエンス学科】

№	カテゴリ	件数／社	全体／%
1	採用したい	255	84.44
2	採用は考えない	47	15.56
	未回答・不明	0	0.00
	合計	302	100.00

4. 工学部の新学科で学んだ卒業生の採用予定人数

問3で、玉川大学の新学科で学んだ卒業生を「採用したい」と回答した企業等に、採用予定人数について質問したところ、デザインサイエンス学科で学んだ卒業生の採用予定人数については、「1名」163社、「2名」47社、「3名」16社、「4名」0社、「5名以上」29社となっている。

なお、「採用予定数5名以上」と回答した企業等の採用予定人数を5名として、これらの採用予定人数を合計すると450名となり、この採用予定人数からもデザインサイエンス学科で学んだ卒業生に対する一定程度の採用意向がうかがうことができる。

このような機械工業関連の企業等及び業界研究会参加企業等に限定した調査結果においても、デザインサイエンス学科で学んだ卒業生への一定程度の採用意向がうかがえることから、卒業後の進路については見通しがあると考えられる。

問4 工学部の新学科で学んだ卒業生の採用予定人数

【デザインサイエンス学科】

№	カテゴリ	件数／社	全体／名
1	採用予定数／1名	163	163
2	採用予定数／2名	47	94
3	採用予定数／3名	16	48
4	採用予定数／4名	0	0
5	採用予定数／5名以上	29	145
	未回答・不明	0	0
	合計	255	450

玉川大学 工学部
デザインサイエンス学科（仮称）
進学需要等に関するアンケート調査
結果報告書

令和4年4月

株式会社 島津理化

目 次

I. 進学需要調査（集計結果）

調査対象等	1
調査結果概要	2～6
＜調査対象者に関する質問事項＞	
高等学校卒業後の進路	2
進学を希望する分野	3
＜玉川大学の新学科に関する質問事項＞	
工学部の新学科への興味	4
工学部の新学科の受験希望	5
工学部の新学科への進学希望	6

II. 人材需要調査（集計結果）

調査対象等	7
調査結果概要	8～11
＜玉川大学の新学科に関する質問事項＞	
工学部の新学科の必要性	8
工学部の新学科に対する人材需要の展望	9
工学部の新学科で学んだ卒業生の採用	10
工学部の新学科で学んだ卒業生の採用予定人数	11

III. 参考資料

進学需要調査関係

- アンケート調査票（高校生）
- アンケート協力依頼先一覧（高等学校等）
- 工学部 デザインサイエンス学科 パンフレット
- 学費・競合する大学等

人材需要調査関係

- アンケート調査票（民間企業等）
- アンケート協力依頼先一覧（民間企業等）

I. 進学需要調査（集計結果）

I. 進学需要調査（集計結果）

【調査対象等】

玉川大学では、令和5年4月の開設に向けて、工学部にデザインサイエンス学科の設置を計画しており、このデザインサイエンス学科の設置計画を策定するにあたり、学生確保の見通し等を計量的な数値から検証することを目的として、玉川学園高等部の在校生、設置圏域に所在する高等学校の在校生、玉川大学への住所登録者（オープンキャンパス参加、大学見学、合同相談会参加、高校内説明会参加、資料請求）を対象とした進学需要に関するアンケート調査を実施した。

①調査対象

玉川学園高等部の在校生

設置圏域に所在する高等学校

玉川大学への住所登録者（オープンキャンパス参加、大学見学、合同相談会参加、高校内説明会参加、資料請求）

②調査方法

玉川学園高等部及び設置圏域の高等学校の在校生に対しては、直接配付、直接回収

玉川大学住所登録者に対しては、郵送による配付、郵送又はWebによる回収

③調査実施

令和4年1月～令和4年3月

④調査件数

配付件数：21,917件

回収件数：5,226件 ※重複回答者を除く、高校2年生の回答者のみをカウント

※表内の比率は四捨五入のため、各項目の合計値は一致しない。

【調査結果概要】

＜調査対象者に関する質問事項＞

1. 高等学校卒業後の進路

玉川学園高等部の在校生、設置圏域に所在する高等学校の在校生、玉川大学への住所登録者に対して、高等学校卒業後の進路について質問したところ、回答者数 5,226 人の約 90.18% にあたる 4,713 人が「4 年制大学への進学」と回答していることから、4 年制大学への進学意向の高さをうかがうことができる。

問 1 高等学校卒業後の進路

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	4 年制大学への進学	4,713	90.18
2	短大・専門学校への進学	436	8.34
3	企業等への就職	75	1.44
	未回答・不明	2	0.04
	合計	5,226	100.00

【調査結果概要】

<調査対象者に関する質問事項>

2. 進学を希望する分野

問1で、「4年制大学への進学」と回答した者に対して、高等学校卒業後に進学をする場合、どの分野を希望するかについて質問したところ、第1希望においては、「理学・工学関係」と回答した者が回答者数4,713人の約20.31%にあたる957人で最も多く、次いで「経済学・経営学・商学関係」と回答した者が回答者数4,713人の約12.82%にあたる604人となっている。

問2 進学を希望する分野

カテゴリ	第1希望		第2希望	
	件数／人	全体／%	件数／人	全体／%
文学・心理学・史学・哲学関係	544	11.54	619	13.13
教育学・保育学関係	450	9.55	496	10.52
外国語関係	210	4.46	314	6.66
芸術学関係	243	5.16	282	5.98
社会学・国際・観光関係	314	6.66	519	11.01
法学・政治学関係	233	4.94	259	5.50
経済学・経営学・商学関係	604	12.82	545	11.56
理学・工学関係	957	20.31	400	8.49
農学・獣医学関係	282	5.98	281	5.96
医学・歯学・薬学・看護関係	507	10.76	315	6.68
食物栄養学・被服学・家政学関係	130	2.76	249	5.28
その他	238	5.05	375	7.96
未回答・不明	1	0.02	59	1.25
合計	4,713	100.00	4,713	100.00

【調査結果概要】

<玉川大学の新学科に関する質問事項>

3. 工学部の新学科への興味

問1で、「4年制大学への進学」と回答した者に対して、玉川大学の工学部の新学科への興味について質問したところ、回答者数4,713人の約18.86%にあたる889人がデザインサイエンス学科に「興味関心がある」と回答している。

問3 工学部の新学科への興味・関心

【デザインサイエンス学科】

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	興味関心がある	889	18.86
2	興味関心がない	3,822	81.09
	未回答・不明	2	0.04
	合計	4,713	100.00

【調査結果概要】

＜玉川大学の新学科に関する質問事項＞

4. 工学部の新学科の受験希望

問1で、「4年制大学への進学」と回答した者に対して、玉川大学の工学部に新学科が設置された場合の受験希望について質問したところ、回答者数4,713人の約5.73%にあたる270人が、デザインサイエンス学科の「受験を希望する」と回答している。

問4 工学部の新学科の受験希望

【デザインサイエンス学科】

No.	カテゴリ	件数／人	全体／％
1	受験を希望する	270	5.73
2	受験を希望しない	4,439	94.19
	未回答・不明	4	0.08
	合計	4,713	100.00

【調査結果概要】

<玉川大学の新学科に関する質問事項>

5. 工学部の新学科への進学希望

問1で、「4年制大学への進学」と回答した者に対して、玉川大学の工学部の新学科に合格した場合の進学希望について質問したところ、デザインサイエンス学科に「進学を希望する」と回答した者は237人となっている。

また、問4で、玉川大学の工学部に新学科が設置された場合、デザインサイエンス学科の「受験を希望する」と回答した者で、玉川大学の新学科に合格した場合、デザインサイエンス学科への「進学を希望する」と回答した者は224人となっている。

このような玉川学園高等部の在校生、設置圏域に所在する高等学校の在校生、玉川大学への住所登録者（オープンキャンパス参加、大学見学、合同相談会参加、高校内説明会参加、資料請求）に限定した調査結果においても、デザインサイエンス学科の入学定員を上回る受験希望と進学希望がうかがえることから、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる。

問5 工学部の新学科への進学希望

【デザインサイエンス学科】

No.	カテゴリ	件数／人
1	進学を希望する	237
2	進学を希望しない	1,619

問4×問5 新学科の受験を希望×新学科への進学を希望

【デザインサイエンス学科】

No.	カテゴリ	件数／人
1*1	受験を希望する／進学を希望する	224
1*2	受験を希望する／進学を希望しない	46

Ⅱ. 人材需要調査（集計結果）

Ⅱ. 人材需要調査（集計結果）

【調査対象等】

玉川大学では、令和 5 年 4 月の開設に向けて、工学部にデザインサイエンス学科の設置を計画しており、このデザインサイエンス学科の設置計画を策定するにあたり、人材需要の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、機械工業関連の企業等及び業界研究会参加企業等に対する人材需要に関するアンケート調査を実施した。

①調査対象

機械工業関連の企業等

業界研究会参加企業等

②調査方法

郵送による配付、郵送又は Web による回収

③調査実施

令和 4 年 1 月～令和 4 年 3 月

④調査件数

配付件数：508 件

回答件数：302 件

※表内の比率は四捨五入のため、各項目の合計値は一致しない。

【調査結果概要】

<玉川大学の新学科に関する質問事項>

1. 工学部の新学科の必要性

機械工業関連の企業等及び業界研究会参加企業等に、玉川大学の新学科の必要性について質問したところ、回答件数 302 社の約 95.36%にあたる 288 社が、デザインサイエンス学科の「必要性を感じる」と回答している。

問 1 新学科の必要性

【デザインサイエンス学科】

No.	カテゴリ	件数／社	全体／%
1	必要性を感じる	288	95.36
2	必要性を感じない	14	4.64
	未回答・不明	0	0.00
	合計	302	100.00

【調査結果概要】

＜玉川大学の新学科に関する質問事項＞

2. 工学部の新学科に対する人材需要の展望

機械工業関連の企業等及び業界研究会参加企業等に、玉川大学の新学科に対する人材需要の展望について質問したところ、回答件数 302 社の約 85.43%にあたる 258 社が、デザインサイエンス学科に対する人材需要が「拡大する」と回答している。

問2 新学科に対する人材需要の展望

【デザインサイエンス学科】

No.	カテゴリ	件数／社	全体／%
1	拡大する	258	85.43
2	拡大しない	44	14.57
	未回答・不明	0	0.00
	合計	302	100.00

【調査結果概要】

<玉川大学の新学科に関する質問事項>

3. 工学部の新学科で学んだ卒業生の採用

機械工業関連の企業等及び業界研究会参加企業等に、玉川大学の新学科で学んだ卒業生の採用について質問したところ、回答件数 302 社の約 84.44%にあたる 255 社が、デザインサイエンス学科で学んだ卒業生を「採用したい」と回答している。

問3 新学科で学んだ卒業生の採用

【デザインサイエンス学科】

No.	カテゴリ	件数／社	全体／%
1	採用したい	255	84.44
2	採用は考えない	47	15.56
	未回答・不明	0	0.00
	合計	302	100.00

【調査結果概要】

<玉川大学の新学科に関する質問事項>

4. 工学部の新学科で学んだ卒業生の採用予定人数

問3で、玉川大学の新学科で学んだ卒業生を「採用したい」と回答した企業等に、採用予定人数について質問したところ、デザインサイエンス学科で学んだ卒業生の採用予定人数については、「1名」163社、「2名」47社、「3名」16社、「4名」0社、「5名以上」29社となっている。

なお、「採用予定数5名以上」と回答した企業等の採用予定人数を5名として、これらの採用予定人数を合計すると450名となり、この採用予定人数からもデザインサイエンス学科で学んだ卒業生に対する一定程度の採用意向をうかがうことができる。

このような機械工業関連の企業等及び業界研究会参加企業等に限定した調査結果においても、デザインサイエンス学科で学んだ卒業生への一定程度の採用意向がうかがえることから、卒業後の進路については見通しがあると考えられる。

問4 新学科で学んだ卒業生の採用予定人数

【デザインサイエンス学科】

No.	カテゴリ	件数／社	全体／名
1	採用予定数／1名	163	163
2	採用予定数／2名	47	94
3	採用予定数／3名	16	48
4	採用予定数／4名	0	0
5	採用予定数／5名以上	29	145
	未回答・不明	0	0
	合計	255	450

Ⅲ. 参 考 資 料

進学需要調査関係

玉川大学 工学部 新学科への進学意向に関するアンケート調査

玉川大学では社会が求める人材を養成し輩出できるよう、常に教育体制を見直し、カリキュラムの検討を行っています。その取り組みの一つが学部学科の改組です。

このアンケート調査は、高校生の皆さんに高校卒業後の進路等についてお聞きし、玉川大学工学部 新学科の設置に向けての基礎資料とするものです。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

なお、このアンケートにご記入いただきました内容は、アンケートの集計のみに使用し、集計後の統計資料はアンケートの趣旨・目的以外に使用しません。

◆設置計画の概要

1) 学部学科名称*および入学定員*

・工学部 デザインサイエンス学科 (60)

*2023年4月設置計画 名称その他の計画に変更が生じる場合があります。

→ 新学科の内容・詳細は同封のリーフレット等の資料でご確認いただけます。

- 2) 開設時期 2023年4月
3) 設置場所 東京都町田市玉川学園 6-1-1
4) アクセス 小田急線玉川学園前 駅(下車徒歩3分)

<在学する高校名をお書きください>

公・私 立	立	2 年 在学
----------	---	-----------

*アンケート調査用紙には、個人のお名前は記入不要(無記名)です。

【問 1】 あなたが高校卒業後に考えている進路選択先はどれですか。

次の選択肢から該当する欄(シカク)に、○(マル)印を記入してください。

<選択肢>

1. 4年制大学への進学

2. 短大・専門学校への進学

3. 企業等への就職

<回答欄>

☐	1
☐	2
☐	3

→ 設問は裏面に続きます

【問 2】 あなたが進学したいと考えている分野はどれですか。

次の選択肢から第2希望まで選び、該当する番号を回答欄に記入してください。

< 選択肢 >

- | | | |
|------------------|----------------|--------------------|
| 1 文学・心理学・史学・哲学関係 | 5 社会学、国際、観光関係 | 9 農学・獣医学関係 |
| 2 教育学・保育学関係 | 6 法学、政治学関係 | 10 医学、歯学、薬学、看護関係 |
| 3 外国語関係 | 7 経済学・経営学・商学関係 | 11 食物栄養学、被服学、家政学関係 |
| 4 芸術学関係 | 8 理学・工学関係 | 12 その他（具体的に ） |

< 回答欄 >

第1希望

第2希望

番号
記入

【問 3】 あなたは、玉川大学工学部の新学科に興味がありますか？

該当する欄（シカク）に、○（マル）印を記入してください。

< 回答欄 >

1

興味関心がある

2

興味関心がない

工学部 デザインサイエンス学科

☐

○印
記入

【問 4】 あなたは、玉川大学工学部に新学科が設置された場合に、受験（総合型選抜／学校推薦型選抜も含め）を希望しますか？

該当する欄（シカク）に、○（マル）印を記入してください。

< 回答欄 >

1

受験を希望する

2

受験を希望しない

工学部 デザインサイエンス学科

☐

○印
記入

【問 5】 問4で「1. 受験を希望する」を選択した方への設問となります。

玉川大学工学部の新学科に合格した場合に、進学を希望しますか。

該当する欄（シカク）に、○（マル）印を記入してください。

< 回答欄 >

1

進学を希望する

2

進学を希望しない

工学部 デザインサイエンス学科

☐

○印
記入

アンケートは以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

アンケート協力依頼先一覧（高等学校等）

No.	高 等 学 校	実施数	No.	高 等 学 校	実施数
1	玉川学園高等部	178	10	安田学園高等学校	124
2	藤嶺学園藤沢高等学校	127	11	横浜市立東高等学校	258
3	東京都立清瀬高等学校	251	12	関東学院高等学校	77
4	八王子実践高等学校	111	13	相洋高等学校	192
5	帝京高等学校	322	14	横浜隼人高等学校	242
6	湘南工科大学附属高等学校	348	15	工学院大学附属高等学校	206
7	神奈川県立上溝高等学校	108	16	上野学園高等学校	45
8	東洋高等学校	417	17	関東国際高等学校	78
9	昭和第一高等学校	266	18	横浜高等学校	810
				合 計	4,160

No.	高 等 学 校 以 外	備 考	郵送数
1	玉川大学への住所登録者	オープンキャンパス参加、大学見学、合同相談会参加、 高校内説明会参加、資料請求	17,757

技術に加えて多様性を身に付ける「短期海外研修」

短期海外研修

海外での実践を通して学ぶ 工学部独自のグローバル教育

提携する台湾の大学および海外企業での現地研修を通じて、海外の大学で行われている研究や学生生活、国際社会での日系企業の活躍などを知り、工学に必要な不可欠な技術だけでなく、グローバル社会における広い視野を育みます。多様な国際社会を実際に体験し、その地域のものづくり産業の実態や、歴史的・文化的な背景を知ること、何物にも代えがたい体験となります。



取得をめざせる教育職員免許状・資格

教育職員免許状

中学校二種(技術)*	高等学校一種(工業)*
中学校一種(数学)*	高等学校一種(数学)*
小学校二種	小学校二種

*教職課程認定を受けた文部科学省に定める単位の修得、卒業している教職課程の開設学校が変更となる可能性があります。

資格

CAD利用技術者/3Dプリンター活用技術者/基本情報技術者試験/知的財産管理技能検定/認定人間工学専門家

※資格試験により取得可能な資格が異なります。

施設紹介 Facility

ESTEAM教育の学修拠点

TAMAGAWA UNIVERSITY

知の融合を図る「STREAM Hall 2019」と体験を通して実践力を高める「Consilience Hall 2020」では、多様な価値観を養うことができます。理論と実践、さらには、学際的な交流を通して、玉川大学ではさらなる学びの理解を深めていきます。

メーカーズフロア

STREAM Hall 2019に設置されたメーカーズフロアは、デジタルマシンや工作機械を自由に利用できる、オープンなモノづくりのスペースです。学生は授業以外の時間にも、作品作りに挑戦することができます。まず、自分のやりたいことを先生に相談し、アイデアを具体化して行きます。続いて、データ・図面を作成し、デジタルマシン・工作機械による制作・加工を行い、自分のアイデアを形にすることができます。



NextGen. Mobility Workshop

Consilience Hall 2020に設置されたこの施設は、『Tamagawa Solar Challenge Project』(TSCP)の活動拠点。TSCPは新エネルギーの利用技術の研究を目的として、ハイブリッドソーラーカーを研究・制作しています。参加する学生は、レースへのチャレンジを通してモノづくりの経験値を高めることに加え、エネルギーについての関心を高めながら、環境問題やエネルギー問題と向き合う機会を設けています。



2023年4月 開設予定 【設置計画中】

※名称その施設画に変更が生じる場合があります。



玉川大学

教育学部/文学部/芸術学部/経営学部/観光学部
リベラルアーツ学部/農学部/工学部

入試広報課 〒194-8612 東京都町田市玉川学園6-1-1
TEL:042-739-8155 URL:tamagawa.ac.jp/

お問合せ先

資料請求 ☎0120-558509

PRODUCT DESIGN
ROBOT DESIGN
ENVIRONMENTAL DESIGN



玉川大学

2023年4月

デザインサイエンス学科

はじまる。

DESIGN
アイデアをカタチにする

PRODUCT DESIGN
プロダクト
デザイン

快適な暮らしを実現する
製品をデザインしたい！

ROBOT DESIGN
ロボット
デザイン

人の活動を支える
ロボットのデザインしたい！

モノづくりを通して

多様化する課題に対応できる

「デザイン能力」を身に付ける

科学、工学、技術、デザイン、環境などさまざまな学問分野を基礎として、現場での体験を重視したモノづくりを行います。商品企画から設計、商品化に関わるさまざまな専門科目を学び、アイデアをカタチにします。「プロダクトデザイン」「ロボットデザイン」「環境デザイン」の3つの専門領域から技術と知識を複合的に深め、サイエンスにより新しい価値をデザインします。

こんな人に向いています！

3コース共通 使い心地の良いモノを デザインしたい	3コース共通 プロダクトデザイン 3Dプリンタなどのデジタルマシンで 製品をデザインしたい	3コース共通 環境デザイン 環境にやさしい エネルギーについて学びたい
ロボットデザイン 生物の優れた機能を模倣した ロボットをデザインしたい	3コース共通 製品開発に活かせる デザイン思考を学びたい	

興味・関心にあわせて学べる3つの専門領域

2年次からは、専門領域に分かれ社会で活躍するための知識・技術を学びます。
また学内外のコンテストや大会に参加し、実践力を磨きます。

プロダクトデザイン

人間の身体的・心理的な特性や環境を分析し、デジタルマシンを活用して製品の製造を行います。
安全で使い心地がよく、環境にも優しい商品づくりを通して、日々の暮らしを豊かにすることをめざします。



TOPICS

5年連続
デザインパテントコンテストで
優秀賞を受賞

特許庁や文部科学省が主催する「デザインパテントコンテスト」は、次世代を担う若者が自ら考えた発明や意匠デザインを応募し、優秀な作品を表彰するものです。本学では5年連続で優秀賞を受賞しています。



ロボットデザイン

ロボット製作に必要なロボット機構や機能デザインに加え、生物の持つ機能・形状も合わせて研究します。ロボティクスの力で、人々の生活の手助けをする機械の開発をめざします。



日本ロボット学会学術講演会
「RSNP コンテスト2019」において
グッドコンセプト賞を受賞！

RSNPコンテストは通信機能を持つロボットサービスの実現を目的としたコンテストです。「駅における視覚障がい者のための移動支援ロボット」を提案し、グッドコンセプト賞を受賞しました。



環境デザイン

私たちの生活を便利にするテクノロジーを支えるためのエネルギーや材料、利用方法を研究します。持続可能な社会の実現のために環境負荷の少ないエネルギー源や技術、材料を用いた製品やシステムづくりをめざします。



「2019 WGC・ソーラーカー・ラリー」
グリーンフリーチャレンジ部門で
2人乗り車両「未来叶い」優勝

「玉川ソーラーチャレンジプロジェクト(TSCP)」は水素やマグネシウムなどの新エネルギーを組合わせたハイブリッド・ソーラーカーを研究しています。実証フィールドでレースに出場し、多くの実績をあげています。



4年間の流れと主な科目

1年次	2・3年次	4年次	将来は
工学の基礎を学ぶ ■ 解法学入門 ■ データ処理 ■ デザインサイエンス入門 ■ デザインサイエンスプログラミング	プロダクトデザイン ■ 色彩デザイン学 ■ 人間工学 ■ ユニバーサルデザイン ロボットデザイン ■ 機構デザイン ■ バイオミメティクス ■ メカトロニクス 環境デザイン ■ 化学と環境 ■ ソフトエネルギー ■ 都市環境デザイン	卒業研究 ■ デザインサイエンス ■ セミナーII ■ 卒業プロジェクトII ■ 教育実習	進路 ■ 商品開発技術者 ■ 設計技術者 ■ 工業デザイナー ■ 商品プランナー ■ デジタルクリエイター ■ 起業家 ■ 教員(数学、工業、技術)
3DプリンタやCADなど広く基礎を学ぶ 興味はいろいろ！ 総合的な学びで自分が伸ばしたい方向性が見えてくる	最大成果としての卒業研究に取り組み！		

2023 年（令和 5 年）4 月開設予定

玉川大学工学部デザインサイエンス学科*1

◆学費等一覧

(単位：円)

学 部	学 科	入学金*2	授業料等*2	学費等合計*2
工学部	デザインサイエンス学科*1	250,000	1,678,400	1,928,400

◆工学部デザインサイエンス学科*1と競合が予想される他大学の学部・学科

大学名	学部・学科等名称
青山学院大学	理工学部機械創造工学科
芝浦工業大学	デザイン工学部デザイン工学科 工学部機械工学科
千葉工業大学	創造工学部デザイン科学科 創造工学部都市環境工学科 工学部機械工学科
法政大学	デザイン工学部システムデザイン学科
拓殖大学	工学部デザイン学科 工学部機械システム工学科
東京工科大学	工学部機械工学科 デザイン学部デザイン学科
神奈川工科大学	創造工学部自動車システム開発工学科 創造工学部ロボット・メカトロニクス学科 創造工学部ホームエレクトロニクス開発学科 工学部機械工学科
湘南工科大学	工学部総合デザイン学科 工学部機械工学科
東京電機大学	システムデザイン工学部デザイン工学科 工学部機械工学科

註*1 上記の学科は設置計画中であり、名称その他の計画に変更が生じる場合があります。

註*2 学費等金額は予定であり、社会情勢等の影響で変更が生じる場合があります。

人材需要調査関係

※回答方法は、Web または郵送から選択いただけます

玉川大学 新学科の人材需要に関するアンケート調査

現在、玉川大学では社会に貢献できる人材を養成し輩出できるよう、常に教育体制の見直し、カリキュラムの検討を行っています。その取り組みのひとつが学部学科の改組です。社会が、そして皆様が求める人材を養成すべく、下記の新学科設置を計画中です。

このアンケート調査は、企業の皆様方のご意見をお聞きし、玉川大学新学科の設置に向けての根拠資料とするものです。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

なお、このアンケートにご記入いただきました内容は、アンケートの集計のみに使用し、集計後の統計資料は学科設置届出以外の目的には使用いたしません。

◆設置計画の概要

1) 学部学科名称*および入学定員

工学部 デザインサイエンス学科 (60)

学科の詳細は同封のリーフレットでご確認いただけます。

*2023年4月設置計画中 名称その他の計画に変更が生じる場合があります。

2) 開設時期 2023年4月

3) 設置場所 東京都町田市玉川学園 6-1-1

4) アクセス 小田急線玉川学園前(下車徒歩3分)

貴社名、ご記入いただいたご担当者様の部署名をお願いいたします(任意)。

◆貴社名

◆ご担当部署名

【問1】 玉川大学新学科の必要性についてお尋ねいたします。同封のリーフレットをご覧ください、該当する欄(シカク)に、○(マル)印をご記入ください。

	1	2
	必要性を感じる	必要性を感じない
工学部デザインサイエンス学科	☐	☐

→ 設問は裏面に続きます

【問 2】 今後の玉川大学新学科に対する人材需要の展望についてお尋ねいたします。

該当する場所に○印を記入してください。

	1	2
	拡大する	拡大しない
工学部デザインサイエンス学科	☐	☐

【問 3】 玉川大学新学科で学んだ卒業生の採用についてお尋ねいたします。

該当する場所に○印を記入してください。

	1	2
	採用したい	採用は 考えない
工学部デザインサイエンス学科	☐	☐

【問 4】 問 3 で『1. 採用したい』を選んでくださった企業の皆様に採用予定人数についてお尋ねいたします。該当する場所に○印を記入してください。

※新学科で卒業生を送り出すのは 2027 年 3 月の予定で、それに対する採用計画はまだ明確ではないと存じますが、あくまでも現時点での予定としてご回答いただければ幸いです。

	1	2	3	4	5
	採用予定数 1 名	採用予定数 2 名	採用予定数 3 名	採用予定数 4 名	採用予定数 5 名以上
工学部デザインサイエンス学科	☐	☐	☐	☐	☐

アンケートは以上で終了です。
ご多忙中のところ、ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

アンケート協力依頼先一覧（民間企業等）

No.	企 業 等 名	No.	企 業 等 名
1	JFEスチール株式会社	39	ユニオンマシナリ株式会社
2	JUKI株式会社	40	安立計器株式会社
3	NECプラットフォームズ株式会社	41	沖電気工業株式会社
4	NITTOKU株式会社	42	沖電線株式会社
5	NSKマイクロプレジジョン株式会社	43	河西工業株式会社
6	NSKワーナー株式会社	44	河村電器産業株式会社
7	SMC株式会社	45	株式会社IJTT
8	SMK株式会社	46	株式会社NBCメッシュテック
9	SUS株式会社	47	株式会社nittoh
10	TDK株式会社	48	株式会社TVE
11	THK株式会社	49	株式会社アイエイアイ
12	アイダエンジニアリング株式会社	50	株式会社アイゼン
13	アカオアルミ株式会社	51	株式会社アツミテック
14	アキレス株式会社	52	株式会社アドテックエンジニアリング
15	イーデーエム株式会社	53	株式会社アドパネクス
16	エリエールプロダクト株式会社	54	株式会社アパールデータ
17	オイレス工業株式会社	55	株式会社アマダプレスシステム
18	キーパー株式会社	56	株式会社ウェルディングアロイズ・ジャパン
19	キャノンアネルバ株式会社	57	株式会社エグロ
20	キャノンファインテックニスカ株式会社	58	株式会社エヌエフ回路設計ブロック
21	コトブキシーティング株式会社	59	株式会社エフテック
22	サクサ株式会社	60	株式会社オカムラ
23	サクラ工業株式会社	61	株式会社オハラ
24	サトーホールディングス株式会社	62	株式会社オリジン
25	サンケン電気株式会社	63	株式会社くろがね工作所
26	サンデン株式会社	64	株式会社サムソン
27	ジヤトコ株式会社	65	株式会社ジーシー
28	スズキ株式会社	66	株式会社ジーテクト
29	ソニーグローバルマニュファクチャリング & オペレーションズ株式会社	67	株式会社システック
30	ダイキョーニシカワ株式会社	68	株式会社シバソク
31	タニコー株式会社	69	株式会社ジャノメ
32	テイ・エステック株式会社	70	株式会社タチエス
33	トーハツ株式会社	71	株式会社ツバメックス
34	トヨタ自動車東日本株式会社	72	株式会社テージーケー
35	トヨタ紡織東北株式会社	73	株式会社テクノメディカ
36	フジオーゼックス株式会社	74	株式会社ネエチア
37	マクセルイズミ株式会社	75	株式会社パプコ
38	ヤマハモーターエレクトロニクス株式会社	76	株式会社ファルテック

アンケート協力依頼先一覧（民間企業等）

No.	企 業 等 名	No.	企 業 等 名
77	株式会社ボルテック	115	株式会社木村鋳造所
78	株式会社ミクニ	116	丸善食品工業株式会社
79	株式会社ミツバ	117	丸富製紙株式会社
80	株式会社モリテックス	118	岩崎通信機株式会社
81	株式会社ユタカ技研	119	共同印刷株式会社
82	株式会社ヨシカワ	120	共立機巧株式会社
83	株式会社ライトボーイ	121	興亜硝子株式会社
84	株式会社リード	122	権田金属工業株式会社
85	株式会社リケン	123	光洋機械工業株式会社
86	株式会社旭洋工業製作所	124	高砂鐵工株式会社
87	株式会社安田製作所	125	高島産業株式会社
88	株式会社稲葉製作所	126	三恵株式会社
89	株式会社加藤電器製作所	127	三恵技研工業株式会社
90	株式会社吉田製作所	128	三光化成株式会社
91	株式会社宮川製作所	129	三菱プレシジョン株式会社
92	株式会社桂精機製作所	130	三菱電機照明株式会社
93	株式会社五十嵐電機製作所	131	三輪精機株式会社
94	株式会社光電製作所	132	芝浦機械株式会社
95	株式会社工技研究所	133	守谷輸送機工業株式会社
96	株式会社国盛化学	134	小倉クラッチ株式会社
97	株式会社山田製作所	135	小池酸素工業株式会社
98	株式会社駿河生産プラットフォーム（ミスミグループ）	136	松菱金属工業株式会社
99	株式会社小金井精機製作所	137	日清紡マイクロデバイス株式会社
100	株式会社小田原機器	138	森尾電機株式会社
101	株式会社城南製作所	139	水ing株式会社
102	株式会社青木固研究所	140	西岡可鍛工業株式会社
103	株式会社石山	141	川崎工業株式会社
104	株式会社浅野	142	前澤化成工業株式会社
105	株式会社前川製作所	143	大森電機工業株式会社
106	株式会社多摩川電子	144	大日精化工業株式会社
107	株式会社竹内製作所	145	大陽工業株式会社
108	株式会社長倉製作所	146	第一工業株式会社
109	株式会社東京洗染機械製作所	147	第一高周波工業株式会社
110	株式会社日本アレフ	148	中野冷機株式会社
111	株式会社日本デジタル研究所	149	長野日本無線株式会社
112	株式会社日立情報通信エンジニアリング	150	田中産業株式会社
113	株式会社富士通ゼネラル	151	東プレ株式会社
114	株式会社北村製作所	152	東京ラヂエーター製造株式会社

アンケート協力依頼先一覧（民間企業等）

No.	企 業 等 名	No.	企 業 等 名
153	東信電気株式会社	191	株式会社パイロットコーポレーション
154	東洋ガラス株式会社	192	プラチナ万年筆株式会社
155	東洋電溶株式会社	193	セーラー万年筆株式会社
156	凸版印刷株式会社	194	プラス株式会社
157	日産車体株式会社	195	株式会社 伊東屋
158	日鍛バルブ株式会社	196	高島屋スペースクリエイツ株式会社
159	日本アイ・エス・ケイ株式会社	197	株式会社オリバー
160	日本エレベーター製造株式会社	198	パラマウントベッド株式会社
161	日本サーモスタット株式会社	199	生興株式会社
162	日本トムソン株式会社	200	タカスタンダード株式会社
163	日本ピーマック株式会社	201	ヤマト電機株式会社
164	日本ピストンリング株式会社	202	カネ美食品株式会社
165	日本フェンオール株式会社	203	水戸証券株式会社
166	日本フォームサービス株式会社	204	株式会社人形町今半
167	日本フルハーフ株式会社	205	株式会社キリウ
168	日本ブレーキ工業株式会社	206	株式会社ヨックモック
169	日本モレックス合同会社	207	株式会社チノー
170	日本精機株式会社	208	株式会社加藤製作所
171	日本端子株式会社	209	日本電産トーソク株式会社
172	日本発条株式会社	210	株式会社ウェルファムフーズ
173	日本冶金工業株式会社	211	三甲株式会社
174	日本濾過器株式会社	212	株式会社江東微生物研究所
175	富士工業株式会社	213	株式会社コア
176	平田バルブ工業株式会社	214	株式会社ディーエムエス
177	北川工業株式会社	215	ダイヤ株式会社
178	本田金属技術株式会社	216	株式会社東計電算
179	由利ロール機械株式会社	217	株式会社クリエイトエス・ディー
180	高田工業株式会社	218	大久保歯車工業株式会社
181	富山スガキ株式会社	219	株式会社東京めいらく
182	株式会社イトーキ	220	株式会社トーモク
183	三菱鉛筆株式会社	221	西尾レントオール株式会社
184	アイリスオーヤマ株式会社	222	エノテカ株式会社
185	株式会社ニトリホールディングス	223	国分関信越株式会社
186	株式会社トンボ鉛筆	224	長田電機工業株式会社
187	コクヨ株式会社	225	株式会社エイエイピー
188	クツワ株式会社	226	矢崎総業株式会社(矢崎グループ)
189	べんてる株式会社	227	株式会社サカタのタネ
190	株式会社サクラクレパス	228	株式会社アルファシステムズ

アンケート協力依頼先一覧（民間企業等）

No.	企 業 等 名	No.	企 業 等 名
229	株式会社ユニマツライフ	267	旭化成リフォーム株式会社
230	サンコーインダストリー株式会社	268	株式会社叙々苑
231	株式会社クリーク・アンド・リバー社	269	積水ハウス不動産東京株式会社
232	株式会社ホテル小田急	270	東邦ホールディングス株式会社(東邦薬品株式会社)
233	株式会社ミキモト	271	生活協同組合コープみらい
234	立山科学グループ	272	ユアサ・フナシヨク株式会社
235	株式会社TBK	273	キヤノン電子テクノロジー株式会社
236	トーアエイヨー株式会社	274	第一法規株式会社
237	ケイヒン株式会社	275	株式会社サイサン
238	三和コンピュータ株式会社	276	三井食品株式会社
239	新菱冷熱工業株式会社	277	株式会社ヨコオ
240	株式会社吉野工業所	278	株式会社ドウシシャ
241	ジェイ・アール・シー特機株式会社	279	日機装株式会社
242	株式会社成城石井	280	株式会社八神製作所
243	株式会社森ビルホスピタリティコーポレーション	281	株式会社ダイトーコーポレーション
244	イワツキ株式会社	282	ハヤシレビック株式会社
245	KOA株式会社	283	株式会社東京鋳兼
246	全薬工業株式会社	284	株式会社リッチェル
247	株式会社総合車両製作所(JR東日本グループ)	285	青山商事グループ
248	株式会社吉田(吉田カバン)	286	東京サラヤ株式会社
249	株式会社セレスポ	287	大和冷機工業株式会社
250	株式会社アルゴグラフィックス	288	アクシアル リテイリンググループ((株)原信・(株)ナルス)
251	プライムデリカ株式会社	289	株式会社シャンソン化粧品
252	株式会社オオゼキ	290	アグロ カネショウ株式会社
253	株式会社リョーサン	291	株式会社ホンダロジスティクス
254	株式会社ナカヨ	292	株式会社クレスコ
255	株式会社クラウン・パッケージ	293	株式会社ヤマダフーズ
256	日本ハウズイング株式会社	294	東横化学株式会社
257	株式会社村井	295	ゼリア新薬工業株式会社
258	日東工器株式会社	296	カメイ株式会社
259	丸文株式会社	297	岩井機械工業株式会社
260	ヤンマーアグリジャパン株式会社 関東甲信越支社	298	株式会社ISIDインターテクノロジー
261	福助株式会社	299	いすゞシステムサービス株式会社
262	西松建設株式会社	300	株式会社東京商工リサーチ
263	北興化学工業株式会社	301	片倉コープアグリ株式会社
264	株式会社ニフコ	302	四季株式会社(劇団四季)
265	杏林製薬株式会社	303	株式会社鷺宮製作所
266	株式会社三城	304	株式会社コロナ

アンケート協力依頼先一覧（民間企業等）

No.	企 業 等 名	No.	企 業 等 名
305	ケンコーマヨネーズ株式会社	343	ホシザキ東京株式会社
306	ダイワボウ情報システム株式会社	344	株式会社DTS
307	びあ株式会社	345	アンデルセングループ
308	加賀電子株式会社	346	株式会社銀座コージコーナー
309	東芝情報システム株式会社	347	キヤノンシステムアンドサポート株式会社
310	長野計器株式会社	348	株式会社日立社会情報サービス
311	株式会社ムトウ	349	株式会社フリーデン
312	パークタワーホテル株式会社(パーク ハイアット 東京)	350	株式会社イワキ(業種:流通(メガネ))
313	横河レンタ・リース株式会社	351	住友不動産販売株式会社
314	株式会社白崎コーポレーション	352	株式会社共立メンテナンス
315	株式会社マルエツ	353	株式会社ノバレーゼ
316	横浜トヨペット株式会社(トヨタカローラ神奈川(株)、ネットヨタ神奈川(株))(ウエイズグループ)	354	デリア食品株式会社
317	株式会社トータルオーエーシステムズ	355	株式会社ロイヤルパークホテルズアンドリゾーツ
318	横浜冷凍株式会社	356	株式会社朋栄
319	総合警備保障株式会社(ALSOK)	357	株式会社グリーンハウス
320	日本石油輸送株式会社	358	マリンフーズ株式会社(ニッポンハムグループ)
321	ナブコシステム株式会社	359	株式会社重松製作所
322	フジモトHD株式会社	360	株式会社中村自工
323	株式会社レリアン	361	立川ブラインド工業株式会社
324	トヨタモビリティ東京株式会社	362	日本金銭機械株式会社
325	小泉成器株式会社	363	株式会社ヤオコー
326	東急リゾーツ&ステイ株式会社	364	株式会社大田花き
327	フィード・ワン株式会社	365	株式会社中村屋
328	日本ケミコン株式会社	366	大同信号株式会社
329	協栄産業株式会社	367	横浜信用金庫
330	株式会社村上開明堂	368	株式会社高山
331	株式会社立花エレテック	369	株式会社ぐるなび
332	株式会社アロートラストシステムズ	370	株式会社ヤヨイサンフーズ
333	株式会社新宿高野	371	タカナシ乳業株式会社
334	ケル株式会社	372	株式会社ヨロズ
335	株式会社光・彩	373	東京エレクトロンデバイス株式会社
336	株式会社アドバンストラフィックシステムズ	374	ヤマト科学株式会社
337	タリーズコーヒージャパン株式会社	375	月島食品工業株式会社
338	株式会社シノテスト	376	新光商事株式会社
339	株式会社ミライト	377	株式会社協和日成
340	尾家産業株式会社	378	アマノ株式会社
341	株式会社東京機械製作所	379	株式会社クマヒラ
342	株式会社きらぼし銀行	380	内外日東株式会社

アンケート協力依頼先一覧（民間企業等）

No.	企 業 等 名	No.	企 業 等 名
381	田島ルーフィング株式会社	419	三愛石油株式会社
382	株式会社石川コンピュータ・センター	420	株式会社オークラニッコホテルマネジメント
383	日本光電工業株式会社	421	シマダヤ株式会社
384	フランスベッド株式会社	422	横河商事株式会社
385	株式会社広芸インテック	423	森六グループ(森六ホールディングス株式会社、森六テクノロジー株式会社、森六ケミカルズ株式会社)
386	株式会社奈良機械製作所	424	株式会社丸山製作所
387	サンネット株式会社	425	日本ホテル株式会社
388	株式会社エスシー・マシーナリ	426	株式会社エービーシー商会
389	株式会社ジェイアール東海パッセンジャーズ	427	株式会社伊藤園
390	第一屋製パン株式会社	428	持田製菓株式会社
391	株式会社守谷商会	429	荏原商事株式会社
392	サミット株式会社	430	横浜丸中青果株式会社
393	株式会社イトーヨーカ堂	431	株式会社コメリ
394	株式会社大黒屋	432	株式会社ポンパドウル
395	多摩信用金庫	433	富士屋ホテル株式会社
396	日本ハム株式会社	434	株式会社和光
397	株式会社ニチベイ	435	株式会社ヤマタネ
398	日立物流ソフトウェア株式会社	436	株式会社千修
399	サンワテクノス株式会社	437	文化シヤッター株式会社
400	株式会社クレオ	438	株式会社ビー・エム・エル
401	デンセイシリウス株式会社	439	新幹線メンテナンス東海株式会社
402	富士ソフト株式会社	440	イオンリテール株式会社
403	株式会社Jストリーム	441	東京中央農業協同組合
404	平塚信用金庫	442	ビップシステムズ株式会社
405	株式会社やまびこ	443	エクシオグループ株式会社
406	株式会社ぎょうせい	444	科研製薬株式会社
407	千代田インテグレ株式会社	445	株式会社日比谷花壇
408	アルフレッサ株式会社	446	株式会社ホテル銀水荘
409	株式会社スリーボンド	447	JA全農たまご株式会社
410	吉野石膏株式会社	448	日本ヒューム株式会社
411	株式会社ベネッセスタイルケア	449	トヨタ西東京カローラ株式会社(S&D多摩ホールディングス)
412	株式会社フラワーオークションジャパン	450	森久保薬品株式会社
413	ユニオンツール株式会社	451	株式会社JR東日本ステーションサービス
414	池上通信機株式会社	452	株式会社エトワール海渡
415	株式会社東急ホテルズ	453	NECフィールディング株式会社
416	株式会社武蔵野種苗園	454	株式会社ファミリア
417	ダイダン株式会社	455	芝浦メカトロニクス株式会社
418	日新化工株式会社	456	タカノ株式会社

アンケート協力依頼先一覧（民間企業等）

No.	企 業 等 名	No.	企 業 等 名
457	ミヨシ油脂株式会社	495	日本無線株式会社
458	株式会社高見沢サイバネティックス	496	株式会社ハイマックス
459	シダックス株式会社	497	株式会社モンテール
460	株式会社ニュー・オータニ	498	タキヒヨー株式会社
461	安全自動車株式会社	499	富士通Japanソリューションズ東京株式会社
462	株式会社JCBトラベル	500	セコム株式会社
463	丸大食品株式会社	501	株式会社日新
464	株式会社アマナ	502	レモンガス株式会社
465	味の素冷凍食品株式会社	503	鈴江コーポレーション株式会社
466	東日本旅客鉄道株式会社	504	株式会社ヴィ・ディー・エフ・サンロイヤル
467	宝印刷株式会社	505	SGシステム株式会社
468	株式会社ムサシ	506	三木プーリ株式会社
469	OKIクロステック株式会社	507	スガツネ工業株式会社
470	川崎信用金庫	508	株式会社タツノ
471	内藤電誠工業株式会社		(計508社)
472	株式会社美十(おたべグループ)		
473	株式会社イワキ(業種:メーカー、一般機械・産業機械)		
474	JAさがみ(さがみ農業協同組合)		
475	株式会社JR東日本サービスクリエーション		
476	株式会社ロック・フィールド		
477	秋本食品株式会社		
478	日本電設工業株式会社		
479	横浜森永乳業株式会社		
480	セレサ川崎農業協同組合		
481	株式会社テセック		
482	丸和バイオケミカル株式会社		
483	株式会社スタージュエリーブティックス		
484	日本コンクリート工業株式会社		
485	赤城乳業株式会社		
486	株式会社ユニバーサル園芸社		
487	株式会社東京楽天地		
488	日本ロジテム株式会社		
489	株式会社鎌倉ハム富岡商会		
490	わかもと製菓株式会社		
491	株式会社巴商会		
492	積水ハウス株式会社		
493	東海澱粉株式会社		
494	ユニアデックス株式会社		

教 員 名 簿

学長の氏名等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏 名 〈就任（予定）年月〉	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千円）	現 職 （就任年月）
一	学長	オハラ ヨシアキ 小原 芳明 〈平成6.4〉		Master of Arts in Analysis of Educational Policy （米国）		玉川大学 学長 （平成6.4～令和7.3）

教員の氏名等												
(工学部 デザインサイエンス学科)												
調査 番号	専等 区 分	職位	フリガナ 氏 名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
1	専	教授 (学科主任)	カワモリ シゲヒロ 川森 重弘 ＜令和5年4月＞		博士(工学)		科学入門※ デザインサイエンス入門(デザイン史を含む)※ デザインサイエンス実験 スケッチとドラフティング メカニクス(材料) 化学と環境 自然科学実験※ デザインサイエンスセミナーI メカニクス(材料)演習 インターシッ I インターシッ II インターシッ III インターシッ IV マテリアルプロセッシング デザインサイエンスセミナーII 卒業プロジェクトI 卒業プロジェクトII	1・2・3・4前・後 1前 2前・後 2前・後 2後 2後 3前 3後 3後 3前・後 3前・後 3前・後 3前・後 3前・後 3後 4前 4前 4後	0.6 0.5 2 2 2 2 0.3 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 1 2 2 1 1 1 2 2 2 2 2 1 1 1 1	玉川大学 工学部 エンジニアリングデザイン学科 教授 (平成10.4)	6日
2	専	教授	キムラ ヒトシ 木村 仁 ＜令和5年4月＞		博士(工学)		デザインサイエンス入門(デザイン史を含む)※ プログラミングII デザインサイエンス実験 機構デザイン メカニクス(機械) ドラフティング応用 バイオメテイクス デザインサイエンスセミナーI インターシッ I インターシッ II インターシッ III インターシッ IV メカトロニクス メカトロニクス演習 デザインサイエンスセミナーII 卒業プロジェクトI 卒業プロジェクトII	1前 2・3前 2前・後 2前 3前 3前 3前 3後 3前・後 3前・後 3前・後 3前・後 3前・後 3後 3後 4前 4前 4後	0.4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 2 1 1 1 1 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1	玉川大学 工学部 エンジニアリングデザイン学科 教授 (令和2.4)	6日
3	専	教授	クダ キヨシ 黒田 潔 ＜令和5年4月＞		博士(工学)		物理学入門 科学入門※ デザインサイエンス入門(デザイン史を含む)※ 物理学IIA 知的財産権の基礎 工学倫理 自然科学実験※ デザインサイエンスセミナーI インターシッ I インターシッ II インターシッ III インターシッ IV プロダクトデザイン※ デザインサイエンスセミナーII 卒業プロジェクトI 卒業プロジェクトII	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1前 2前・後 3前 3前 3前 3後 3前・後 3前・後 3前・後 3前・後 3前・後 3後 4前 4前 4後	2 1.4 0.5 4 2 1 0.5 2 2 2 2 2 0.4 2 2 2	1 2 1 2 1 1 1 1 2 2 2 2 1 1 1 1	玉川大学 工学部 エンジニアリングデザイン学科 教授 (平成19.4)	6日

調書 番号	専等 区 分	職位	フリガナ 氏 名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
4	専	教授	サンバヤシ ヨウスケ 三林 洋介 ＜令和5年4月＞		博士(工学)		デザインサイエンス入門(デザイン史を含む)※ 管理技法 人間工学 ユニバーサルデザイン 金属加工実習 デザインサイエンスセミナーI インターシッ I インターシッ II インターシッ III インターシッ IV プロダクトデザイン※ デザインサイエンスセミナーII 卒業プロジェクトI 卒業プロジェクトII 教育実習(中・高) 教育実習(高等学校) 教職実践演習 教育インターシッ A	1前 2前 2後 3前 3前 3後 3前・後 3前・後 3前・後 3前・後 3前・後 3後 4前 4前 4後 3後～4前 3後～4前 4後 1・2・3・4前・後	0.4 2 2 2 4 2 2 2 2 2 1.6 2 2 2 5 3 2 4	1 1 1 1 2 1 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 2	玉川大学 工学部 教授 (令和2.4)	6日
5	専	教授	ヤマタ ヨシテル 山田 義照 ＜令和5年4月＞		博士(経営学)		デザインサイエンス入門(デザイン史を含む)※ 原価計算 起業プランニング デザインサイエンスセミナーI インターシッ I インターシッ II インターシッ III インターシッ IV デザインと経営 管理会計 デザインサイエンスセミナーII 卒業プロジェクトI 卒業プロジェクトII	1前 2後 3前 3後 3前・後 3前・後 3前・後 3前・後 3前・後 3後 3後 4前 4前 4後	0.5 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1	玉川大学 工学部 教授 (平成15.4)	6日
6	専	准教授	サイウ ジュン 斉藤(齊藤) 純 ＜令和5年4月＞		修士(工学)		デザインサイエンス入門(デザイン史を含む)※ プログラミングI デジタルファブ리케이션入門 デジタルファブ리케이션 電気回路基礎 ソフトエネルギー デジタルファブ리케이션演習 デザインサイエンスセミナーI 海外研修 インターシッ I インターシッ II インターシッ III インターシッ IV 電気回路演習 デザインサイエンスセミナーII 卒業プロジェクトI 卒業プロジェクトII	1前 1後・2前 2前 2後 2後 3前 3後 3後 3後 3前・後 3前・後 3前・後 3前・後 3前・後 3後 4前 4前 4後	0.4 2 4 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 2 2 2	1 1 2 2 1 1 1 1 2 2 2 2 1 1 1 1	玉川大学 工学部 准教授 (平成28.4)	6日
7	専	准教授	ミズノタカシ 水野 貴敏 ＜令和5年4月＞		博士(工学) 学士(理学)		一年次セミナー101 一年次セミナー102 玉川の教育 科学入門※ エネルギー科学 デザインサイエンス入門(デザイン史を含む)※ 物理学I 物理学IIB 20世紀の物理学 自然科学実験※ デザインサイエンスセミナーI インターシッ I インターシッ II インターシッ III インターシッ IV デザインサイエンスセミナーII 卒業プロジェクトI 卒業プロジェクトII	1前 1後 1後 1・2・3・4前・後 2・3・4前 1前 1後・2前 2前・後 3前 3前 3後 3前・後 3前・後 3前・後 3前・後 4前 4前 4後	2 2 0.3 1.4 2 0.5 4 4 2 0.2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 2 1 1 2 2 1 1 2 2 2 2 1 1 1 1	玉川大学 工学部 准教授 (平成22.4)	6日

調書 番号	専等 区 分	職位	フリガナ 氏 名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
8	専	講師	ヒラコ カズナリ 平社 和也 ＜令和5年4月＞		創造技術修士 (専門職)		一年次セミナー101 一年次セミナー102 玉川の教育 デザインサイエンス入門(デザイン史を含む)※ デザインサイエンス演習(デッサンを含む)※ プログラミングⅠ デザインサイエンスプログラミング デジタルファブリケーション入門 デザインサイエンス実験 デジタルファブリケーション 金属加工実習 デジタルファブリケーション演習 デザインサイエンスセミナーⅠ インターシップⅠ インターシップⅡ インターシップⅢ インターシップⅣ デザインサイエンスセミナーⅡ 卒業プロジェクトⅠ 卒業プロジェクトⅡ	1前 1後 1後 1前 1後 1後・2前 1後 2前 2前・後 2後 3前 3後 3後 3前・後 3前・後 3前・後 3前・後 4前 4前 4後	2 2 0.3 0.5 0.7 2 2 4 2 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 1 1 2 2 1 1 1 1	玉川大学 工学部 エン지니어リングデザイン学科 助手 (平成31.4)	6日
9	兼担	教授	アサダ シンイチ 浅田 真一 ＜令和7年4月＞		博士(農学)		栽培	3前	2	1	玉川大学 農学部 生産農学科 教授 (平成21.4)	
10	兼担	教授	イシタ マユリ 石田 万由里 ＜令和5年4月＞		博士(経営学)		会計学	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 経営学部 国際経営学科 教授 (平成28.4)	
11	兼担	教授	イマオ ヨシオ 今尾 佳生 ＜令和5年4月＞		Master of Arts in Education (米国) 文学修士		全人教育論 民俗学入門	2前・後 1・2・3・4後	4 2	2 1	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平成5.4)	
12	兼担	教授	ウオサキ ユウコ 魚崎(福田) 祐子 ＜令和5年4月＞		博士(人間科学)		学習・発達論 発達心理学	1・2前・後 1・2・3後	4 2	2 1	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平成24.9)	
13	兼担	教授	ウノ ケイ 宇野 慶 ＜令和6年4月＞		修士(史学)		博物館資料論 博物館実習	2・3後 3・4前・後	2 6	1 2	玉川大学 教育博物館 教授 (平成14.4)	
14	兼担	教授	オオキ エイチ 大木 栄一 ＜令和7年4月＞		経営学修士		キャリア・マネジメント	3・4前・後	4	2	玉川大学 経営学部 国際経営学科 教授 (平成25.4)	
15	兼担	教授	オオタニ チエ 大谷 千恵 ＜令和5年4月＞		Master of Arts in Education (米国) 修士(文学)		SAE(海外留学・研修)プログラム A SAE(海外留学・研修)プログラム B SAE(海外留学・研修)プログラム C SAE(海外留学・研修)プログラム D SAE(海外留学・研修)プログラム E SAE(海外留学・研修)プログラム F SAE(海外留学・研修)プログラム G SAE(海外留学・研修)プログラム H SAE(海外留学・研修)プログラム I SAE(海外留学・研修)プログラム J	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	2 2 4 4 6 6 8 8 10 10	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平成10.4)	

調書 番号	専等 区 分	職位	フリガナ 氏 名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
16	兼担	教授	カマダ ノブヒサ 鎌田 伸尚 ＜令和5年4月＞		Doctor of Business Administration (スイス)		文化人類学	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 観光学部 観光学科 教授 (令和3.4)	
17	兼担	教授	カワサキトシキ 川崎 登志喜 ＜令和5年4月＞		体育学修士		生涯スポーツ演習 社会体育論	1・2・3・4前・後 2・3前	4 2	2 1	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平成2.4)	
18	兼担	教授	カンノ カズオ 菅野 和郎 ＜令和6年4月＞		修士(歴史学)※		博物館資料保存論	2・3前	2	1	玉川大学 教育博物館 教授 (平成8.4)	
19	兼担	教授	キタハラ ヒロオ 北原 博雄 ＜令和5年4月＞		博士(文学)		日本語学	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 文学部 国語教育学科 教授 (平成29.4)	
20	兼担	教授	クサカ ヨシアキ 日下 芳朗 ＜令和5年4月＞		博士(理学)		解析学入門 数学入門 代数学入門 解析学I	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1後・2前	4 4 4 4	2 2 2 2	玉川大学 工学部 マネジメントサイエンス学科 教授 (平成15.4)	
21	兼担	教授	クノウワタル 工藤 亘 ＜令和7年4月＞		修士(教育学)※		生徒・進路指導の理論と方法	3前・後	4	2	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平成7.4)	
22	兼担	教授	コサカイ マサカズ 小酒井 正和 ＜令和5年4月＞		博士(経営学)		自然科学アカデミックスキルズ(リーディング) 人工知能と社会	1・2・3・4前・後 2・3・4後	2 2	2 1	玉川大学 工学部 マネジメントサイエンス学科 教授 (平成19.4)	
23	兼担	教授	コバヤシ ナオキ 小林(村上) 直樹 ＜令和5年4月＞		博士(経営学)		統計学入門	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 観光学部 観光学科 教授 (平成21.4)	
24	兼担	教授	サカノ シンジ 坂野 慎二 ＜令和5年4月＞		博士(教育学)		教育の制度と経営 教育課程編成論	1・2前・後 3前・後	4 4	2 2	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平成18.4)	
25	兼担	教授	サクマ ヒロユキ 佐久間 裕之 ＜令和5年4月＞		文学修士※		教育原理 教育哲学 教職概論	1前・後 1・2・3後 1前・後	4 2 4	2 1 2	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平成16.4)	

調書 番号	専等 区 分	職位	フリガナ 氏 名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
26	兼担	教授	ササイヒロミ 笹井 宏益 ＜令和7年4月＞		法学士		三年次セミナー 301 三年次セミナー 302	3前 3後	2 2	1 1	玉川大学 学術研究所 特任教授 (平成29.4)	
27	兼担	教授	サウケンジ 佐藤 健治 ＜令和5年4月＞		博士(理学)		代数学I 解析学II 幾何学I 代数学II 幾何学II	1後・2前 2前・後 2後 3前 4前	4 4 2 2 2	2 2 1 1 1	玉川大学 工学部 マネジメントサイエンス学科 教授 (平成10.4)	
28	兼担	教授	サウユキ 佐藤 由紀 ＜令和5年4月＞		博士(学際情報学)		心理学	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 教授 (平成24.4)	
29	兼担	教授	シュコウトウ 朱 浩東 ＜令和5年4月＞		博士(社会学) 教育学修士 歴史学学士		ことばと文化 中国語 101 中国語 102	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4後	4 4 2	2 2 1	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平成10.4)	
30	兼担	教授	タカハシアイ 高橋(立花) 愛 ＜令和5年4月＞		博士(教育学)		人文科学アカデミックスキルズ(ライティング)	1・2・3・4前・後	2	2	玉川大学 芸術学部 アート・デザイン学科 教授 (平成22.4)	
31	兼担	教授	タカヒラサユリ 高平 小百合 ＜令和5年4月＞		PH.D. in Human Development (米国)		教育心理学	1・2・3後	2	1	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平成11.4)	
32	兼担	教授	タニカズキ 谷 和樹 ＜令和7年4月＞		修士(学校教育学)		現代社会の教育課題	3・4前・後	4	2	玉川大学 教育学研究科 教職専攻 教授 (平成20.4)	
33	兼担	教授	タバタシノブ 田畑 忍 ＜令和5年4月＞		博士(工学) 修士(教育学)		教育方法・技術論 ICT活用の理論と実践	1・2前・後 1・2前・後	2 2	2 2	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平成25.4)	
34	兼担	教授	トミタシンイチ 富田 信一 ＜令和5年4月＞		博士(農学)		化学入門	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 農学部 先端食農学科 教授 (平成12.4)	
35	兼担	教授	トレルファ、ダグラス アーサー TRELFA Douglas Arthur ＜令和5年4月＞		Ph.D. in Sociology (米国)		比較文化論	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 教授 (令和2.12)	

調書 番号	専等 区 分	職位	フリガナ 氏 名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
46	兼担	教授	ミヤセキ 宮田 成紀 ＜令和5年4月＞		博士(工学)		物理学入門 実践の物理学 デ'サインサイエンス演習(デ'ッサンを含む)※	1・2・3・4前・後 2・3・4前 1後	2 2 0.7	1 1 1	玉川大学 工学部 情報通信工学科 教授 (平成27.4)	
47	兼担	教授	ムラヤマ ニナ 村山 にな ＜令和5年4月＞		Ph.D.in Art History (米国) 工学士		美術史 博物館概論 博物館教育論	1・2・3・4前・後 2・3前 2・3後	4 2 2	2 1 1	玉川大学 芸術学部 アート・デザイン学科 教授 (平成24.4)	
48	兼担	教授	ヤマグチ ケイスケ 山口 圭介 ＜令和7年4月＞		修士(文学)※		道德教育の理論と方法	3前・後	4	2	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平成20.4)	
49	兼担	教授 (学部長)	ヤマサ'キ コウイチ 山崎 浩一 ＜令和5年4月＞		博士(工学)		情報倫理と社会 デ'ジタルシチス'ンシップ°	1・2・3・4前 2前	2 2	1 1	玉川大学 工学部 ソフトウェアサイエンス学科 教授 (平成2.4)	
50	兼担	教授	リア,スティーブ° LIA Steve ＜令和6年4月＞		Master of Applied Linguistics (TESOL)(豪)		Issues in Japanese Studies A Issues in Japanese Studies B Academic Communication Presentation Skills in English	4前 4後 2・3・4前 2・3・4後	2 2 2 2	1 1 1 1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 教授 (平成13.4)	
51	兼担	准教授	アリケンタン ジェラード° 有源探 ジェラード ＜令和5年4月＞		修士(教育学)※		哲学	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 准教授 (平成20.4)	
52	兼担	准教授	イチカワ ナオコ 市川 直子 ＜令和5年4月＞		博士(農学)		科学入門※ 名著講読(自然科学)	1・2・3・4前・後 2・3・4前・後	0.8 2	2 2	玉川大学 教育学部 教育学科 准教授 (平成14.4)	
53	兼担	准教授	オカダ°トリシヤ OKADA Tricia salazar (OKADA TRICIA SALAZAR) ＜令和5年4月＞		博士(学術)		ELF Introduction (A) ELF Introduction (B) ELF Introduction (C) ELF Foundation (A) ELF Foundation (B) ELF Foundation (C)	1・2・3・4前・後 1後・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1後・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	4 4 4 4 4 4	2 2 2 2 2 2	玉川大学 ELFセンター 准教授 (平成26.4)	
54	兼担	准教授	カワモト カズ'タカ 川本 和孝 ＜令和5年4月＞		修士(教育学) Master of Science(米国) 学士(文学)		TAPファシリテーション II 生涯学習支援論 B 特別活動の理論と方法	1・2・3・4後 2・3前 2・3前・後	2 2 2	1 1 2	玉川大学 TAPセンター 准教授 (平成23.4)	
55	兼担	准教授	キウチ マサミツ 木内 正光 ＜令和5年4月＞		博士(工学)		経営学	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 経営学部 国際経営学科 准教授 (平成31.4)	

調書 番号	専等 区 分	職位	フリガナ 氏 名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
56	兼任	准教授	クロシマ サトミ 黒嶋(宮崎) 智美 ＜令和5年4月＞		Ph.D. in Applied Linguistics (米国)		ELF & Global Communication (A) ELF & Global Communication (B) ELF Academic Literacy 中級 ELF & Global Leadership (A) ELF & Global Leadership (B) ELF Academic Literacy 上級	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	玉川大学 ELFセンター 准教授 (平成29.4)	
57	兼任	准教授	ゴットアルト,マルコ GOTTARDO Marco ＜令和5年4月＞		Ph.D.(米国) M.Phil.(米国)		宗教学 世界の宗教と文化 Japanology 現代文化論	1・2・3・4前・後 1・2・3・4後 3・4前 2・3・4前	4 2 2 2	2 1 1 1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 准教授 (平成22.4)	
58	兼任	准教授	コンノ テツヤ 今野 哲也 ＜令和5年4月＞		博士(音楽) 経済学士		音楽史	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 芸術学部 音楽学科 准教授 (令和3.4)	
59	兼任	准教授	サン,リョウヤ 佐治 量哉 ＜令和5年4月＞		博士(工学)		シロ脳科学	1後・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 農学部 生産農学科 准教授 (平成19.4)	
60	兼任	准教授	サトウ マサトシ 佐藤 雅俊 ＜令和5年4月＞		博士(工学)		情報科学入門	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 工学部 ソフトウェアサイエンス学科 准教授 (平成29.4)	
61	兼任	准教授	シモムラ ヤスヒロ 下村 恭広 ＜令和5年4月＞		修士(文学)※		二年次セミナー 201 二年次セミナー 202 インターンシップ A インターンシップ B インターンシップ C インターンシップ D	2前 2後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	2 2 4 4 2 2	1 1 2 2 2 2	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 准教授 (平成17.4)	
62	兼任	准教授	スズキ ジュンヤ 鈴木 淳也 ＜令和5年4月＞		修士(教育学)		健康教育 体育	1前 1・2後	1 1	1 1	玉川大学 教育学部 教育学科 准教授 (平成26.4)	
63	兼任	准教授	タカギ ヒロユキ 高城 宏行 ＜令和5年4月＞		Ph.D. in Education (英国)		海外留学入門 国際研究 A 国際研究 B 国際研究 C 国際研究 D 国際研究 E 国際研究 F	1・2・3・4前・後 1後・2・3・4前・後 1後・2・3・4前・後 1後・2・3・4前・後 1後・2・3・4前・後 1後・2・3・4前・後 1後・2・3・4前・後	4 4 4 4 6 8 10	2 2 2 2 2 2 2	玉川大学 文学部 英語教育学科 准教授 (平成30.4)	
64	兼任	准教授	タチノ タカシ 立野 貴之 ＜令和5年4月＞		博士(工学) 修士(経済学) 学士(外国文化)		マルチメディア表現	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 准教授 (令和4.4)	
65	兼任	准教授	タナカ モトコ 田中 素子 ＜令和5年4月＞		Doctor of Philosophy (カナダ)		日本学入門 Japanese Pop Culture	1・2・3・4前 3・4後	2 2	1 1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 准教授 (平成29.4)	

調書 番号	専等 区 分	職 位	フリガナ 氏 名 ＜就任(予定)年月＞	年 齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
66	兼担	准教授	タニワキ シゲキ 谷脇 茂樹 ＜令和5年4月＞		修士(経済学)		観光学入門	1・2・3・4前	2	1	玉川大学 観光学部 観光学科 准教授 (令和2.4)	
67	兼担	准教授	タワタ シンタロウ 多和田 真太良 ＜令和5年4月＞		博士(表象文化学)		演劇史	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 芸術学部 演劇・舞踊学科 准教授 (平成28.4)	
68	兼担	准教授	チャイクル,ラサミ CHAIKUL Rasami ＜令和5年4月＞		M.Ed. TEFL(タイ)		ELF Introduction (A) ELF Introduction (B) ELF Introduction (C) ELF Foundation (A) ELF Foundation (B) ELF Foundation (C)	1・2・3・4前・後 1後・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1後・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	4 4 4 4 4 4	2 2 2 2 2 2	玉川大学 ELFセンター 准教授 (平成28.4)	
69	兼担	准教授	ディモスキ,ブラゴヤ DIMOSKI Blagoja ＜令和5年4月＞		Master of Arts in Applied Linguistics (豪)		ELF Communication for Teachers	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 ELFセンター 准教授 (平成27.4)	
70	兼担	准教授	ハギワラ ハジメ 萩原 哉 ＜令和6年4月＞		修士(歴史学)※		博物館経営論 博物館展示論	2・3後 2・3前	2 2	1 1	玉川大学 教育博物館 准教授 (令和4.4)	
71	兼担	准教授	ハセガワ ヒデノブ 長谷川 英伸 ＜令和6年4月＞		博士(経営学)		ユーオブ・プログラム	2・3・4前・後	4	2	玉川大学 経営学部 国際経営学科 准教授 (平成25.4)	
72	兼担	准教授	ハヤカワ ヒロフミ 早川 博章 ＜令和5年4月＞		博士(工学)		STEM入門 (科学と社会) データサイエンスI	1・2・3・4後 3前	2 2	1 1	玉川大学 工学部 情報通信工学科 准教授 (平成29.4)	
73	兼担	准教授	マツヤマ イワオ 松山 巖 ＜令和5年4月＞		教育学修士※		学校図書館メディアの構成 児童サービス論 図書・図書館史 図書館概論 図書館サービス概論 図書館施設論 図書館情報技術論 図書館情報資源概論 図書館情報資源特論 図書館制度・経営論 情報資源組織演習 A 情報資源組織演習 B 情報資源組織演習 C 情報資源組織論 情報サービス演習 A 情報サービス演習 B 情報サービス演習 C	1・2前 1・2後 1・2前 1・2前 1・2後 1・2後 1・2後 1・2後 1・2後 1・2前 1・2前 2・3後 2・3後 2・3後 2・3前 3・4前 3・4前 3・4前	2 2 1 2 2 1 2 2 1 2 1 1 1 2 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 教育学部 教育学科 准教授 (平成13.4)	
74	兼担	准教授	ミヤザキ マユ 宮崎 真由 ＜令和5年4月＞		修士(学術)※ 修士(法学)		市民社会と法 日本語表現 101 日本語表現 102	1・2・3・4後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4後	2 4 2	1 2 1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 准教授 (平成20.4)	

調書 番号	専等 区 分	職 位	フリガナ 氏 名 ＜就任(予定)年月＞	年 齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
75	兼任	准教授	ムトウ ユミコ 武藤 ゆみこ ＜令和6年4月＞		博士(理学)		数理・データサイエンス・AIリテラシー	2・3・4前・後	4	2	玉川大学 脳科学研究所 脳科学研究所 准教授 (平成31.4)	
76	兼任	准教授	ムライ シンジ 村井 伸二 ＜令和5年4月＞		修士(教育学)		ピアーター TAPファシリテーションⅠ 野外教育 生涯学習と生涯教育 社会教育経営論 A 社会教育経営論 B	2前・後 1・2・3・4前・後 2・3・4後 1・2後 2・3後 2・3前	4 4 2 2 2 2	2 2 1 1 1 1	玉川大学 TAPセンター 准教授 (平成24.4)	
77	兼任	准教授	ヤマダ ミユキ 山田 深雪 ＜令和8年4月＞		修士(教育学)		教育実習(副)	4前～後	3	1	玉川大学 教育学部 教育学科 准教授 (平成31.4)	
78	兼任	准教授	ユウジヨウホウ ユリ ショテイ YOJOBO YURI JODY (祐乗坊 由利) ＜令和5年4月＞		Master of Education (米国)		BELF 初級 BELF 初中級 BELF 中級 BELF 上級	1後・2・3・4前・後 1後・2・3・4前・後 1後・2・3・4前・後 1・2・3・4後	4 4 4 2	2 2 2 1	玉川大学 ELFセンター 准教授 (平成27.4)	
79	兼任	准教授	レイクセンリング、アントリュー ANDREW ROBERT IAN LEICHSENRING (LEICHSENRING ANDREW ROBERT IAN) ＜令和5年4月＞		Doctor of Philosophy (豪州)		BELF 初級 BELF 初中級	1後・2・3・4前・後 1後・2・3・4前・後	4 4	2 2	玉川大学 ELFセンター 准教授 (平成26.4)	
80	兼任	講師	アサヤマ ヨシヒロ 朝山 芳弘 ＜令和6年4月＞		博士(学術) 学士(理学)		確率統計学Ⅰ	2前	2	1	玉川大学 工学部 マネジメントサイエンス学科 講師 (令和3.4)	
81	兼任	講師	アブラカワ サユリ 油川(金子) さゆり ＜令和5年4月＞		修士(教育学)		コミュニケーション論	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 学術研究所 助教 (平成31.4)	
82	兼任	講師	オカタ ナオタケ 岡田 直丈 ＜令和6年4月＞		修士(組織神学)※		キリスト教学	2・3・4前	2	1	玉川大学 学術研究所 講師 (令和3.4)	
83	兼任	講師	オセキ ハユミ 尾関 はゆみ ＜令和6年4月＞		修士(英語教育)		名著講読(人文科学) 名著講読(社会科学) 異文化理解と教育	2・3・4前・後 2・3・4前・後 2・3・4前・後	2 2 4	2 2 2	玉川大学 教育学部 教育学科 講師 (令和3.4)	
84	兼任	講師	ササキ ヒロシ 佐々木 弘志 ＜令和6年4月＞		修士(社会学) 学士(経済学)		国際関係論	2・3・4前・後	4	2	玉川大学 観光学部 観光学科 講師 (令和4.4)	
85	兼任	講師	タケウチ アサミ 武内(坂尾) 麻美 ＜令和5年4月＞		修士(教育学)		健康スポーツ理論 スポーツ史	1・2・3・4前・後 2・3・4後	4 2	2 1	玉川大学 教育学部 乳幼児発達学科 講師 (令和2.4)	

調書 番号	専等 区 分	職位	フリガナ 氏 名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
86	兼任	講師	テラダ サエコ 寺田 佐恵子 ＜令和5年4月＞		博士(理学) 修士(農学)		生物学入門	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 講師 (令和4.4)	
87	兼任	講師	ナカタモヒロ 中田 知宏 ＜令和5年4月＞		博士(芸術学)		人文科学アカデミックスキルズ [※] (リーディング)	1・2・3・4前・後	2	2	玉川大学 芸術学部 音楽学科 講師 (令和3.4)	
88	兼任	講師	ミズチヨシアキ 水地 良明 ＜令和5年4月＞		博士(工学)		自然科学アカデミックスキルズ [※] (ライティング) 複合領域研究 201～299	1・2・3・4前・後 2・3・4前・後	2 4	2 2	玉川大学 工学部 情報通信工学科 講師 (令和3.4)	
89	兼任	講師	ヤマダ アキ 山田(パトリカラキス)亜紀 ＜令和7年4月＞		Ph.D.in Education (米国) 修士(アメリカ研究)		Modern Japanese History	3・4前	2	1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 講師 (平成31.4)	
90	兼任	講師	ヤマダ テツジ [※] 山田 徹志 ＜令和5年4月＞		博士(工学) 修士(教育学)		教育インターンシップ [※] B 教育インターンシップ [※] C 教育インターンシップ [※] D	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	4 2 2	2 2 2	玉川大学 教育学部 教育学科 講師 (令和1.7)	
91	兼任	講師	アサオ ケイイチロウ 浅尾 慶一郎 ＜令和5年4月＞		Master of Business Administration (米国) 法学士		政治学(国際政治を含む。) ポリティカル・サイエンス	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	4 4	2 2	浅尾慶一郎事務所 代表	
92	兼任	講師	イタ リュウイチ 飯田 隆一 ＜令和7年4月＞		博士(学術) 学士(教育学)		木材加工	3後	2	1	職業能力開発 総合大学校 特任助教 (平成30.4)	
93	兼任	講師	ウエオカ マキコ 上岡 真紀子 ＜令和5年4月＞		修士(図書館・情報学)※ 文学士		情報サービス論	1・2後	2	1	帝京大学 共通教育センター 准教授 (平成25.4)	
94	兼任	講師	エトウ ケイヤ 江藤 圭也 ＜令和5年4月＞		修士(経済学)※		経済学(国際経済を含む。)	1・2・3・4前	2	1	玉川大学 経営学部 国際経営学科 非常勤講師 (平成19.4)	
95	兼任	講師	オオUCHI ヒロコ 大内(赤木) 啓子 ＜令和6年4月＞		工学修士		色彩デザイン学	2前	2	1	一般財団法人 日本色彩研究所 主任研究員 (平成1.4)	
96	兼任	講師	オオホ ユウキ 大久保 悠貴 ＜令和5年4月＞		修士(法学)※		日本国憲法	1前・後	4	2	玉川大学 教育学部 教育学科 非常勤講師 (令和2.4)	

調書 番号	専等 区 分	職位	フリガナ 氏 名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
97	兼任	講師	オオサキ コウシ 大崎 恒次 ＜令和5年4月＞		博士(経営学)		マーケティング [※]	1・2・3・4前・後	4	2	専修大学商学部 准教授	
98	兼任	講師	オオシマ カズオ 大嶋 一夫 ＜令和7年4月＞		理学士		教職演習 A	3後・4前	2	2	玉川大学 教師教育リサーチセンター 客員教授 (令和3.4)	
99	兼任	講師	オオハシ タカヒロ 大橋 隆弘 ＜令和7年4月＞		博士(工学)		モデリングとシミュレーション デジタル生産加工	3後 3後	2 2	1 1	国士舘大学 理工学部 教授 (平成19.4)	
100	兼任	講師	カワサキ トシハル 川崎 敏治 ＜令和6年4月＞		博士(理学)		微分方程式I	2前	2	1	玉川大学 工学部 マネジメントサイエンス学科 非常勤講師 (平成24.4)	
101	兼任	講師	キウチ マサト 木内 真人 ＜令和6年4月＞		博士(理学) 学士(工学)		宇宙科学 地球科学	2・3・4前・後 2・3・4前・後	4 4	2 2	玉川大学 工学部 エンジニアリングデザイン学科 非常勤講師 (平成31.4)	
102	兼任	講師	キタオカ タマコ 北岡 タマ子 ＜令和6年4月＞		修士(コミュニティ振興学) 学士(教養)		博物館情報・メディア論	2・3後	2	1	お茶の水女子大学 リエゾン・URAセンター リサーチ・アドミニストレーター (平成22.6)	
103	兼任	講師	クサモト カイロウ 草本 海郎 ＜令和5年4月＞		博士(造形)		デザインサイエンス入門(デザイン史を含む) [※]	1前	0.3	1	玉川大学 芸術学部 アート・デザイン学科 非常勤講師 (令和3.4)	
104	兼任	講師	コトウ ヒロシ 後藤 博史 ＜令和6年4月＞		工学士		工業科指導法I 工業科指導法II	2前 2後	2 2	1 1	公益社団法人 全国工業高等学校長協会 付属工業教育研究所 主任研究員	
105	兼任	講師	コスマ アキオ 小沼 明生 ＜令和5年4月＞		博士(史学)		歴史(世界)	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 経営学部 国際経営学科 非常勤講師 (平成24.4)	
106	兼任	講師	コバヤシ マサユキ 小林 正幸 ＜令和5年4月＞		修士(社会学) [※] 学士(哲学)		マスメディアと社会	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 非常勤講師 (平成17.4)	
107	兼任	講師	サノウ オサム 佐藤 修 ＜令和6年4月＞		工学士		技術科指導法I 技術科指導法II 技術科指導法III 技術科指導法IV	2前 2後 3前 3後	2 2 2 2	1 1 1 1	玉川大学 教師教育リサーチセンター 非常勤講師 (令和4.4)	

調書 番号	専等 区 分	職位	フリガナ 氏 名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
108	兼任	講師	スキサキ エリコ 杉崎 えり子 ＜令和5年4月＞		博士(工学)		ネットワーク入門	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 工学部 ソフトウェアサイエンス学科 非常勤講師 (平成24.4)	
109	兼任	講師	スキモト ユカ 杉本 ゆか ＜令和5年4月＞		修士(文学)		学校経営と学校図書館 読書と豊かな人間性 学習指導と学校図書館	1・2前 2・3後 3・4前	2 2 2	1 1 1	玉川大学 教育学部 教育学科 非常勤講師 (令和3.4)	
110	兼任	講師	スミシゲキ 角 茂樹 ＜令和8年4月＞		Diploma for Social Studies (英国)		East Asian History	4前	2	1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 客員教授 (令和1.9)	
111	兼任	講師	タニタ タカヨ 谷田 多賀代 ＜令和5年4月＞		文学修士※		外国文学	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 文学部 英語教育学科 非常勤講師 (平成6.4)	
112	兼任	講師	タニムラ ヒデヒロ 谷村 英洋 ＜令和5年4月＞		修士(教育学)※		教育社会学	1・2・3後	2	1	帝京大学 講師 (平成28.4)	
113	兼任	講師	タハル カナコ 田原(増田) 加奈子 ＜令和5年4月＞		修士(文学)		日本文学	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 文学部 国語教育学科 非常勤講師 (令和3.4)	
114	兼任	講師	チハ ヨシヒロ 千葉 吉裕 ＜令和7年4月＞		理学修士		職業指導(工業)I 職業指導(工業)II	3前 3後	2 2	1 1	玉川大学 教師教育リサーチセンター 非常勤講師 (平成30.4)	
115	兼任	講師	ツネオカ アキコ 常岡(倉橋) 亜希子 ＜令和5年4月＞		M.A. in TESOL (米国)		英語学	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 文学部 英語教育学科 非常勤講師 (平成16.4)	
116	兼任	講師	トミサワ ミチコ 富澤(島田) 美千子 ＜令和5年4月＞		博士(文学) 修士(人間科学)		総合的な学習の時間の理論と方法	1・2前・後	2	2	横浜美術大学 教授 (平成29.4)	
117	兼任	講師	ナガエ キヨカズ 長江 清和 ＜令和6年4月＞		修士(教育学)		特別支援教育	2・3前・後	2	2	埼玉大学 教育学部附属 教育実践総合センター 教授 (平成28.4)	
118	兼任	講師	ナガオ ユキハル 長尾 幸治 ＜令和5年4月＞		博士(美術)		デザインサイエンス演習(デッサンを含む)※	1後	0.7	1	横浜美術大学 芸術学部美術・デザイン学科 教職課程研究室 助教 (令和3.4)	

調書 番号	専等 区 分	職位	フリガナ 氏 名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
119	兼任	講師	ナカサト リョウヘイ 中里 亮平 ＜令和5年4月＞		博士(文学)		歴史(日本)	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 非常勤講師 (令和3.4)	
120	兼任	講師	ハマト シゲル 浜本 滋 ＜令和7年4月＞		博士(工学)		メカニクス(流体)	3前	2	1	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 設備技術研究ユニット長	
121	兼任	講師	フジタニ サトル 藤谷 哲 ＜令和8年4月＞		博士(工学)		教職演習 B	4後	1	1	目白大学 准教授 (平成12.4)	
122	兼任	講師	フルショウ ヨシコ 古性(江連) 淑子 ＜令和5年4月＞		修士(情報科学) 修士 (大学アドミニストレーション)		情報メディアの活用	1・2前・後	4	2	横浜美術大学 美術学部 准教授 (平成22.4)	
123	兼任	講師	ミヤサワ ヨシオミ 宮澤 義臣 ＜令和5年4月＞		文学修士		ドイツ語 101 ドイツ語 102	1・2・3・4前・後 1・2・3・4後	4 2	2 1	玉川大学 文学部 英語教育学科 非常勤講師 (平成4.4)	
124	兼任	講師	ミヤナガ ノゾミ 宮永 望 ＜令和5年4月＞		修士(理学)※		数学演習	1後	2	1	玉川大学 工学部 マネジメントサイエンス学科 非常勤講師 (平成17.4)	
125	兼任	講師	メグロ コリエ 目黒(花川) ゆりえ ＜令和5年4月＞		修士(フランス文学)		フランス語 101 フランス語 102	1・2・3・4前・後 1・2・3・4後	4 2	2 1	玉川大学 文学部 英語教育学科 非常勤講師 (平成7.4)	
126	兼任	講師	モテキ テルヲ 茂木 輝順 ＜令和6年4月＞		博士(保健学) 修士(教育学)		生命と性の教育	2・3・4後	2	1	玉川大学 教育学部 教育学科 非常勤講師 (平成30.4)	
127	兼任	講師	ヤガサキ トモキ 矢ヶ崎 朋樹 ＜令和5年4月＞		博士(環境学)		環境科学 環境教育ワークショップⅠ 環境教育ワークショップⅡ	1・2・3・4前・後 1・2・3・4後 2・3・4前	4 2 2	2 1 1	公益財団法人 地球環境戦略研究機関 国際生態学センター 主任研究員 (平成19.4)	
128	兼任	講師	ヤマシナ ナオコ 山科 直子 ＜令和6年4月＞		Doctor in Philosophy (英国)		科学史 科学技術社会論	2・3・4後 2・3・4後	2 2	1 1	筑波大学広報室 教授	
129	兼任	講師	ヤマモト ヤスキ 山本 靖樹 ＜令和7年4月＞		経済学士		都市環境デザイン	3後	2	1	有限会社 ワイツーアンドカンパニー 取締役社長 (平成14.7)	
130	兼任	講師	ヨシタケ ミツオ 吉武 光雄 ＜令和5年4月＞		修士(哲学)※		倫理学	1・2・3・4後	2	1	玉川大学 学術研究所 非常勤講師 (平成24.9)	

調書 番号	専等 区 分	職位	フリガナ 氏 名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
131	兼任	講師	ヨシミエリ 吉見 江利 ＜令和6年4月＞		修士(人文科学)		生涯学習支援論 A	2・3後	2	1	玉川大学 教育学部 教育学科 非常勤講師 (平成31.4)	
132	兼任	講師	ヨネダ アツヒコ 米田 充彦 ＜令和7年4月＞		高等専門学校卒		デザイン思考	3後	2	1	株式会社 ATSUHIKO YONEDA DESIGN 代表取締役 (平成28.3)	

別記様式第3号（その3）

専任教員の年齢構成・学位保有状況 (工学部デザインサイエンス学科)										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	3 人	2 人	人	人	5 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博 士	人	人	人	1 人	人	人	人	1 人	
	修 士	人	人	人	1 人	人	人	人	1 人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	創造技術修士 (専門職)
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	1 人	人	人	人	人	1 人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	人	4 人	2 人	人	人	6 人	創造技術修士 (専門職)
	修 士	人	人	人	1 人	人	人	人	1 人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	1 人	人	人	人	人	1 人	